

システム管理リファレンス

Novell. ZENworks® 10 Configuration Management SP3

10.3

2010年3月30日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2010 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	15
ページのパート I ZENworks コントロールセンター	17
1 ZENworks コントロールセンター	19
1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス	19
1.2 Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス	20
1.3 ZENworks コントロールセンターの操作	22
1.4 デフォルトのログインを無効にする値の変更	23
1.5 ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更	23
1.6 Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定の変更	24
1.7 ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク	25
1.8 ZENworks コントロールセンターのトラブルシューティング	26
2 管理者	27
2.1 管理者アカウントの管理	27
2.1.1 管理者の作成	28
2.1.2 管理者の削除	30
2.1.3 管理者の名前変更	30
2.1.4 管理者パスワードの変更	31
2.2 管理者権限の管理	31
2.2.1 スーパー管理者の権限の割り当て	31
2.2.2 追加の権限の割り当て	32
2.2.3 割り当てられた権限の変更	32
2.2.4 割り当てられた権限の削除	32
2.3 権限の説明	32
2.3.1 管理者権限	33
2.3.2 バンドル権限	34
2.3.3 契約管理権限	35
2.3.4 資格情報の権限	35
2.3.5 展開権限	36
2.3.6 デバイス権限	36
2.3.7 検出権限	37
2.3.8 ドキュメント権限	37
2.3.9 インベントリデバイス権限	37
2.3.10 LDAP インポート権利	38
2.3.11 ライセンス管理権限	38
2.3.12 パッチ管理権限	39
2.3.13 ポリシー権限	40
2.3.14 クイックタスク権限	40
2.3.15 リモート管理権限	41
2.3.16 レポーティング権	42
2.3.17 ユーザ権限	42
2.3.18 ZENworks ユーザグループ権限	43
2.3.19 ゾーンの権限	43
2.4 管理者の役割の管理	44
2.4.1 管理者の役割の理解	44
2.4.2 役割の作成	47

2.4.3	役割の割り当て	50
2.4.4	役割の編集	57
2.4.5	役割の名前変更	60
2.4.6	役割の削除	61
3	ZENworks ニュース	63
3.1	ZENworks ニュースアラートの管理	63
3.1.1	ニュースアラートの削除	63
3.1.2	ニュースアラートの更新	64
3.1.3	選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示	64
3.1.4	ニュースの表示	64
3.1.5	ニュースアラートのソート	64
3.2	ZENworks ニュースの設定	64
3.2.1	ニュース専用サーバ	65
3.2.2	スケジュールタイプ	66
4	システム変数	69
4.1	システム変数について	69
4.2	システム変数の追加	70
4.3	システム変数の削除	71
4.4	システム変数の編集	71
4.5	システム変数の使用	71
5	資格情報ポータル	73
5.1	資格情報の追加	74
5.2	資格情報用のフォルダの作成	76
5.3	資格情報権限	78
5.4	資格情報の編集	78
5.5	資格情報の名前変更	78
5.6	別のフォルダへのアカウント情報の移動	79
5.7	アカウント情報の削除	79
	ページのパート II ZENworks サーバおよびサテライトデバイス	81
6	ZENworks サーバ	83
6.1	Windows サーバの ZENworks サービス	83
6.1.1	ZENworks サービスのステータスのチェック	84
6.1.2	ZENworks サービスの開始	84
6.1.3	ZENworks サービスの停止	85
6.2	Linux サーバ上の ZENworks サービス	85
6.2.1	ZENworks サービスのステータスのチェック	86
6.2.2	ZENworks サービスの開始	86
6.2.3	ZENworks サービスの停止	86
6.2.4	ZENworks サービスの再起動	87
6.3	ZENworks サーバへの追加アクセスの設定	87
6.3.1	IP アドレスが検出不能な状況への対処	87
6.3.2	DNS 名が検出不能な状況への対処	87
6.4	サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認	88
6.5	ZENworks サーバのアンインストール	88
6.6	ZENworks プライマリサーバの削除	89
6.7	ZENworks サーバレポート	89

7	サテライト	91
7.1	サテライトの役割について	92
7.1.1	認証の役割の理解	92
7.1.2	コレクションの役割の理解	92
7.1.3	コンテキストの役割の理解	93
7.1.4	イメージングの役割の理解	93
7.2	サテライトデバイスの追加と設定	94
7.2.1	認証の役割	96
7.2.2	コレクションの役割	97
7.2.3	コンテンツの役割	97
7.2.4	イメージングの役割	99
7.3	サテライトからの役割の削除	101
7.4	サーバ階層からのサテライトの削除	102
7.5	ホストするコンテンツの指定	103
7.6	コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する	104
7.7	1つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動	104
7.8	コンテンツ役割のサテライトへの別なりポジトリの指定 (Windows のみ)	104
7.9	サテライトデバイスの削除	105
7.10	サテライトの更新	106
7.11	サテライトのトラブルシューティング	106
8	サーバの階層	109
8.1	プライマリサーバ: ピア対親 / 子関係	109
8.2	サテライト役割の関係	109
8.2.1	認証の役割サーバの関係	110
8.2.2	コンテンツ役割サーバの関係	110
8.2.3	コレクション役割サーバの関係	110
8.2.4	イメージングの役割サーバの関係	110
8.3	プライマリサーバの親子関係の変更	110
8.3.1	プライマリサーバを子にする	111
8.3.2	プライマリサーバをピアにする	111
9	最近接サーバルール	113
9.1	最近接サーバルールの理解	113
9.1.1	ZENworks サーバ機能	114
9.1.2	デバイスのサーバへのマッピング	114
9.1.3	有効なルール	115
9.2	最近接サーバのデフォルトルールの設定	115
9.3	最近接サーバルールの作成	123
9.4	最近接サーバルールのバックアップ	133
10	ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元	135
10.1	ZENworks サーバのバックアップ	135
10.2	ZENworks サーバの復元	136
10.3	認証局のバックアップ	137
10.4	認証局の復元	138

11 障害復旧	139
11.1 最初のプライマリサーバから2番目のプライマリサーバへの入れ替え	139
11.2 既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え	143
11.3 証明書の再作成	144
11.3.1 プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更	145
11.3.2 ZENworks 10 Configuration Management のインストール後のプライマリサーバの IP アドレスの変更	148
11.3.3 ZENworks 10 Configuration Management をインストール後のプライマリサーバの DNS 名または IP アドレスと DNS 名の変更	149
ページのパート III ZENworks Adaptive Agent	155
12 デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示	157
13 特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索	159
14 展開後の Adaptive Agent の設定展開後	161
14.1 管理ゾーンレベルでのエージェント設定の実行	161
14.2 デバイスフォルダレベルで Agent の設定を実行	163
14.3 デバイスレベルでのエージェント設定の実行	163
14.4 ZENworks エージェント設定	164
14.4.1 一般	164
14.4.2 エージェント機能	166
15 ZENworks Explorer の設定	173
15.1 管理ゾーンレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行	173
15.2 デバイスフォルダレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行	174
15.3 デバイスレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行	175
15.4 ZENworks Explorer の一般設定	176
16 デバイスからの ZENworks プレエージェントの削除	177
17 ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定	179
18 Adaptive Agent のトラブルシューティング	181
ページのパート IV ZENworks システム更新	185
19 ZENworks システム更新の概要	187
20 更新の設定	189
20.1 システム更新の設定	189
20.1.1 更新スケジュールの確認	189
20.1.2 ダウンロードスケジュール	191
20.1.3 電子メール通知	193
20.1.4 プロキシサーバの設定	195
20.1.5 専用サーバの設定	195

20.1.6	ステージタイムアウト設定	197
20.1.7	再起動の動作	198
20.2	展開ステージの作成	198
20.2.1	ステージの理解	199
20.2.2	展開ステージの作成および入力	201
20.2.3	ステージのタイムアウトの変更	203
20.2.4	ステージング動作の変更	204
20.2.5	再起動の動作の変更	205
20.2.6	展開ステージのメンバーシップの変更	205
20.2.7	展開ステージの名前変更	207
20.2.8	展開ステージの削除	207
20.2.9	ステージが開始する順序の変更	207
21	更新のダウンロードの管理	209
21.1	入手可能な更新について	209
21.2	割り当てられた権限	210
21.2.1	更新のダウンロードのスケジューリング	211
21.2.2	手動による更新の確認	211
21.2.3	手動による更新のダウンロード	211
21.2.4	インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート	212
21.3	PRU のダウンロードとインストール	213
21.4	システム更新のキャンセルまたは削除	214
22	更新の展開	217
22.1	更新の展開について	217
22.2	更新の展開	220
22.3	保留中のステージの開始	227
22.4	展開の再スケジュール	227
22.4.1	すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール	227
22.4.2	その他のステータスに対する展開の再スケジュール	228
22.5	ステージングのバイパス	228
22.6	展開のキャンセル	228
22.7	展開の再試行のエラーのクリア	229
22.8	デバイス別のステータス表示	229
22.8.1	デバイスのステータスの理解	229
22.8.2	デバイスのプロパティの表示	230
22.8.3	デバイスのステータスに関する情報の表示	231
22.8.4	無視されたデバイスの切り替え	231
22.8.5	更新をデバイスに再展開	232
22.8.6	更新をデバイスへ再スケジュール	232
22.8.7	デバイスの更新	233
23	更新の削除	235
24	更新のコンテンツの確認	237
24.1	リリース詳細ページの表示	237
24.2	リリース詳細の更新	238
24.3	展開履歴	238
24.3.1	展開履歴の詳細の理解	239
24.3.2	展開履歴タスクの実行	239

25 ステータスの更新	241
26 ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定	243
ページのパート V ゾーン管理	245
27 管理ゾーンの環境設定の変更	247
27.1 環境設定のアクセス	247
27.1.1 ゾーンでの環境設定の変更	247
27.1.2 フォルダの環境設定の変更	248
27.1.3 デバイスでの環境設定の変更	249
27.2 コンテンツ設定	250
27.3 デバイス管理の設定	251
27.4 検出と展開の設定	252
27.5 イベントとメッセージング設定	252
27.6 インフラ管理設定	253
27.7 インベントリ設定	253
27.8 レポーティングサービスの設定	254
27.9 Asset Management 設定	255
27.10 パッチ管理サービス設定	255
ページのパート VI 内容	257
28 コンテンツリポジトリ	259
28.1 Windows サーバ上の [コンテンツリポジトリ] の場所の変更	259
28.2 Linux サーバでの、コンテンツリポジトリの場所の変更	261
28.2.1 共有のマウント	262
28.2.2 共有のマウント解除	262
28.2.3 永続的なマウントの作成	262
28.2.4 新規リポジトリへの既存のコンテンツの移動	262
28.3 Linux サーバのコンテンツリポジトリの NSS ボリュームへのマウント	263
29 コンテンツの複製	265
29.1 管理ゾーンレベルでのコンテンツ複製の設定	266
29.1.1 Web サービスタイムアウトの高度なコンテンツ複製設定の手動設定	267
29.2 コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製	267
29.3 コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する	268
29.4 コンテンツのインクルードまたは除外	268
29.4.1 複数のコンテンツサーバ上での 1 コンテンツの管理	269
29.4.2 フォルダレベルでのコンテンツの管理	269
29.4.3 1つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理	270
29.4.4 複数のコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理	270
30 コンテンツ配信	273
30.1 最近接サーバールールの設定	273
30.2 配信停止スケジュール	273
30.3 デバイスの更新スケジュールの設定	274

ページのパート VII ユーザ	277
-----------------	-----

31 ユーザソース	279
------------------	------------

31.1 前提条件	279
31.2 ユーザソースの管理	280
31.2.1 ユーザソースの追加	280
31.2.2 ユーザソースの削除	284
31.2.3 ユーザソースの編集	284
31.2.4 ユーザソースからのコンテナの追加	285
31.3 ユーザソース接続の管理	286
31.3.1 ユーザソース接続の作成	286
31.3.2 ユーザソース接続の編集	287
31.3.3 ユーザソース接続の削除	287
31.3.4 ユーザソースの証明書の更新	287
31.4 ユーザソースのプライマリサーバ接続の管理	289
31.5 ユーザソースの認証サーバ接続の管理	290
31.5.1 認証サーバへの接続の割り当て	290
31.5.2 接続の削除	291
31.5.3 接続の並べ替え	291
31.6 LDAP 負荷分散および耐障害性の提供	292
31.6.1 ZENworks コントロールセンターを使用した ZENworks サーバの追加 LDAP サーバの定義	292
31.6.2 zman コマンドラインユーティリティを使用した ZENworks サーバの追加 LDAP サーバの定義	293

32 ユーザの認証	295
------------------	------------

32.1 ユーザソースの認証	295
32.2 認証メカニズム	296
32.2.1 Kerberos (Active Directory のみ)	296
32.2.2 共有シークレット	298
32.2.3 ユーザ名 / パスワード (eDirectory と Active Directory)	300
32.3 資格情報のストレージ	301
32.4 ZENworks ユーザ認証の無効化	301
32.5 ユーザ認証のトラブルシューティング	302

ページのパート VIII ZENworks 10 製品のライセンス	307
-----------------------------------	-----

33 ZENworks 10 製品のライセンス	309
--------------------------------	------------

33.1 製品の評価	309
33.2 製品の有効期限の延長	310
33.3 製品のアクティブ化	310
33.4 製品の非アクティブ化	311
33.5 変更可能なライセンス状態	311
33.6 ZENworks 10 Asset Management と ZENworks 7 Desktop Management の併用	312
33.7 事前定義されたレポートの表示	312

ページのパート IX データベース管理	315
---------------------	-----

34 組み込みデータベースの保守 317

34.1	組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存	317
34.2	組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更	317
34.3	組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ	319
34.3.1	Windows サーバまたは Linux サーバにおける組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ	319
34.3.2	Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Windows マシン上のネットワークロケーションにバックアップする	321
34.3.3	Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする	323
34.4	組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア	325
34.4.1	Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元	325
34.4.2	Linux サーバにおける組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア	326
34.5	組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動	326
34.5.1	データの移動の準備	327
34.5.2	内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動	327
34.6	組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート	328
34.6.1	データの移動の準備	329
34.6.2	Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート	331
34.6.3	移行後のタスク	333
34.6.4	データベースのマイグレーションのトラブルシューティング	334
34.6.5	Sybase データベースへ戻す	336

35 外部データベースの保守 337

35.1	外部 Sybase データベースのバックアップ	337
35.1.1	Windows サーバまたは Linux サーバにおける外部 Sybase データベースのバックアップ	337
35.1.2	Windows サーバ上で実行されている外部 Sybase データベースを、リモート Windows マシン上のネットワークロケーションにバックアップする	340
35.1.3	Linux サーバ上で実行されている外部 Sybase データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする	343
35.2	外部 Sybase データベースの復元	346
35.3	ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへのデータの移動	348
35.3.1	データの移動の準備	348
35.3.2	ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動	348
35.4	外部 OEM Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動	350
35.4.1	データの移動の準備	350
35.4.2	外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動	350
35.5	別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する	352
35.5.1	データの移動の準備	352
35.5.2	新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する	353
35.6	別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する	353
35.6.1	データの移動の準備	354
35.6.2	新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する	354

36 データベースのベストプラクティスおよびヒント	355
36.1 データベースのベストプラクティス	355
36.1.1 組み込み Sybase データベースまたは外部 Sybase データベースの再構築	355
36.2 データベースのヒント	358
36.2.1 組み込み Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所およびスケジュールの変更	358
36.2.2 外部 Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールおよび場所の変更	360
ページのパート X メッセージログ	363
37 概要	365
37.1 Message Logger の機能	365
37.2 メッセージ重大度	365
37.3 メッセージ形式	366
38 Message Logger の設定	367
38.1 ゾーンレベルでの Message Logger の設定	367
38.1.1 ローカルデバイスのログ	367
38.1.2 集中型のメッセージログ	368
38.2 フォルダレベルでの Message Logger の設定	371
38.3 デバイスレベルでの Message Logger 設定の実行	371
38.4 デバッグメッセージの有効化	372
39 メッセージの管理	373
39.1 メッセージ形式の理解	373
39.1.1 ローカルログファイル形式	373
39.1.2 電子メール形式	374
39.1.3 SNMP メッセージ形式	374
39.1.4 UDP ペイロード形式	375
39.2 メッセージステータスの表示	376
39.2.1 メッセージ概要	376
39.2.2 デバイスホットリスト	377
39.3 メッセージの表示	377
39.3.1 メッセージログ	377
39.3.2 システムメッセージログ	378
39.4 メッセージの承認	379
39.4.1 メッセージの承認	379
39.4.2 複数メッセージの承認	380
39.4.3 指定の時刻にログされたメッセージの承認	381
39.5 メッセージの削除	382
39.5.1 メッセージの削除	382
39.5.2 複数メッセージの削除	382
39.5.3 指定の時刻にログされたメッセージの削除	383
39.6 事前定義されたレポートの表示	384
A ZENworks コントロールセンターの命名規則	385
B スケジュールタイプ	387
B.1 特定の日付	387

B.2	イベント	388
B.3	今すぐ	389
B.4	繰り返し	389
C	ZENworks アイコンの外観のカスタマイズ	393
C.1	デフォルトの ZENworks アイコンの新しいカスタムアイコンとの交換	393
C.2	カスタムアイコンのデフォルト ZENworks アイコンとの交換	394
D	マニュアルの更新	395
D.1	2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3)	395

このガイドについて

この『システム管理リファレンス』では、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 システムを管理するための一般的な管理タスクについて説明します。このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 17 ページのパート I 「ZENworks コントロールセンター」
- ◆ 81 ページのパート II 「ZENworks サーバおよびサテライトデバイス」
- ◆ 155 ページのパート III 「ZENworks Adaptive Agent」
- ◆ 185 ページのパート IV 「ZENworks システム更新」
- ◆ 245 ページのパート V 「ゾーン管理」
- ◆ 257 ページのパート VI 「内容」
- ◆ 277 ページのパート VII 「ユーザ」
- ◆ 307 ページのパート VIII 「ZENworks 10 製品のライセンス」
- ◆ 315 ページのパート IX 「データベース管理」
- ◆ 363 ページのパート X 「メッセージログ」
- ◆ 385 ページの付録 A 「ZENworks コントロールセンターの命名規則」
- ◆ 387 ページの付録 B 「スケジュールタイプ」
- ◆ 393 ページの付録 C 「ZENworks アイコンの外観のカスタマイズ」
- ◆ 395 ページの付録 D 「マニュアルの更新」

対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

追加のマニュアル

ZENworks 10 Configuration Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。その他のマニュアルについては、『ZENworks 10 Configuration Management マニュアル (<http://www.novell.com/documentation/zcm10/index.html>)』を参照してください。

マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (/) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用しま。Linux* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

ZENworks コントロールセンター

このセクションでは、ZCC(ZENworks[®] Control Center:ZENworks[®] コントロールセンター)の使用により、システム設定を行い、管理ゾーンで管理タスクを実行する方法について説明します。

- ◆ 19 ページの第 1 章「ZENworks コントロールセンター」
- ◆ 27 ページの第 2 章「管理者」
- ◆ 63 ページの第 3 章「ZENworks ニュース」
- ◆ 69 ページの第 4 章「システム変数」
- ◆ 73 ページの第 5 章「資格情報ポータル」

ZENworks コントロールセンター

1

ZENworks® コントロールセンターは、管理ゾーン内でシステム設定を行ったり、管理タスクを実行したりする場合に使用します。

ZENworks コントロールセンターは、管理ゾーンのすべての ZENworks サーバにインストールされます。どの ZENworks サーバでも、すべての管理タスクを実行できます。

- ◆ 19 ページのセクション 1.1 「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- ◆ 20 ページのセクション 1.2 「Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- ◆ 22 ページのセクション 1.3 「ZENworks コントロールセンターの操作」
- ◆ 23 ページのセクション 1.4 「デフォルトのログインを無効にする値の変更」
- ◆ 23 ページのセクション 1.5 「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」
- ◆ 24 ページのセクション 1.6 「Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定の変更」
- ◆ 25 ページのセクション 1.7 「ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク」
- ◆ 26 ページのセクション 1.8 「ZENworks コントロールセンターのトラブルシューティング」

1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス

- 1 『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「管理ブラウザ要件」に記載されている要件を満たす Web ブラウザを使用して、次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

`ZENworks_Server_Address` は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) を使用していない場合は、`port` の指定が必要です。ZENworks コントロールセンターには HTTPS 接続が必要です。

HTTP 要求は、HTTPS にリダイレクトされます。

[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。

Novell® ZENworks®ログイン		ヘルプ
管理ゾーン	<input type="text" value="DOC_20070601B"/>	
ユーザ名:	<input type="text"/>	
パスワード:	<input type="password"/>	
使用言語:	日本語 <input type="button" value="v"/>	
<input type="button" value="ログイン"/>		
		N

- 2 [ユーザ名] フィールドで、「Administrator (デフォルト)」と入力するか、ZENworks コントロールセンターで以前作成した管理者の名前を入力します。
- 3 [パスワード] フィールドで、次のいずれかを行います。
 - ◆ デフォルトの管理者アカウントでログインしている場合は、インストール時に作成した管理者用のパスワードを指定します。
 - ◆ ZENworks コントロールセンターで作成した管理者名に対するパスワードを指定します。

認可されていないユーザが ZENworks コントロールセンターにアクセスできないようにするために、ログインの試行で 3 回失敗した場合、管理者アカウントが無効化されます。また、ログインを再度試行するまでに、60 秒のタイムアウトが実施されます。これらのデフォルト値を変更するには、[23 ページのセクション 1.4 「デフォルトのログインを無効にする値の変更」](#) を参照してください。

- 4 [ログイン] をクリックして ZENworks コントロールセンターを表示します。

別の管理者として再ログインするには、ZENworks コントロールセンターウィンドウの右上隅にある [ログアウト] オプションをクリックし、ログインダイアログボックスが表示されたら、別の管理者としてログインします。

[ログアウト] オプションには、その一部として、ログインしている管理者の名前が含まれます。たとえば、[Logout John (John をログアウト)] などです。

1.2 Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス

ZENworks 10 Configuration Management には、Novell® プラグインモジュール (.npm) が含まれています。このモジュールを使用して、多くの Novell 製品で使用される管理コンソールである Novell iManager から ZENworks コントロールセンターにアクセスすることができます。

ZENworks コントロールセンタープラグインは、iManager 2.7 のみをサポートしています。iManager 2.6 または 2.5 はサポートされていません。これらのバージョンもインストールされますが、動作しません。

iManager 用に ZENworks コントロールセンタープラグインをインストールする

- 1 iManager のあるサーバ (または iManager サーバにアクセスできるデバイス) 上で、Web ブラウザに次の URL を入力して、ZENworks ダウンロードページを開きます。

`https://server/zenworks-setup`

server は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。

- 2 左のナビゲーションペインで、[管理ツール] をクリックします。
- 3 [zcc.npm] をクリックして、iManager サーバ上の場所にファイルを保存します。
- 4 『Novell iManager 2.7 管理ガイド (http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager_admin_27/data/b8qrsg0.html)』の説明に従って、プラグインモジュールをインストールおよび設定します。
- 5 iManager にログインします。
- 6 ページ最上部にある ZENworks アイコンをクリックします。
- 7 ZENworks コントロールセンターの次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

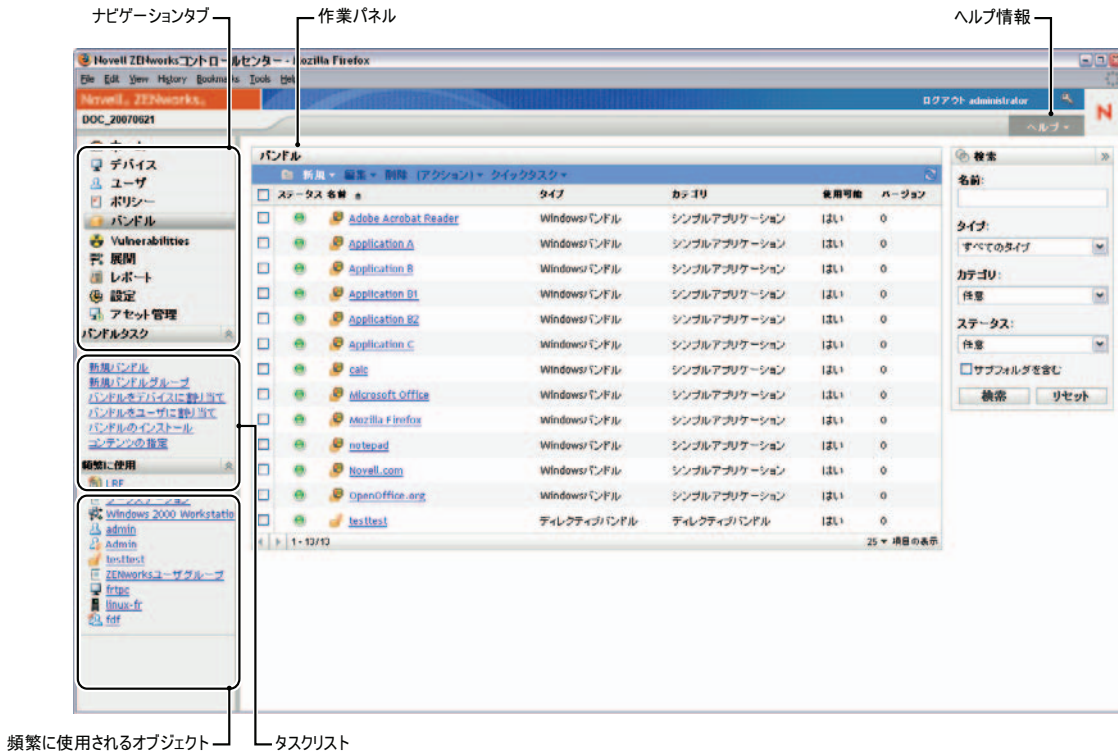
ZENworks_Server_Address は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) を使用していない場合は、*port* の指定が必要です。

- 8 ZENworks アイコンをクリックして ZENworks コントロールセンターを起動します。

1.3 ZENworks コントロールセンターの操作

次のサーバのページは、ZENworks コントロールセンターの標準的な画面です。

図 1-1 ZENworks コントロールセンター



ナビゲーションタブ: 左側のウィンドウのタブを使用すると、ZENworks の機能領域を移動できます。たとえば、このサーバページでは、サーバに関連付けられたタスクを管理できます。

タスクリスト: 左側のウィンドウのタスクリストからは、現在のページで最も頻繁に実行するタスクにすばやくアクセスできます。タスクリストはページごとに異なります。たとえば、[バンドル] ページのタスクリストにはバンドル関連のタスクが、[デバイス] ページのタスクリストにはデバイス関連のタスクがそれぞれ表示されます。

頻繁に使用されるオブジェクト: 左側のウィンドウの「頻繁に使用」リストには、最も使用頻度の高い順から低い順に、アクセスした上位 10 のオブジェクトが表示されます。オブジェクトをクリックすると、直接そのオブジェクトの詳細ページに移動します。

作業パネル: 作業パネルでは、ZENworks システムの管理および監視を行います。パネルは、現在のページによって異なります。上の例では、[デバイス] と [検索] という 2 つの作業パネルがあります。[デバイス] パネルには、作成されたサーバ、フォルダ、サーバグループ、およびダイナミックサーバグループのリストが表示され、このパネルを使用してサーバを管理できます。[検索] パネルでは、デバイスの名前、オペレーティングシステム、ステータスなどの条件で、[デバイス] パネルをフィルタできます。

ヘルプ情報: [ヘルプ] ボタンは、現在のページに関する情報を提供するヘルプトピックへリンクしています。[ヘルプ] ボタンのリンクは、現在のページに応じて変わります。

1.4 デフォルトのログインを無効にする値の変更

デフォルトで、管理者のアカウントは、ログインの試行に3回失敗すると、60秒間、無効になります。このログインの試行回数とタイムアウトの長さは、環境設定ファイルを編集して変更できます。変更は、設定ファイルを開いたり変更したりするサーバから実行される、ZENworks コントロールセンターのインスタンスにのみ適用されます。変更内容をすべてのZENworks プライマリサーバに適用するには、各サーバにあるこのファイルのコピーに同じ変更を行う必要があります。

重要: 管理者アカウントごとのログインの試行回数は、ZENworks データベースに保持されています。ZENworks データベースは、管理ゾーンにつき1つあります。したがって、管理者が1つのプライマリサーバへのログインに失敗すると、その管理者は、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバからロックアウトされます。ロックアウト期間は、ログインの試行が失敗したサーバの環境設定によって決まります。

ログインの試行およびタイムアウト値を変更するには、次の手順に従います。

- 1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

Windows: `installation_location\novell\zenworks\conf\datamodel\zdm.xml`

Linux: `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel/zdm.xml`

- 2 ファイルに次の行を追加します。

```
<entry key="allowedLoginAttempts">5</entry>
```

```
<entry key="lockedOutTime">300</entry>
```

この例の「5」は、ログインできなくなるまでの再試行回数を表しています。「300」は、秒数を表しています(デフォルトは60秒、つまり1分)。

設定済みの失敗の回数(5回など)の後に、再ログインを許可するまでの遅延が長くなればなるほど、ZENworks コントロールセンターにアクセスするために待機する時間が長くなります。

重要: ログインの試行の値として「0」を入力すると、ロックアウト機能が無効になり、ログインの無制限の試行が可能になります。

- 3 ファイルを保存し、プライマリサーバの zenloader サービスおよび zenserver サービスを再起動して変更を有効にします。

サービスの再起動の詳細については、[87 ページのセクション 6.2.4 「ZENworks サービスの再起動」](#)を参照してください。

1.5 ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更

デフォルトでは、ZENworks コントロールセンターには30分のタイムアウト値があります。したがって、コンピュータ上のZENworks コントロールセンターを30分を超える期間アイドル状態にしておくと、続行するには再度ログインするよう求められます。

タイムアウトの目的は、メモリリソースをクリアするためです。タイムアウトの値が大きいくほど、ZENworks コントロールセンターがメモリリソースを保持する時間も長くなります。これにより、ZENworks コントロールセンターを起動したデバイス(ZENworks サーバ上でローカルに実行している場合はZENworks サーバも含む)の長期的なパフォーマンスに悪影響をもたらす可能性があります。

タイムアウト値を増減するには、ZENworks サーバ上で 2 つの XML ファイルを変更します。変更は、そのサーバの ZENworks コントロールセンターにのみ適用されます。したがって、そのサーバから ZENworks コントロールセンターを起動したデバイスにはすべて同じタイムアウト値が適用されます。

管理ゾーン内の ZENworks サーバごとに、ZENworks コントロールセンターに異なるタイムアウト値を設定できます。

ZENworks サーバで ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバで、テキストエディタを使用して config.xml ファイルを開きます。
 - ◆ **Windows:** \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\config.xml
 - ◆ **Linux:** /opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/config.xml
- 2 <setting id="timeout"> エントリを探します。
- 3 必要に応じて、タイムアウト値を増減します。
タイムアウト値は分数で指定します。
- 4 config.xml ファイルを保存します。
- 5 custom-config.xml ファイルをテキストエディタで開きます。
このファイルに含まれた情報が config.xml ファイル内の対応する情報を上書きするので、このファイルを使用すると、ZENworks コントロールセンターのカスタマイズの内容を保持することができます。したがって、ソフトウェアの更新やアップグレード時に config.xml ファイルが上書きされても、このファイルで行われた変更が失われることはありません。
custom-config.xml ファイルは、config.xml ファイルと同じディレクトリにあります。
 - ◆ **Windows:** \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\custom-config.xml
 - ◆ **Linux:** /opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/custom-config.xml
- 6 <setting id="timeout"> エントリを見つけます。
- 7 タイムアウト値を、config.xml ファイルに入力したものと同じ数に設定します。
- 8 <setting id="timeout"> エントリを囲むコメントを削除します (<!-- および -->)。
- 9 custom-config.xml ファイルを保存します。
- 10 zen-server サービスを再起動して、ZENworks サーバを再起動します。
方法については、[83 ページの第 6 章「ZENworks サーバ」](#)を参照してください。

1.6 Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定の変更

config.xml ファイルを使用すると、ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を設定できる ([23 ページのセクション 1.5「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」](#)を参照) だけでなく、他の設定もいくつか制御できます。ただし、タイムアウト値を除いて、config.xml 設定を変更する必要はありません。

- 1 ZENworks サーバで、テキストエディタを使用して config.xml ファイルを開きます。
 - ◆ **Windows サーバのパス:** \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\config.xml

- ◆ **Linux サーバのパス** : opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/config.xml

2 目的の設定を変更します。すべての設定は <setting id= で始まります。

timeout: タイムアウト値を分数で指定します。タイムアウトの値が大きいほど、ZENworks コントロールセンターがメモリリソースを保持する時間が長くなり、ZENworks コントロールセンターを起動したデバイスの長期的なパフォーマンスに悪影響をもたらす可能性があります。この値を変更した場合、custom-config.xml ファイル内のタイムアウトエントリも変更する必要があります。[23 ページのセクション 1.5 「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」](#)を参照してください)。

debug.enabled: ZENworks コントロールセンターのログファイルにメッセージが書き込まれないようにするには、値を *false* に変更します。デフォルトの値である *true* の場合、ログファイルにメッセージが書き込まれます。

debug.tags: これらの設定により、デバッグ情報が制御されます。Novell サポートの指示がない限り、変更しないでください。

debug.log.viewstate: この設定は、デバッグ情報を制御します。Novell サポートの指示がない限り、変更しないでください。

hideGettingStarted: [はじめに] ページが表示されないようにします。この設定は、現時点では機能していません。ページが表示されないように手動で設定するには、ZENworks コントロールセンターを開いて [はじめに] ページを表示し、[これを再表示しない] を選択します。

noQuickTaskAutoRefresh: この設定により、[クイックタスクステータス] ダイアログボックスの自動更新が無効になります。これは、クイックタスクステータスの更新の問題を検出するために使用されます。Novell サポートの指示がない限り、この設定を変更しないでください。

3 config.xml ファイルを保存します。

4 zen-server サービスを再起動して、ZENworks サーバを再起動します。ステップについては、[83 ページの第 6 章「ZENworks サーバ」](#)を参照してください。


1.7 ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク

ブックマーク機能によって、通常のナビゲーションのようにクリックしなくても、Web ブラウザを使用して ZENworks コントロールセンター () のさまざまな場所に直接アクセスできます。この機能を使用すると、見つけにくい場所もブックマークできます。

Web ブラウザで、ZENworks コントロールセンターの次のセクション内の場所へのブックマークを作成できます。

- ◆ [デバイス] タブの [管理対象] タブ
- ◆ [ポリシー] タブ
- ◆ [バンドル] タブ
- ◆ [環境設定] タブの [管理ゾーンの設定]


ブックマークできる場所には、リストなどのアイテム、オブジェクトの詳細、構成設定があります。

[リンク] アイコン ( ▼) が表示されるところであればどこでもブックマークを作成できます。アイコンは、ページの右上にあります。アイコンが表示されない場合は、その場所にはブックマークを作成できません。

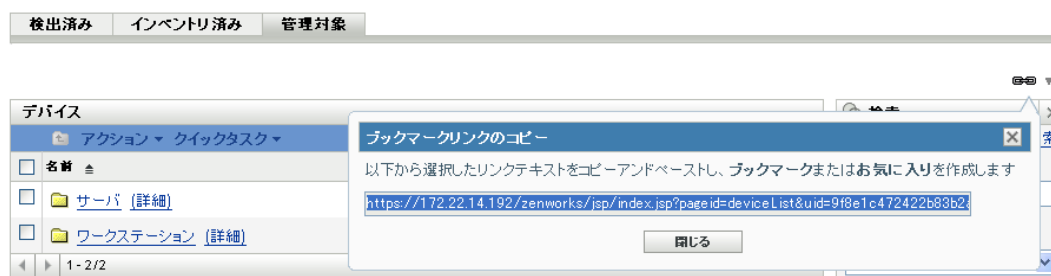
ブックマークをクリックしたとき、ZCCにログインしていた場合は、その場所が即座に表示されます。

ブックマークをクリックしたときにZCCにログインしていなかった場合、[ログイン]ダイアログボックスが表示されます。有効な資格情報を入力すると、その場所がすぐに表示されます。

ブックマークを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、ブックマークを作成したい場所に移動します。
- 2  をクリックします。

次のようなダイアログボックスが開き、現在の場所の URL がハイライトされています。



- 3 Ctrl+C を押して URL をコピーし、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 4 URL を Web ブラウザの新規ブックマークとして貼り付けます。

1.8 ZENworks コントロールセンターのトラブルシューティング

- 26 ページの「プライマリサーバで IIS が実行されていると、HTTP 要求が HTTPS にリダイレクトされない」

プライマリサーバで IIS が実行されていると、HTTP 要求が HTTPS にリダイレクトされない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management; ZENworks コントロールセンター。

説明：インストール時に、セットアップはデフォルトの HTTP ポート (80) および HTTPS ポート (443) が使用されているかどうかをチェックします。別のアプリケーション (IIS など) がこれらのポートを使用している場合は、別のポートを使用するようにメッセージが表示されます。この場合、ZENworks コントロールセンターが使用するポートを通じて、IIS ではなく、ZENworks コントロールセンターにアクセスする必要があります。

アクション：ZENworks コントロールセンターがポート 80 を使用していれば `http://Primary_Server_IP_address` を使用できますが、`http://Primary_Server_IP_address:####` (#### は Tomcat が使用するポートを示します) は常に有効です。

インストール時に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。このアカウントはスーパー管理者アカウントと呼ばれ、管理ゾーンに対するフル管理権を提供します。

通常、管理タスクを実行する各ユーザに対して管理者アカウントを作成します。これらのアカウントは、スーパー管理者アカウントとして定義したり、制限された権限を持つ管理者アカウントとして定義できます。たとえば、管理ゾーン内のデバイスの検出と登録のみを許可する管理者アカウントをユーザに付与できます。また、このアカウントでは、ユーザにデバイスへのバンドルの割り当てのみを許可したり、ユーザに、契約、ライセンス、ドキュメントの管理などのアセット管理タスクのみに使用を制限することも可能です。

重要: デフォルトの管理者アカウントのほかに、少なくとももう 1 つのスーパー管理者アカウントが必要です。これは、管理者アカウントのパスワードが忘れられたり、失われた場合に冗長性を提供します。スーパー管理者アカウントの作成方法については、[31 ページのセクション 2.2.1 「スーパー管理者の権限の割り当て」](#) を参照してください。さらにヘルプが必要な場合は、[Novell サポート \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) にご連絡ください。

場合によっては、複数の管理者アカウントに同じ管理権が必要になることがあります。各アカウントに個別に権限を割り当てるのではなく、管理者の役割を作成して、役割に管理権を割り当て、アカウントを役割に追加できます。たとえば、数人の管理者が必要とする管理権を提供するヘルプデスク役割を作成します。

管理者アカウントを作成および変更したり、役割を割り当てたりするには、ZENworks コントロールセンター (ZCC) または zman コマンドラインユーティリティを使用できます。次の手順では、ZCC を使用してこれらのタスクを実行する方法について説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[管理者コマンド](#)」を参照してください。

- ◆ [27 ページのセクション 2.1 「管理者アカウントの管理」](#)
- ◆ [31 ページのセクション 2.2 「管理者権限の管理」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#)
- ◆ [44 ページのセクション 2.4 「管理者の役割の管理」](#)

2.1 管理者アカウントの管理

次のセクションでは、管理者アカウントの作成および管理について説明します。

- ◆ [28 ページのセクション 2.1.1 「管理者の作成」](#)
- ◆ [30 ページのセクション 2.1.2 「管理者の削除」](#)
- ◆ [30 ページのセクション 2.1.3 「管理者の名前変更」](#)
- ◆ [31 ページのセクション 2.1.4 「管理者パスワードの変更」](#)

2.1.1 管理者の作成

管理者アカウントを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
サーバの階層					
管理者					
新規 編集 ▾ 削除					
<input type="checkbox"/>	名前 ▲	フルネーム	ユーザーズ内のユーザー名		
使用できる項目がありません。					
役割					
ユーザーズ					
ライセンス					
アカウント情報ポルト					

- 2 [管理者] パネルで、[新規] をクリックして [新しい管理者の追加] ダイアログボックスを表示します。

新しい管理者の追加

管理者を作成する方法は2つあります：

名前およびパスワードを指定して新しい管理者を作成します。

管理者名：
*

フルネーム：

パスワード：
*

パスワードを再入力してください：
*

ユーザソース内のユーザを基準にする
信頼されたソースで定義された同じアカウント情報を使用します。

追加 削除	
<input type="checkbox"/>	名前 フォルダ内
項目を選択していません、[追加]をクリックして項目を選択します。	

自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します。
アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

[新しい管理者の追加] ダイアログボックスでは、名前またはパスワードを提供して新しい管理者アカウントを作成できます。またはユーザソースの既存のユーザに基づいて新しい管理者を作成できます。オプションで、ログインしている管理者と同じ権限を新しい管理者に付与できます。

3 次のフィールドに入力します：

名前とパスワードを提供して新しい管理者を作成する：このオプションは、手動で名前およびパスワードを指定して新しい管理者アカウントを作成する場合にのみ選択してください。

Unicode* 文字を使用した管理者ログイン名では、大文字と小文字が区別されます。ログイン名に Unicode 文字を使用している場合は、各文字の大文字と小文字が正しいことを確認してください。

新しい管理者は、最初にログインする際に、ZENworks コントロールセンター右上隅の [ログアウト] リンクの横にあるキーアイコンをクリックして、パスワードを変更できます。

ユーザソースのユーザに基づく：このオプションは、ユーザソースの情報に基づいて新しい管理者を作成する場合に選択します。これを行うには、[追加] をクリックして、目的のユーザを参照して選択します。

新しく作成された管理者アカウントには、管理ゾーンのすべてのオブジェクトに対する表示権限が付与されます。追加の権限を付与したり、管理者の権限を特定のフォルダのみに制限したりするには、**権限を変更する**の必要があります。

自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します：このオプションは、現在ログインしている管理者と同じ権限を新しい管理者に割り当てる場合に選択します。

4 フィールドへの入力完了したら、[OK] をクリックして新しい管理者を追加します。

zman で admin-create コマンドを使用して管理者アカウントを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「管理者コマンド」を参照してください。

2.1.2 管理者の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルで、管理者の名前の隣にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。

また、zman の admin-delete コマンドを使用して、管理者アカウントを削除することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「管理者コマンド」を参照してください。

2.1.3 管理者の名前変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルで、管理者の名前の隣にあるチェックボックスをオンにして、[編集] をクリックし、次に [名前変更] をクリックします。
- 3 新しい名前を指定し、[OK] をクリックします。


zman で admin-rename コマンドを使用して管理者アカウントの名前を変更することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「管理者コマンド」を参照してください。

2.1.4 管理者パスワードの変更


デフォルト以外の管理者アカウントのパスワードを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルで、管理者の隣にあるチェックボックスをオンにして、[編集] をクリックします。次に、[パスワードの設定] をクリックして、[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスを表示します。
- 3 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

現在ログインしている管理者のパスワードを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、右上隅の [ログアウト管理者] オプションの横にある  をクリックします。
[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

デフォルト管理者アカウントのパスワードを変更するには、次の手順に従います。:

- 1 デフォルト管理者アカウントを使用してログインします。
- 2 右上隅の [ログアウト管理者] オプションの横にある  アイコンをクリックします。
[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

2.2 管理者権限の管理

次のセクションでは、既存の管理者アカウントとそれに割り当てられている権限を管理する方法について説明します。

- ◆ [31 ページのセクション 2.2.1 「スーパー管理者の権限の割り当て」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 2.2.2 「追加の権限の割り当て」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 2.2.3 「割り当てられた権限の変更」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 2.2.4 「割り当てられた権限の削除」](#)

2.2.1 スーパー管理者の権限の割り当て

スーパー管理者は、ZENworks コントロールセンターですべてのアクションを実行するためのすべての権限を持っています。スーパー管理者のすべての権限の詳細については、[32 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。管理者にスーパー管理者の権限を与える場合、許可、拒否、または設定されなかったすべての割り当てられた権限は優先しません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルで、管理者の名前をクリックします。
- 3 [スーパー管理者] チェックボックスをオンにします。
- 4 [適用] をクリックします。

2.2.2 追加の権限の割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルの [名前] カラムで、管理者をクリックします。
- 3 [割り当て済みの役割] パネルで、[追加] をクリックし、割り当てる権利を選択します。
- 4 フィールドに情報を入力します。
詳細については、[32 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

zman で admin-rights-set コマンドを使用して管理者アカウントに追加権限を割り当てることもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「管理者コマンド」を参照してください。

2.2.3 割り当てられた権限の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルの [名前] カラムで、管理者をクリックします。
- 3 [割り当てられた権利] パネルで、割り当てる権利の横のチェックボックスをオンにします。
- 4 [編集] をクリックして、設定を修正します。
詳細については、[32 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

2.2.4 割り当てられた権限の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] ペインの [名前] 列で管理者をクリックします。
- 3 割り当てられた権限の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [削除] をクリックします。

zman で admin-rights-delete コマンドを使用して、管理者アカウントに割り当てられた権限を削除することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「管理者コマンド」を参照してください。

2.3 権限の説明

追加の管理者アカウントを作成する際には、ゾーンへのフルアクセスを与えるか、制限された権限を持つアカウントを作成できます。たとえば、管理者がデバイスにバンドルを割り当てることはできるが、バンドルを作成することはできない管理者アカウントを作成できます。または管理ゾーン的环境設定(ユーザソース、登録、構成の設定など)に関するタスク以外のすべての管理タスクにアクセス可能な管理者アカウントを作成することができます。追加管理者の作成の詳細については、[28 ページの「管理者の作成」](#) を参照してください。

管理者の役割のみの場合、権限オプションの3番目のカラムが各権限割り当てダイアログボックスに追加されます。[設定解除]では、ZENworksのどこで設定された権限でも役割で使用できます。

ZENworksで設定されている最も制限の大きい権限が優先されます。そのため、[拒否]オプションを選択すると、ZENworksの他の場所で管理者にその権限が割り当てられていたとしても、その役割に割り当てられている管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworksのその他の場所で許可権限が拒否されていない場合は、管理者はその役割に対する許可権限を持ちます。

[設定解除] オプションを選択した場合、ZENworksの他の場所で役割に対する権限が与えられていない限り、管理者にはその権限が与えられません。

既存の管理者に対して割り当てられている権限を追加、変更、または削除することもできます。詳細については、32 ページのセクション 2.2.2 「追加の権限の割り当て」、32 ページのセクション 2.2.3 「割り当てられた権限の変更」、または 32 ページのセクション 2.2.4 「割り当てられた権限の削除」を参照してください。

次のセクションでは、割り当て可能なさまざまな権限に関する追加情報について説明します。

- ◆ 33 ページのセクション 2.3.1 「管理者権限」
- ◆ 34 ページのセクション 2.3.2 「バンドル権限」
- ◆ 35 ページのセクション 2.3.3 「契約管理権限」
- ◆ 35 ページのセクション 2.3.4 「資格情報の権限」
- ◆ 36 ページのセクション 2.3.5 「展開権限」
- ◆ 36 ページのセクション 2.3.6 「デバイス権限」
- ◆ 37 ページのセクション 2.3.7 「検出権限」
- ◆ 37 ページのセクション 2.3.8 「ドキュメント権限」
- ◆ 37 ページのセクション 2.3.9 「インベントリデバイス権限」
- ◆ 38 ページのセクション 2.3.10 「LDAP インポート権利」
- ◆ 38 ページのセクション 2.3.11 「ライセンス管理権限」
- ◆ 39 ページのセクション 2.3.12 「パッチ管理権限」
- ◆ 40 ページのセクション 2.3.13 「ポリシー権限」
- ◆ 40 ページのセクション 2.3.14 「クイックタスク権限」
- ◆ 41 ページのセクション 2.3.15 「リモート管理権限」
- ◆ 42 ページのセクション 2.3.16 「レポートイング権」
- ◆ 42 ページのセクション 2.3.17 「ユーザ権限」
- ◆ 43 ページのセクション 2.3.18 「ZENworks ユーザグループ権限」
- ◆ 43 ページのセクション 2.3.19 「ゾーンの権限」

2.3.1 管理者権限

[管理者権限] ダイアログボックスでは、他の管理者に権限を付与したり、管理ゾーンの管理者アカウントを作成または削除したりすることを、選択した管理者に許可します。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **権利の付与**：他の管理者に権限を付与するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：管理者アカウントの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.2 バンドル権限

[バンドル権限] ダイアログボックスでは、バンドルを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [34 ページの「Contexts」](#)
- ◆ [34 ページの「特権」](#)

Contexts

権限を割り当てるバンドルが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示されたバンドル、グループ、およびフォルダを作成または修正する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：バンドルの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：バンドルの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更**：名前またはバンドルグループの説明を変更するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更**：バンドルグループに含まれているバンドルのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更**：設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドル割り当て**：バンドルをデバイスまたはユーザに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.3 契約管理権限

[契約管理権限] ダイアログボックスを使用して、契約を含むフォルダを選択し、契約およびフォルダに関連付けられている権限を変更できます。

- ◆ [35 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [35 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てる契約が含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示された契約およびフォルダに対する権限を、選択した管理者に付与できます。

- ◆ **変更:** 契約の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除:** 契約の作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更:** フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除:** フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.4 資格情報の権限

[アカウント情報権限] ダイアログボックスでは、アカウント情報を含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [35 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [35 ページの「特権」](#)

コンテキスト

[追加] をクリックして、権利を割り当てるアカウント情報を含むフォルダを選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示された資格情報、グループ、およびフォルダを作成または修正する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更:** 資格情報の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除:** 既存の資格情報の作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの変更:** フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除:** フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

資格情報に対して実行できるタスクの詳細については、73 ページの第 5 章「資格情報ポータル」を参照してください。

2.3.5 展開権限

[展開権限] ダイアログボックスでは、展開操作に必要な管理者権限を許可または拒否できます。

[展開] では、ネットワークデバイスを検出し、ZENworks Adaptive Agent を検出されたデバイスに展開することができ、それらのデバイスは管理ゾーン内の管理対象デバイスになります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

2.3.6 デバイス権限

[デバイス権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- 36 ページの「コンテキスト」
- 36 ページの「権利」

コンテキスト

権限を割り当てるデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

権利

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示されたデバイスグループとフォルダなどのデバイスを操作する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- **変更**：デバイスオブジェクトの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **作成 / 削除**：デバイスオブジェクトの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **グループ変更**：グループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **グループ作成 / 削除**：グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **グループメンバーシップの変更**：デバイスグループに含まれているデバイスのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **設定の変更**：デバイス設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- **ポリシー割り当て**：ポリシーをデバイスに割り当てる際に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

- ◆ **バンドル割り当て**：バンドルをデバイスに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.7 検出権限

[検出権限] ダイアログボックスでは、検出操作に必要な管理者権限を許可または拒否できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **調査**：検出の実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **検出済みデバイスの編集** 検出デバイスの編集に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.8 ドキュメント権限

[ドキュメント権限] ダイアログボックスを使用して、ドキュメントを含むフォルダを選択し、ドキュメントおよびフォルダに関連付けられている権限を変更できます。

- ◆ [37 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [37 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるドキュメントが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示されたドキュメントおよびそのフォルダを作成または修正する権限を、選択した管理者に付与できます。

- ◆ **変更**：ドキュメントの再割り当てに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：ドキュメントのインポートまたは削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.9 インベントリデバイス権限

[インベントリデバイス権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [38 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [38 ページの「権利」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるインベントリデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

権利

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示されたデバイスグループとフォルダなどのインベントリ対象デバイス进行操作する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：インベントリデバイスオブジェクトの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：インベントリデバイスオブジェクトの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更**：デバイスグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：デバイスグループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更**：デバイスグループに含まれているデバイスのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更**：インベントリデバイス設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.10 LDAP インポート権利

[LDAP インポート権利] ダイアログボックスでは、LDAP 情報のインポートを許可または拒否できます。

2.3.11 ライセンス管理権限

[ライセンス管理権限] ダイアログボックスを使用して、ライセンスを含むフォルダを選択し、ライセンスおよびフォルダに関連付けられている権限を変更できます。

- ◆ [38 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [39 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるライセンスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションで選択したコンテキスト (フォルダ) に関連したソフトウェアライセンスコンポーネントを使用する権限を、管理者に与えることができます。

- ◆ **変更**：ライセンスの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：ライセンスの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.12 パッチ管理権限

[パッチ管理権限] ダイアログボックスでは、管理者のパッチ管理機能を決定できます。

使用できる権限は次のとおりです：

- ◆ **パッチの展開**：パッチの展開に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチの有効化**：パッチを有効にするのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチの無効化**：パッチを無効にするのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチ更新キャッシュ**：パッチのキャッシュに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインに割り当て**：パッチをベースラインに割り当てるのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインから削除**：ベースラインに割り当てられたパッチを削除するのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **View Patch Details (パッチ詳細の表示)**：パッチ詳細の表示に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチのエクスポート**：パッチのエクスポートに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **今すぐスキャン**：スキャンの開始に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチの削除**：パッチを削除するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインの再計算**：ベースラインの再計算に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定**：パッチの設定に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.13 ポリシー権限

[ポリシー権限] ダイアログボックスでは、ポリシーを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [40 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [40 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるポリシーが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示されたポリシーグループとフォルダなどのポリシーを操作する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：ポリシーの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：既存のポリシーの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更**：グループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：ポリシーグループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更**：ポリシーグループに含まれているポリシーのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ポリシー割り当て**：ポリシーをデバイスまたはユーザに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.14 クイックタスク権限

[クイックタスク権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられているクイックタスク権限を修正できます。

クイックタスクとは、ZENworks コントロールセンターのタスクリストに表示されるタスクです (たとえば、サーバタスク、ワークステーションタスク、バンドルタスクなど)。タスクをクリックすると、ウィザードが起動されてタスクを通じて次のタスクに進むか、またはタスクを完了するために情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

[クイックタスク権限] ダイアログボックスでは、クイックタスクを使用した特定タスクの実行権限を、選択した管理者に許可または拒否できます。

- ◆ [41 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [41 ページの「権利」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

権利

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションで選択したコンテキスト (フォルダ) に関連したクイックタスク権利を変更する権限を、管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **デバイスのシャットダウン/再起動/起動** リストで選択したフォルダのデバイスを管理者がシャットダウン、再起動、または起動できるかどうかを指定します。
- ◆ **プロセスの実行** : デバイスのプロセスの実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **Zenworks Adaptive Agent の更新** : デバイスの ZENworks Adaptive Agent の更新に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドルのインストール/起動** : バンドルのインストールまたは起動に必要な権限を管理者に許可または拒否します。管理者はまた、[クイックタスク] オプションを使用してバンドルをインストールあるいは起動するために、デバイスに対して [バンドル割り当て] 権限を持っている必要があります。
- ◆ **インベントリ** : デバイスのインベントリに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **イメージの適用** : イメージをデバイスに適用するときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **イメージの取得** : デバイスのイメージの取得に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.15 リモート管理権限

[リモート管理権限] ダイアログボックスでは、デバイスおよびユーザを含むフォルダを選択して、これらのフォルダに関連付けられているリモート管理権限を変更できます。リモート実行権限を付与すると、管理者は、システム領域でプロセスを実行できます。

- ◆ [41 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [41 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるデバイスおよびユーザが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションで選択したコンテキスト (フォルダ) に関連したリモート管理権利を変更する権限を、管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **リモートコントロール**：デバイスのリモート管理に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **リモートビュー**：デバイスのリモート表示に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ファイルの転送**：ファイルのデバイスとの送受信に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **リモート実行**：デバイスのプロセスのリモート実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **リモート診断**：デバイスのプロシージャのリモート診断実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **リモート管理サービスのブロック解除**：リモート管理サービスのブロック解除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.16 レポートイング権

[レポートイング権] ダイアログボックスでは、レポートを作成、削除、実行、または発行する権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.17 ユーザ権限

[ユーザ権限] ダイアログボックスでは、ユーザを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [42 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [42 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるユーザが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[権利] セクションでは、[コンテキスト] セクションに一覧表示されたユーザおよびフォルダを操作する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **ZENworks グループメンバーシップの変更**：ZENworks グループメンバーシップの変更に必要な権限を許可または拒否します。このオプションを選択した場合、[ZENworks ユーザグループ権限] の下で [ZENworks グループメンバーシップの変更] の権限も許可しておく必要があります。
- ◆ **ポリシー割り当て**：ポリシーをユーザに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドル割り当て**：バンドルをユーザに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.18 ZENworks ユーザグループ権限

[ZENworks ユーザグループ権限] ダイアログボックスでは、グループを作成、削除、変更、およびグループメンバーシップを変更する権限を管理者に許可または拒否できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **グループ変更** : 既存のユーザグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除** : ユーザグループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ZENworks グループメンバーシップの変更** : ZENworks グループメンバーシップの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。このオプションを選択した場合、[ユーザ権限] の下で [ZENworks グループメンバーシップの変更] の権限も許可しておく必要があります。
- ◆ **ポリシー割り当て** : ポリシーグループに含まれているポリシーのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドル割り当て** : ポリシーグループに含まれているバンドルのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.19 ゾーンの権限

[ゾーンの権限] ダイアログボックスでは、ZENworks 管理ゾーンの設定を管理する管理者の権限を変更できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **ユーザソースの変更** : ユーザソースの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

ユーザソースは、ZENworks 管理ゾーンで参照したいユーザを含む LDAP ディレクトリです。ユーザソースを定義する場合は、ユーザおよびユーザグループの読み込み元のソースコンテナも定義します。

ユーザソースの変更は、ユーザソースの追加、削除、名前変更、およびユーザ祖巢へのポリシーまたはバンドルの割り当てです。

- ◆ **ユーザソースの作成 / 削除** : ユーザソースの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更** : 管理ゾーン設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
[管理ゾーンの設定] では、管理ゾーンに関するグローバル構成の設定を管理できます。これらのグローバル構成の設定は、管理ゾーンの中の他のオブジェクト (デバイス、ユーザ、およびフォルダ) に継承され、それらのオブジェクトによって上書きされない限り効力を有します。
- ◆ **ゾーンインフラストラクチャの変更** : ゾーンインフラストラクチャの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。この権限には、[環境設定] タブの [サーバ階層] セクションで次のアクションを実行する権限が含まれます。
 - ◆ デバイスにコンテンツを指定する
 - ◆ デバイスを階層内で移動する
 - ◆ サテライトを設定する

- ◆ サテライトを追加する
- ◆ サテライトを削除する

その他のアクションは [サーバ階層] セクションで実行できます。ただし、これらのアクションの権限を個別に指定する必要があります。これは「ゾーンインフラストラクチャの変更」権限に自動的に含まれます。次のようなイベントがあります。

- ◆ [ZENworks サーバの削除](#)
- ◆ [デバイスのリフレッシュ](#)
- ◆ **登録の設定**：デバイス登録の設定に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
[登録] では、管理ゾーン内の管理対象デバイスとしてデバイスを登録するためのさまざまな構成設定を管理できます。これを使用すると、登録キーまたは登録ルールを作成して、デバイスを登録に役立てることもできます。登録キーを使用すると、登録時に、グループおよびフォルダ割り当てをデバイスに適用できます。登録ルールを使用すると、デバイスがルールの条件に一致する場合にグループおよびフォルダ割り当てをフォルダに適用できます。
- ◆ **ニュースアラートの削除**：ニュースアラートの削除に必要な権利を管理者に許可、または拒否します。
- ◆ **ニュースアラートの更新**：ニュースアラートの更新に必要な権利を管理者に許可、または拒否します。

2.4 管理者の役割の管理

管理ゾーンで管理者の役割を管理するには、次のタスクを実行します。

- ◆ [44 ページのセクション 2.4.1 「管理者の役割の理解」](#)
- ◆ [47 ページのセクション 2.4.2 「役割の作成」](#)
- ◆ [50 ページのセクション 2.4.3 「役割の割り当て」](#)
- ◆ [57 ページのセクション 2.4.4 「役割の編集」](#)
- ◆ [60 ページのセクション 2.4.5 「役割の名前変更」](#)
- ◆ [61 ページのセクション 2.4.6 「役割の削除」](#)

2.4.1 管理者の役割の理解

役割機能によって、ZENworks 管理者の役割として割り当て可能な権限を指定できます。特化した役割を作成し、管理者をその役割に割り当てることで、その役割に対して指定した ZENworks コントロールセンターの権限を許可または拒否できます。たとえば、ヘルプデスクのオペレータに設定する ZENworks コントロールセンター権限を持つヘルプデスクの役割などを作成することができます。

次のセクションでは、ZENworks コントロールセンターで役割を管理できるさまざまな場所について説明します。

- ◆ [45 ページの 「\[役割\] パネル」](#)
- ◆ [46 ページの 「\[役割の設定\] ページ」](#)
- ◆ [47 ページの 「\[管理者の設定\] ページ」](#)

[役割] パネル

[役割] パネルには、次の情報が表示されます。

図 2-1 [役割] パネル

役割			
新規 編集 削除			
<input type="checkbox"/> 名前	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> Bundles Role	バンドル 権限 管理者 権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS GR CD	
<input type="checkbox"/> Devices Role	デバイス 権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB	

- ◆ **名前**：役割の作成時に指定します。ここで役割の名前を変更できます。役割名をクリックしてその権限設定を編集することもできます。
- ◆ **種類**：役割に対して設定されている各 ZENworks コントロールセンター権限のタイプを一覧にします。
- ◆ **Allow (許可)**：一覧にされている各タイプに対して、その役割で許可されている権限を示す略称が表示されます。
- ◆ **拒否**：一覧にされている各タイプに対して、その役割で拒否されている権限を示す略称が表示されます。

権限が [設定解除] に設定されている場合、その略称は、[許可] または [拒否] カラムのいずれにも一覧にされません。

[役割] パネルでは、役割の追加、割り当て、編集、名前変更、および削除を行うことができます。

[役割の設定] ページ

[役割] パネルの [名前] カラムで役割をクリックすると、次の情報を含む [役割の設定] ページが表示されます。

図 2-2 [役割の設定] ページ

環境設定 > Bundles Role

全般		
オブジェクトタイプ:	役割	
GUID:	4637ff3d38c6de7d0c399af6d357c7d6	
説明:	<div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div>	

権限		
追加 ▾ 編集 削除		
<input type="checkbox"/> タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
<input type="checkbox"/> 管理者権限	GR CD	

1 - 2/2 5 ▾ 項目の表示

割り当て済みの管理者		
追加 編集 削除		
<input type="checkbox"/> 管理者	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Admin1	バンドル権限 管理者権限	バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 ▾ 項目の表示

- ◆ [一般] パネル: ZENworks コントロールセンターのオブジェクトタイプ (役割)、その GUID、および説明が表示され、編集することもできます。
- ◆ [権限] パネル: 役割に対して設定された ZENworks コントロールセンター権限が表示されます。このパネルで、権限を追加、編集、および削除できます。
- ◆ [割り当て済み管理者] パネル: この役割に割り当てられている管理者が一覧にされません。このパネルで、管理者を追加、編集、または削除できます。

[管理者の設定] ページ

[役割の設定] ページの [管理者] カラムで管理者をクリックすると、次の情報を含む [管理者の設定] ページが表示されます。

図 2-3 [管理者の設定] ページ

環境設定 > Admin 1

全般	
管理者のフルネーム:	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> スーパー管理者	
メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない) 割り当て済みのすべての権限が上書きされます。	

割り当てられた権利	
追加 ▼ 編集 削除	
<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト 許可 拒否
使用できる項目がありません。	
メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。	

割り当て済みの役割		
追加 編集 削除		
<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Bundles Role	バンドル権限 管理者権限	バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 ▼ 項目の表示

適用 リセット

- [一般] パネル: 管理者のフルネームが表示されます。役割の設定内容にかかわらず、すべての ZENworks コントロールセンター権限を管理者に付与するスーパー管理者として管理者を指定できます。
- [権限] パネル: 管理者に割り当てられている役割によって許可または拒否される権限とは別に、管理者に割り当てられている権限が一覧にされます。このパネルに一覧にされている権限は、役割によって割り当てられている権限よりも優先されます。このパネルで、権限を追加、編集、および削除できます。
- [割り当て済みの役割] パネル: この管理者に割り当てられている役割が一覧にされます。このパネルで、役割を追加、編集、および削除できます。

2.4.2 役割の作成

1つの役割に、1つ以上の権限タイプを含めることができます。役割は必要な数だけ設定できます。役割の機能を設定する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左ペインにある [環境設定] をクリックして、[環境設定] タブをクリックします。続いて、[役割] パネルの [新規] をクリックして、[新しい役割を追加] ダイアログボックスを開きます。

新しい役割を追加

名前:
*

説明:

権限

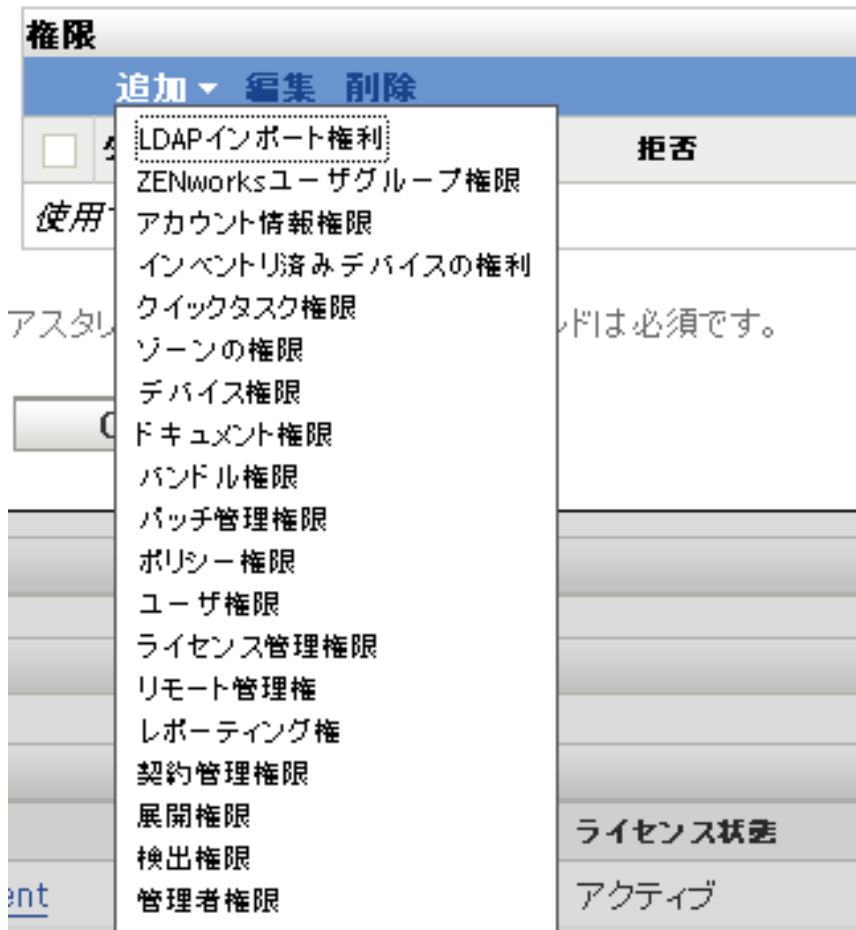
追加 ▾ 編集 削除		
<input type="checkbox"/>	タイプ	許可 拒否

使用できる項目がありません。

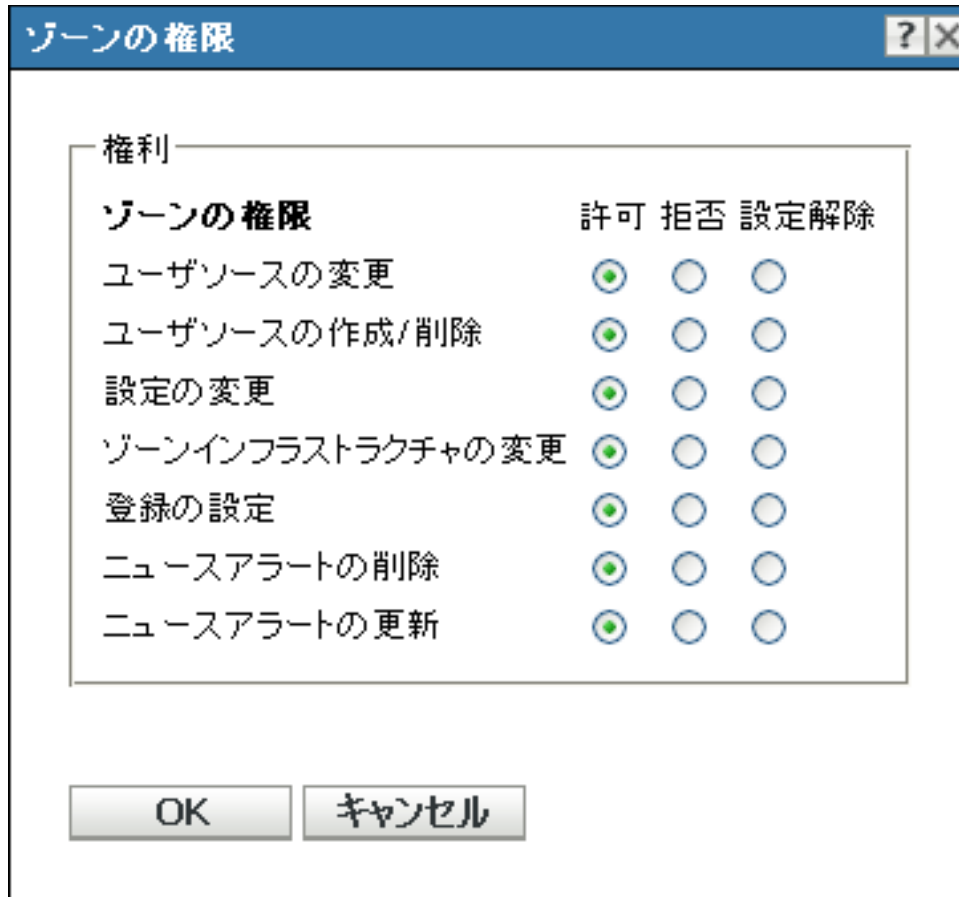
アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 2 役割の名前と説明を指定します。
- 3 役割の権限を設定するには、[追加] をクリックし、ドロップダウンリストから権限タイプを選択します。



- 4 次のダイアログボックスで、各特権を許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。



ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

[設定解除] オプションを選択した場合、ZENworks の他の場所で役割に対する権限が与えられていない限り、管理者にはその権限が与えられません。

- 5 [OK] をクリックして続行します。
- 6 役割に他の権限を追加するには、[ステップ 3](#)～[ステップ 5](#)を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックして、[新しい役割を追加] ダイアログボックスを終了します。
これで [役割] パネルに役割が表示されます。これを管理者に割り当てるには、[50 ページのセクション 2.4.3 「役割の割り当て」](#)を参照してください。

2.4.3 役割の割り当て

役割を管理者に割り当てるか、または管理者を役割に割り当てることができます。

- ◆ [51 ページの「管理者への役割の割り当て」](#)
- ◆ [54 ページの「役割への管理者の割り当て」](#)

管理者への役割の割り当て

権限は、管理者向けの場所を含む、ZENworks コントロールセンターの複数の場所で設定できます。管理者は複数の役割に割り当てることができます。

ZENworks コントロールセンターで特定の権限に異なる条件が設定されているために管理者の権限が競合する場合、いずれかの場所で管理者に対してその権限が設定されているときは、[拒否] オプションが使用されます。つまり、権限の競合が発生した場合、常に [許可] よりも [拒否] が優先されます。

管理者に役割を割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[管理者] パネルで [名前] カラムの管理者名をクリックし、管理者の設定ページを開きます。

[環境設定](#) > Admin1

全般 ⌵

管理者のフルネーム:

スーパー管理者

メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない) 割り当て済みのすべての権限が上書きされます。

割り当てられた権利 ⌵

追加 ▾ 編集 削除

<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト	許可	拒否
使用できる項目がありません。			
メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。			

割り当て済みの役割 ⌵

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Bundles Role	バンドル 権限 管理者権限	バンドル ゾーン

◀ ▶ 1 - 1/1 5 ▼ 項目の表示

- 2 [割り当て済みの役割] パネルで、[追加] をクリックして [役割の選択] ダイアログボックスを表示します。



- 3 管理者の役割を参照および選択し、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを表示します。



[役割の割り当ての追加] ダイアログボックスが表示され、役割に含まれた役割タイプのコンテキストを定義できます。コンテキストを使用すると、与えられた権限を使用できる場所を制限することができます。たとえば、管理者のクイックタスク権限の役割を ZENworks コントロールセンターの [デバイス] フォルダに限定するよう指定できます。

コンテキストは必要ありません。ただし、コンテキストを指定しない場合は、権限を適用できる場所について情報がないので、権限は与えられません。

グローバルな権限は自動的にコンテキストとして Zone を表示します。

- 4 必要な場合は、次の手順に従って、コンテキストのない役割タイプにコンテキストを割り当てます。
- 4a [タイプ] 列で、役割のタイプをクリックします。
ゾーンコンテキストで設計された役割のタイプは、一般的に使用可能なので、クリックできません。
 - 4b 次に続く [コンテキストの選択] ダイアログボックスでは、[追加] をクリックして、ZENworks コントロールセンターのコンテキストを参照します。
参照中に、[参照] ダイアログボックスで複数のコンテキストを選択できます。
 - 4c 特定の役割にコンテキストの選択を完了したら、[OK] をクリックして [コンテキストの選択] ダイアログボックスを閉じます。
 - 4d 必要に応じて、ステップ 4a からステップ 4c までを繰り返して、役割にコンテキストを割り当てます。
 - 4e 完了したら、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを閉じます。
- 5 他の管理者を追加するには、ステップ 2 およびステップ 4 を繰り返します。
- 6 [適用] をクリックして変更を保存します。

役割への管理者の割り当て

権限は、ZENworks コントロールセンターの複数の箇所を設定できます。管理者は複数の役割に割り当てることができます。

ZENworks コントロールセンターで特定の権限に異なる条件が設定されているために管理者の権限が競合する場合、いずれかの場所で管理者に対してその権限が設定されているときは、[拒否] オプションが使用されます。つまり、権限が競合している場合、[拒否] は [許可] よりも常に優先します。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [名前] カラムの役割名をクリックし、役割の設定ページを開きます。

環境設定 > Bundles Role

全般	
オブジェクトタイプ:	役割
GUID:	4637ff3d38c6de7d0c399af6d357c7d6
説明:	<input type="text"/>

権限		
追加 ▼ 編集 削除		
<input type="checkbox"/> タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
<input type="checkbox"/> 管理者権限	GR CD	

割り当て済みの管理者		
追加 編集 削除		
<input type="checkbox"/> 管理者	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Admin1	バンドル権限 管理者権限	バンドル ゾーン



- 2 [割り当て済みの管理者] パネルで、[追加] をクリックして [管理者の選択] ダイアログボックスを表示します。

管理者の選択 [?] [X]

管理者を選択する

検索対象:
/管理者

名前フィルタ: * 項目のタイプ: すべてのタイプ

名前	タイプ
 admin1	管理者
 admin2	管理者

1 - 2/2 25 ▼ 項目の表示

OK キャンセル

- 3 役割に割り当てる管理者を参照および選択し、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] を表示します。



[役割の割り当ての追加] ダイアログボックスが表示され、役割に含まれた役割タイプのコンテキストを定義できます。コンテキストを使用すると、与えられた権限を使用できる場所を制限することができます。たとえば、管理者のクイックタスク権限の役割を ZENworks コントロールセンターの [デバイス] フォルダに限定するよう指定できます。

コンテキストは必要ありません。ただし、コンテキストを指定しない場合は、権限を適用できる場所について情報がないので、権限は与えられません。

グローバルな権限は自動的にコンテキストとして Zone を表示します。

- 4 必要な場合は、次の手順に従って、コンテキストのない役割タイプにコンテキストを割り当てます。
 - 4a [タイプ] 列で、役割のタイプをクリックします。

ゾーンコンテキストで設計された役割のタイプは、一般的に使用可能なので、クリックできません。
 - 4b 次に続く [コンテキストの選択] ダイアログボックスでは、[追加] をクリックして、ZENworks コントロールセンターのコンテキストを参照します。

参照中に、[参照] ダイアログボックスで複数のコンテキストを選択できます。
 - 4c 特定の役割にコンテキストの選択を完了したら、[OK] をクリックして [コンテキストの選択] ダイアログボックスを閉じます。
 - 4d 必要に応じて、ステップ 4a からステップ 4c までを繰り返して、役割にコンテキストを割り当てます。
 - 4e 完了したら、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを閉じます。
- 5 他の役割を追加するには、ステップ 2 およびステップ 4 を繰り返します。
- 6 [適用] をクリックして変更を保存します。

2.4.4 役割の編集

役割の環境設定はいつでも編集できます。編集された役割を適用したら、すべての割り当て済みの管理者に対してその変更が有効になります。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [編集] をクリックし、[役割を編集] ダイアログボックスを開きます。

役割を編集 ? ×

名前: Bundles Role

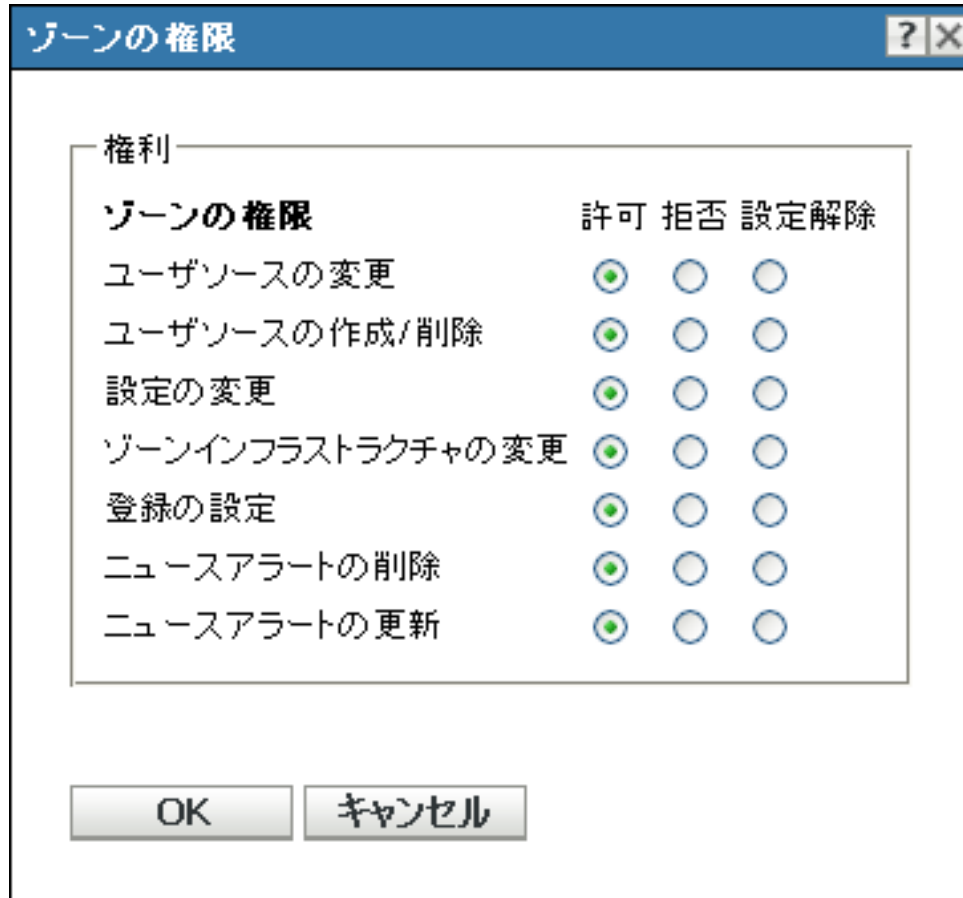
説明:

権限	
追加 ▾ 編集 削除	
<input type="checkbox"/> タイプ	許可 拒否
<input type="checkbox"/> バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS
<input type="checkbox"/> 管理者権限	GR CD

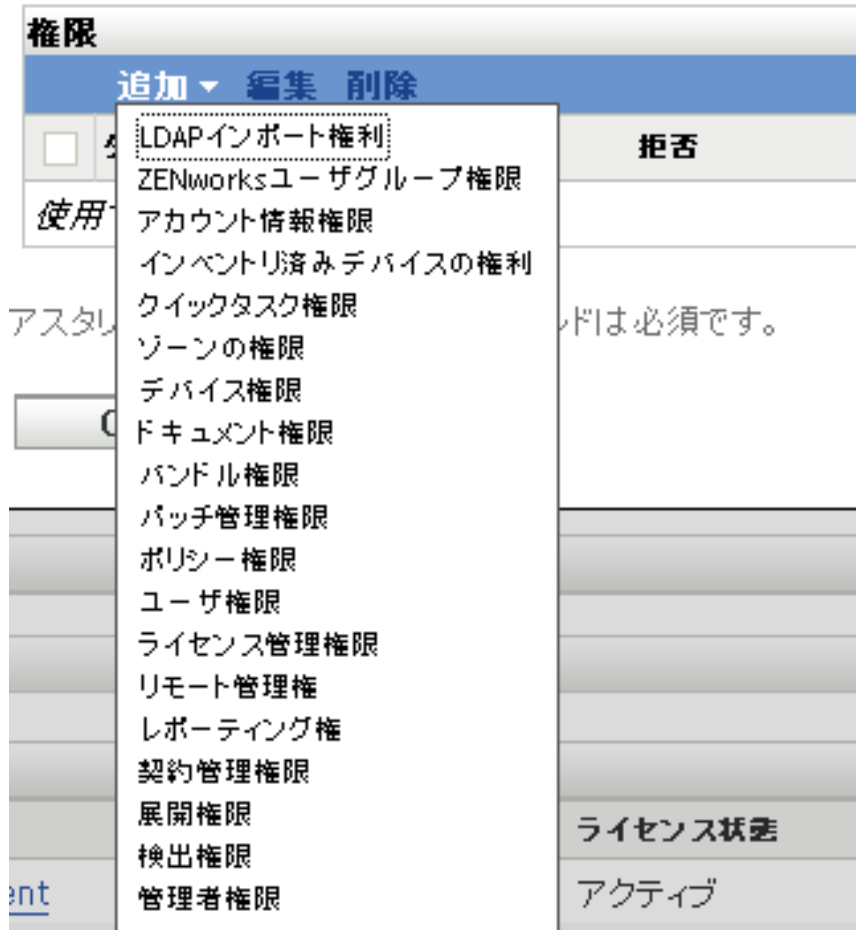
◀ ▶ 1 - 2 / 2 20 ▾ 項目の表示

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

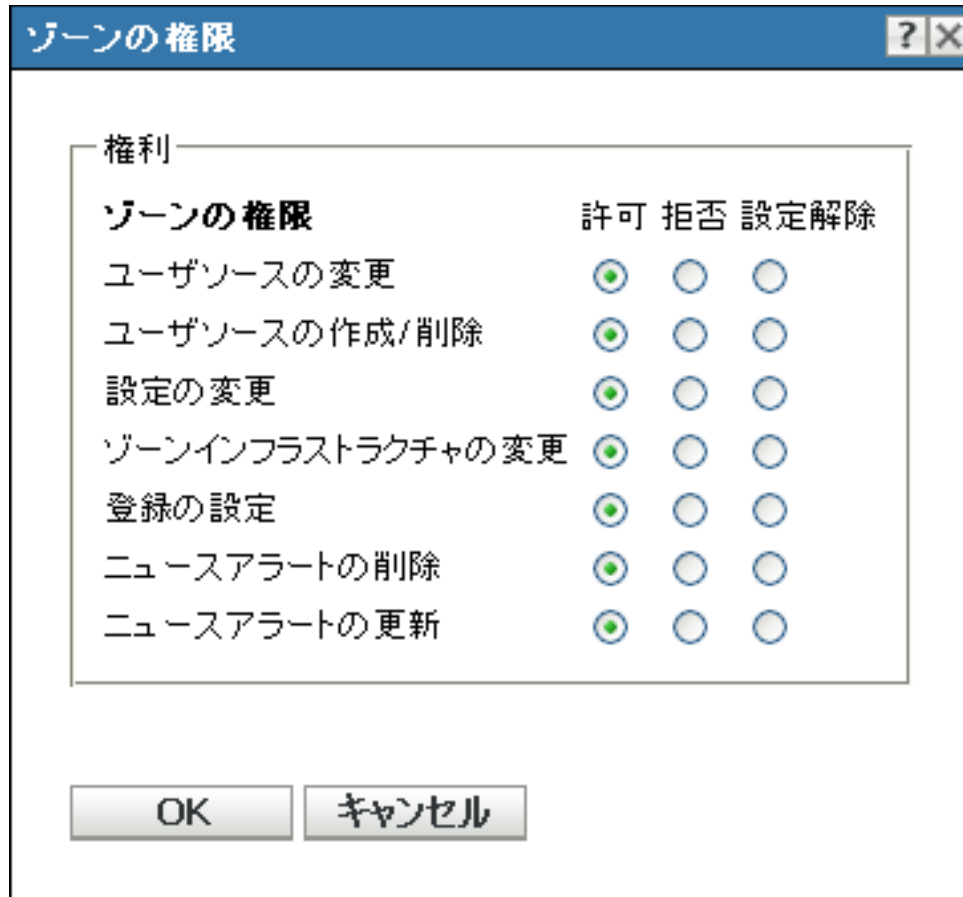
- 2 説明を編集するには、直接 [説明] フィールドを変更します。
- 3 既存の権限を編集するには、次を実行します。
 - 3a [権限] パネルで、権限タイプのチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックして次のダイアログボックスを開きます。



- 3b 各特権に対して、許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。
ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。
[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。
[設定解除] オプションを選択した場合、ZENworks の他の場所で役割に対する権限が与えられていない限り、管理者にはその権限が与えられません。
- 3c [OK] をクリックして続行します。
- 3d 別の既存の役割を編集するには、ステップ 3a ～ステップ 3c を繰り返します。
- 4 (オプション) 新しい権限を追加するには、次の手順に従います。
 - 4a [権限] パネルで、[追加] をクリックし、ドロップダウンリストからいずれかの権限タイプを選択します。



4b [権限] ダイアログボックスで、各特権を許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。



ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

[設定解除] オプションを選択した場合、ZENworks の他の場所で役割に対する権限が与えられていない限り、管理者にはその権限が与えられません。

4c [OK] をクリックして続行します。

4d 役割に他の権限を追加するには、[ステップ 4a](#) ～[ステップ 4c](#) を繰り返します。

5 ダイアログボックスを終了し、役割の変更を保存するために、[OK] をクリックします。

2.4.5 役割の名前変更

役割名はいつでも変更できます。変更された役割名は、ZENworks コントロールセンターで役割が表示される場所すべてに自動的にレプリケートされます。

1 ZENworks コントロールセンターで、左ペインにある [環境設定] をクリックして、[環境設定] タブをクリックします。続いて [役割] パネルで、名前を変更する役割のチェックボックスをオンにします。

役割			
新規 編集 ▾ 削除			
<input type="checkbox"/>	名前	タイプ	許可
<input type="checkbox"/>	Bundles Role	バンドル権限 管理者権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS GR CD
<input type="checkbox"/>	Devices Role	デバイス権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB

1 - 2/2 5 ▼ 項目の表示

- 2 [編集] > [名前変更] の順にクリックして、[役割の名前変更] ダイアログボックスを開きます。
- 3 新しい役割名を指定し、[OK] をクリックします。

2.4.6 役割の削除

役割を削除すると、権限の環境設定は、その役割に割り当てられていた管理者に適用されなくなります。

削除した役割は復元できません。再作成する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左ペインにある [環境設定] をクリックして、[環境設定] タブをクリックします。続いて [役割] パネルで、削除する役割のチェックボックスをオンにします。

役割			
新規 編集 ▾ 削除			
<input type="checkbox"/>	名前	タイプ	許可
<input type="checkbox"/>	Bundles Role	バンドル権限 管理者権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS GR CD
<input type="checkbox"/>	Devices Role	デバイス権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB

1 - 2/2 5 ▼ 項目の表示

- 2 [削除] をクリックし、役割を削除することを確認します。

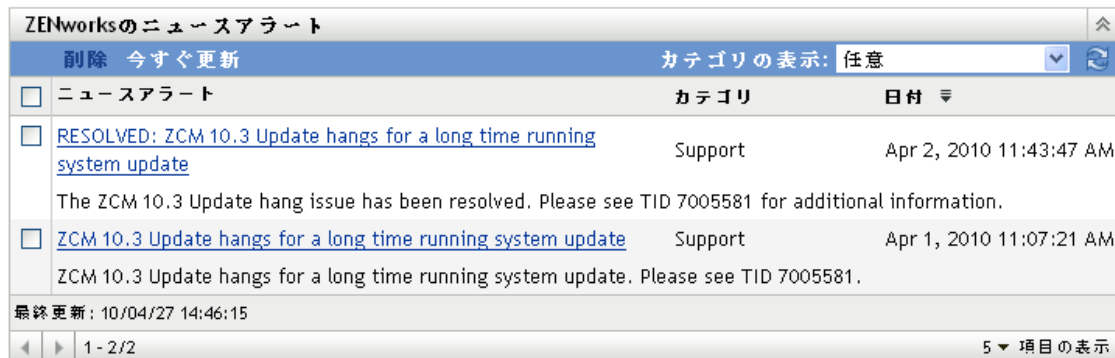
Novell® ZENworks® 10 Configuration Management は、現在の最重要課題、最新ニュース、プロモーションなど、Novell からの情報を ZENworks コントロールセンターのホームページに表示します。

次のセクションでは、ニュースアラートの削除、更新、ソートと、ニュースの表示に関する情報を提供します。サーバでニュースのダウンロードスケジュールを設定しておくこともできます。

- ◆ 63 ページのセクション 3.1 「ZENworks ニュースアラートの管理」
- ◆ 64 ページのセクション 3.2 「ZENworks ニュースの設定」

3.1 ZENworks ニュースアラートの管理

図 3-1 ZENworks ニュースアラート



ZENworksのニュースアラート		
削除 今すぐ更新	カテゴリの表示: 任意	
<input type="checkbox"/> ニュースアラート	カテゴリ	日付
<input type="checkbox"/> RESOLVED: ZCM 10.3 Update hangs for a long time running system update	Support	Apr 2, 2010 11:43:47 AM
The ZCM 10.3 Update hang issue has been resolved. Please see TID 7005581 for additional information.		
<input type="checkbox"/> ZCM 10.3 Update hangs for a long time running system update	Support	Apr 1, 2010 11:07:21 AM
ZCM 10.3 Update hangs for a long time running system update. Please see TID 7005581.		
最終更新: 10/04/27 14:46:15		
1 - 2/2		5 ▼ 項目の表示

ZENworks ニュースアラートを管理するには、次のセクションを参照してください。

- ◆ 63 ページのセクション 3.1.1 「ニュースアラートの削除」
- ◆ 64 ページのセクション 3.1.2 「ニュースアラートの更新」
- ◆ 64 ページのセクション 3.1.3 「選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示」
- ◆ 64 ページのセクション 3.1.4 「ニュースの表示」
- ◆ 64 ページのセクション 3.1.5 「ニュースアラートのソート」

3.1.1 ニュースアラートの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、削除するニュースアラートの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

3.1.2 ニュースアラートの更新

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[今すぐ更新] をクリックします。
プライマリサーバがダウンロードした最新の ZENworks ニュース更新が、[ZENworks ニュースアラート] パネルに表示されます。これには少し時間がかかることがあります。

3.1.3 選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[Show Category (カテゴリの表示)] の隣のドロップダウンリストからカテゴリを選択すると、そのカテゴリのすべてのニュースアラートが表示されます。

3.1.4 ニュースの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、新しいブラウザウィンドウに表示するニュースアラートをクリックします。

3.1.5 ニュースアラートのソート

デフォルトでは、ニュースアラートは発行日付順にソートされています。タイトルまたはカテゴリごとにアルファベット順でニュースアラートをソートすることもできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[ニュースアラート] をクリックすると、ニュースアラートがアルファベット順にソートされます。
または
[カテゴリ] をクリックして、ニュースアラートをカテゴリ別にソートします。
または
[日付] をクリックして、ニュースアラートを日付順にソートします。

3.2 ZENworks ニュースの設定

[ZENworks ニュースの設定] ページでは、専用のニュースサーバと ZENworks ニュースをダウンロードするスケジュールを設定できます。デフォルトでは、ニュースは、管理ゾーンのプライマリサーバによって真夜中にダウンロードされます。

図 3-2 ニュースのダウンロードスケジュール

ニュースのダウンロードを設定するには、次のセクションを参照してください。

- ◆ 65 ページのセクション 3.2.1 「ニュース専用サーバ」
- ◆ 66 ページのセクション 3.2.2 「スケジュールタイプ」

3.2.1 ニュース専用サーバ

デフォルトでは、管理ゾーン内の利用可能なサーバを使用してニュース更新をダウンロードすることができます。ただし、ニュースのダウンロードを専用で処理するために、1つの ZENworks サーバを指定できます。選択したサーバは、直接、またはプロキシサーバ経由でインターネットにアクセスできる必要があります。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 65 ページの 「ニュース専用サーバの指定」
- ◆ 66 ページの 「ニュース専用サーバのクリア」

ニュース専用サーバの指定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[ZENworks ニュース設定] をクリックし、[ニュースのダウンロードスケジュール] パネルを表示します。
- 3 [ニュース専用サーバ] フィールドで、サーバを参照して選択し、[OK] をクリックします。

サーバの ID は、[ニュース専用サーバ] フィールドに表示されます。

- 4 (オプション)最後に保存した専用サーバ設定に戻す必要がある場合は、[リセット] をクリックします。
これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存設定に専用サーバがリセットされます。
- 5 [適用] をクリックして、変更を有効にします。
- 6 [OK] をクリックしてページを閉じるか、引き続き **スケジュールタイプ** の設定に進みます。
まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

ニュース専用サーバのクリア

ニュース専用サーバをクリアすると、ニュース更新は管理ゾーンのサーバからランダムに再試行されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[ZENworks ニュース設定] をクリックし、[ニュースのダウンロードスケジュール] パネルを表示します。
- 3 クリア **X**。
- 4 (条件付き)最後に保存した専用サーバの設定に戻す場合は、[リセット] をクリックします。
これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした時などの最後に保存した設定の状態に専用サーバがリセットされます。
- 5 [適用] をクリックして変更を有効化します。

3.2.2 スケジュールタイプ

ニュースのダウンロードスケジュールを設定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてオプションを展開し、次に、[ZENworks ニュースの設定] を選択します。
- 3 (条件付き)ニュース更新をスケジュールに従って確認しないようにするには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[スケジュールなし] を選択します。次に、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ 6** に進んでください。
このオプションを選択した場合、ニュース更新を手動でダウンロードする必要があります。詳細については、**64 ページ**の「**ニュースアラートの更新**」を参照してください。
- 4 (条件付き)ニュース更新を繰り返し確認するスケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[繰り返し] を選択します。
- 5 次のフィールドに入力します。
 - 5a ニュース更新を確認する曜日のチェックボックスを1つ以上オンにします。

5b [開始時刻] ボックスで、確認する時刻を指定します。

5c (オプション) [詳細オプション] をクリックし、必要に応じて、次に示すオプションを選択します。

- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する**：スケジュールに従って確認が行われない場合、可能な限り速やかに最新ニュースを確認します。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後にニュース更新の確認が発生します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用**：指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始**：ここで指定した時間と **ステップ 5b** で指定した時間との間で、ランダムにニュース更新が確認されます。[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定**：他のオプションに加えて、最新ニュースの確認を行う日付範囲を指定できます。

5d (条件付き) 最後に保存したスケジュールに戻す場合は、ページの最下部にある [リセット] をクリックします。

これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存状態にすべてのデータがリセットされます。

5e 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

6 このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更は失われます。

システム変数

システム変数を使用すると、ZENworks® コントロールセンターに情報を入力する際に、パスや名前などを置き換えるのに使用する変数を定義できます。

システム変数は次の3つのレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**：システム変数は、すべてのデバイスフォルダ、デバイス、およびバンドルによって継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：システム変数はフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。
- ◆ **デバイスまたはバンドル**：システム変数は、それが設定されたデバイスまたはバンドルのみに適用されます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [69 ページのセクション 4.1 「システム変数について」](#)
- ◆ [70 ページのセクション 4.2 「システム変数の追加」](#)
- ◆ [71 ページのセクション 4.3 「システム変数の削除」](#)
- ◆ [71 ページのセクション 4.4 「システム変数の編集」](#)
- ◆ [71 ページのセクション 4.5 「システム変数の使用」](#)

4.1 システム変数について

次の例では、システム変数の使用について説明します。

- ◆ **アクション内でのパスおよびファイル名の指定**：たとえば、Edit INI File アクションを作成する際に、.ini ファイルを指定し、そのファイルの変更が実施されるように設定します。作成プロセスでは、ファイルへのフルパス（たとえば、C:\Program Files\OpenOffice.org 2.0\program\setup.ini）を指定できます。

パスとファイル名全体を指定する代わりに、システム変数を作成できます。たとえば、変数の名前が **OpenOffice INI** で、値がファイルへのフルパスである場合などです。そうすると、アクションを作成するときにフルパスとファイル名を指定する代わりに、[ファイル名] フィールドに「`${OpenOffice INI}`」と入力できます。

フルパスとファイル名を入力するのではなく、システム変数を使用することにより、多くの異なるタイプのアクションでこの特定の .ini ファイルを指定できるという利点があります。たとえば、.ini ファイルの場所が変更されたとします。各アクションでパスを編集する代わりに、システム変数でパスを編集できます。すると、すべてのアクションが正しいパスを指すようになります。

C:\program files の値を持つ **ProgramFiles** という名前のシステム変数を作成することにより、パスをより一般化できます。今後、パスを指定するときに、「`${ProgramFiles}`」と入力し、残りのパスを特定のファイルに指定することができます。たとえば、`${ProgramFiles}\OpenOffice 2.0\program\setup.ini` などです。繰り返しになりますが、将来 C:\program files ディレクトリへのパスが変更された場合、パスにこのロケーションを使用しているバンドルごとに変更せずに、システム変数内のパスを変更するだけで済みます。

- ◆ **継承された設定を上書き** フォルダ、デバイス、またはバンドルに対してシステム変数を設定する場合、新規の変数を同じ名前でも、値を違うものを指定して定義することで、継承された変数を上書きできます。たとえば、管理ゾーンで ProgramFiles=C:\ と定義されている場合、デバイスフォルダレベルまたはデバイスやバンドルで ProgramFiles=D:\ と定義することで、管理ゾーンの定義を上書きできます。

バンドルの作成時には、システム変数を使用できます。フォルダの階層のターゲットデバイスオブジェクトの場所によって、値は異なります。

たとえば、経理部が使用する特定のアプリケーションが D:\program files にインストールされている以外、その他すべてのアプリケーションが C:\program files にインストールされているとします。C:\program files を指すように、管理ゾーンレベルで ProgramFiles 変数を定義します。アカウント管理アプリケーション用に、経理課のデバイスが含まれている Accounting Department というデバイスフォルダを作成します。ProgramFiles 変数の値を、経理課のデバイスフォルダレベルの D:\program files に設定できます。デバイスに同じバンドルが適用されると、経理課のデバイスフォルダに含まれているデバイスを除く、すべてのターゲットデバイスで、プログラムファイルディレクトリへのパスは、C:\ ドライブ上になります。これらのデバイスでは、プログラムファイルディレクトリは D:\ ドライブを指します。

4.2 システム変数の追加

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [管理ゾーンの設定] リストで、[デバイス管理] をクリックします。
- 3 [システム変数] をクリックします。



- 4 [追加] をクリックし、変数の名前と値を入力し、[OK] をクリックします。

フォルダ、デバイス、またはバンドルに対してシステム変数を設定する場合、新規の変数を同じ名前で、値を違うものを指定して定義することで、継承された変数を上書きできます。たとえば、Var1=c:\ が継承される場合、Var1=d:\ を定義して上書きできます。

変数名には空白を含むことができず、定義されるレベルにおいて一意的である必要があります。たとえば、デバイスレベルで定義された Var1 という名前の変数を 2 つ使用することはできません (一方が継承される場合は、デバイスレベルの変数により継承された変数が上書きされるので使用可能)。

変数値に & や < の文字を含めることはできません。

- 5 [適用] をクリックします。

4.3 システム変数の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] リストで、[デバイス管理] をクリックします。
- 3 [システム変数] をクリックします。
- 4 変数 (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。
- 5 [削除] をクリックします。
- 6 [適用] をクリックします。

4.4 システム変数の編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] リストで、[デバイス管理] をクリックします。
- 3 システム変数
- 4 変数の横にあるチェックボックスをオンにして、[編集] をクリックします。
- 5 [名前] および [値] フィールドを必要に応じて変更し、[OK] をクリックします。
- 6 [適用] をクリックします。

4.5 システム変数の使用

- 1 使用する構文は次のとおりです。

```
${VAR_NAME}
```

VAR_NAME を変数名で置き換えます。

資格情報ポータル

5

[アカウント情報ポータル] により、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management のアクションや、特定のリソースにアクセスするための認証を必要とするタスクに使用されるアカウント情報が保存されます。

たとえば、認証が必要な共有ネットワークのイメージングリポジトリに保存されているイメージファイルを使用してサードパーティイメージングバンドルを作成する場合は、リポジトリ用のログイン名とパスワードを含むアカウント情報をアカウント情報ポータルに追加できます。サードパーティイメージングバンドルの作成時に、アカウント情報名を指定してリポジトリにアクセスできます。

現在、サードパーティのイメージングではアカウント情報ポータルに保存されているアカウント情報を使用します。

ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドラインユーティリティを使用して、アカウント情報を管理できます。このセクションでは、ZENworks コントロールセンターを使用してアカウント情報を管理する方法について説明します。zman コマンドラインユーティリティを使いたい場合は、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「資格情報コマンド」を参照してください。

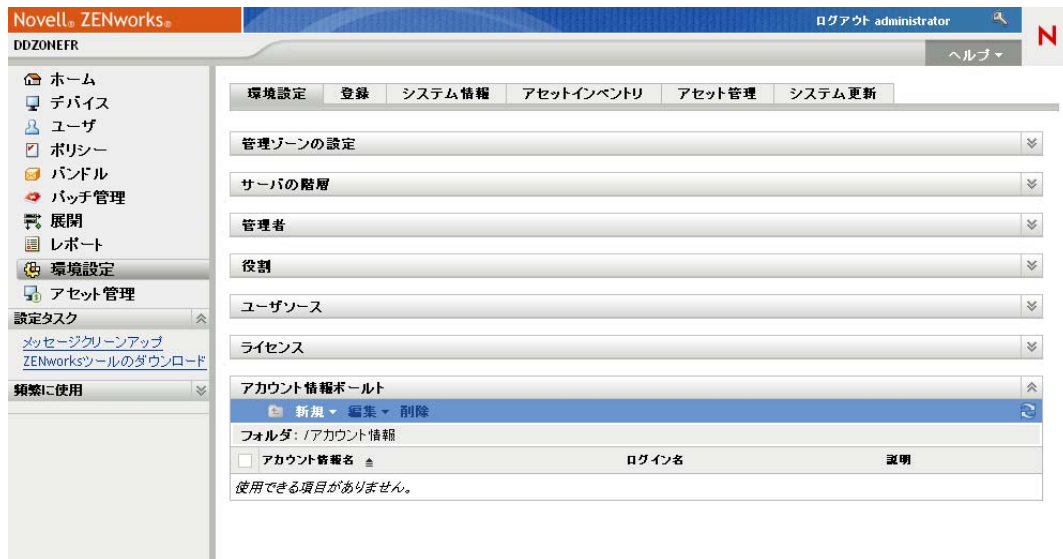
現在、サードパーティのイメージングではアカウント情報ポータルに保存されているアカウント情報を使用します。

次のセクションでは、資格情報の管理方法について説明します。

- ◆ [74 ページのセクション 5.1 「資格情報の追加」](#)
- ◆ [76 ページのセクション 5.2 「資格情報用のフォルダの作成」](#)
- ◆ [78 ページのセクション 5.3 「資格情報権限」](#)
- ◆ [78 ページのセクション 5.4 「資格情報の編集」](#)
- ◆ [78 ページのセクション 5.5 「資格情報の名前変更」](#)
- ◆ [79 ページのセクション 5.6 「別のフォルダへのアカウント情報の移動」](#)
- ◆ [79 ページのセクション 5.7 「アカウント情報の削除」](#)

5.1 資格情報の追加

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [資格情報ポータル] パネルで、[新規] > [資格情報] の順にクリックし、[資格情報の追加] ダイアログボックスを表示します。

アカウント情報の追加 ? X

アカウント情報名 *

ログイン名: *

パスワード:

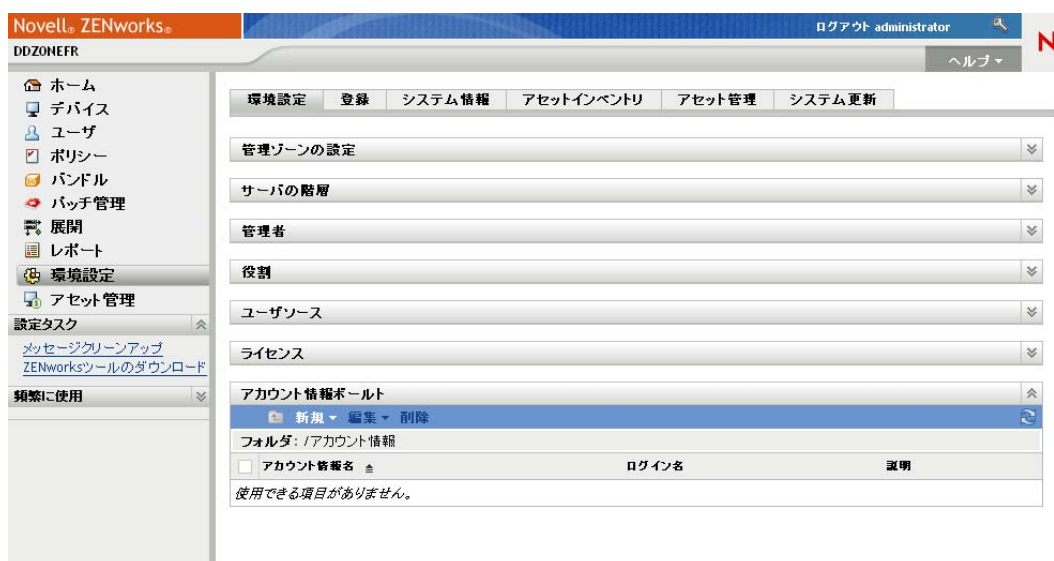
パスワードの再入力:

説明:

- 3 次のフィールドに情報を入力します。
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。

5.2 資格情報用のフォルダの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。




- 2 [資格情報ポータル] パネルで、[新規] > [フォルダ] の順にクリックし、[新規フォルダ] ダイアログボックスを表示します。

新規フォルダ ? ×

名前: *


フォルダ: *

説明:

* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 3 [名前] フィールドに、フォルダの一意の名前を指定します。
フォルダは、それを作成しているフォルダの中に既に存在する既存のフォルダや資格情報と同じ名前にすることはできません。
- 4 [フォルダ] フィールドで、をクリックして、新しいフォルダの作成先となるフォルダを参照して選択します。
- 5 必要に応じて、新規フォルダの説明を入力します。
- 6 [OK] をクリックしてフォルダを作成します。

5.3 資格情報権限

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [管理者] セクションで、権限を変更する管理者の下線付きのリンクをクリックします。
- 3 [割り当てられた権利] セクションで、[追加] > [アカウント情報権限] の順にクリックします。
- 4 [追加] をクリックしてアカウント情報を含むフォルダを選択し、次に、それらのフォルダに関連付けられている権限を変更します。
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。


5.4 資格情報の編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポルト] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] をクリックします。
- 4 フィールドを編集します。
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

5.5 資格情報の名前変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポルト] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [名前変更] の順にクリックします。
- 4 資格情報の新しい名前を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

5.6 別のフォルダへのアカウント情報の移動

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [移動] の順にクリックします。
- 4 [フォルダ] フィールドで、 をクリックして、資格情報の移動先となるフォルダを参照して選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

5.7 アカウント情報の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

ZENworks サーバおよびサテライト デバイス



このセクションでは、ZENworks[®] サーバとサテライトデバイスの設定方法について説明します。

- ◆ [83 ページの第 6 章「ZENworks サーバ」](#)
- ◆ [91 ページの第 7 章「サテライト」](#)
- ◆ [109 ページの第 8 章「サーバの階層」](#)
- ◆ [113 ページの第 9 章「最近接サーバルール」](#)
- ◆ [135 ページの第 10 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」](#)
- ◆ [139 ページの第 11 章「障害復旧」](#)

ZENworks サーバ

ZENworks® サーバは、ZENworks システムのバックボーンです。ZENworks サーバは、管理対象デバイス上の ZENworks Adaptive Agent との通信によって、管理タスクを実行します。デバイスに提供されるコンテンツおよびイメージングデバイスで使用されるイメージが保存されます。ZENworks サーバは、他の ZENworks サーバおよび ZENworks サテライトとの通信により、管理ゾーン全体に渡って、コンテンツ、ソフトウェア/ハードウェアインベントリ、およびメッセージの複製や受信を行います。

次のセクションでは、ZENworks サーバの追加情報について説明します。

- ◆ 83 ページのセクション 6.1 「Windows サーバの ZENworks サービス」
- ◆ 85 ページのセクション 6.2 「Linux サーバ上の ZENworks サービス」
- ◆ 87 ページのセクション 6.3 「ZENworks サーバへの追加アクセスの設定」
- ◆ 88 ページのセクション 6.4 「サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認」
- ◆ 88 ページのセクション 6.5 「ZENworks サーバのアンインストール」
- ◆ 89 ページのセクション 6.6 「ZENworks プライマリサーバの削除」
- ◆ 89 ページのセクション 6.7 「ZENworks サーバレポート」

6.1 Windows サーバの ZENworks サービス

Windows* サーバで実行される ZENworks サーバには、次の表に示すサービスが含まれています。ZENworks 10 製品 (Configuration Management、Asset Management、および Patch Management) のライセンスングやアクティベーションの状況に関わらず、サービスはすべて、常にインストールされます。使用する製品に必要なないサービスは、無効化されません。

表 6-1 Windows の ZENworks サービス

サービス	サービス名	説明
Proxy DHCP Service	novell-proxydhcp	標準的な DHCP サーバとともに使用し、Novell® TFTP サーバの IP アドレスを PXE 対応デバイスに通知します。
TFTP Service	novell-tftp	PXE 対応デバイスがイメージングタスクを実行するのに必要なファイルを要求するのに使用します。
ZENworks Agent Service	zenworkswindowsservice novell-zmd	サーバを管理対象デバイスとして有効化するのに使用されます。
ZENworks Datastore	dbsrv10	ZENworks のオブジェクトおよびリソースを保存するのに使用される組み込みデータベース。

サービス	サービス名	説明
ZENworks Loader	zenloader	ZENworks サーバタスクを実行する Java* サービスをロードおよび制御するのに使用されます。
ZENworks Preboot Policy Service	novell-zmgprebootpolicy	PXE 対応デバイスが、割り当てられている Preboot ポリシーおよび作業がないかをチェックするのに使用します。
ZENworks Preboot Service	novell-pbserv	デバイスにイメージングサービスを提供するのに使用されます。これには、イメージファイルの送受信、割り当てられたプレブートバンドルの検出、マルチキャストイメージングのセッションマスタとしての動作などがあります。
ZENworks Remote Management	nzrwinvnc	サーバのリモート管理を有効化するのに使用されます。
ZENworks サーバ	zenserver	ZENworks エージェントと通信するのに使用されます。
ZENworks Services Monitor	zenwatch	ZENworks サービスのステータスを監視するのに使用されます。
ZENworks Imaging Agent	ziswin	イメージセーフデータをサーバ上で (管理対象デバイスとして) 保存および復元するのに使用されます。ZENworks エージェントによって起動された場合にのみ実行されます。

これらのサービスは、ZENworks サーバの `\novell\zenworks\bin` ディレクトリにあります。ZENworks サービスを制御するために役立つ方法については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [84 ページのセクション 6.1.1 「ZENworks サービスのステータスのチェック」](#)
- ◆ [84 ページのセクション 6.1.2 「ZENworks サービスの開始」](#)
- ◆ [85 ページのセクション 6.1.3 「ZENworks サービスの停止」](#)

6.1.1 ZENworks サービスのステータスのチェック

- 1 サーバで、[スタート] をクリックし、[管理ツール] > [サービス] の順に選択し、[83 ページの図表 6-1](#) に一覧にされているサービスのステータスを確認します。

6.1.2 ZENworks サービスの開始

- 1 サーバ上で、[開始] をクリックし、[管理ツール] > [サービス] の順に選択します。
- 2 開始するサービスを選択し ([83 ページの図表 6-1](#) を参照)、[サービスの開始] をクリックします。

ZENworks サービスは ZENworks サーバの起動時に開始するので、通常は再起動する必要はありません。サービスを頻繁に再起動する必要がある場合は、サーバのハードウェアが ZENworks の最小要件を満たしていることを確認してください。サーバの

RAM が不足すると、ZENworks サービスの実行を続行できない場合があります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「[プライマリサーバ要件](#)」を参照してください。

6.1.3 ZENworks サービスの停止

- 1 サーバ上で、[開始] をクリックし、次に、[管理ツール] > [サービス] の順にクリックします。
- 2 中止するサービスを選択し (83 ページの [図表 6-1](#) を参照)、[サービスの中止] をクリックします。

6.2 Linux サーバ上の ZENworks サービス

Linux サーバで実行される ZENworks サーバには、次の表に示すサービスが含まれています。ZENworks 10 製品 (Configuration Management、Asset Management、および Patch Management) のライセンスリングやアクティベーションの状況に関わらず、サービスはすべて、常にインストールされます。使用する製品に必要なのないサービスは、無効化されません。

表 6-2 Linux の ZENworks サービス

サービス	サービス名	説明
Proxy DHCP Service	novell-proxydhcp	標準的な DHCP サーバとともに使用し、Novell TFTP サーバの IP アドレスを PXE 対応デバイスに通知します。
TFTP Service	novell-tftp	PXE 対応デバイスがイメージングタスクを実行するのに必要なファイルを要求するのに使用します。
ZENworks Agent Service	novell-zmd	サーバを管理対象デバイスとして有効化するのに使用されます。
ZENworks Datastore	sybase-asa	組み込みの SQL Anywhere* データベースを実行するために使用されます。
ZENworks Loader	novell-zenloader	ZENworks サーバタスクを実行する Java サービスをロードおよび制御するのに使用されます。
ZENworks Preboot Policy Service	novell-zmgprebootpolicy	PXE 対応デバイスが、割り当てられている Preboot ポリシーおよび作業がないかをチェックするのに使用します。
ZENworks Preboot Service	novell-pbserv	デバイスにイメージングサービスを提供するのに使用されます。これには、イメージファイルの送受信、割り当てられたプレブートバンドルの検出、マルチキャストイメージングのセッションマスタとしての動作などがあります。
ZENworks サーバ	novell-zenserver	ZENworks Adaptive Agent と通信するために使用されます。

サービス	サービス名	説明
ZENworks Services Monitor	novell-zenmtr	ZENworks サービスのステータスを監視するのに使用されます。
ZENworks Imaging Agent	novell-zenagent	イメージセーフデータをサーバ上で (管理対象デバイスとして) 保存および復元するのに使用されます。ZENworks Adaptive Agent によって起動された場合にのみ実行されます。

これらのサービスは `/etc/init.d` ディレクトリにあります。ZENworks サービスを制御するために役立つ方法については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [86 ページのセクション 6.2.1 「ZENworks サービスのステータスのチェック」](#)
- ◆ [86 ページのセクション 6.2.2 「ZENworks サービスの開始」](#)
- ◆ [86 ページのセクション 6.2.3 「ZENworks サービスの停止」](#)
- ◆ [87 ページのセクション 6.2.4 「ZENworks サービスの再起動」](#)

6.2.1 ZENworks サービスのステータスのチェック

- 1 サーバコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/servicename status
```

`servicename` は、[85 ページの 図表 6-2](#) に一覧にされているサービス名に置き換えます。

6.2.2 ZENworks サービスの開始

- ◆ サーバコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/servicename start
```

`servicename` は、[85 ページの 図表 6-2](#) に一覧にされているサービス名に置き換えます。

- ◆ すべてのサービスを開始するには、次のコマンドを使用します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

ZENworks サービスは ZENworks サーバの起動時に開始するので、通常は再起動する必要はありません。サービスを頻繁に再起動する必要がある場合は、サーバのハードウェアが ZENworks の最小要件を満たしていることを確認してください。サーバの RAM が不足すると、ZENworks サービスの実行を続行できない場合があります。詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド](#)』の「[プライマリサーバ要件](#)」を参照してください。

6.2.3 ZENworks サービスの停止

サービスを停止するには、次のコマンドを使用します。

```
/etc/init.d/servicename stop
```

`servicename` は、85 ページの 図表 6-2 に一覧にされているサービス名に置き換えます。

6.2.4 ZENworks サービスの再起動

すでに実行中のサービスを再起動するには、次のコマンドを使用します。

```
/etc/init.d/servicename restart
```

`servicename` は、85 ページの 図表 6-2 に一覧にされているサービス名に置き換えます。

6.3 ZENworks サーバへの追加アクセスの設定

ファイアウォールの外側にあるデバイス、またはプロキシサーバを使用しているデバイスなど、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に対して認証できない管理対象デバイスがある場合、サーバにアクセスするためのデバイスが使用できる ZENworks サーバ用に、追加の IP アドレスまたは DNS 名を指定できます。

- 87 ページのセクション 6.3.1 「IP アドレスが検出不能な状況への対処」
- 87 ページのセクション 6.3.2 「DNS 名が検出不能な状況への対処」

6.3.1 IP アドレスが検出不能な状況への対処

[検出不能 IP アドレス] パネルで、デバイスがサーバの IP アドレスを検出できない場合に ZENworks サーバにアクセスするのに使用できるアドレスを指定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [デバイス] をクリックし、[デバイス] パネルで [サーバ] を選択し、サーバオブジェクトを選択し、[設定] タブをクリックします。次に、[インフラ管理] をクリックし、[検出不可能 IP アドレス] を選択します。
- 2 次のフィールドに情報を入力します。
IP アドレス: 標準のドット付き 10 進数表記法です。たとえば、「123.45.167.100」と入力します。
- 3 [追加] をクリックしてアドレスをリストに追加します。
- 4 IP アドレスを追加するには、ステップ 1 からステップ 3 を繰り返します。
- 5 必要に応じて、[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えます。
IP アドレスは、リストの順番に従って上から下に使用されます。
- 6 アドレスの追加が終了したら、[適用] または [OK] をクリックしてアドレスを保存します。

6.3.2 DNS 名が検出不能な状況への対処

[追加の DNS 名] パネルでは、デバイスがサーバの DNS 名を検出できない場合に ZENworks サーバにアクセスするのに使用できる追加の名前を指定できます。

このパネルで追加した DNS 名は、すべての管理対象デバイスに配信され、サーバに接続するのに使用されます。

DNS 名を追加するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [デバイス] をクリックし、[デバイス] パネルで [サーバ] を選択し、サーバオブジェクトを選択し、[設定] タブをクリックします。次に、[インフラ管理] をクリックし、[追加の DNS 名] を選択します。
- 2 [サーバ DNS 名のリスト] フィールドで、デバイスがアクセスできるサーバ (プロキシサーバなど) の IP アドレスの DNS 名を指定します。
- 3 [追加] をクリックして DNS 名をリストに追加します。
- 4 必要に応じて、[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えます。
DNS 名は、リスト順に上から下へ使用されます。
- 5 アドレスの追加が終了したら、[適用] または [OK] をクリックしてアドレスを保存します。

6.4 サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認

アップグレードとトラブルシューティングのために、ZENworks コントロールセンターを使用して管理ゾーンの ZENworks プライマリサーバ上で稼働している ZENworks Configuration Management (ZCM)、ZENworks Asset Management (ZAM)、および ZENworks Patch Management (ZPM) のバージョンを確認します。

管理ゾーン内の特定のプライマリサーバの ZENworks バージョン情報を表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] をクリックし、該当するプライマリサーバをクリックします。
- 3 *ZENworks Configuration Management* バージョン、*ZENworks Asset Management* バージョン、および *ZENworks Patch Management* バージョン行のバージョン番号を確認します。
- 4 (オプション) *ZENworks Configuration Management* バージョンの横の下線付きのバージョン番号をクリックして、インストール済みパッケージのリストを確認します。

管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバの ZENworks バージョン情報を表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、各サーバの [ZCM バージョン]、[ZAM バージョン]、および [ZPM バージョン] の各カラムにあるバージョン情報を確認します。

6.5 ZENworks サーバのアンインストール

ZENworks サーバのアンインストールの手順については、『[ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド](#)』の「ZENworks ソフトウェアのアンインストール」を参照してください。

6.6 ZENworks プライマリサーバの削除

アンインストールプログラムの実行で ZENworks プライマリサーバをアンインストールできない場合は、[サーバの階層] パネルから ZENworks プライマリサーバを削除できます。

警告 : ZENworks プライマリサーバを ZENworks システムから削除する場合は、最大限の注意が必要です。

ZENworks プライマリサーバを削除すると元に戻せません。プライマリサーバを廃止する場合は、サーバからアンインストールプログラムを実行する方法が推奨されます。プライマリサーバの削除は、アンインストールプログラムを実行できない場合(たとえば、プライマリサーバのハードドライブに障害が発生した場合など)に限定されます。アンインストールプログラムの実行の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「ZENworks ソフトウェアのアンインストール」を参照してください。

内部 ZENworks Sybase データベースをホストするプライマリサーバを削除すると、ZENworks 管理ゾーン全体が操作不能になります。

パッチ管理サブスクリプションサービスの実行が設定されているプライマリサーバを削除する場合は、パッチ管理設定をリセットしてからサーバを削除する必要があります。パッチ管理設定のリセット方法については、『ZENworks 10 Patch Management リファレンス』の「サブスクリプションサービス情報の表示」を参照してください。

ZENworks サーバを削除すると、その ZENworks サーバは管理ゾーンから完全に削除されます。回復はできません。

管理対象のサーバ/ワークステーションデバイスは、[デバイス] タブのオプションを使用して削除できます(『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイア リファレンス』の「ZENworks システムからのデバイスの削除」参照)。

ZENworks プライマリサーバを管理ゾーンから削除するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] セクションで、[プライマリサーバ] の横のチェックボックスをオンにします(複数デバイスの選択が可能)。
- 3 [アクション] > [ZENworks サーバの削除] の順にクリックします。

6.7 ZENworks サーバレポート

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks Reporting Server をインストールしておく必要があります。ZENworks Reporting Server のインストール方法については、『ZENworks 10 Configuration Management Reporting Server インストールガイド』を参照してください。

ZENworks サーバの事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks Reporting Server パネルで、[ZENworks Reporting Server InfoView] をクリックして ZENworks Reporting Server InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] フォルダ > [Predefined Reports] > [ZENworks System] フォルダの順にナビゲートします。

ZENworks サーバに関して、次の事前定義レポートがあります。

ZENworks サーバ統計情報：データベース、ディスク容量、CPU 使用率、接続のさまざまな詳細 (1 日あたりの総接続数および 1 日あたりの平均接続数を含む) などのサーバ統計情報を表示します。

レポートの作成と管理の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システムレポートイングリファレンス](#)』マニュアルを参照してください。

サテライト

サテライトは管理対象デバイスで、認証、情報収集、コンテンツ配布、イメージングなど、ZENworks® プライマリサーバが通常実行する役割の一部を実行できます。サテライトは任意の管理対象 Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) として使用できますが、プライマリサーバとしては使用できません。サテライトは、ZENworks Agent for Linux がインストールされている管理されていない Linux デバイス (サーバまたはワークステーション) として使用することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「サテライト要件」および『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

サテライトを設定する際には、サテライトが実行する役割を指定します (認証、コレクション、コンテンツ、またはイメージング)。サテライトは、ZENworks 10 Configuration Management フレームワークのスナップインとなるサードパーティ製品によって追加される役割を実行することもできます。

注: イメージングのサテライトの役割は、Windows 2000 ではサポートされていません。

たとえば、低速 WAN リンクのロケーションでサテライトを作成し、プライマリサーバから新しく作成されたサテライトに 1 つまたは複数の役割をオフロードする最近接サーバルールを作成して、ZENworks システムのパフォーマンスを向上させることができます。

注: ZENworks Adaptive Agent を使用しているエンドユーザの観点から見たサテライトの詳細については、『Novell ZENworks Adaptive Agent ヘルプ』の「サテライトの役割」を参照してください。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 92 ページのセクション 7.1 「サテライトの役割について」
- ◆ 94 ページのセクション 7.2 「サテライトデバイスの追加と設定」
- ◆ 101 ページのセクション 7.3 「サテライトからの役割の削除」
- ◆ 102 ページのセクション 7.4 「サーバ階層からのサテライトの削除」
- ◆ 103 ページのセクション 7.5 「ホストするコンテンツの指定」
- ◆ 104 ページのセクション 7.6 「コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する」
- ◆ 104 ページのセクション 7.7 「1 つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動」
- ◆ 104 ページのセクション 7.8 「コンテンツ役割のサテライトへの別なりポジトリの指定 (Windows のみ)」
- ◆ 105 ページのセクション 7.9 「サテライトデバイスの削除」
- ◆ 106 ページのセクション 7.10 「サテライトの更新」
- ◆ 106 ページのセクション 7.11 「サテライトのトラブルシューティング」

7.1 サテライトの役割について

サテライトはデバイスで、認証、情報収集、コンテンツ配布、イメージングなど、ZENworks プライマリサーバが通常実行する役割の一部を実行できます。各役割の詳細については、次を参照してください。

- ◆ [92 ページのセクション 7.1.1 「認証の役割の理解」](#)
- ◆ [92 ページのセクション 7.1.2 「コレクションの役割の理解」](#)
- ◆ [93 ページのセクション 7.1.3 「コンテキストの役割の理解」](#)
- ◆ [93 ページのセクション 7.1.4 「イメージングの役割の理解」](#)

7.1.1 認証の役割の理解

ユーザが以前のバージョンの ZENworks にログインすると、ZENworks プライマリサーバに接続し、プライマリサーバはユーザを含むユーザソースに接続して、管理ゾーンに対して認証されます。

認証の役割を持つサテライトデバイスは、さまざまなデバイス間のワークロードを分散し、認証を管理対象デバイス上でローカルに実行することで、認証プロセスを高速化できるようになりました。複数のサテライトデバイスに認証の役割を付与できます。また、認証の役割を持つ各サテライトに複数のユーザソースを設定でき、各サテライトには各ユーザソースへの複数の接続を指定してフェールオーバーを実現できます。

管理対象デバイスが認証にサテライトを使用する場合、サテライトは管理対象デバイスに証明書を発行し、SSL を使用して管理対象デバイスを認証できるようにします。

管理対象デバイス上では、認証モジュールは、管理対象デバイスが認証の役割を持つサテライトに昇格されるか、認証の役割が既存のサテライトに追加されるまで無効です。

注： 認証の役割を実行するサテライトデバイスがドメインのメンバーの場合、このサテライトで認証するすべての管理対象デバイスは同じドメインのメンバーである必要があります。

7.1.2 コレクションの役割の理解

ZENworks データベースをホストしている ZENworks プライマリサーバへのトラフィックを最小化して、デバイスのグループの情報のロールアップアクセスを向上させるには、デバイスのコレクション役割を有効にします。たとえば、ネットワークセグメントの外側にあるプライマリサーバに情報をロールアップしているデバイスがある場合、そのセグメント内の他のデバイスからの情報を受諾して、ネットワークセグメント内のデバイスのコレクション役割を有効にすることにより、ネットワークトラフィックを最小化できます。そのコレクション役割デバイスは、情報をロールアップするそのセグメントからプライマリサーバへの、唯一のデバイスになります。

管理対象デバイスのコレクション役割を有効にできます。コレクション役割は、ZENworks Adaptive Agent とともにインストールされるコレクション役割モジュールのみを必要とします。このモジュールは、コレクションの役割を管理対象デバイスで有効にするまで非アクティブです。

デバイスでコレクションの役割を有効にする際に、その親サーバとして任意の ZENworks プライマリサーバを割り当てることができます。コレクション役割デバイスは、その親プライマリサーバにのみ情報をアップロードします。親プライマリサーバが他のプライマリサーバの子でない場合は、情報をデータベースに直接書き込みます。親プライマリサーバが別のプライマリサーバの子である場合、その親プライマリサーバに情報が渡され、データベースに情報が書き込まれます。

コレクションの役割を持つサテライトは、インベントリ情報、メッセージ(エラー、警告、情報など)、ポリシーおよびバンドルのステータスを収集し、これらの情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。役割にはロールアップスケジュールが含まれ、これは編集可能です。

管理対象デバイス上では、コレクションモジュールは、管理対象デバイスがコレクションの役割を持つサテライトに昇格されるか、コレクションの役割が既存のサテライトに追加されるまで無効です。

7.1.3 コンテキストの役割の理解

コンテンツは、バンドル、ポリシー、システム更新 (ZENworks サーバおよび Adaptive Agent)、およびパッチで構成されます。

別のプライマリサーバを作成せずにデバイスグループのコンテンツアクセスを向上させたい場合は、デバイスでコンテンツの役割を作成できます。たとえば、ネットワークセグメントの外側にあるプライマリサーバにアクセスするデバイスがある場合、これらのデバイスにサービスを提供するネットワークセグメント内のデバイスでコンテンツ役割を作成できます。

コンテンツ役割は、プライマリサーバと同じコンテンツ配信サービスを提供しますが、ZENworks Adaptive Agent とともにインストールされるコンテンツ役割のモジュールのみが必要です。このモジュールは、コンテンツの役割を管理対象デバイスで有効にするまで非アクティブです。

デバイスでコンテンツの役割を有効にする際は、プライマリサーバをその親コンテンツサーバとして割り当てます。コンテンツ役割のサテライトは、その親プライマリサーバからのみコンテンツをダウンロードします。したがって、コンテンツ役割サテライト上でホストされるコンテンツは、すべて、その親プライマリサーバでもホストされる必要があります。

管理対象デバイス上では、コンテンツモジュールは、管理対象デバイスがコンテンツの役割を持つサテライトに昇格されるか、コンテンツの役割が既存のサテライトに追加されるまで無効です。

7.1.4 イメージングの役割の理解

イメージングの役割は、イメージングサービスをインストールし、デバイスにイメージングの役割を追加します。この役割では、このデバイスをイメージングサーバとして使用して、イメージを取得し、ユニキャストまたはマルチキャストのイメージングの使用によりサブネット内またはサブネット間でイメージを適用するなど、すべてのイメージングオペレーションを実行できます。

イメージングの役割は、プライマリサーバの負荷分散を行ったり、クロスサブネットイメージングをサポートするために使用できます。サテライトは、イメージング操作のために ZENworks コントロールセンターを経由して自動モードでプライマリサーバと通信します。

管理対象デバイス上では、イメージングモジュールは、管理対象デバイスがイメージングの役割を持つサテライトに昇格されるか、イメージングの役割が既存のサテライトに追加されるまで無効です。これにより、デバイス上のイメージングサービスが有効になり、自動モードおよび保守モードでイメージング操作を実行できるようになります。デバイスにインストールされたイメージングサービスには、TFTP、Preboot ポリシー、pbserv、およびプロキシ DHCP が含まれます。プロキシ DHCP を除くすべてのサービスが、自動的に開始されます。ZENworks コントロールセンターから、プロキシ DHCP サービスを手動で開始または中止できます。

7.2 サテライトデバイスの追加と設定

新しいサテライトデバイスを作成するか、または既存のサテライトを認証、コンテンツ、イメージング、およびコレクションの役割で設定し、デフォルトポートを変更して役割のスケジュールを調整できます。既存のサテライトから役割を削除することもできます。

重要：管理対象デバイスをサテライトに昇格させる前に、管理対象デバイスにインストールされている ZENworks 10 Configuration Management のバージョンがプライマリサーバにインストールされているバージョンと同一であることを確認してください。

- 1 新しいサテライトを [サーバの階層] パネルに追加するには、ZENworks コントロールセンターで [環境設定] タブをクリックします。[サーバの階層] パネルで、目的のプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックして [サテライトサーバの追加] をクリックします。

または

既存のサテライトを [サーバの階層] パネルから設定するには、ZENworks コントロールセンターで [環境設定] タブをクリックします。[サーバの階層] パネルで、設定するサテライトの横のチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックして [サテライトサーバの設定] をクリックします。

一度に設定できるのは1つのサテライトのみです。

または

デバイスビューから既存のサテライトを設定するには、ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックし、[管理対象] タブで、[サーバ] または [ワークステーション] のいずれかをクリックします。[サーバ] または [ワークステーション] パネルで、設定するサテライトのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックして [サテライトサーバの設定] をクリックします。

一度に設定できるのは1つのサテライトのみです。

サテライトサーバの追加
?

親プライマリサーバ: *

推進するデバイス: *

サテライトサーバの役割

<input type="checkbox"/> イメージング	設定
<input type="checkbox"/> コレクション	設定
<input type="checkbox"/> コンテンツ	設定
<input type="checkbox"/> 認証	設定

コンテンツまたはコレクションHTTP要求(あるいはその両方)のポート: *

Secure HTTPS認証要求用のポート: *

新しいサテライトデバイスの追加か既存のデバイスの設定かに応じて、ダイアログボックスのタイトルは異なります([サテライトサーバの追加] または [サテライトサーバの設定])。各ページの設定とオプションは類似しています。

- 2 (条件付き) デバイスからサテライトの役割を削除するには、[サテライトサーバの役割] セクションで目的の役割のチェックボックスをオフにして、[OK] をクリックします。

zman satellite-server-delete (ssd) コマンドを使用して、サテライトから役割を削除することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「サテライトコマンド」を参照してください。

- 3 (条件付き) サテライトに役割を追加するには、目的の役割を [サテライトサーバの役割] セクションで選択します。

すべての役割に対して [設定] リンクが無効になっている場合、その役割はこのデバイスで無効になります。たとえば、サテライトの親プライマリサーバがコレクション役割を持っていない場合、サテライトのコレクション役割は無効化し、設定できません。管理対象デバイスが実行する設定不可能な役割もダイアログボックスに一覧表示されますが、編集はできません。

各役割の詳細については、次を参照してください。

- ◆ 96 ページのセクション 7.2.1 「認証の役割」
 - ◆ 97 ページのセクション 7.2.2 「コレクションの役割」
 - ◆ 97 ページのセクション 7.2.3 「コンテンツの役割」
 - ◆ 99 ページのセクション 7.2.4 「イメージングの役割」
- 4 (オプション) [コンテンツまたはコレクション HTTP 要求 (あるいはその両方) のポート] フィールドで、ポート番号を指定します。
- デフォルトポートは 80 です。コンテンツ およびコレクションサーバは同じ Web サーバおよび同じポートを共有します。指定されたポートが使用中でないことを確認してください。
- 5 (オプション) [認証セキュア HTTPS 要求のポート] フィールドで、ポート番号を指定します。
- デフォルトポートは 443 です。これは、サテライトデバイスが管理対象デバイスとの通信時にリスンするポートです。指定したポートが使用されていないことを確認します。
- 6 [OK] をクリックして、変更内容を保存してダイアログボックスを終了します。
- 7 他のサテライトを設定するには、これまでの手順を繰り返します。

7.2.1 認証の役割

この役割は、さまざまなデバイス間でワークロードを分散し、認証を管理対象デバイス上でローカルに実行することで、認証プロセスを高速化します。

注: サテライトデバイスに外部証明書を使用する場合は、認証役割を設定する前に、`zac import-authentication-cert (iac)` コマンドで証明書をインポートする必要があります。

- 1 (オプション) 認証の役割をサテライトに設定するには、[認証] の横のチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックして [Configure Authentication (認証の設定)] ダイアログボックスを表示します。
- 2 認証ポートを指定します。
- 3 [ユーザソース] ドロップダウンリストから、ユーザソースを選択します。
- 4 [追加] をクリックして、[Add User Source Connections (ユーザソース接続の追加)] ダイアログボックスを表示します。

次のフィールドに入力します。

接続名: (オプション) LDAP ディレクトリへの接続の名前のすべてまたは一部を指定します。[フィルタ] をクリックして、検索条件に一致する接続のリストを表示します。

ZENworks 管理ゾーンに多数の接続がある場合、[接続名] フィールドを使用して、条件に一致する接続だけを表示できます。たとえば、London を含むすべての接続を表示するには、[接続名] フィールドに「London」と入力して [フィルタ] をクリックします。

接続アドレス: (オプション) LDAP ディレクトリへの接続の IP アドレスまたは DNS ホスト名の一部を指定し、[フィルタ] をクリックしてその IP アドレスを含むすべての接続を表示します。

ZENworks 管理ゾーンに多数の接続がある場合、[接続アドレス] フィールドを使用して、条件に一致する接続だけを表示できます。たとえば、172 から始まる IP アドレスを含むすべての接続を検索し表示するには、[接続アドレス] フィールドに「172」と入力して [フィルタ] をクリックします。

ユーザソース接続: 追加する接続の横のチェックボックスをオンにします。

- 5 [OK] をクリックして、[Configure Authentication (認証の設定)] ダイアログボックスに戻ります。
- 6 (オプション) 接続のチェックボックスをオンにして [上へ移動] または [下へ移動] をクリックして、[User Source Connection (ユーザソース接続)] リストの接続の順序を変更します。
デバイスはリストの順序で接続を使用し、デバイスを ZENworks 管理ゾーンに対して認証します。
- 7 [OK] をクリックして、[サテライトサーバの追加] または [サテライトサーバの設定] ダイアログボックスに戻ります。
- 8 [96 ページのステップ 4](#) に進みます。

7.2.2 コレクションの役割

この役割では、デバイスはインベントリ情報、メッセージ (エラー、警告、情報など)、ポリシーおよびバンドルのステータスを収集し、これらの情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

- 1 [コレクション] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。
- 2 次のフィールドに情報を入力します。

収集ロールアップのスケジュール: 収集されたデータをコレクションサーバとして使用するデバイスからロールアップする頻度を、日、時間、および分で指定します。

コレクションロールアップのスケジュールにより、ZENworks データベースに含めるため、収集されたインベントリ情報が親であるプライマリサーバにどの程度の頻度でロールアップされるのかが決定されます。情報がデータベース内にある場合、ZENworks コントロールセンターに表示できます。

コレクションロールアップの役割を使用するデバイスを指定するには、最密サーバルール設定を [設定] ページの **管理ゾーン** 設定で行います。

- 3 [OK] をクリックします。
- 4 [96 ページのステップ 4](#) に進みます。

7.2.3 コンテンツの役割

この役割によって、管理対象デバイスは、コンテンツ (バンドル、ポリシー、システム更新、パッチ) を他のデバイスに配布できます。

コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。コンテンツ役割を持つサテライトでホストされるコンテンツは、すべて、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

このサテライトからのコンテンツが必要なデバイスを指定するには、[環境設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最近接サーバルール] 設定を設定します。

- 1 [コンテンツ] の横のチェックボックスをオンにして、[設定] をクリックして [追加] をクリックします。

次のフィールドに入力します。

コンテンツタイプ: コンテンツタイプ (ポリシー、非パッチバンドル、またはシステム更新サーバ) を選択します。

注: [コンテンツタイプ] として [イメージング] を選択してイメージングコンテンツを複製するように設定すると、この設定は、イメージングの役割をデバイスに設定するとき起動される [Configure Imaging Content Replication (イメージングコンテンツ複製の設定)] ダイアログボックスに自動的に反映されます。同様に、イメージングの役割をデバイスに設定するとき設定されたイメージングコンテンツ複製設定は、イメージングコンテンツタイプでコンテンツの役割をデバイスに設定するとき起動される [Configure Content Type Replication (コンテンツタイプ複製の設定)] に自動的に反映されます。

スロットル (KB/秒): スロットルレートを選択します。このレートは、コンテンツが複製される最大速度を指定します。実際のレートは、ダウンロード数などの他の要因によって低下する場合があります。

期間: 上矢印または下矢印をクリックして、分単位でコンテンツ更新期間を設定します。選択したスケジュールタイプとそのオプションに応じて、次の点に注意する必要があります。

- 3つのスケジュールオプション ([曜日]、[月]、および [固定間隔]) における [終了時刻] 設定は、コンテンツが更新を停止したときの終了時刻ではありません。終了時刻は、更新を開始できる期間の終了を示します。

[曜日] または [月] を選択し、ランダムな開始時刻と終了時刻を設定した場合、更新はこれらの時刻の間に開始し、指定の期間継続します。たとえば、[期間] をデフォルトの 60 分に設定し、指定した終了時刻の 10 分前に更新が開始した場合、コンテンツは 60 分間にわたって更新されます。同じことが [固定間隔] スケジュールにも当てはまります。[期間] をデフォルトの 60 分に設定し、指定の期間が終わるよりも終了時刻が先に訪れる場合でも、コンテンツは 60 分間にわたって更新されます。

- 指定の期間に更新するコンテンツがプライマリサーバに非常に多く存在する場合、次の通常どおりスケジュールされた時刻に更新は継続されます。サテライトデバイス上にすでに存在するコンテンツは、再度更新されません。以前の更新中に更新されなかったコンテンツと、プライマリサーバに追加されたすべての新しいコンテンツが更新されます。

スケジュールタイプ: サテライトのコンテンツを親プライマリサーバから更新する頻度のスケジュールを選択します。

- **スケジュールなし:** [スケジュールなし] を選択すると、コンテンツは親プライマリサーバから自動的に更新されることはありません。コンテンツを手動で複製するには、サテライトで `zac wake-cdp (cdp)` コマンドを実行します。

- **繰り返し**: [曜日]、[月]、または [固定間隔] を選択し、フィールドに入力します。詳細については、[389 ページのセクション B.4 「繰り返し」](#) を参照してください。

コンテンツのクリーンアップアクションは毎日深夜に行われることに注意してください。

特定のタイプのコンテンツに対してスケジュールを設定しない場合、<Default> スケジュールがそのタイプのすべてのコンテンツに適用されます。

- 2 [OK] を 2 回クリックして、[サテライトサーバの追加] または [サテライトサーバの設定] ダイアログボックスに戻ります。
- 3 [96 ページのステップ 4](#) に進みます。
- 4 (オプション) コンテンツサーバでホストするコンテンツを指定します。詳細については、[268 ページのセクション 29.4 「コンテンツのインクルードまたは除外」](#) を参照してください。

サテライトがホストするコンテンツを指定する場合、複製されるコンテンツを含めたり除外できます。

その親プライマリサーバが持っていないコンテンツを含めるには、最初に親プライマリサーバにコンテンツを追加する必要があります。

7.2.4 イメージングの役割

このオプションを選択すると、イメージング サービスがインストールされ、イメージングの役割がデバイスに追加されます。この役割のデバイスは、イメージの取得、イメージの適用、イメージのマルチキャストなどのすべてのイメージング処理を実行するイメージングサーバとして使用できます。ただし、ZENworks イメージは、プライマリサーバからイメージングサテライトに複製されません。

注: イメージング役割は、ZENworks Configuration Management ライセンスの状態に関連付けられています。ライセンス状態が非アクティブの場合は、イメージング役割が無効になります。たとえば、ZENworks Asset Management のライセンス付きコピーを持ち、ZENworks Configuration Management を評価している場合は、その ZENworks Configuration Management ライセンスの期限が切れると、イメージング役割は無効になります。詳細については、[311 ページのセクション 33.5 「変更可能なライセンス状態」](#) を参照してください。

- 1 [イメージング] の隣にあるチェックボックスをオンにして、[設定] をクリックします。
- 2 (条件付き) [PXE サービスの有効化] の横のチェックボックスをオンにして、イメージングサーバの役割が割り当てられているデバイスでプロキシ DHCP サービスを自動的に開始します。

プロキシ DHCP サービスがデバイス上で開始されているかどうかをチェックするには、デバイスのメッセージログを確認します ([デバイス] タブ > [ワークステーション] フォルダの順に選択し、ワークステーションをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルの順にクリックします)。
- 3 (条件付き) イメージングの役割がデバイスから削除されるときに ZENworks イメージファイルがデバイスから自動的に削除する場合は、[イメージングの役割が削除された場合はサーバからイメージファイルを削除します] の横のチェックボックスをオンにします。

ローカルファイルの重大度のレベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されていると、メッセージのログは [メッセージログ] パネルに記録されます。([設定] タブ > [デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ])。

このオプションは、イメージングサーバの役割をデバイスから削除する場合のみ使用可能です。

- 4 [Configure Imaging Content Replication (イメージングコンテンツ複製の設定)] の横の [オプション] をクリックして、[Configure Imaging Content Replication (イメージングコンテンツ複製の設定)] ダイアログボックスを起動します。

[Configure Imaging Content (イメージングコンテンツの設定)] ダイアログボックスには、イメージングコンテンツに適用されるデフォルト設定 (5 分ごとの固定間隔スケジュール、スロットリングなし、60 分のコンテンツ複製期間) が一覧表示されます。

- 5 イメージングコンテンツ複製の設定を設定します。

- 5a スロットルレート (KB/ 秒) を選択します。このレートは、コンテンツが複製される最大速度を指定します。実際のレートは、ダウンロード数などの他の要因によって低下する場合があります。

- 5b コンテンツ複製の期間を選択します。

期間を設定するときには、次の点に注意してください。

- [反復] スケジュールタイプの 3 つのスケジュールオプション ([曜日]、[月]、および [固定間隔]) における [終了時刻] 設定は、コンテンツが複製を停止したときの終了時刻ではありません。開始時刻と終了時刻の設定は、複製を開始できる期間の始まりと終わりを指定します。

[曜日] または [月] を選択し、ランダムな開始時刻と終了時刻を設定した場合、複製はこれらの時刻の間に開始し、指定の期間継続します。たとえば、[期間] をデフォルトの 60 分に設定し、指定した終了時刻の 10 分前に複製が開始した場合、コンテンツは 60 分間にわたって複製されます。同じことが [固定間隔] スケジュールにも当てはまります。[期間] をデフォルトの 60 分に設定し、指定の期間が終わるよりも終了時刻が先に訪れる場合でも、コンテンツは 60 分間にわたって複製されます。

- 指定の期間に複製するコンテンツがプライマリサーバに非常に多く存在する場合、次の通常どおりスケジュールされた時刻に複製が継続されます。サテライトデバイス上にすでに存在するコンテンツは、再度複製されません。以前の複製セッション中に複製されなかったコンテンツと、プライマリサーバに追加されたすべての新しいコンテンツが複製されます。

- 5c スケジュール ([スケジュールなし] または [繰り返し]) を選択します。

イメージングコンテンツ複製スケジュールでは、親のプライマリサーバからその子のサテライトにイメージングコンテンツを送信する頻度を決めます。コンテンツのクリーンアップアクションは毎日深夜に行われることに注意してください。


スケジュールを設定しない場合、[< デフォルト >] スケジュールがイメージングコンテンツに適用されます。

- 5d [OK] をクリックし、変更を保存します。

注: コンテンツの役割をデバイスに設定する際にも、イメージングコンテンツ複製の設定を設定できます。これらの設定は、イメージングの役割をデバイスに設定するとき起動される [Configure Imaging Content Replication (イメージングコンテンツ複製の設定)] ダイアログボックスに自動的に反映されます。同様に、イメージングの役割をデバイスに設定するとき設定されたイメージングコンテ

コンテンツ複製設定は、イメージングコンテンツタイプでコンテンツの役割をデバイスに設定するときに起動される [Configure Content Type Replication (コンテンツタイプ複製の設定)] ダイアログボックスに自動的に反映されます。

- 6 [OK] をクリックします。
- 7 (条件付き) イメージングの役割を設定すると、役割は直ちにデバイスに追加されます。役割がすぐに追加されない場合、次のデバイスの更新スケジュール中に追加されます。役割をただちにデバイスに適用したい場合には、次のいずれかの方法で、手動でデバイスを更新します。

- ◆ [環境設定] タブ > [サーバの階層] で、更新するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにし、次に [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
- ◆ Windows 管理対象デバイスで、 アイコンを右クリックし、次に [更新] をクリックします。
- ◆ 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。

プロキシ DHCP サービスがデバイスで起動されているかどうかを確認するには、デバイスのメッセージログを確認します ([デバイス] タブ > [Workstations] フォルダの順に選択し、ワークステーションをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択、または [デバイス] タブ > [サーバ] フォルダの順に選択し、サーバをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択)。

ローカルファイルの重大度のレベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されていると、メッセージのログは [メッセージログ] パネルに記録されます。 ([設定] タブ > [デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ])。

- 8 (条件付き) Linux サテライトにイメージング役割が設定されている場合は、デバイスのファイアウォールをオフにしてからイメージング処理を実行します。

7.3 サテライトからの役割の削除

サテライトから 1 つ以上の役割を削除できます。ただし、サテライト機能を継続して実行するため、サテライトに少なくとも 1 つの役割を設定しておく必要があります。すべての役割を削除してしまうと、サテライトは管理対象デバイスに降格されます。

サテライトの役割を削除しても、デフォルト以外の最近接サーバールのいずれからもデバイスは削除されません。サテライトではなくなった場合にのみ、デバイスはデフォルト以外の最近接サーバールから削除されます。

サテライトから 1 つ以上の役割を削除するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、役割を削除するサテライトの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [サテライトサーバの設定] の順にクリックします。
- 4 [サテライトサーバの設定] ダイアログボックスで、削除するサテライト役割の横のチェックボックスをオフにします。
- 5 [OK] をクリックします。

7.4 サーバ階層からのサテライトの削除

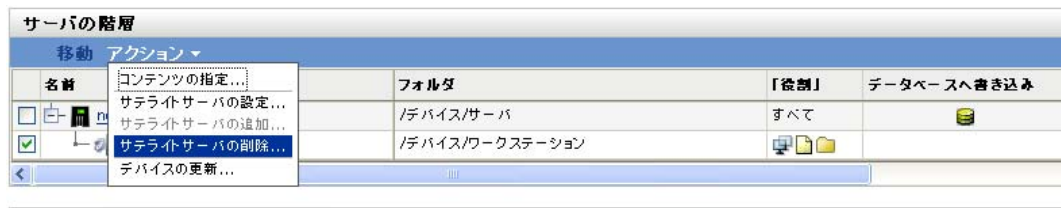
サテライトは、サテライト機能の実行に必要なでなくなったとき、[サーバの階層] リストから削除できます。デバイスのオブジェクトは ZENworks から削除されません。サーバの階層リストから削除されるだけです。ただし、階層リストからサテライトを削除すると、コンテンツ、イメージング、またはコレクションのロールアップ情報もデバイスから削除されます。

サテライトを削除する場合、コンテンツおよびコレクションの目的のため、これを使用していた管理対象デバイスは他のサーバを使用するよう再設定する必要があります。詳細については、113 ページの第 9 章「最近接サーバルール」を参照してください。

このオプションを使用してリストからプライマリサーバを削除することはできません。

サテライトを削除するには、次の手順に従います。

- 1 削除するサテライトで、コンテンツおよびコレクション情報のロールアップ用に使用しているすべてのデバイスのメモを取ります。
- 2 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 3 [サーバの階層] パネルで、ゾーンから削除するサテライトの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [アクション] > [サテライトサーバの削除] の順にクリックします。



- 5 削除を確認するために、[OK] をクリックします。
- 6 コンテンツおよびロールアップコレクションの情報の受信を続行できるようにするために、必要に応じて、サテライトを使用する管理対象デバイスを再設定します。
詳細については、113 ページの第 9 章「最近接サーバルール」を参照してください。
- 7 (条件付き) イメージングの役割は、デバイスから直ちに削除されます。役割がすぐに削除されない場合、次のデバイスの更新スケジュール中に削除されます。役割をただちにデバイスから削除したい場合には、次のいずれかの方法で、手動でデバイスを更新します。
 - [環境設定] タブ > [サーバの階層] で、更新するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにし、次に [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
 - Windows 管理対象デバイスで、 アイコンを右クリックし、次に [更新] をクリックします。
 - 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。

7.5 ホストするコンテンツの指定

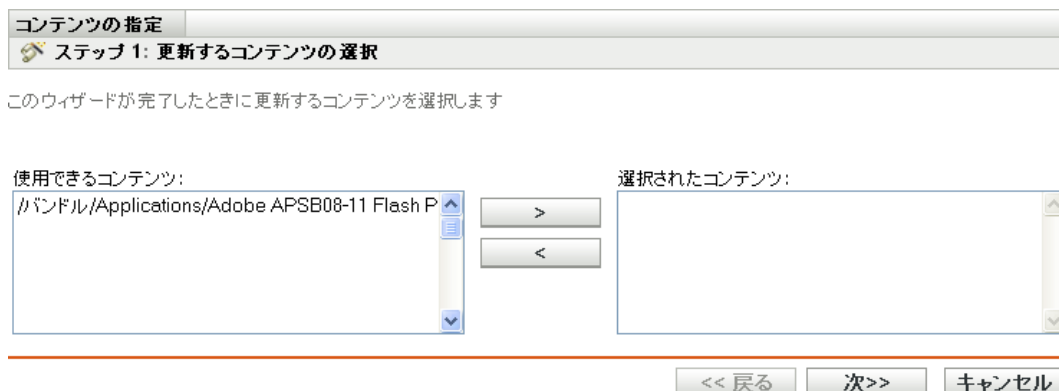
コンテンツ役割デバイスは、コンテンツを親プライマリサーバから取得するため、サテライトでホストされるコンテンツは親プライマリサーバでもホストされる必要があります。

コンテンツ役割が実行されている特定のプライマリサーバまたはサテライトで、どのコンテンツが含まれるのかまたは除外されるのかを指定できます。

更新するコンテンツの選択ウィザードを使用して、コンテンツとコンテンツサーバ (ZENworks プライマリサーバおよびサテライト) との関係を作成すると、これらの関係は既存の関係よりも優先します。たとえば、バンドル A とポリシー B をサーバ 1 でホストし、サーバ 2 ではホストしないとします。現在、コンテンツは両方のサーバでホストされています。バンドル A およびポリシー B を選択し、次に [更新するコンテンツの選択] ウィザードを使用して、コンテンツをサーバ 1 に含め、サーバ 2 からは除外します。次回スケジュールされている複製の際、バンドル A とポリシー B は、サーバ 2 から削除されます。

ホストするコンテンツを指定する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。[サーバの階層] セクションで、1 つまたは複数のコンテンツのホストにするサテライト (コンテンツ役割を実行するサテライト) の横のチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [コンテンツの指定] の順にクリックし、[更新するコンテンツの選択] ウィザードを起動します。



- 3 [使用可能なコンテンツ] リストで、必要なコンテンツを選択します。
Shift+ クリックおよび Ctrl+ クリックを使用して、複数のバンドルまたはポリシーを選択できます。
- 4 選択したコンテンツを [選択されたコンテンツ] リストに移動するには、> をクリックします。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [完了] をクリックして、コンテンツとコンテンツサーバ間のリレーションシップを作成します。

作成した関係に応じて、次のスケジュール複製時に、コンテンツサーバにコンテンツが複製されるか、コンテンツがサーバから削除されます。

7.6 コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する

コンテンツを ZENworks プライマリサーバのコンテンツリポジトリからエクスポートして、このコンテンツをサテライトデバイスのコンテンツリポジトリに手動でインポートできます。このプロセスは、オフラインコンテンツ複製と呼ばれることもあります。

コンテンツをコンテンツリポジトリからエクスポートする方法については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「サテライトコマンド」で `zman satellite-server-export-content (ssec)` コマンドを参照してください。コンテンツをエクスポートした後、ネットワークドライブまたはストレージデバイスにコピーして、コンテンツをサテライトデバイスのコンテンツリポジトリに手動でインポートできます。

コンテンツをサテライトデバイスのコンテンツリポジトリにインポートする方法については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「コンテンツ配布コマンド」で `zac cdp-import-content (cic)` コマンドを参照してください。

1 つの ZENworks プライマリサーバからコンテンツを手動でエクスポートして、このコンテンツを別のプライマリサーバにインポートすることはできません。プライマリサーバ間でのコンテンツの複製については、265 ページの第 29 章「コンテンツの複製」を参照してください。

7.7 1 つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動

サテライトを親プライマリサーバから別なプライマリサーバに移動できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、移動するサテライトの隣にあるチェックボックスをオンにし、[移動] をクリックします。
- 3 サテライトの新しい親にするプライマリサーバを選択し、[OK] をクリックします。

コンテンツ役割を持つサテライトでホストさせるすべてのコンテンツ (バンドル、ポリシー、およびパッチ) は、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

7.8 コンテンツ役割のサテライトへの別なりポジトリの指定 (Windows のみ)

Windows サテライトの場合、コンテンツリポジトリは、次のデフォルトのパスにあります。

```
installation_path\zenworks\work\content-repo
```

デフォルトのパスを、サーバにアクセス可能な別の場所に変更するには、次の手順に従います。

- 1 使用するディスクドライブがサテライトに接続され、適切にフォーマットされていることを確認してください。

ドライバ名を指定する必要はありませんが、サーバはハードウェアを認識する必要があります。

- 2 次のいずれかを行って、デフォルトの場所 (*installation_path\zenworks\work\content-repo*) にコンテンツがないことを確認してください。
 - ◆ 上記のパスに content-repo ディレクトリがない場合、そのパスに content-repo ディレクトリを作成します。
 - ◆ 現在このディレクトリにあるコンテンツを保存する必要がある場合、既存のディレクトリの名前を変更し、content-repo という名前の新しい空のディレクトリを作成します。
後から、名前を変更したディレクトリのコンテンツを新しいコンテンツリポジトリの場所にコピーすることができます ([ステップ 9](#) を参照)。
 - ◆ 既存の content-repo ディレクトリ内のコンテンツがまったく必要ない場合は、content-repo ディレクトリを削除して再作成します。

サテライトの新規コンテンツリポジトリの場所へのポインタとして動作するためには、空の content-repo ディレクトリが存在している必要があります。

- 3 [スタート] をクリックして、[マイ コンピュータ] アイコンを右クリックしてから、[管理] を選択します。
[スタート] をクリックして、[実行] コマンドラインで *compmgmt.msc* を入力します。
- 4 左ペインの [ストレージ] セクションで [ディスク管理] を選択します。
[ステップ 1](#) で選択したディスクドライブが表示されます。
- 5 サテライト上でコンテンツリポジトリとして使用するディスクドライブのパーティションを右クリックし、[ドライバ文字およびパスの変更] を選択します。
これは、content-repo ディレクトリにマウントするディスクドライブです ([ステップ 1](#) を参照)。
- 6 [追加] をクリックします。
[ドライブ名またはパスの追加] ダイアログボックスが表示されます。
- 7 [次の空の NTFS フォルダにマウント] を選択してから、content-repo ディレクトリを参照して選択します。
installation_path\zenworks\work\content-repo
- 8 必要に応じて [OK] をクリックして終了し、設定変更を保存します。
- 9 必要に応じて ([ステップ 2](#) を参照)、以前に名前変更した content-repo ディレクトリのファイルを新しい content-repo ディレクトリに移動します。
これによって、新しいコンテンツリポジトリに選択したハードドライブにファイルがコピーされます。

7.9 サテライトデバイスの削除

[サーバの階層] パネルに一覧表示されているサテライトは、管理ゾーンから削除することができます。サテライトを削除すると、このデバイスの役割が削除されますが、デバイスは ZENworks 管理ゾーンでの管理対象デバイスのままです。

プライマリサーバの削除の詳細については、[89 ページのセクション 6.6 「ZENworks プライマリサーバの削除」](#)を参照してください。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。[サーバの階層] セクションで、削除するサテライトデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [サテライトサーバの削除] の順をクリックします。
- 3 サーバを完全に削除することに同意し、[OK] をクリックします。

7.10 サテライトの更新

デバイスを更新すると、保留中のアクションをすぐに実行することができます。

- 1 更新するサテライトの横のチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [デバイスの更新] の順をクリックします。
アクションの実行中は [クイックタスクステータス] ボックスが表示されます。
- 3 (オプション) ステータスダイアログボックスを閉じるには、[非表示] をクリックします。
更新はバックグラウンドで続きます。
- 4 (オプション) 更新アクションをキャンセルするには、デバイスのチェックボックスをクリックし、[中止] をクリックし、さらに [非表示] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

7.11 サテライトのトラブルシューティング

次のセクションでは、サテライトでの作業中に発生する可能性のある問題の解決方法について説明します。

- ◆ [106 ページの「zman ssc コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows の管理対象デバイスに追加することができない」](#)
- ◆ [107 ページの「zman ssd コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows デバイスから削除することができない」](#)
- ◆ [107 ページの「管理対象デバイスにイメージングの役割が割り当てられているにもかかわらず、このデバイスがイメージングサテライトの役割に昇格されない」](#)
- ◆ [107 ページの「Windows Vista SP2 の管理対象デバイスをイメージング役割を持つサテライトに昇格させた場合、更新されたイメージング統計値が、ZENworks アイコンに表示されない」](#)
- ◆ [108 ページの「ZENworks データベースが Oracle 上で実行されている場合、\[スケジュールなし\] に設定されたコンテンツ複製スケジュールを編集すると NULL ポインタ例外が発生する」](#)

zman ssc コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows の管理対象デバイスに追加することができない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライト

アクション：Windows の管理対象デバイスを、イメージングの役割を持つサテライトに昇格させるには、zman ssaimg コマンドを使用します。

zman ssaimg コマンドの詳細については、ZENworks サーバの zman マニュアルページを見るか (man zman)、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「サテライトコマンド」を参照してください。

zman ssd コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows デバイスから削除することができない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライト

アクション：Windows の管理対象デバイスからイメージングサテライトの役割を削除するには、zman ssimg コマンドを使用します。

このコマンドは、コンテンツやコレクションなどの他のサテライト役割がデバイスに割り当てられている場合は、それらのサテライトの役割は削除しません。


zman ssimg コマンドの詳細については、ZENworks サーバの zman マニュアルページを見るか (man zman)、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「サテライトコマンド」を参照してください。

管理対象デバイスにイメージングの役割が割り当てられているにもかかわらず、このデバイスがイメージングサテライトの役割に昇格されない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライト


考えられる原因：ファイアウォールが管理対象デバイス上で設定されているため、管理対象デバイスがプライマリサーバに接続できません。

アクション：管理対象デバイス上で次のいずれかを実行してください。

- 1 ファイアウォールの設定を無効にします。
- 2 プライマリサーバに Ping し、管理対象デバイスがサーバに接続できるか確認します。
- 3  アイコンを右クリックで情報を更新し、[更新] をクリックします。

Windows Vista SP2 の管理対象デバイスをイメージング役割を持つサテライトに昇格させた場合、更新されたイメージング統計値が、ZENworks アイコンに表示されない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライト

説明：Windows Vista SP2 の管理対象デバイスをイメージング役割を持つサテライトに昇格させた場合、更新されたイメージング統計値は、 アイコンに表示されません ([プロパティを表示する] > [サテライト] > [イメージング])。

アクション：サテライトの最新のイメージング統計値を見るためには、次の手順に従います。

- 1 コンソールプロンプトで、
`ZENworks_installation_directory\novell\zenworks\bin\preboot` に移動します。
- 2 次のコマンドを実行します。
`zmgmcast -status -i Satellite_IP_address`

ZENworks データベースが Oracle 上で実行されている場合、[スケジュールなし] に設定されたコンテンツ複製スケジュールを編集すると NULL ポインタ例外が発生する

ソース： ZENworks 10 Configuration Management、サテライト

説明： ZENworks データベースが Oracle 上で実行されていて、サテライトのコンテンツ複製スケジュールが [スケジュールなし] に設定されている場合、ZENworks コントロールセンターを使用してスケジュールを編集すると NULL ポインタ例外が発生します。

アクション： コンテンツ複製スケジュールを編集するには、`zman ssucrs` コマンドを使用します。

`zman ssucrs` コマンドの詳細は、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「サテライトコマンド」を参照してください。

サーバの階層

管理ゾーンのサーバ階層によって、ZENworks® プライマリサーバとサテライトの関係が決定されます。これらの関係は、ゾーン内のコンテンツと情報の流れを制御します。適切に設定すると、低速のリンクによって接続されているネットワークセグメント間のネットワークトラフィックを最小化するのに役立ちます。

- ◆ 109 ページのセクション 8.1 「プライマリサーバ: ピア対親 / 子関係」
- ◆ 109 ページのセクション 8.2 「サテライト役割の関係」
- ◆ 110 ページのセクション 8.3 「プライマリサーバの親子関係の変更」

8.1 プライマリサーバ: ピア対親 / 子関係

デフォルトでは、システムに追加する各プライマリサーバは、その他すべてのプライマリサーバへのピアとして作成されます。ピア関係であることで、プライマリサーバで次の処理ができるようになります。

- ◆ ZENworks データベースへ直接書き込みアクセスでき、情報 (インベントリ、メッセージ、およびステータス) を追加できます。
- ◆ データベースからデバイスの設定情報を直接取得できます。
- ◆ コンテンツ (バンドル、ポリシー、システム更新、およびパッチ) をプライマリサーバからプルできます。

ZENworks データベースへ直接書き込みアクセスするには、JDBC*/ODBC 接続が必要です。プライマリサーバがネットワーク上にあり、JDBC/ODBC 接続を経由して ZENworks データベースに効率的にアクセスできない場合、そのデータベースへの直接的な書き込みアクセス権を持たない別のプライマリサーバの子になるようにそのプライマリサーバを設定できます。ただし、ネットワーク接続で許される限り、プライマリサーバ間のピア関係を保持するようにしてください。

子の関係にあるプライマリサーバは、HTTP を使用してインベントリ、メッセージ、およびステータス情報を親プライマリサーバにロールアップし、その情報を親プライマリサーバがデータベースに書き込みます。ただし、その後も子プライマリサーバはデータベースから環境設定情報を取得してデータベースにバックアップし続けます。そのため、子プライマリサーバは ZENworks データベースに直接接続する必要があります。

WAN リンクを介して ZENworks データベースをプライマリサーバに接続することは、ネットワークのトラフィックを増大させるので、お勧めできません。WAN リンクを介してサテライトデバイスを使用することをお勧めします。詳細については、109 ページのセクション 8.2 「サテライト役割の関係」を参照してください。

8.2 サテライト役割の関係

サテライトは、ZENworks プライマリサーバが通常実行する特定の役割を実行できるデバイスです。サテライトには任意の管理対象 Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を使用できますが、プライマリサーバは使用できません。サテライトは、管理されていない Linux デバイス (サーバまたはワークステーション) として使用することもできます。サテライトを設定する際には、サテライトが実行する役割を指定します (認

証、コレクション、コンテンツ、またはイメージング)。サテライトは、ZENworks 10 Configuration Management フレームワークのスナップインとなるサードパーティ製品によって追加される役割を実行することもできます。サテライトで実行できるタスクの詳細については、91 ページの第 7 章「サテライト」を参照してください。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 110 ページのセクション 8.2.1 「認証の役割サーバの関係」
- ◆ 110 ページのセクション 8.2.2 「コンテンツ役割サーバの関係」
- ◆ 110 ページのセクション 8.2.3 「コレクション役割サーバの関係」
- ◆ 110 ページのセクション 8.2.4 「イメージングの役割サーバの関係」

8.2.1 認証の役割サーバの関係

認証の役割は、デバイスを ZENworks 管理ゾーンに認証できる管理対象デバイスを特定します。認証の役割で機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。

8.2.2 コンテンツ役割サーバの関係

コンテンツ役割は、コンテンツ (バンドル、ポリシー、およびパッチ) を他のデバイスに配布できる管理対象デバイスを識別します。コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。

8.2.3 コレクション役割サーバの関係

コレクションの役割では、管理対象デバイスはインベントリ情報、メッセージ (エラー、警告、情報など)、ポリシーおよびバンドルのステータスを収集し、これらの情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

8.2.4 イメージングの役割サーバの関係

イメージングの役割により、ユニキャストイメージングまたはマルチキャストイメージングを使用して、管理対象デバイスがサブネット内でイメージを取得および復元することができます。

8.3 プライマリサーバの親子関係の変更

プライマリサーバを移動して、他のプライマリサーバのピアまたは子にすることができます。

- ◆ 111 ページのセクション 8.3.1 「プライマリサーバを子にする」
- ◆ 111 ページのセクション 8.3.2 「プライマリサーバをピアにする」

8.3.1 プライマリサーバを子にする

プライマリサーバを他のプライマリサーバの子として配置できます。この子プライマリサーバによってコレクションデータが ZENworks データベースに直接書き込まれることはなくなります。代わりに、その情報をその親プライマリサーバに渡し、この親プライマリサーバがデータベースに書き込みます。ただし、その後も子プライマリサーバはデータベースから環境設定情報を取得してデータベースにバックアップし続けます。そのため、子プライマリサーバは ZENworks データベースに直接接続する必要があります。

プライマリサーバを別のサーバの子にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、子にするプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [移動] をクリックして、[デバイスの移動] ダイアログボックスを表示します。
- 4 親サーバにするプライマリサーバを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

8.3.2 プライマリサーバをピアにする

これにより、プライマリサーバは階層の最初のレベルに配置されるか、または入れ子になった1つ以上のレベルの深さである場合、移動されて別のプライマリサーバの子になります。

プライマリサーバを最初のレベルに戻すと、ZENworks データベースに直接書き込みます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、ピアにするプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [移動] をクリックして、[デバイスの移動] ダイアログボックスを表示します。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - ◆ リストでサーバの最初のレベルに移動するには、[なし] を選択します。
 - ◆ 親サーバになる別のプライマリサーバを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

最近接サーバルール

複数の ZENworks サーバ (プライマリサーバとサテライト) が環境にある場合、最近接サーバルールを使用して、管理対象デバイスが次の機能を実行するために接続する ZENworks サーバを指定します。

- ◆ コレクション
- ◆ コンテンツ
- ◆ 環境設定
- ◆ 認証

最近接サーバルールは、ZENworks サーバ間の負荷分散の改善、フェールオーバーの実行、管理対象デバイスとサーバ間のリンクが低速の場合のパフォーマンスの向上に役立ちます。

最近接サーバルールによって、ネットワークアドレスに基づいて ZENworks サーバにデバイスをマップできます (DNS 名と IP アドレス)。

たとえば、123.45.67.1 から 123.45.67.100 の範囲内の IP アドレスに該当する Server1 に、すべてのデバイスをマップするルールを作成できます。

次のセクションでは、最近接サーバルールの設定について説明し、その手順を示します。

- ◆ [113 ページのセクション 9.1 「最近接サーバルールの理解」](#)
- ◆ [115 ページのセクション 9.2 「最近接サーバのデフォルトルールの設定」](#)
- ◆ [123 ページのセクション 9.3 「最近接サーバルールの作成」](#)
- ◆ [133 ページのセクション 9.4 「最近接サーバルールのバックアップ」](#)

9.1 最近接サーバルールの理解

ZENworks 管理ゾーンに、1 つ以上のサーバ (プライマリサーバおよびサテライト) が含まれている場合、デバイスがどのサーバに接続されるのかを指定する必要があります。[最近接サーバルール] パネルでは、デバイスが接続するサーバを決めるルールを作成できます。

最近接サーバのルールに関して、サテライトとして設定されているデバイスはサーバと見なされ、[コレクションサーバ]、[コンテンツサーバ]、および [認証サーバ] リストの選択肢として一覧表示されます。

次の項では、最近接サーバルールを作成する前に理解しておく必要のある情報について説明します。

- ◆ [114 ページのセクション 9.1.1 「ZENworks サーバ機能」](#)
- ◆ [114 ページのセクション 9.1.2 「デバイスのサーバへのマッピング」](#)
- ◆ [115 ページのセクション 9.1.3 「有効なルール」](#)

9.1.1 ZENworks サーバ機能

デバイスがサーバに接続する理由として、次の基本的な機能があります。

- ◆ **コレクション**: インベントリおよびメッセージログの情報は各デバイスから収集され、ZENworks コントロールセンターで表示したり、レポートに出力することができます。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトはコレクションサーバとして動作できます。
- ◆ **コンテンツ**: 管理対象デバイスにコンテンツが提供されます。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトはコンテンツサーバとして動作できます。
- ◆ **設定**: 環境設定および登録情報はデバイスに適用されます。ZENworks プライマリサーバのみが設定サーバとして機能できます。
- ◆ **認証**: 管理対象デバイスは、ZENworks サーバにコンタクトして、管理ゾーンに対して認証します。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトは認証サーバとして動作できます。

デバイスは、すべての機能に対して1つのサーバにコンタクトするか、各機能に対して別々のサーバにコンタクトすることができます。

9.1.2 デバイスのサーバへのマッピング

再近接サーバルールは、特定のネットワークアドレスを持つデバイスを、次のリストにマッピングします。

- ◆ [コレクションサーバ] リスト
- ◆ [コンテンツサーバ] リスト
- ◆ [設定サーバ] リスト
- ◆ [認証サーバ] リスト

たとえば、123.45.678.1 ~ 123.45.678.100 の IP アドレス範囲に属するデバイス用のルールを作成する場合があります。この場合、IP アドレス範囲を指定し、次のリストを作成します。

コレクションサーバリスト	コンテンツサーバリスト	設定サーバリスト	認証サーバリスト
サーバ1	サーバ3	サーバ1	サーバ2
サーバ2	サーバ1	サーバ3	サーバ3
サーバ3		サーバ2	サーバ1

これらのリストに基づいて、範囲内の IP アドレスを持つデバイスは、コレクション用にサーバ1、コンテンツ用にサーバ3、環境設定用にサーバ1、そして認証用にサーバ2にコンタクトします。利用できないサーバがあれば、デバイスはリストにある次のサーバにコンタクトします。

9.1.3 有効なルール

最密サーバルールは次の3つのレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**：ルールはすべてのデバイスフォルダおよびデバイスに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：ルールはフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスに継承されます。それらは、管理ゾーンの設定を上書きします。
- ◆ **デバイス**：ルールは、それが設定されたデバイスのみ適用されます。管理ゾーンレベルとフォルダレベルの設定を上書きします。

各デバイスには、適用される最密サーバルールが1つのみ存在します。デバイスの有効なルールは次のようにして決定されます。

1. **デバイスの設定**：デバイスに設定されたすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。
2. **フォルダ設定**：適用されるデバイスルールがない場合は、デバイスの親フォルダに設定されているすべてのルールが評価されます。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。満たさない場合は、1つ上の階層のフォルダに設定されているルールを評価します。
3. **管理ゾーン**：適用されるフォルダルールがない場合、管理ゾーンで設定されているすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。基準を満たさない場合は、デバイスに**デフォルトルール**を適用します。
4. **デフォルトルール**：デバイス、フォルダ、または管理ゾーンのルールが適用されない場合は、デフォルトルールがデバイスに適用されます。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にコンテンツサーバを並べただけのリストです。

9.2 最近接サーバのデフォルトルールの設定

最近接サーバのデフォルトルールでは、最近接サーバルールが定義されていなかったり、当てはまるものがなかった場合に、デバイスが最近接の認証、コレクション、コンテンツ、および設定サーバを判断するのに使用されるルールを定義できます。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にサーバを並べただけのリストです。リストにサーバを追加したり、リストからサーバを削除することはできません。

最近接サーバのデフォルトルールに関して、サテライトとなるデバイスはサーバと見なされ、該当するリストの選択肢として一覧表示されます。

デフォルトで、すべてのZENworksサーバが認証、コレクション、コンテンツ、および設定サーバとして機能し、該当するリストに表示されます。さらに、コンテンツ役割またはイメージング役割で定義されたすべてのデバイスは、[コンテンツサーバ] リストにも表示され、コレクションの役割で定義されたすべてのデバイスは、[コレクションサーバ] リストにも表示され、認証の役割で定義されたすべてのデバイスは[認証サーバ] リストにも表示されます。

最近接サーバのデフォルトルールを設定する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックしてから、[インフラ管理] ([管理ゾーンの設定] パネル) > [最近接サーバのデフォルトのルール] の順にクリックします。

環境設定 > 最近接サーバのデフォルトルール

最近接サーバのデフォルトルール

デフォルトのルールを使用して、管理対象のデバイスが最近接のサーバを決定する方法の設定を構成します。

コレクションサーバ:

上へ移動 下へ移動 グループ▼ L4スイッチ▼

名前
<input type="checkbox"/> /デバイス/サーバ/linux-zcn

コンテンツサーバ:

上へ移動 下へ移動 グループ▼ L4スイッチ▼

名前
<input type="checkbox"/> /デバイス/サーバ/linux-zcn
<input type="checkbox"/> /デバイス/ワークステーション/client

設定サーバ:

上へ移動 下へ移動 グループ▼ L4スイッチ▼

名前
<input type="checkbox"/> /デバイス/サーバ/linux-zcn

認証サーバ:

上へ移動 下へ移動 グループ▼ L4スイッチ▼

名前
<input type="checkbox"/> /デバイス/サーバ/linux-zcn

OK 適用 リセット キャンセル

- 2 任意のセクションに一覧にされているサーバを設定するには、次のいずれかを行います。
 - 2a (条件付き) 次のタスクを実行して、どのサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) のそれぞれのサーバも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、またはL4スイッチのチェックボックスをオンにします。 2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、またはL4スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の2番目、3番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ: サーバ1、グループ1、サーバ3、L4スイッチ5 ◆ コンテンツサーバ: L4スイッチ5 ◆ 設定サーバ: サーバ3、サーバ2、グループ1 ◆ 認証サーバ: サーバ1、サーバ2

2b (条件付き) グループを使用して、サーバへの接続をランダム化します。同じ順序のリストがすべてのデバイスに送られないように、サーバリストはデバイスに送信されるたびにランダム化されます。

たとえば、サーバリストに次の項目が含まれているとします。

- ◆ サーバ1
- ◆ グループ1 (サーバ2、サーバ3、サーバ4)
- ◆ サーバ5

あるデバイスは、サーバ1、サーバ3、サーバ2、サーバ4、サーバ5というリストを受け取ります。

別のデバイスは、サーバ1、サーバ4、サーバ3、サーバ2、サーバ5という別のリストを受け取ります。

どちらの場合でもサーバ1が最初にリストされ、サーバ5が最後にリストされていますが、グループ1内のサーバの順序はランダム化されています。

次のタスクを実行して、どのサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) のサーバグループも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
サーバグループを作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、グループに含めるサーバのチェックボックスをオンにして、[グループ] > [選択からグループを作成] の順にクリックします。 または 空のグループを作成する場合は、[グループ] > [空のグループを作成] の順にクリックします。 [グループ] > [グループへの追加] オプションを使用して、後から空のグループにサーバを追加できます。 2. グループの名前を指定し、[OK] をクリックしてグループをリストに追加します。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	
サーバをグループに追加する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、グループに追加するサーバのチェックボックスをオンにします。 2. [グループ] > [グループに追加] の順にクリックします。 3. 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 選択したサーバを新しいグループに追加するには、[新規作成] を選択し、グループ名を指定して、[OK] をクリックします。 ◆ 選択したサーバを既存のグループに追加するには、[既存を選択] フィールドのリストからグループを選択し、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	

タスク	手順	追加の詳細
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、移動するサーバ、グループ、またはL4スイッチのチェックボックスをオンにします。 2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、またはL4スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の2番目、3番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ: サーバ1、グループ1、サーバ3、L4スイッチ5 ◆ コンテンツサーバ: L4スイッチ5、サーバ2、サーバ3、サーバ1 ◆ 設定サーバ: サーバ3、サーバ2、グループ1 ◆ 認証サーバ: グループ1、L4スイッチ5、サーバ1、サーバ2
あるリストから別のリストにグループをコピーする	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループのコピー先のサーバリストで、[グループ] > [既存グループのコピー] の順にクリックします。 たとえば、[コレクションサーバ] リストから [コンテンツサーバ] リストにグループをコピーするには、[コンテンツサーバ] リストで [グループ] > [既存グループのコピー] の順にクリックします。 2. リストから目的のグループを選択し、[OK] をクリックしてグループをコピーします。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	<p>グループのサーバがまだ含まれていないリストにグループをコピーすると、リストにないサーバはグループから削除されます。たとえば、グループ1にサーバ1とサーバ2が含まれ、サーバ1を含まないリストにグループ1をコピーした場合、サーバ1はグループから削除されます。</p>

タスク	手順	追加の詳細
サーバをグループから削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、グループを展開してそのサーバを表示します。 2. グループから削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 3. [グループ] > [グループから削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	サーバはサーバリストからは削除されません。グループから削除されるだけです。
グループを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、削除するグループのチェックボックスをオンにします。 2. [グループ] > [グループを削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	グループのサーバは削除されません。グループだけが削除されます。

- 2c** (条件付き) L4 スイッチの背後でクラスタ化した ZENworks サーバまたはサテライトがある場合は、L4 スイッチを定義して、サーバをその定義に追加できます。これにより、L4 スイッチは、これらのサーバ間でトラフィックを分散し続けられます。

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義を作成する	<ol style="list-style-type: none">サーバリストで、L4 スイッチ定義に含めるサーバのチェックボックスをオンにし、[L4 スイッチ] > [選択から L4 スイッチ定義を作成] の順にクリックします。 または 空の L4 スイッチ定義を作成する場合は、[L4 スイッチ] > [空を作成] の順にクリックします。 [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義に追加] オプションを使用して、後から空の定義にサーバを追加できます。L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定し、[OK] をクリックして L4 スイッチをリストに追加します。[適用] をクリックして変更を有効化します。	

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義にサーバを追加する	<ol style="list-style-type: none"> サーバリストで、L4 スイッチ定義に追加するサーバのチェックボックスをオンにします。 [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義に追加] の順にクリックします。 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 選択したサーバを新しい L4 スイッチ定義に追加するには、[新規作成] を選択し、L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定して [OK] をクリックします。 ◆ 選択したサーバを既存の L4 スイッチ定義に追加するには、[既存の選択] フィールドのリストから L4 スイッチ定義を選択し、[OK] をクリックします。 [適用] をクリックして変更を有効化します。 	
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、または L4 スイッチのチェックボックスをオンにします。 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、または L4 スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の 2 番目、3 番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ：サーバ 1、グループ 1、サーバ 3、L4 スイッチ 5 ◆ コンテンツサーバ：L4 スイッチ 5、サーバ 2、サーバ 3、サーバ 1 ◆ 設定サーバ：サーバ 3、サーバ 2、グループ 1 ◆ 認証サーバ：グループ 1、L4 スイッチ 5、サーバ 1、サーバ 2

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義からサーバを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、L4 スイッチ定義を展開してそのサーバを表示します。 2. L4 スイッチ定義から削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 3. [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義から削除] をクリックし、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	サーバはサーバリストからは削除されません。L4 スイッチ定義から削除されるだけです。
L4 スイッチ定義を削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、[L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 2. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	L4 スイッチ定義のサーバは削除されません。定義だけが削除されます。

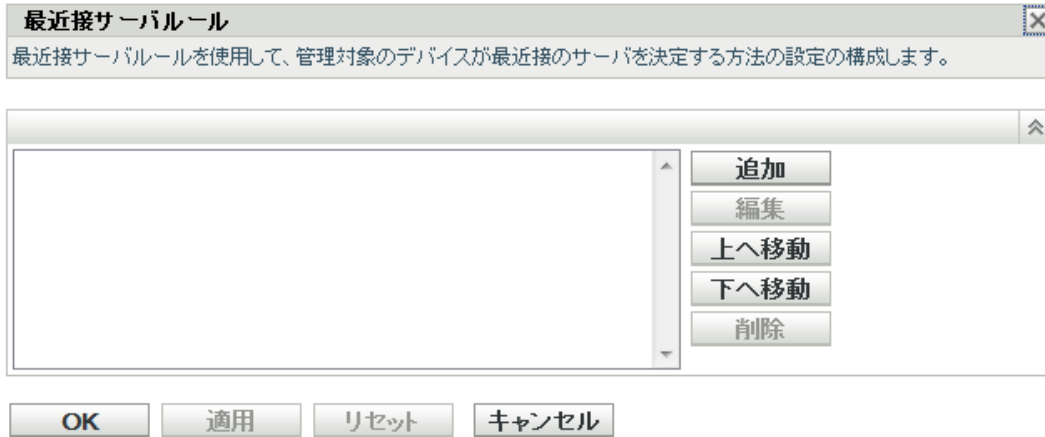
3 [OK] または [適用] をクリックして変更内容を保存します。

9.3 最近接サーバールの作成

1 ZENworks コントロールセンターを起動します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 管理ゾーン向けの最近接サーバールールを作成するには、[設定] タブをクリックして、[インフラ管理] ([管理ゾーンの設定] パネル) > [最近接サーバールール] の順にクリックします。
- ◆ デバイスフォルダ向けの最近接サーバールールを作成するには、フォルダの詳細ページを開いて、[設定] > [インフラ管理] ([設定] パネル) > [最近接サーバールール] の順にクリックします。
- ◆ デバイス向けの最近接サーバールールを作成するには、デバイスの詳細ページを開いて、[設定] > [インフラ管理] ([設定] パネル) > [最近接サーバールール] の順にクリックします。



- 3 (条件付き) デバイスまたはデバイスフォルダ向けに最近接サーバルールを作成する場合、[設定の上書き] をクリックし、[最近接サーバルール] パネルをアクティブ化します。

[上書き] オプション (描画なし) は、デバイスおよびデバイスフォルダレベルでのみ表示されます。

- 4 [追加] をクリックして、[ルール構築] ダイアログボックスを表示します。

ルール構築

ルール名: *

最近接サーバのデフォルトルールを除外

ルールロジック: *

フィルタの追加 フィルタセットの追加 フィルタの挿入 ▼ 削除

次の項目を使用してフィルタを結合: および ▼

-選択- ▼

コレクションサーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

コンテンツサーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

設定サーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

認証サーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 5 [ルール名] フィールドに、ルールの名前を指定します。

ZENworks コントロールセンターの中の最近接サーバルールの一覧に名前が表示されます。この一覧にアクセスするには、左パネルにある [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックし、[管理ゾーンの設定] パネルをクリックして開き、[インフラ管理] セクションをクリックして開き、最後に [最近接サーバルール] をクリックします。現在のレベルに対して定義されているすべてのルールがここに表示されます。

- 6 この最近接サーバルールに、一覧にしたサーバに最近接サーバのデフォルトルールを付加しない場合は、[最近接サーバのデフォルトルールを除外] チェックボックスをオンにします。

最近接サーバルール機能は、まずルール内で指定されているサーバを使用し、管理対象デバイスがその指定されたサーバを利用できない場合は、引き続き最近接サーバのデフォルトルール内の一覧にされている他のサーバを使用します。そのため、ルール内で指定されているサーバからのみコンテンツを取得するには、このチェックボックスをオンにして他のすべてのサーバを除外します。

- 7 [ルールロジック] フィールドを使用して、ルールの式を作成します。

式は基準オプション、演算子、および値から構成されます。たとえば、次のようになります。

DNS Name Filter equal to *.novell.com

DNS Name Filter は基準オプションで、equal to が演算子で、*.novell.com が値です。上の例では、最密サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わるデバイスにのみ適用されることとなります。

必要に応じて、NOT を使用して式の論理否定を実行できます。たとえば、次のようにします。

NOT DNS Name Filter equal to *.novell.com

上の例では、最密サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わらないデバイスにのみ適用されることとなります。

ルールには複数の式を使用できます。たとえば、次のようにします。

DNS Name Filter equal to provo.novell.com or IP Address equal to 123.45.678.12/24

次の条件を使用できます。

オプション	説明
DNS Name Filter	<p>フィルタ基準を満たす DNS 名に一致します。正確なフィルタを指定するか、クエスチョンマーク (?) やアスタリスク (*) をワイルドカードとして使用して、DNS 名の中の 1 つ以上の文字と照合します。? は、1 文字と一致し、* は 1 文字以上と一致します。例：</p> <p>provo.novell.com:novell.com のトップレベルドメインの provo サブドメインに含まれるすべてのデバイスに一致します。</p> <p>*.novell.com:novell.com のトップドメインの中のすべてのデバイス (サブドメインの中のデバイスもすべて) に一致します。</p> <p>provo?.novell.com:novell.com のトップドメインの provo1 および provo2 のサブドメインにあるすべてのデバイスに一致します。provo12 のサブドメインにあるデバイスには一致しません。</p>
IP Address /n	<p>指定した CIDR (Classless Inter-Domain Routing) ブロックに含まれる IP アドレスに一致します。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの 10 進数の部分が、8 ビットずつの 4 つのバイトから構成される 32 ビットの 2 進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (/n) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。/n の数は 0 ~ 32 のいずれかで、8、16、24、および 32 が通常使われる数です。例：</p> <p>123.45.678.12/16:123.45 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p> <p>123.45.678.12/24:123.45.678 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p>

8 任意のセクションに一覧にされているサーバを設定するには、次のいずれかを行います。

8a (条件付き) 次のタスクを実行して、どのサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) のそれぞれのサーバも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
リストにサーバを追加する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、または認証) で [追加] をクリックします。 2. 1 つまたは複数の ZENworks サーバまたはサテライトを参照して選択します。 3. [OK] をクリックし、選択したサーバをリストに追加します。 	<p>デフォルトで、ZENworks サーバは、すべての機能 (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) をサポートします。したがって、どのサーバリストでも、すべての ZENworks サーバを選択できます。</p> <p>ただし、サテライトは、特定の役割 (コレクション、コンテンツ、イメージング、および認証) 専用を設定できます。これは次のことを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サテライトを [コレクションサーバ] リストに選択した場合、コレクションの役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。 ◆ サテライトを [認証サーバ] リストに選択した場合、認証の役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。 ◆ サテライトを [コンテンツサーバ] リストに選択した場合、コンテンツまたはイメージングの役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。 ◆ サテライトは設定の役割を実行しません。したがって、[設定サーバ] リストには追加できません。 <p>サテライトの役割は、[環境設定] タブの [サーバの階層] パネルで設定されます。</p>

タスク	手順	追加の詳細
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、またはL4スイッチのチェックボックスをオンにします。 2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、またはL4スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の2番目、3番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ: サーバ1、グループ1、サーバ3、L4スイッチ5 ◆ コンテンツサーバ: L4スイッチ5 ◆ 設定サーバ: サーバ3、サーバ2、グループ1 ◆ 認証サーバ: サーバ1、サーバ2
リストからサーバを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 2. [削除] をクリックします。 	

8b (条件付き) グループを使用して、サーバへの接続をランダム化します。同じ順序のリストがすべてのデバイスに送られないように、サーバリストはデバイスに送信されるたびにランダム化されます。

たとえば、サーバリストに次の項目が含まれているとします。

- ◆ サーバ1
- ◆ グループ1 (サーバ2、サーバ3、サーバ4)
- ◆ サーバ5

あるデバイスは、サーバ1、サーバ3、サーバ2、サーバ4、サーバ5というリストを受け取ります。

別のデバイスは、サーバ1、サーバ4、サーバ3、サーバ2、サーバ5という別のリストを受け取ります。

どちらの場合でもサーバ1が最初にリストされ、サーバ5が最後にリストされていますが、グループ1内のサーバの順序はランダム化されています。

次のタスクを実行して、どのサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) のサーバグループも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
サーバグループを作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、グループに含めるサーバのチェックボックスをオンにして、[グループ] > [選択からグループを作成] の順にクリックします。 または 空のグループを作成する場合は、[グループ] > [空のグループを作成] の順にクリックします。 [グループ] > [グループへの追加] オプションを使用して、後から空のグループにサーバを追加できます。 2. グループの名前を指定し、[OK] をクリックしてグループをリストに追加します。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	
サーバをグループに追加する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、グループに追加するサーバのチェックボックスをオンにします。 2. [グループ] > [グループに追加] の順にクリックします。 3. 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 選択したサーバを新しいグループに追加するには、[新規作成] を選択し、グループ名を指定して、[OK] をクリックします。 ◆ 選択したサーバを既存のグループに追加するには、[既存を選択] フィールドのリストからグループを選択し、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	

タスク	手順	追加の詳細
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、移動するサーバ、グループ、またはL4スイッチのチェックボックスをオンにします。 2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、またはL4スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の2番目、3番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ: サーバ1、グループ1、サーバ3、L4スイッチ5 ◆ コンテンツサーバ: L4スイッチ5、サーバ2、サーバ3、サーバ1 ◆ 設定サーバ: サーバ3、サーバ2、グループ1 ◆ 認証サーバ: グループ1、L4スイッチ5、サーバ1、サーバ2
あるリストから別のリストにグループをコピーする	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループのコピー先のサーバリストで、[グループ] > [既存グループのコピー] の順にクリックします。 たとえば、[コレクションサーバ] リストから [コンテンツサーバ] リストにグループをコピーするには、[コンテンツサーバ] リストで [グループ] > [既存グループのコピー] の順にクリックします。 2. リストから目的のグループを選択し、[OK] をクリックしてグループをコピーします。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	<p>グループのサーバがまだ含まれていないリストにグループをコピーすると、リストにないサーバはグループから削除されます。たとえば、グループ1にサーバ1とサーバ2が含まれ、サーバ1を含まないリストにグループ1をコピーした場合、サーバ1はグループから削除されます。</p>

タスク	手順	追加の詳細
サーバをグループから削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、グループを展開してそのサーバを表示します。 2. グループから削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 3. [グループ] > [グループから削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	サーバはサーバリストからは削除されません。グループから削除されるだけです。
グループを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、削除するグループのチェックボックスをオンにします。 2. [グループ] > [グループを削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	グループのサーバは削除されません。グループだけが削除されます。

8c (条件付き) L4 スイッチの背後でクラスタ化した ZENworks サーバまたはサテライトがある場合は、L4 スイッチを定義して、サーバをその定義に追加できます。これにより、L4 スイッチは、これらのサーバ間でトラフィックを分散し続けられます。

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義を作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、L4 スイッチ定義に含めるサーバのチェックボックスをオンにし、[L4 スイッチ] > [選択から L4 スイッチ定義を作成] の順にクリックします。 または 空の L4 スイッチ定義を作成する場合は、[L4 スイッチ] > [空を作成] の順にクリックします。 [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義に追加] オプションを使用して、後から空の定義にサーバを追加できます。 2. L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定し、[OK] をクリックして L4 スイッチをリストに追加します。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義にサーバを追加する	<ol style="list-style-type: none"> サーバリストで、L4 スイッチ定義に追加するサーバのチェックボックスをオンにします。 [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義に追加] の順にクリックします。 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 選択したサーバを新しい L4 スイッチ定義に追加するには、[新規作成] を選択し、L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定して [OK] をクリックします。 ◆ 選択したサーバを既存の L4 スイッチ定義に追加するには、[既存の選択] フィールドのリストから L4 スイッチ定義を選択し、[OK] をクリックします。 [適用] をクリックして変更を有効化します。 	
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、または L4 スイッチのチェックボックスをオンにします。 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、または L4 スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の 2 番目、3 番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ：サーバ 1、グループ 1、サーバ 3、L4 スイッチ 5 ◆ コンテンツサーバ：L4 スイッチ 5、サーバ 2、サーバ 3、サーバ 1 ◆ 設定サーバ：サーバ 3、サーバ 2、グループ 1 ◆ 認証サーバ：グループ 1、L4 スイッチ 5、サーバ 1、サーバ 2

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義からサーバを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、L4 スイッチ定義を展開してそのサーバを表示します。 2. L4 スイッチ定義から削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 3. [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義から削除] をクリックし、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	サーバはサーバリストからは削除されません。L4 スイッチ定義から削除されるだけです。
L4 スイッチ定義を削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、[L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 2. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	L4 スイッチ定義のサーバは削除されません。定義だけが削除されます。

- 9 終了したら、[OK] をクリックして [最近接サーバルール] リストにルールを追加します。
- 10 **ステップ 2** から **ステップ 9** を繰り返して追加のルールを作成します。
- 11 必要に応じて、ルールの作成が終了したら次の操作を行います。
- [上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、[最近接ルール] リストのルールの順序を変更します。
ルールはリストの中の順番通りに評価されます。評価したい順序でルールを配置する必要があります。
 - ルールの設定を変更するには、目的のルールを選択して [編集] をクリックします。

9.4 最近接サーバルールのバックアップ

ZENworks 管理ゾーンに複雑な最近接サーバルールが設定されている場合、これらのルールをバックアップ手順の中でエクスポートできます。

次の zman コマンドは、最近接サーバルールのバックアップ時に有効です。

- **location-copy-rules (loccp):** 最近接サーバルールデータをソースデバイスまたはデバイスフォルダから、1つ以上のコピー先デバイスまたはデバイスフォルダにコピーします。
- **location-export-rules-to-file (loctf):** 最近接サーバルールデータ (XML 形式) をファイルにエクスポートします。XML ファイルを入力として使用して、最近接サーバルールを作成またはルールを付加できます。
- **location-import-rules-from-file (locff):** 最近接サーバルールデータ (XML 形式) をファイルからインポートします。

これらのコマンドの詳細と使用方法は、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ロケーションルールコマンド」を参照してください。

ZENworks サーバおよび認証局の バックアップと復元

10

次のセクションでは、ZENworks サーバおよび認証局のバックアップおよび復元に関する詳細について説明します。

- [135 ページのセクション 10.1 「ZENworks サーバのバックアップ」](#)
- [136 ページのセクション 10.2 「ZENworks サーバの復元」](#)
- [137 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」](#)
- [138 ページのセクション 10.4 「認証局の復元」](#)

10.1 ZENworks サーバのバックアップ

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management では、ZENworks プライマリサーバの環境設定ファイルをバックアップおよび復元することができます。サーバが失敗したり、新しいサーバのハードウェアにアップグレードする必要がある場合、これによって ZENworks サーバの ID と設定を保持できます。

ZENworks サーバは 1 回だけバックアップが必要です。バックアップは、環境設定ファイルしか保存しません。次のアイテムは、個別にバックアップする必要があります。

- コンテンツリポジトリ (バンドル、ポリシー、およびイメージのファイル)。管理ゾーンにプライマリサーバが 1 つしかない場合は、コンテンツリポジトリ用の別個のバックアップを実行する必要があります。2 つ以上プライマリサーバがあり、すべてのコンテンツを両方のサーバに複製した場合、それらのサーバは、互いのバックアップコピーとして機能します。
- ZENworks データベース (ZENworks サーバ上にある場合)。ZENworks サーバのバックアップと ZENworks データベースのバックアップは、2 つの別個プロセスです。ZENworks データベースが ZENworks サーバの 1 つと同じサーバにある場合は、まず、データベースをバックアップし、次 j に、ZENworks サーバをバックアップします。ZENworks データベースは頻繁に変更されるので、ZENworks データベースは、定期的にバックアップする必要があります。データベースのバックアップの詳細については、[315 ページのパート IX 「データベース管理」](#) を参照してください。

zman コマンドを使用して ZENworks サーバをバックアップすると、Windows サーバの場合は Novell\ZENworks\conf ディレクトリのすべてのファイルが、Linux サーバの場合は etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリのすべてのファイルが、指定した場所にある暗号化されたバックアップファイルに保存されます。

- 1 (条件付き) バックアップしているサーバが ZENworks データベースをホストしている場合は、データベースファイルを安全な場所に手動でバックアップします。

データベースのバックアップの詳細については、[315 ページのパート IX 「データベース管理」](#) を参照してください。

- 2 ZENworks サーバのコマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
zman zenserver-backup path_to_backup_file_to_create
```

例：

```
zman zenserver-backup c:\zcm_backups\zone_backup.bak
```

または

```
zman zenserver-backup /root/zcm_backups/zone_backup.bak
```

- 3 入力が求められたら、ZENworks の管理者名およびパスワードを入力します。
- 4 要求されたら、バックアップファイルの暗号化に使用されるパスフレーズ (最低 10 文字) を入力します。
このパスフレーズは必ず覚えておいてください。サーバのリストア時にこのパスフレーズを入力する必要があります。
- 5 (条件付き) これが使用する唯一のプライマリサーバであるか、管理ゾーンで定義したすべてのコンテンツを含む唯一のプライマリサーバである場合は、コンテンツリポジトリを安全な場所に手動でバックアップします。
コンテンツリポジトリの詳細は、[259 ページの第 28 章「コンテンツリポジトリ」](#)を参照してください。

重要: これが管理ゾーンに定義したすべてのコンテンツを含む唯一のプライマリサーバであっても、コンテンツリポジトリをバックアップしない場合は、完全な障害復旧の態勢をとることはできません。

- 6 定期的に [ステップ 1](#) と [ステップ 5](#) を繰り返し実行してください。
[ステップ 2](#) から [ステップ 4](#) で説明している zman コマンドは 1 回実行するだけです。

10.2 ZENworks サーバの復元

この手順では、次を想定しています。

- ◆ ZENworks サーバの設定情報のバックアップがあります。詳細については、[135 ページのセクション 10.1「ZENworks サーバのバックアップ」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks データベースが ZENworks サーバ上にある場合は、データベースのバックアップを取得しています。詳細については、[319 ページのセクション 34.3「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks サーバに保存されているバンドルおよびポリシーが他の ZENworks サーバに複製されています。複製されない場合は、復元された ZENworks サーバからのポリシーまたはバンドルの配布が失敗します。
- ◆ ZENworks サーバに保存されているイメージファイルが他の ZENworks サーバで利用できる。利用できない場合は、リストアされた ZENworks サーバからのイメージファイルの配布が失敗します。

重要: ZENworks サーバおよびデータベースを復元する場合、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、最後にバックアップした ZENworks データベースを復元する必要があります。

ZENworks サーバを復元するには、次の手順に従います。

- 1 同じ IP アドレスおよび DNS 名を使用して、ZENworks サーバを再インストールします。
同じ IP アドレスと DNS 名を使用しない場合、サーバに接続するすべてのデバイスを登録する必要があります。

外部データベースに接続されたプライマリサーバがゾーン内に1つしかない場合は、プライマリサーバを再インストールして、インストール中にダミーのデータベースを作成します。内部データベースを作成する必要はありません。

外部データベースに接続されたプライマリサーバがゾーン内に複数ある場合は、障害が発生したプライマリサーバを2番目のプライマリサーバとして再インストールします。インストール中にデータベースの設定を要求されます。

- 2 Windows サーバでは `Novell\ZENworks\conf` ディレクトリに、Linux サーバでは `etc/opt/novell/zenworks` ディレクトリに読み取り / 書き込み権限があることを確認します。

- 3 ZENworks サーバのコマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
zman zenserver-restore path_to_backup_file_to_restore
```

例:

```
zman zenserver-restore c:\zcm_backups\zone_backup.bak
```

または

```
zman zenserver-restore /root/zcm_backups/zone_backup.bak
```

- 4 入力が求められたら、ZENworks の管理者名およびパスワードを入力します。
- 5 要求されたら、バックアップファイルの復号化に使用されるパスフレーズ (最低 10 文字) を入力します。
これは、サーバをバックアップする際にファイルを暗号化するのに使用されたパスフレーズと同じものです。
- 6 (オプション) サーバ上にデータベースがある場合は、ZENworks サーバ情報がリストアされた後にデータベースをリストアします。方法については、[325 ページのセクション 34.4 「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア」](#)を参照してください。
- 7 (オプション) イメージファイルのバックアップがある場合、Windows サーバでは `Novell\Zenworks\work\content-repo\images` ディレクトリに、Linux サーバでは `/var/opt/novell/zenworks/content-repo/images` ディレクトリにファイルをリストアします。
- 8 ZENworks サーバを再起動します。

10.3 認証局のバックアップ

ZENworks 内部の認証局になるように設定されたプライマリサーバ上の認証局ファイルをバックアップする

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman certificate-authority-export (certificate-authority-export/cae) [ オプション ] (ファイルパス)
```

このコマンドによって、ゾーン認証局の主要なペアの資格情報がファイルにエクスポートされます。zman の認証局コマンドの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

- 2 管理ゾーンの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。

- 3 ファイル暗号化のパスフレーズを入力します。

このパスフレーズは必ず覚えておいてください。サーバのリストア時にこのパスフレーズを入力する必要があります。

10.4 認証局の復元

ZENworks 内部の認証局になるよう設定されたプライマリサーバ上の認証局ファイルを復元する

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで、次の `zman` コマンドを入力します。
`zman certificate-authority-import (certificate-authority-import/cai) (ファイルパス)`
このコマンドにより、ゾーン認証局の主要なペアの資格情報がファイルからインポートされます。zman の認証局コマンドの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「[zman\(1\)](#)」を参照してください。
- 2 管理ゾーンの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 3 認証局ファイルをバックアップしたときに指定したファイル暗号化パスフレーズを入力します（「[137 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」](#)」のステップ 3）。
- 4 CaConfig.xml ファイル (Windows では `ZENworks_installation_directory\conf\security\` ディレクトリ、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/security/` ディレクトリにあります) を手動で開いて、<Keystore> タグに `zenca.keystore` の正しいパスが含まれていることを確認します。
`zenca.keystore` ファイルはデフォルトで、Windows では `ZENworks_installation_directory\security` ディレクトリ、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/security/` ディレクトリにあります。
- 5 (条件付き) [ステップ 4](#) で `CaConfig.xml` ファイルの `zenca.keystore` を編集する場合、Novell ZENworks Server サービスを再起動する必要があります。
 - ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. *Novell ZENworks Server* を再起動します。
 - ◆ **Linux の場合** : コマンドプロンプトで「`/etc/init.d/novell-zenlserver restart`」と入力します。

障害復旧

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management で提供されている障害復旧メカニズムについて説明します。このメカニズムは、組織のリスクアセスメントで、そのような措置に対するニーズが識別された場合に、管理ゾーンの最初のプライマリサーバを保護するために役立ちます。

- ◆ 139 ページのセクション 11.1「最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え」
- ◆ 143 ページのセクション 11.2「既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え」
- ◆ 144 ページのセクション 11.3「証明書の再作成」

11.1 最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え

管理ゾーンの最初のプライマリサーバを、既存の 2 番目のプライマリサーバ、または新しいサーバに入れ替えることができます。最初のプライマリサーバを、別のホスト名と IP アドレスを持つ新しいサーバに入れ替える場合、同じ管理ゾーン内の新しいサーバに ZENworks 10 Configuration Management をインストールする必要があります。その結果、新しいサーバが 2 番目のプライマリサーバになります。

最初のプライマリサーバと 2 番目のプライマリサーバには、同じバージョンの ZENworks 10 Configuration Management をインストールしておく必要があります。

注：このシナリオは、次のプラットフォームの組み合わせでテスト済みです。

- ◆ Windows Server* 2003 (32 ビット) から Windows Server 2008 (32 ビット) へ
- ◆ SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 10 (32 ビット) から SLES 10 (32 ビット) へ

ZENworks Reporting Server ではテストされていません。

このシナリオは、Windows と Linux のプラットフォームの組み合わせではサポートされていません。

最初のプライマリサーバを 2 番目のプライマリサーバに入れ替えるには、次の手順に従います。

- 1 最初のプライマリサーバの content-repo ディレクトリが、2 番目のプライマリサーバに複製されていることを確認します。




content-repo ディレクトリは、Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

- 2 (条件付き) 最初のプライマリサーバにアドオンイメージがある場合：

- 2a 2 番目のプライマリサーバの ZENworks コントロールセンターで [バンドル] タブをクリックし、次にイメージングバンドルをクリックします。

[概要] タブが表示されます。

- 2b [アドオンイメージファイル] の隣の [編集] をクリックします。

- [バンドルアドオンイメージ] ウィザードが表示されます。
- 2c [アドオンイメージサーバアドレス] ページで、バンドルに関連付けられた最初のプライマリサーバを選択し、[削除] をクリックします。
 - 2d [Add] をクリックします。
 - 2e [Servers] フォルダの隣の [➡] をクリックし、2 番目のプライマリサーバが見つかるまでフォルダ内のナビゲーションを行います。
 - 2f 2 番目のプライマリサーバを選択して、その名前を [選択済み] リストに表示し、[OK] をクリックします。
 - 2g [完了] をクリックします。
2 番目のプライマリサーバにアドオンイメージが関連付けられ、アドオンイメージのコンテンツが 2 番目のプライマリサーバ上に作成されます。
 - 2h バンドルの [概要] タブで、[Increment Version (バージョン増分)] の下線付きのリンクをクリックして [バージョン] をクリックし、次に [Confirm Version Increment (バージョン増分の確認)] ダイアログボックスで [はい] をクリックします。
- 3 (条件付き) 最初のプライマリサーバに ZENworks Imaging バンドルがある場合、バンドルを 2 番目のプライマリサーバにコピーします。
- 3a .zmg の拡張子が付いたすべてのファイルを最初のプライマリサーバの /content-repo/images ディレクトリから、2 番目のプライマリサーバの /content-repo/images ディレクトリに手動でコピーします。
 - 3b プライマリサーバの ZENworks コントロールセンターで [バンドル] タブをクリックし、イメージングバンドルをクリックします。
 - 3c [アクション] タブをクリックします。
 - 3d ZENworks イメージ操作をクリックします。
[アクション編集] ダイアログボックスが表示されます。
 - 3e [ZENworks イメージ] フィールド内の、 をクリックします。
[サーバとパス情報] ダイアログボックスが表示されます。
 - 3f [サーバオブジェクト]、[IP]、または [DNS] フィールド内の、 をクリックして、2 番目のプライマリサーバをブラウザおよび選択します。
 - 3g [サーバ上のファイルパス] フィールド内の、 をクリックして、image.zmg ファイルをブラウザおよび選択します。
- 4 認証局役割をエクスポートします。
- 4a 最初のプライマリサーバの認証局の信頼できるバックアップを作成します。
認証局のバックアップ方法の詳細は、[137 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」](#) を参照してください。
-
- 重要 :** zman certificate-authority-export コマンドに -d オプションを指定し、ローカルサーバの認証局役割を削除します。
-
- 4b バックアップした認証局を 2 番目のプライマリサーバで復元します。
バックアップした認証局の復元方法の詳細は、[138 ページのセクション 10.4 「認証局の復元」](#) を参照してください。

- 5 管理ゾーンレベルのデフォルト最近接サーバルールで、最初のプライマリサーバを移動してサーバリスト内の最後のエントリにします。
 - 5a ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
 - 5b [管理ゾーンの設定] パネルで、[インフラ管理] > [最近接サーバのデフォルトルール] の順にクリックします。
 - 5c [コレクションサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
 - 5d [コンテンツサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
 - 5e [設定サーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
 - 5f [OK] をクリックします。
- 6 (条件付き) 追加の最近接サーバルールが設定されている場合は、それらのルールから最初のプライマリサーバを削除します。
 - 6a ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
 - 6b [管理ゾーンの設定] パネルで、[インフラ管理] > [最近接サーバルール] の順にクリックします。
 - 6c 最近接サーバルールを選択後、[編集] をクリックします。
[Rule Construction(ルール構築)] ダイアログボックスが表示されます。
 - 6d [コレクションサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、次に、[削除] をクリックします。
 - 6e [コンテンツサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、次に、[削除] をクリックします。
 - 6f [設定サーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、次に、[削除] をクリックします。
 - 6g [OK] を2回クリックします。
- 7 管理ゾーン内のすべてのデバイス(プライマリサーバ、サテライト、および管理対象デバイス)を更新して、それらが新しい最近接サーバルールを取得するようにします。
- 8 (条件付き) 次のシナリオでデータベースを別なデバイスに移動します。
 - ◆ 内部 ZENworks データベース(組み込み Sybase SQL* Anywhere)を使用している。
 - ◆ 最初のプライマリサーバをホストしているデバイス上にインストールされた外部データベースを使用しており、プライマリサーバのアンインストール後はデバイスを使用する予定がない。データベースを別なデバイスに移動するには、次の手順に従います。
 - 8a (条件付き) 外部データベースを使用している場合、データベースの信頼できるバックアップがあることを確認します。
 - 8b データベースの資格情報を取得します。
内部データベースの資格情報を取得するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

```
zman dgc -U administrator_name -P administrator_password
```

または

```
zman database-get-credentials -U administrator_name -P administrator_password
```

外部データベースの資格情報を取得するには、データベース管理者にお問合せください。

- 8c** 最初のプライマリサーバからデータベース役割を削除します。

8c1 データベースにログインします。

8c2 SQL エディタで、次の SQL クエリを実行して最初のプライマリサーバのデータベース役割エントリを `zZENServerRoles` 表から削除します。

```
delete from zZENServerRoles where Roles='Database';
```

8c3 SQL エディタで、次の SQL コマンドを実行します。

```
commit;
```

- 8d** データベースが最初のプライマリサーバのデバイスと同じデバイスにインストールされている場合は、そのデータベースを移動します。

内部 Sybase: 内部 Sybase データベースから外部 Sybase データベースにデータを移動する方法の詳細は、[326 ページのセクション 34.5 「組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動」](#)を参照してください。

外部 Sybase: 外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースにデータを移動する方法の詳細は、[348 ページのセクション 35.3 「ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへのデータの移動」](#)を参照してください。

MS SQL: 新しい MS SQL データベースにデータを移動する方法の詳細は、MS SQL のマニュアルを参照してください。後から [352 ページのセクション 35.5 「別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」](#)に記載の手順を実行してください。

Oracle: Oracle データベースから別の Oracle データベースにデータを移動する方法の詳細は、Oracle のマニュアルを参照してください。後から [353 ページのセクション 35.6 「別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」](#)に記載の手順を実行してください。

- 9** 最初のプライマリサーバの下のすべてのサテライトを [サーバの階層] から削除します。

ZENworks コントロールセンターに一覧表示されているサーバ階層からサテライトを削除する方法の詳細は、[102 ページのセクション 7.4 「サーバ階層からのサテライトの削除」](#)を参照してください。

- 10** 2 番目のプライマリサーバのプロンプトで次のコマンドのいずれかを入力して、最初のプライマリサーバをリタイアします。

```
zman zsret first_primary_server_object_name
```

または

```
zman zenserver-retire first_primary_server_object_name
```

`zman` の詳細については、サーバの `zman` マニュアルページ (`man zman`) を表示するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「`zman(1)`」を参照してください。

- 11 管理ゾーン内のすべての操作が問題なく機能することを確認したら、最初のプライマリサーバから ZENworks 10 Configuration Management をアンインストールします。

ZENworks 10 Configuration Management をアンインストールする方法については、『[ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド](#)』の「ZENworks ソフトウェアのアンインストール」を参照してください。

11.2 既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え

管理ゾーンに 1 つのプライマリサーバしかなく、プライマリサーバをホストしているデバイスを、古いデバイスと同じホスト名と IP アドレスで新しいデバイスに入れ替える場合、プライマリサーバを新しいデバイスに移動する必要があります。

既存のプライマリサーバと新しいプライマリサーバには、同じバージョンの ZENworks 10 Configuration Management をインストールしておく必要があります。

注：このシナリオは、次のプラットフォームの組み合わせでテスト済みです。

- ◆ Windows Server* 2003 (32 ビット) から Windows Server 2008 (32 ビット) へ
- ◆ SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 10 (32 ビット) から SLES 10 (32 ビット) へ

ZENworks Reporting Server ではテストされていません。

このシナリオは、Windows と Linux のプラットフォームの組み合わせではサポートされていません。

- 1 既存の ZENworks サーバの信頼できるバックアップを作成します。
ZENworks サーバのバックアップを作成する方法の詳細は、[135 ページのセクション 10.1 「ZENworks サーバのバックアップ」](#)を参照してください。
- 2 プライマリサーバの認証局の信頼できるバックアップを作成します。
認証局のバックアップ方法の詳細は、[137 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」](#)を参照してください。
- 3 (条件付き) 次のいずれかのシナリオで、データベースの信頼できるバックアップを作成します。
 - ◆ 内部 ZENworks データベース (組み込み Sybase SQL Anywhere) を使用している。
 - ◆ プライマリサーバをホストしているデバイス上にインストールされた外部データベースを使用しており、プライマリサーバのアンインストール後はそのデバイスを使用する予定がない。

内部データベースのバックアップ方法の詳細は、[319 ページのセクション 34.3 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#)を参照してください。

外部データベースのバックアップを作成するには、そのデータベースのマニュアルを参照してください。

- 4 プライマリサーバのすべての ZENworks サービスを中止します。
Windows 上で ZENworks サービスを中止する方法の詳細は、[85 ページのセクション 6.1.3 「ZENworks サービスの停止」](#)を参照してください。Linux 上で ZENworks サービスを中止する方法の詳細は、[86 ページのセクション 6.2.3 「ZENworks サービスの停止」](#)を参照してください。

- 5 プライマリサーバの content-repo ディレクトリの信頼できるバックアップを作成します。
content-repo ディレクトリは、Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。
- 6 デバイスをネットワークから切断します。
- 7 新しいサーバのホスト名と IP アドレスが古いプライマリサーバのそれらと同じであることを確認します。
- 8 新しいサーバに、ZENworks 10 Configuration Management を古いプライマリサーバのものと同じ管理ゾーン名とポートでインストールします。
ZENworks 10 Configuration Management をアンインストールする方法については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「ZENworks サーバのインストール」を参照してください。
- 9 新しいプライマリサーバで次を実行してください。
 - 9a バックアップした ZENworks サーバを復元します。
ZENworks サーバの復元方法の詳細は、136 ページのセクション 10.2 「ZENworks サーバの復元」を参照してください。
 - 9b バックアップした認証局を復元します。
認証局の復元方法の詳細は、138 ページのセクション 10.4 「認証局の復元」を参照してください。
 - 9c (条件付き) バックアップしたデータベースを復元します。
内部 ZENworks データベースの復元方法の詳細は、325 ページのセクション 34.4 「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア」を参照してください。
 - 9d バックアップした content-repo ディレクトリを Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` ディレクトリ、または Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにコピーします。
- 10 新しいサーバが正しく稼働していることを確認してください。続いて、古いデバイスから ZENworks Configuration Management をアンインストールします。
ZENworks 10 Configuration Management をアンインストールする方法については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「ZENworks ソフトウェアのアンインストール」を参照してください。

11.3 証明書の再作成

次の場合に、証明書を再作成する必要があります。

- ◆ 145 ページのセクション 11.3.1「プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更」
- ◆ 148 ページのセクション 11.3.2「ZENworks 10 Configuration Management のインストール後のプライマリサーバの IP アドレスの変更」
- ◆ 149 ページのセクション 11.3.3「ZENworks 10 Configuration Management をインストール後のプライマリサーバの DNS 名または IP アドレスと DNS 名の変更」

重要 : ZENworks 10 Configuration Management SP3 では現在、プライマリサーバ上で外部証明書を内部証明書に変更することはサポートされていません。

11.3.1 プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更

Windows または Linux プライマリサーバで、既存の内部証明書を外部証明書に変更、または期限切れのサーバ証明書を新しい外部証明書と交換する場合、次のタスクを実行して新しい外部証明書を作成します。

- 1 内部証明書を外部証明書に変更する前に、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバで、次の信頼できるバックアップを取得してください。
 - ◆ **Content-Repo Directory:** content-repo ディレクトリはデフォルトで、Windows では `ZENworks_installation\work` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。
content-repo ディレクトリにある images ディレクトリが正常にバックアップされたことを確認します。
 - ◆ **認証局:** 認証局のバックアップ方法の詳細は、[137 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」](#) を参照してください。
 - ◆ **組み込みデータベース:** 組み込みデータベースのバックアップ方法の詳細は、[319 ページのセクション 34.3 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#) を参照してください。
- 2 プライマリサーバのホスト名を件名とすることで、CSR (証明書署名要求) を作成します。
CSR を作成する方法については、『*ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド*』の「[外部認証局の作成](#)」を参照してください。
- 3 管理ゾーン内のすべてのデバイスで、次の順序で既存の証明書を新しく作成した外部証明書と交換します。
 1. [145 ページの「プライマリサーバで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する」](#)
 2. [146 ページの「サテライトで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する」](#)
 3. [148 ページの「管理対象デバイスで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する」](#)

プライマリサーバで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する

管理ゾーン内の、証明書を変更したいすべてのプライマリサーバで、次のタスクを実行します。

- 1 サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、[ステップ 2](#) で IP アドレスと DNS 名を変更したプライマリサーバで証明書を再設定します。

```
novell-zenworks-configure -c SSL -Z
```

表示される指示に従います。
- 2 次のコマンドを実行して、すべての ZENworks サービスを再起動します。

```
novell-zenworks-configure -c Start
```

デフォルトで、すべてのサービスが選択されます。[アクション] として、[再起動] を選択する必要があります。
- 3 サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、プライマリサーバにインストールした ZENworks Adaptive Agent を管理ゾーンから登録解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

- 4 ZENworks キャッシュをクリアします。

Windows の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
zac cc  
delete ZENworks_installation_directory>\Novell\ZENworks\cache\zmd\ /s
```

Linux の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
zac cc  
rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache
```

- 5 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。

- 6 サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、プライマリサーバにインストールした ZENworks Adaptive Agent を正しいプライマリサーバに登録します。

```
zac reg https://IP_address_of_Primary_Server:port
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

- 7 initial-web-service ファイルは、Windows では

ZENworks_installation_directory\novell\ZENworks\conf ディレクトリ、Linux では /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。最初の行を次のように変更します。

```
https://localhost:port_number;https://127.0.0.1:port_number
```

ここで、port_number はサーバが実行しているポートです。

- 8 zac cc コマンドを実行して、ZENworks キャッシュをクリアします。

- 9 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。

- 10 すべてのデフォルト展開パッケージおよびカスタム展開パッケージを再作成します。
デフォルト展開パッケージ: サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z
```

カスタム展開パッケージ: サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z
```

サテライトで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する

証明書を変更したプライマリサーバに登録されている各サテライトのコマンドプロンプトで、次のタスクを実行します。

- 1 次のコマンドを実行して、ローカルにデバイスの登録を解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

2 ZENworks キャッシュをクリアします。

Windows の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
zac cc  
delete c:\program files\novell\zenworks\cache\zmd /s
```

Linux の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
zac cc  
rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache
```

3 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。

4 プロキシ DHCP サービスをすべてのサテライトで再起動します。

5 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

```
zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name:port_number
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

6 (条件付き) 管理ゾーンのサテライトに認証の役割が設定されている場合、次のタスクを実行します。

6a デバイスから認証の役割を削除します。

デバイスから認証の役割を削除する方法については、101 ページのセクション 7.3 「サテライトからの役割の削除」を参照してください。

6b サテライトのプロンプトに次のコマンドを入力して、新しい外部証明書でサテライトを設定します。

```
zac import-authentication-cert(iac)[-pk <private-key.der>] [-c <signed-servercertificate.der>] [-ca <signing-authority-public-certificate.der>] [-ks<keystore.jks>] [-ksp <keystore-pass-phrase>] [-a <signed-cert-alias>] [-ks<signed-cert-passphrase>] [-u username] [-p password]
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

6c デバイスに認証の役割を追加します。

デバイスに認証の役割を追加する方法については、96 ページのセクション 7.2.1 「認証の役割」を参照してください。

6d (条件付き) サテライトに認証の役割のみが設定されていて、デバイスが最近接ルールに含まれている場合、最近接ルールを再設定してサテライトを対象に含めます。

1. デフォルトの最近接ルールで、デバイスが [認証サーバ] リストに正しく配置されていることを確認します。必要に応じて、リスト内でデバイスの配置を変更します。
2. (オプション) その他のデフォルト以外の最近接サーバルールがある場合は、デバイスを手動で追加します。

最近接ルールの処理方法については、113 ページの第 9 章 「最近接サーバルール」を参照してください。

管理対象デバイスで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する

変更された証明書を持つプライマリサーバに登録されている各管理対象デバイスのコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

- 1 管理対象デバイスのプロンプトで次のコマンドを入力して、すべての管理対象デバイスをローカルに登録解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

- 2 各管理対象デバイスのプロンプトで次のコマンドを入力して、キャッシュをクリアして ZENworks_installation_directory\Novell\ZENworks\cache\zmd ディレクトリの内容を削除します。

```
zac cc
```

```
delete ZENworks_installation_directory>\Novell\ZENworks\cache\zmd\ /s
```

- 3 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。
- 4 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

```
zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name:port_number
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

11.3.2 ZENworks 10 Configuration Management のインストール後のプライマリサーバの IP アドレスの変更

ZENworks 10 Configuration Management SP3 をインストールした後にプライマリサーバの IP アドレスを変更したい場合、および証明書の CN に IP アドレスが設定されていない場合は、次の手順に従ってプライマリサーバの IP アドレスを変更します。

注：このシナリオは、Windows プライマリサーバおよび組み込み Sybase データベースでのみテスト済みです。このセットアップでは、DNS と DHCP サーバは同じデバイス上に設定されています。

- 1 プライマリサーバの IP アドレスを変更する前に、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバで、次の信頼できるバックアップを取得してください。
 - **Content-Repo Directory:** content-repo ディレクトリはデフォルトで、Windows では ZENworks_installation_work に、Linux では /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。
content-repo ディレクトリにある images ディレクトリが正常にバックアップされたことを確認します。
 - **認証局:** 認証局のバックアップ方法の詳細は、137 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」を参照してください。

- ◆ **組み込みデータベース** : 組み込みデータベースのバックアップ方法の詳細は、[319 ページのセクション 34.3 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#) を参照してください。
- 2 プライマリサーバの IP アドレスを変更します。

重要 : サーバの DNS 名は変更しないでください。

 - 3 サーバの新しい IP アドレスが DNS サーバ上の既存の DNS 名に正しくマッピングされていることを確認します。
 - 4 サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、すべての ENworks サービスを再起動します。
`novell-zenworks-configure -c Start`
デフォルトで、すべてのサービスが選択されます。[アクション] として、[再起動] を選択する必要があります。
 - 5 すべてのデフォルト展開パッケージおよびカスタム展開パッケージを再作成します。
デフォルト展開パッケージ : サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。
`novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z`
カスタム展開パッケージ : サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。
`novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z`
 - 6 **ステップ 2** で IP アドレスを変更したプライマリサーバにデータベースがある場合、すべての 2 台目のプライマリサーバのデータベースサーバアドレスを変更する必要があります。すべての 2 台目のプライマリサーバで、`ZENworks_Installation_Directory\Novell\ZENworks\conf\datamodel\zdm.xml` のデータベースサーバアドレスの値を変更し、1 台目のプライマリサーバの新しい IP アドレスを参照するようにします。
 - 7 ZENworks Adaptive Agent を再起動します。
 - 8 プロキシ DHCP サービスをすべてのサテライトで再起動します。

11.3.3 ZENworks 10 Configuration Management をインストール後のプライマリサーバの DNS 名または IP アドレスと DNS 名の変更

ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストール後にプライマリサーバの DNS 名のみを変更したい、または IP アドレスと DNS 名の両方を変更したい場合で、証明書の CN に完全修飾 DNS が設定されている場合には、次の手順に従ってプライマリサーバの DNS 名のみを変更するか、または IP アドレスと DNS 名の両方を変更します。

注: このシナリオは、Windows プライマリサーバおよび組み込み Sybase データベースでのみテスト済みです。このセットアップでは、DNS と DHCP サーバは同じデバイス上に設定されています。

- 1 プライマリサーバの IP アドレスを変更する前に、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバで、次の信頼できるバックアップを取得してください。
 - ◆ **Content-Repo Directory:** content-repo ディレクトリはデフォルトで、Windows では `ZENworks_installation_work` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。
content-repo ディレクトリにある images ディレクトリが正常にバックアップされたことを確認します。
 - ◆ **認証局:** 認証局のバックアップ方法の詳細は、[137 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」](#) を参照してください。
 - ◆ **組み込みデータベース:** 組み込みデータベースのバックアップ方法の詳細は、[319 ページのセクション 34.3 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#) を参照してください。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ◆ プライマリサーバの IP アドレスと DNS 名を変更します。
 - ◆ プライマリサーバの DNS 名のみを変更します。
- 3 プライマリサーバを再起動します。
- 4 プライマリサーバの DNS エントリが新しい DNS 名で更新されたことを確認します。
- 5 プライマリサーバのホスト名を件名とすることで、CSR (証明書署名要求) を作成します。
CSR を作成する方法については、『[ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド](#)』の「[外部認証局の作成](#)」を参照してください。
- 6 (条件付き) DNS 名を変更したプライマリサーバがデータベースをホストし、データベースサーバ IP アドレスまたは DNS 名が変更されている場合は、すべてのプライマリサーバで次の操作を行います。
 - 6a データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名が `zdm.xml` ファイルで正しく設定されたことを確認します。このファイルは、Windows では `ZENworks_Installation_Directory\Novell\ZENworks\conf\datamodel\` ディレクトリ、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel/` ディレクトリにあります。
 - 6b 次のサービスを起動します。
 - ◆ Novell ZENworks サーバ
 - ◆ Novell ZENworks Loader
 - ◆ Novell ZENworks Agent Service
- 7 管理ゾーン内のすべてのデバイスで、次の順序で既存の証明書を新しく作成した外部証明書と交換します。
 1. [151 ページの「プライマリサーバで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する」](#)
 2. [152 ページの「サテライトで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する」](#)
 3. [153 ページの「管理対象デバイスで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する」](#)

プライマリサーバで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する

管理ゾーン内の、証明書を変更したいすべてのプライマリサーバで、次のタスクを実行します。

- 1 サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、[150 ページのステップ 2](#)で IP アドレスと DNS 名を変更したプライマリサーバで証明書を再設定します。

```
novell-zenworks-configure -c SSL -Z
```

表示される指示に従います。

- 2 次のコマンドを実行して、すべての ZENworks サービスを再起動します。

```
novell-zenworks-configure -c Start
```

デフォルトで、すべてのサービスが選択されます。[アクション] として、[再起動] を選択する必要があります。

- 3 サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、プライマリサーバにインストールした ZENworks Adaptive Agent を管理ゾーンから登録解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zac\(1\)](#)」を参照してください。

- 4 ZENworks キャッシュをクリアします。

Windows の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
zac cc
```

```
delete ZENworks_installation_directory>\Novell\ZENworks\cache\zmd\ /s
```

Linux の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
zac cc
```

```
rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache
```

- 5 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。

- 6 サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、プライマリサーバにインストールした ZENworks Adaptive Agent を正しいプライマリサーバに登録します。

```
zac reg https://IP_address_of_Primary_Server:port
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zac\(1\)](#)」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

- 7 initial-web-service ファイルは、Windows では

`ZENworks_installation_directory\novell\ZENworks\conf` ディレクトリ、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。最初の行を次のように変更します。

```
https://localhost:port_number;https://127.0.0.1:port_number
```

ここで、`port_number` はサーバが実行しているポートです。

- 8 `zac cc` コマンドを実行して、ZENworks キャッシュをクリアします。

- 9 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。

- 10 すべてのデフォルト展開パッケージおよびカスタム展開パッケージを再作成します。

デフォルト展開パッケージ: サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z
```

カスタム展開パッケージ: サーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z
```

サテライトで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する

証明書を変更したプライマリサーバに登録されている各サテライトのコマンドプロンプトで、次のタスクを実行します。

- 1 次のコマンドを実行して、ローカルにデバイスの登録を解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zac\(1\)](#)」を参照してください。

- 2 ZENworks キャッシュをクリアします。

Windows の場合: 次のコマンドを実行します。

```
zac cc
```

```
delete c:\program files\novell\zenworks\cache\zmd /s
```

Linux の場合: 次のコマンドを実行します。

```
zac cc
```

```
rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache
```

- 3 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。
- 4 プロキシ DHCP サービスをすべてのサテライトで再起動します。
- 5 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

```
zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name:port_number
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zac\(1\)](#)」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

- 6 (条件付き) 管理ゾーンのサテライトに認証の役割が設定されている場合、次のタスクを実行します。

- 6a デバイスから認証の役割を削除します。

デバイスから認証の役割を削除する方法については、[101 ページのセクション 7.3 「サテライトからの役割の削除」](#)を参照してください。

- 6b サテライトのプロンプトに次のコマンドを入力して、新しい外部証明書でサテライトを設定します。

```
zac import-authentication-cert(iac)[-pk <private-key.der>] [-c <signed-servercertificate.der>] [-ca <signing-authority-public-certificate.der>] [-ks<keystore.jks>] [-ksp <keystore-pass-phrase>] [-a <signed-cert-alias>] [-ks<signed-cert-passphrase>] [-u username] [-p password]
```


zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

6c デバイスに認証の役割を追加します。

デバイスに認証の役割を追加する方法については、96 ページのセクション 7.2.1 「認証の役割」を参照してください。

6d (条件付き) サテライトに認証の役割のみが設定されていて、デバイスが最近接ルールに含まれている場合、最近接ルールを再設定してサテライトを対象に含めます。

1. デフォルトの最近接ルールで、デバイスが [認証サーバ] リストに正しく配置されていることを確認します。必要に応じて、リスト内でデバイスの配置を変更します。
2. (オプション) その他のデフォルト以外の最近接サーバルールがある場合は、デバイスを手動で追加します。

最近接ルールの処理方法については、113 ページの第 9 章「最近接サーバルール」を参照してください。

管理対象デバイスで既存の証明書を新しい外部証明書と交換する

変更された証明書を持つプライマリサーバに登録されている各管理対象デバイスのコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

- 1 管理対象デバイスのプロンプトで次のコマンドを入力して、すべての管理対象デバイスをローカルに登録解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

- 2 各管理対象デバイスのプロンプトで次のコマンドを入力して、キャッシュをクリアして ZENworks_installation_directory\Novell\ZENworks\cache\zmd ディレクトリの内容を削除します。

```
zac cc
```

```
delete ZENworks_installation_directory>\Novell\ZENworks\cache\zmd\ /s
```

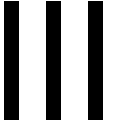
- 3 ZENworks Adaptive Agent Service を再起動します。
- 4 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

```
zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name:port_number
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

ZENworks Adaptive Agent



ZENworks[®] Adaptive Agent は、ネットワークを介したデバイスの管理を可能にする Novell[®] ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェアの一部です。ZENworks Adaptive Agent は、通常、Adaptive Agent と呼ばれ、個々のデバイスにアクセスしなくても次の操作を行えるサービスを提供します。

- ◆ ソフトウェア、パッチ、およびシステム更新をデバイスに配布します。
- ◆ デバイスの動作を決定するポリシーを管理する。
- ◆ デバイスのハードウェアとソフトウェアのインベントリを取得する。
- ◆ リモートの場所からデバイスにアクセスしてトラブルシューティングし、ハードウェアとソフトウェアの問題を修正する。
- ◆ コンテンツの配布、デバイスのイメージング、インベントリとデバイスメッセージの収集を支援するサテライトとして機能します。

各サービスは、Adaptive Agent のプラグインモジュールを使用することで提供されます。ZENworks コントロールセンターを使用すると、デバイス上でどのモジュールをアクティブにするか設定できるので、それらのデバイスでどのサービスを利用可能にするか制御できます。他にもさまざまな Adaptive Agent の設定を行うことができます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [157 ページの第 12 章「デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示」](#)
- ◆ [159 ページの第 13 章「特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索」](#)
- ◆ [161 ページの第 14 章「展開後の Adaptive Agent の設定展開後」](#)
- ◆ [173 ページの第 15 章「ZENworks Explorer の設定」](#)
- ◆ [177 ページの第 16 章「デバイスからの ZENworks プレエージェントの削除」](#)
- ◆ [179 ページの第 17 章「ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定」](#)
- ◆ [181 ページの第 18 章「Adaptive Agent のトラブルシューティング」](#)

デバイス上のAdaptive Agentソフトウェアとモジュールのバージョン表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] をクリックすると、サーバの Adaptive Agent ソフトウェアのバージョンが表示されます。
または
[ワークステーション] をクリックすると、ワークステーションの Adaptive Agent ソフトウェアのバージョンが表示されます。
- 3 該当するデバイスの下線付きリンクをクリックします。
- 4 [全般] セクションの [ZENworks エージェントバージョン] の行にバージョンが表示されます。
- 5 (オプション) 下線付きのバージョンをクリックすると、そのデバイスにインストールされた ZENworks エージェントモジュールとそのバージョン番号のリストが表示されます。
デバイスの [設定] ページで ZENworks エージェント設定を使用して、ZENworks モジュールをアンインストール、有効化、または無効化することができます。詳細については、[166 ページの「エージェント機能」](#)を参照してください。

特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検 索

アップグレードやトラブルシューティングを行う場合は、高度な検索機能を使用して、ZENworks 管理ゾーンのデバイスのうち、特定の Adaptive Agent ソフトウェアがインストールされているデバイスのリストを表示することができます。

- 1 すべてのデバイス (サーバとワークステーション)、サーバ、ワークステーションのいずれかで特定の Adaptive Agent がインストールされたデバイスを検索するのによって、ZENworks コントロールセンターで次のいずれかの手順を実行します。
 - ◆ すべてのデバイスで検索するには、[デバイス] タブをクリックします。
 - ◆ すべてのサーバで検索するには、[デバイス] タブ > [サーバ] の順にクリックします。
 - ◆ すべてのワークステーションで検索するには、[デバイス] タブ > [ワークステーション] の順にクリックします。
- 2 [検索] セクションで、[高度な検索] をクリックします。
- 3 [追加] をクリックすると [検索条件] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [フィルタの追加] をクリックし、ドロップダウンリストから [デバイス/エージェントバージョン] をクリックして、次に [OK] をクリックします。

展開後のAdaptive Agentの設定展開後

14

デフォルトでは、ZENworks Adaptive Agent は、ZENworks コントロールセンターの [エージェント機能] パネルで選択された機能とともに展開されます。展開時にエージェント機能をカスタマイズする方法については、「[展開前の機能のカスタマイズ](#)」を参照してください。展開後は、Adaptive Agent 機能のアンインストール/有効化/無効化の選択、エージェントのキャッシュの設定、再試行設定値の設定、およびユーザによるエージェントのアンインストールを可能にするかどうかの選択を行うことができます。

以下の3つのレベルに設定できます。

- ◆ **管理ゾーン**：この設定は管理ゾーンの中のすべてのデバイスに適用されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：この設定は、フォルダまたはそのサブフォルダの中に含まれているすべてのデバイスに適用されます。管理ゾーンの設定を上書きします。
- ◆ **デバイス**：この設定は、それが設定されたデバイスにのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルでの設定を上書きします。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [161 ページのセクション 14.1 「管理ゾーンレベルでのエージェント設定の実行」](#)
- ◆ [163 ページのセクション 14.2 「デバイスフォルダレベルで Agent の設定を実行」](#)
- ◆ [163 ページのセクション 14.3 「デバイスレベルでのエージェント設定の実行」](#)
- ◆ [164 ページのセクション 14.4 「ZENworks エージェント設定」](#)

14.1 管理ゾーンレベルでのエージェント設定の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	システム更新	アセット管理
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ					
ローカルデバイスのログ					
デバイスの更新スケジュール					
ZENworksエージェント					
システム更新エージェント					
登録					
ZENworks Explorer設定					
システム変数					
起動前サービス					
プライマリユーザ					
プライマリワークステーション					
ダイナミックグループの更新スケジュール					
Wake-on-LAN					
リモート管理					
ディスクバリエーション					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートングサービス					
アセット管理					
バッチ管理					

3 [ZENworks エージェント] をクリックします。

ZENworksエージェント	
ZENworksエージェントを設定します。	
全般	
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにエージェントのアンインストールを許可します	
キャッシュ保持期間:	336 時間
キャッシュオフラインのしきい値:	90 日
ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:	20
再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加):	10 秒
再試行要求の最大待機時間:	20 秒
エージェント機能	
バンドル管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ポリシー管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
アセット管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
イメージ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
バッチ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
リモート管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ユーザ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
再起動動作の選択(必要な場合):	
<input checked="" type="radio"/> ユーザに再起動を求める(デフォルト)	
<input type="radio"/> デバイスを再起動しない	
<input type="radio"/> 強制的にデバイスを再起動	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="リセット"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

4 フィールドに入力します。詳細については、164 ページのセクション 14.4 「ZENworks エージェント設定」を参照してください。

5 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

14.2 デバイスフォルダレベルで Agent の設定を実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] フォルダ [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するフォルダの隣にある [詳細] をクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[デバイス管理] をクリックし、[ZENworks エージェント] をクリックします。

ZENworks エージェント

ZENworks エージェントを設定します。

現在: (システム) (設定の [上書き](#))

全般

ユーザにエージェントのアンインストールを許可します

キャッシュ保持期間: 336 時間

キャッシュオフマンのしきい値: 90 日

ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数: 20

再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加): 10 秒

再試行要求の最大待機時間: 20 秒

エージェント機能

Remote Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Policy Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Image Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Asset Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Bundle Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
User Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Patch Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可

再起動動作の選択(必要な場合):

ユーザに再起動を求める(デフォルト)

デバイスを再起動しない

強制的にデバイスを再起動

閉じる

- 5 フィールドに入力します。詳細については、[164 ページのセクション 14.4 「ZENworks エージェント設定」](#)を参照してください。
- 6 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

14.3 デバイスレベルでのエージェント設定の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するデバイスをクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[デバイス管理] をクリックし、その後 [ZENworks エージェント] をクリックします。

ZENworks エージェント

ZENworks エージェントを設定します。

現在: [システム] [設定の [上書き](#)]

全般

ユーザにエージェントのアンインストールを許可します

キャッシュ保持期間: 時間

キャッシュオフマンのしきい値: 日

ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:

再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加): 秒

再試行要求の最大待機時間: 秒

エージェント機能

Remote Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Policy Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Image Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Asset Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Bundle Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
User Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
Patch Management	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可

再起動動作の選択(必要な場合):

ユーザに再起動を求める(デフォルト)

デバイスを再起動しない

強制的にデバイスを再起動

5 フィールドに入力します。詳細については、[164 ページのセクション 14.4 「ZENworks エージェント設定」](#)を参照してください。

6 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

14.4 ZENworks エージェント設定

- ◆ [164 ページのセクション 14.4.1 「一般」](#)
- ◆ [166 ページのセクション 14.4.2 「エージェント機能」](#)

14.4.1 一般

ZENworks Adaptive Agent のキャッシュの設定、Adaptive Agent のアンインストール、および再試行の設定をユーザに許可するかどうかを設定できます。

デバイスフォルダまたはデバイスで ZENworks エージェント設定を構成する場合、[[設定の上書き](#)] をクリックします。

次の設定を指定できます。

- ◆ **ユーザへのエージェントのアンインストールの許可**: ユーザが ZENworks Adaptive Agent をアンインストールできるようにしたい場合は、このオプションを有効にします。このオプションは、ローカルアンインストールの場合のみ適用できます。
- ◆ **キャッシュ保持時間**: ZENworks Adaptive Agent のキャッシュディレクトリには、エージェントが使用するコンテンツデータが含まれます。キャッシュエントリと呼ばれるデータの集まりは、キャッシュデータベースに保存されています。

キャッシュデータベースにキャッシュエントリが追加されると、作成時間および満了時間が割り当てられます。作成時間は、エントリがデータベースに追加された時間を単に表わします。満了時間は、作成時間に [[キャッシュ保持期間](#)] の設定で指定され

た時間 (デフォルトでは 336 時間または 14 日) を足した時間です。たとえば、6 月 10 日午後 3 時にキャッシュエントリが追加されたとします。デフォルトの [キャッシュ保持期間] の設定を使用すると、有効期限は 6 月 24 日の午後 3 時に設定されます。

Agent は、エントリの有効期限になるまではキャッシュエントリを更新しようとはしません。満了時間を過ぎると、エージェントが次回 ZENworks サーバに情報をリフレッシュするためにコンタクトすると、エージェントによりキャッシュエントリが更新されます。

注: 期限切れのキャッシュエントリの更新は、コンテンツ関連のキャッシュエントリ (バンドル、ポリシー、環境設定、登録設定など) に関してのみ行われます。イベント関連のキャッシュエントリ (リモート管理、インベントリ、レポートングなど) の更新は、デバイス上でイベントが発生した時にのみ行われます。

[キャッシュ保持時間] 設定を長くすると、キャッシュエントリのリフレッシュ頻度が低くなるので、ネットワークに対するトラフィックの負荷を軽減できます。設定を短くすると、情報はより新しくなりますが、トラフィックの負荷が増大します。

この設定によって影響されるのは、エージェントがキャッシュエントリに対する更新を要求する頻度のみです。ZENworks コントロールセンターで情報が変更された場合、ZENworks サーバからエージェントに情報がプッシュされるので、キャッシュエントリをその満了時間よりも前に更新することもできます。

- ◆ **キャッシュオフアンのしきい値:** ある期間にわたって、エントリをキャッシュデータベースに挿入することはできませんが、削除はできません。このため、キャッシュが必要以上に大きくなってしまう可能性があります。

オフアンとは、キャッシュに挿入されたけれども [キャッシュオフアンのしきい値] 設定で指定された日数のうちにアクセスされなかったエントリのことです。たとえば、7 月 1 日の午前 10 時にキャッシュエントリがアクセスされたとします。デフォルトの [キャッシュオフアンのしきい値] の設定 (30 日) を使用しない場合、7 月 31 日の午前 10 時以前に再度アクセスされないと、エントリはオフアンになります。

[キャッシュオフアンのしきい値] 設定を長くすると、頻繁にアクセスされない情報がキャッシュデータベースから削除されないようにすることができます。設定を短くすると、キャッシュサイズを削減できます。

- ◆ **ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:** サーバがビジー状態ではなく不正であると見なす前に、ビジー状態のサーバに対して、エージェントが要求を再試行する回数を指定できます。

デフォルト値は 15 です。指定可能な最大値は 20 です。

- ◆ **再試行要求の初回待機時間:** [再試行要求の初回待機時間] 設定では、エージェントがサーバからビジーの応答を受信してから Web サービス要求は再試行するまでに待機する初期時間を指定できます。待機時間は、ビジーの応答ごとに 1 秒増加します。デフォルト設定は、4 秒です。設定可能な最大値は 10 秒です。後続の要求はそれぞれ 1 秒増加します。

たとえば、この設定をデフォルトのまま残したとします (4 秒)。サーバからビジーの応答を受信すると、エージェントは最初の再試行に対して 4 秒待機します。サーバがまだビジー状態の場合、2 回目の再試行を実行するまでにエージェントはさらに 5 秒 (4 + 1) 待機します。3 回目の再試行は、最初の再試行から 15 秒後 (4 + 5 + 6) です。時間は、[再試行要求の最大待機時間] 設定で指定されている値に達するまで増加します。再試行は、[ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数] 設定で指定されている値に達すると停止します。

- ◆ **再試行要求の最大待機時間**：サーバからビジーの応答を受け取った後、Web サービス要求を再試行するまでの最大待機時間を指定します。
デフォルト設定は、16 秒です。指定可能な最大値は 20 秒です。

14.4.2 エージェント機能

ZENworks[®] Adaptive Agent は、モジュールを使用して管理対象デバイスで次の機能を実行します。

- ◆ アセット管理
- ◆ バンドル管理
- ◆ イメージ管理
- ◆ パッチ管理
- ◆ ポリシー管理
- ◆ リモート管理
- ◆ ユーザ管理

Windows 2000 デバイスのプロパティの表示では、[ユーザ管理] オプションが無効になっています。これは、Windows 2000 デバイスではユーザ管理の無効化とアンインストールができないためです。管理ゾーンまたはフォルダのプロパティの表示では、Windows 2000 デバイスに対するユーザ管理設定は無視されます。

注：お使いの環境にインストールされた ZENworks 7 Desktop Management とともに ZENworks 10 Asset Management を使用できます。

Asset Management 以外のエージェント機能を有効にし、環境内で ZENworks 7 Desktop Management を実行している場合、ZENworks 7 Desktop Management Agent をアンインストールするように求められます。

ZENworks 10 Asset Management を使用し、その環境内で ZENworks 7 Desktop Management を継続して使用したい場合は、必ずアセット管理機能だけを有効にしてください。

デフォルトでは、デバイスにすべてのモジュールがインストールされます。ただし、モジュールはアンインストールできます。インストールしたモジュールを無効または有効にすることもできます。

モジュールは、次の 3 つのレベルでインストール、アンインストール、有効化、または無効化できます。

- ◆ **管理ゾーン**：この設定は管理ゾーンの中のすべてのデバイスに適用されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：この設定は、フォルダまたはそのサブフォルダの中に含まれているすべてのデバイスに適用されます。管理ゾーンの設定を上書きします。
- ◆ **デバイス**：この設定は、それが設定されたデバイスにのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルでの設定を上書きします。

モジュールの状態を変更するには、次の手順に従います。

- 1 (条件付き) デバイスフォルダまたはデバイスで ZENworks エージェント設定を構成する場合、[設定の上書き] をクリックします。

- 2 モジュールをインストールするには、[インストール済み] チェックボックスをオンにします。

または

モジュールをアンインストールするには、[インストール済み] チェックボックスをオフにします。

デフォルトでは、すべてのモジュールで [インストール済み] チェックボックスがオンになっており、ZENworks 管理ゾーンに登録するときにすべてのモジュールがデバイスにインストールされています。モジュールの [インストール済み] チェックボックスをオフにすると、そのモジュールは次の更新時にデバイスからアンインストールされます。

- 3 インストールされたモジュールを有効にするには、[有効] ボタンをクリックします。

または

インストールされたモジュールを無効にするには、[無効] ボタンをクリックします。

デフォルトでは、すべてのインストール済みモジュールで [有効] オプションが選択されており、すべてのモジュールがデバイスで有効です。モジュールを無効にしても、現在の管理対象デバイスからモジュールはアンインストールされません。モジュールはデバイスにインストールされたままですが、使用できません。

- 4 再起動が必要な場合は、再起動の動作を指定します。

このオプションは、モジュールのインストールまたはアンインストールの際にのみ適用されます。場合によっては、モジュールのインストールまたはアンインストールの際に Windows インストーラからデバイスの再起動が要求されることがあります。インストール中に再起動が要求された場合は、モジュールは再起動されるまで機能しません。アンインストール中に再起動が要求された場合は、モジュールのファイルは再起動されるまで完全には削除されませんが、モジュールは機能を停止します。

- ◆ ユーザに再起動を要求する(デフォルト): ユーザはデバイスの再起動を要求されます。ユーザは即座に再起動することも、後で再起動することもできます。
- ◆ デバイスを再起動しない: 再起動されません。ユーザが再起動を行う必要があります。
- ◆ 強制的にデバイスを再起動: デバイスは自動的に再起動されます。5分以内にデバイスが再起動されることがユーザに通知されます。

- 5 [適用] をクリックして変更を保存します。

- 6 (条件付き) リモート管理モジュールまたはイメージ管理モジュールをデバイスにインストールした場合は、インストールを有効にするにはデバイスを再起動します。

モジュールの有効化、無効化、アンインストールの効果を理解するには、次の表を参照してください。

- ◆ 168 ページの i 14-1§ 「バンドル管理」
- ◆ 169 ページの i 14-2§ 「イメージ管理」
- ◆ 170 ページの i 14-3§ 「パッチ管理」
- ◆ 171 ページの i 14-4§ 「ポリシー管理」
- ◆ 172 ページの i 14-5§ 「リモート管理」

表 14-1 バンドル管理

インストールと有効化	インストールと無効化	[アンインストール]	追加の詳細
<ul style="list-style-type: none"> ◆ バンドル管理サービスがデバイス上で実行しています。 ◆ Zアイコンプロパティページに、バンドル管理ステータスが [実行中] と表示されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ バンドル管理サービスは停止し、デバイス上で無効です。 ◆ Zアイコンプロパティページに、バンドル管理ステータスが [使用不可] と表示されます。 ◆ デバイスに割り当てられている Windows バンドル、ファイルバンドル、またはディレクトティブバンドルは、デバイスのデスクトップ、[スタート] メニュー、クイック起動、またはシステムトレイなど、NAL ウィンドウまたはショートカットの場所に表示されません。 ◆ Windows バンドル、ファイルバンドル、またはディレクトティブバンドルに関連する zac コマンドは実行できません。 ◆ バンドルをデバイスに適用中にバンドル管理モジュールを無効にした場合、バンドルが適用され、デバイスが更新された後で、モジュールが無効化されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ バンドル管理サービスがデバイスからアンインストールされます。 ◆ Zアイコンプロパティページには、[エージェントステータス] パネルにバンドル管理ステータスのエントリは表示されません。 ◆ Windows バンドル、ファイルバンドル、またはディレクトティブバンドルなどのコンテンツを持つ、デバイスに割り当てられているがデバイスにまだインストールされていないバンドルは、デバイスから削除されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks ライセンスが期限切れになると、バンドルを作成、編集、有効化、または無効化できません。ただし、ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドを使用して、既存のバンドルを表示できます。 ◆ ZENworks ライセンスが無効になった場合、[バンドル] タブは ZENworks コントロールセンターの左ナビゲーションペインに表示されなくなり、バンドル関連の zman コマンドを使用できなくなります。

表 14-2 イメージ管理

インストールと有効化	インストールと無効化	[アンインストール]	追加の詳細
<ul style="list-style-type: none"> ◆ novell-ziswin は Windows XP および Windows 2003 管理対象デバイスにインストールされ、有効になっています。 ◆ novell-ziswin は Windows Vista、Windows 2008、Windows 7、および Windows 2008 R2 管理対象デバイスにインストールされますが、無効になっています。 ◆ novell-zisdservice は Windows Vista、Windows 2008、Windows 7、および Windows 2008 R2 管理対象デバイスにインストールされ、有効になっています。 ◆ イメージ管理エージェントがインストールされ、有効になっています。 ◆ Zアイコンプロパティページに、イメージ管理のステータスが [実行中] と表示されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ novell-ziswin は、すべての Windows XP および Windows 2003 管理対象デバイスで無効になるだけでアンインストールはされません。 ◆ novell-zisdservice は Windows Vista、Windows 2008、Windows 7、および Windows 2008 R2 管理対象デバイスで無効になるだけでアンインストールはされません。 ◆ Zアイコンプロパティページに、イメージ管理のステータスが [使用不可] と表示されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ novell-ziswin はすべての Windows XP および Windows 2003 管理対象デバイスでアンインストールされます。 ◆ novell-zisdservice は Windows Vista、Windows 2008、Windows 7、および Windows 2008 R2 管理対象デバイスでアンインストールされます。 ◆ イメージ管理エージェントもデバイスからアンインストールされます。 ◆ Zアイコンプロパティページには、[エージェントステータス] パネルにイメージ管理のエントリは表示されません。 	<p>ZENworks 10 Configuration Management ライセンスの期限が切れた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks サーバ： イメージ管理モジュールを持つエージェントはどのような新規デバイスにもインストールできません。また、既存デバイスのイメージ管理モジュールを有効化または無効化できません。 ◆ 管理対象デバイス側： novell-ziswin および novell-zisdservice は無効になりますが、アンインストールされません。また、Zアイコンプロパティページに、イメージ管理のステータスが [使用不可] と表示されます。

表 14-3 パッチ管理

インストールと有効化	インストールと無効化	[アンインストール]	追加の詳細
<ul style="list-style-type: none"> ◆ パッチ管理サービスがデバイス上で実行しています。 ◆ Zアイコンプロパティページに、パッチ管理ステータスが [実行中] と表示されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ パッチ管理サービスは停止し、デバイス上で無効です。 ◆ Zアイコンプロパティページに、パッチ管理ステータスが [使用不可] と表示されます。 ◆ デバイスに割り当てられているパッチバンドルは、NAL ウィンドウ、またはデバイスのデスクトップ、[スタート] メニュー、クイック起動、またはシステムトレイなどのショートカットの場所に表示されません。 ◆ パッチバンドル関連の zac コマンドは実行できません。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ パッチ管理サービスがデバイスからアンインストールされます。 ◆ Zアイコンプロパティページには、[エージェントステータス] パネルにパッチ管理ステータスのエントリは表示されません。 ◆ デバイスに割り当てられているがデバイスにまだインストールされていないパッチバンドルは、デバイスから削除されません。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks ライセンスが無効になった場合、新規のパッチバンドルをダウンロードできません。ただし、既存のパッチを割り当ててに使用できます。

表 14-4 ポリシー管理

インストールと有効化	インストールと無効化	[アンインストール]	追加の詳細
<ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシー管理サービスがデバイス上で実行しています。 ◆ Zアイコンプロパティページに、ポリシー管理ステータスが [実行中] と表示されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシー管理サービスは停止し、デバイス上で無効です。 ◆ Zアイコンプロパティページに、ポリシー管理ステータスが [使用不可] と表示されます。 ◆ デバイスに割り当てられたすべてのポリシーは、デバイスに適用解除されます。 ◆ ZENworks コントロールセンターを使用して、ポリシーをデバイスに割り当てられません。ただし、ポリシー管理機能が有効になるまで、ポリシーはデバイスに適用されません。 ◆ ポリシー関連の zac コマンドは実行できません。 ◆ DLU (ダイナミックローカルユーザ) ポリシーを実行中のデバイスで、ポリシー管理モジュールを無効化した場合は、デバイスの再起動後に、モジュールが無効化されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシー管理サービスがデバイスからアンインストールされます。 ◆ Zアイコンプロパティページには、[エージェントステータス] パネルにポリシー管理ステータスのエントリは表示されません。 ◆ デバイスに割り当てられたすべてのポリシーは、デバイスに適用解除されます。 ◆ DLU (ダイナミックローカルユーザ) ポリシーを実行中のデバイスで、ポリシー管理モジュールをアンインストールした場合は、デバイスの再起動後に、モジュールがアンインストールされます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks ライセンスが期限切れになると、ポリシーを作成、編集、有効化、または無効化できません。ただし、すでに適用され、デバイスで有効になっているポリシーは、デバイス上で機能し続けます。 ◆ ユーザ管理が無効の場合： <ul style="list-style-type: none"> ◆ ローミングプロファイルポリシーおよび DLU ポリシーは、ポリシーが割り当てられたユーザがデバイスにログインした場合でも、デバイスに適用されません。 ◆ ユーザ設定が設定されている Windows グループポリシーは、ポリシーがデバイスに割り当てられている場合でも管理対象デバイスに適用されません。

表 14-5 リモート管理

インストールと有効化	インストールと無効化	[アンインストール]	追加の詳細
<ul style="list-style-type: none"> ◆ リモート管理サービスがデバイス上で実行しています。 ◆ Zアイコンプロパティページに、リモート管理ステータスが [実行中] と表示されます。 ◆ デバイスはリモートで管理できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リモート管理サービスは停止し、デバイス上で無効です。 ◆ Zアイコンプロパティページに、リモート管理ステータスが [使用不可] と表示されます。 ◆ リモート管理ポリシーはデバイスから適用解除されません。 ◆ デバイスはリモートで管理できません。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リモート管理サービスがデバイスからアンインストールされます。 ◆ Zアイコンプロパティページには、[エージェントステータス] パネルにリモート管理ステータスのエントリは表示されません。 ◆ リモート管理ポリシーはデバイスから適用解除されます。 ◆ デバイスはリモートで管理できません。 	<p>ZENworks ライセンスの期限が切れた場合、リモート管理サービスは実行を継続し、デバイスはリモートで管理できます。</p>

ZENworks Adaptive Agent の ZENworks Explorer コンポーネント用に、一般的な設定を次の 3 つのレベルで設定できます。

- ◆ **管理ゾーン** : Agent の設定はすべてのデバイスフォルダおよびデバイスに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ** : バンドル設定はフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。
- ◆ **デバイス** : バンドル設定は、それが設定されたデバイスのみにも適用されます。

詳細情報については、以下を参照してください。

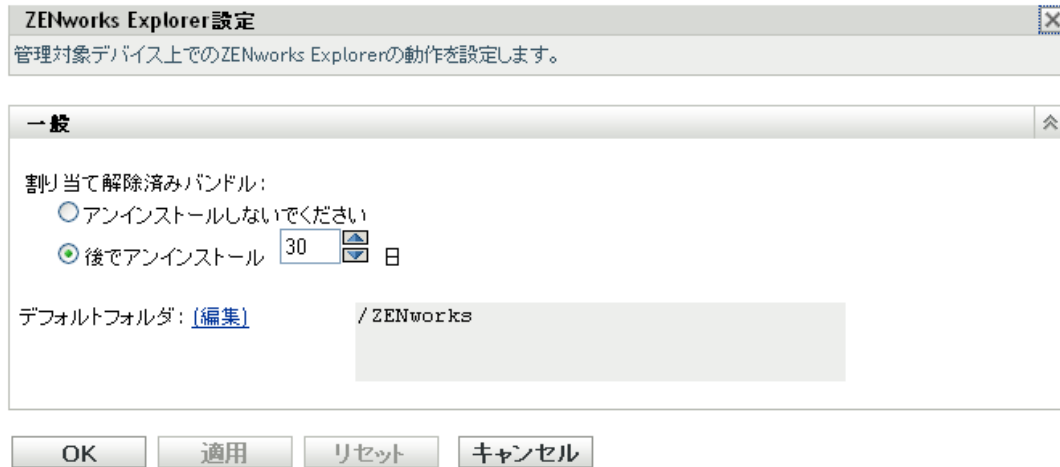
- ◆ [173 ページのセクション 15.1 「管理ゾーンレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行」](#)
- ◆ [174 ページのセクション 15.2 「デバイスフォルダレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行」](#)
- ◆ [175 ページのセクション 15.3 「デバイスレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行」](#)

15.1 管理ゾーンレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、**[環境設定]** タブをクリックします。



- 2 **[デバイス管理]** タブをクリックします。
- 3 **[ZENworks Explorer 設定]** をクリックします。



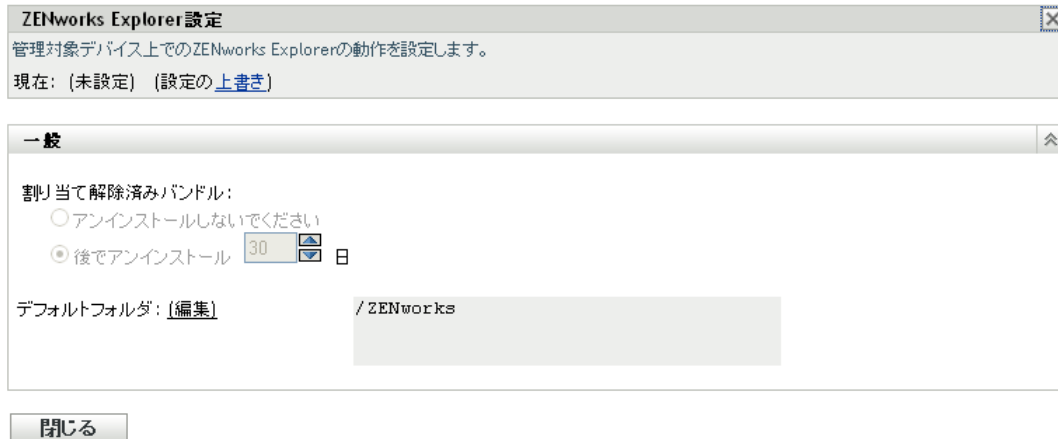
- 4 フィールドに入力します。詳細については、[176 ページのセクション 15.4](#)「ZENworks Explorer の一般設定」を参照してください。
- 5 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

15.2 デバイスフォルダレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。



- 2 [サーバ] フォルダ [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するフォルダの隣にある [詳細] をクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[コンテンツ] をクリックし、次に [ZENworks Explorer 設定] をクリックします。



- 5 [設定の上書き] をクリックします。
デバイスフォルダまたはデバイスに対する設定を行う場合は、[上書き設定] をクリックしてからでないと、設定を選択できません。
- 6 フィールドに入力します。詳細については、[176 ページのセクション 15.4 「ZENworks Explorer の一般設定」](#)を参照してください。
- 7 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

15.3 デバイスレベルでの ZENworks Explorer 設定の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。



- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定を行うデバイスをクリックします。

- 4 [設定] タブをクリックし、[コンテンツ] タブをクリックしてから、[ZENworks Explorer 設定] をクリックします。

上書き)'. The main area is titled '一般' and contains two sections. The first section is '割り当て解除済みバンドル:' with two radio buttons: 'アンインストールしないでください' (unselected) and '後でアンインストール' (selected). Next to the second option is a spinner box set to '30' and the unit '日'. The second section is 'デフォルトフォルダ: [編集]' followed by a text field containing '/ZENworks'. At the bottom left, there is a '閉じる' button."/>

ZENworks Explorer 設定

管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。
現在: [未設定] (設定の [上書き](#))

一般

割り当て解除済みバンドル:

アンインストールしないでください

後でアンインストール 30 日

デフォルトフォルダ: [\[編集\]](#) /ZENworks

閉じる

- 5 [設定の上書き] をクリックします。
- デバイスフォルダまたはデバイスに対する設定を行う場合は、[上書き設定] をクリックしてからでないと、設定を選択できません。
- 6 フィールドに入力します。詳細については、[176 ページのセクション 15.4 「ZENworks Explorer の一般設定」](#)を参照してください。
- 7 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

15.4 ZENworks Explorer の一般設定

ZENworks Explorer の [一般] パネルでは、デバイスに割り当てられていないバンドルをアンインストールするよう ZENworks Explorer を設定したり、バンドルをアンインストールするまで待機する日数を指定したり、ZENworks Explorer が使用するデフォルトのフォルダを指定したりすることができます。

- ◆ **未割り当てのバンドル:** バンドルがデバイスやデバイスのユーザに割り当てられなくなった後、それをアンインストールするかどうかを選択します。

バンドルをアンインストールする場合は、アプリケーションをアンインストールする前に待機する日数を選択します。アプリケーションがデバイスやユーザに割り当てられなくなった後に、すぐにそれをアンインストールする場合は、0 を指定します。
- ◆ **デフォルトフォルダ:** ZENworks Explorer は、Windows エクスプローラ、Windows の [スタート] メニュー、および ZENworks Window にデフォルトフォルダ (ZENworks) を表示します。バンドルは、バンドルの [概要] ページでフォルダを指定してデフォルトフォルダを上書きしている場合を除き、デフォルトフォルダに配置されます。

組織のニーズに適合するようにデフォルトフォルダの名前は変更できます。[編集] をクリックしてフォルダ名を変更します。

デバイスからの ZENworks プレエー ジェントの削除

16

ZENworks ソフトウェアのデバイスからのアンインストール中、デバイス上にインストールされた ZENworks プレエージェントを残すよう選択した場合、ZENworks プレエージェントはアダプタイズされた検出リクエストに応答し、IP ベースの検出がデバイスで実行された場合は ZENworks ping リクエストにも応答します。

ZENworks がデバイスからアンインストールされた後で ZENworks プレエージェントをデバイスから削除するには、次の手順に従います。

- 1 ZENPreAgent という名前のディレクトリを次のレジストリから削除します。
HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\
zenworks
- 2 zenworks ディレクトリを、デバイスのオペレーティングシステムインストールディレクトリから削除します。たとえば、オペレーティングシステムが C:/ にインストールされている場合、次のようになります。
 - ◆ **Windows XP デバイスの場合** : C:\Windows\Novell\zenworks ディレクトリを削除します。
 - ◆ **Windows 2000 デバイスの場合** : C:\WINNT\Novell\zenworks ディレクトリを削除します。

ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定

17

管理対象デバイスに存在する ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作を設定できます。ダイアログボックスを管理対象デバイスに表示してユーザにシステム更新を許可するか、システム更新後に必要な再起動を適用するか、ユーザが更新または再起動を延期できるかどうかなどです。また、プロンプトに表示するカスタムテキストを指定できます。

詳細については、[243 ページの第 26 章「ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定」](#)を参照してください。

Adaptive Agent のトラブルシューティング

18

次のセクションでは、ZENworks Adaptive Agent で作業を行っているときに発生する可能性のある問題に対する解決方法について説明します。

- 181 ページの「[ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインにサテライトのメニューが表示されない」
- 181 ページの「権限ベースの認証を使用してリモートでデバイスを管理できない」
- 182 ページの「ZENworks Adaptive Agent がインストールされた Citrix サーバとのターミナルセッションを起動できない」
- 182 ページの「ZENworks Adaptive Agent ポリシーページに DLU ポリシーの正しいステータスが表示されない」
- 182 ページの「端末サーバの部分的または一般的な更新により、システムリソースが大量に消費され、サーバ更新に長時間かかることがあります。」

[ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインにサテライトのメニューが表示されない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent

説明：ZENworks コントロールセンターを使用してデバイスをサテライトに昇格させると、設定されたサテライト役割がデバイスに追加されます。ただし、**Z** をダブルクリックすると、[ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインには、サテライトのメニューは表示されません。

アクション：管理対象デバイスを更新します (デバイスの通知領域で、**Z** アイコンを右クリックし、[更新] をクリックします)。

権限ベースの認証を使用してリモートでデバイスを管理できない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent

説明：権限ベースの認証を使用して、リモートでデバイスを管理しようとすると、次のエラーがデバイスに記録されます。

```
Rights Authentication failed. An internal error occurred while communicating to ZENworks Management Daemon. Contact Novell Technical Services.
```

考えられる原因：ZENworks Adaptive Agent がデバイスにインストールされていません。デバイスには、Remote Management サーバのみがインストールされています。

アクション：ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールします。ZENworks Adaptive Agent のインストールの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「ZENworks Adaptive Agent のインストール」を参照してください。

ZENworks Adaptive Agent がインストールされた Citrix サーバとのターミナルセッションを起動できない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent

説明：ZENworks Adaptive Agent を Citrix* サーバに展開後、次の ICA ログインセッション問題のいずれかが発生した可能性があります。

- ◆ Citrix エージェントから起動された ICA ログインセッションが、しばらくしてから終了します。
- ◆ ICA ログインセッションで、次の例外が表示されます。

```
winlogon.exe ..Application Error
```

例外ウィンドウを閉じようとする、セッションがハングし、次のメッセージが表示されます。

```
Running login scripts
```

アクション：Citrix サーバとのターミナルセッションを起動する前に、サーバ上で次のいずれかを実行します。

- ◆ NWGina.dll の名前を変更します。
 1. c:\windows\system32 ディレクトリ内で、NWGina.dll の名前を変更します。
 2. レジストリエディタ内で、HKLM\Software\Microsoft\WindowsNT\CurrentVersion\Winlogon に移動し、CtxGinaDLL キーの値を NWGina.dll の新しい名前に変更します。
 3. サーバを再起動します。
- ◆ Novell Client をインストールします。

注：これは一度だけ実行すれば、後は必要ありません。

ZENworks Adaptive Agent ポリシーページに DLU ポリシーの正しいステータスが表示されない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent

説明：ユーザ管理エージェント機能が ZENworks コントロールセンターで無効化またはアンインストールされている場合（[ZENworks エージェント] ページの [エージェント機能] パネル）、ZENworks Adaptive Agent ポリシーのページの DLU ポリシーのステータスは、ポリシーがデバイスで有効でない場合でも、「成功」と表示されます。

アクション：なし。

端末サーバの部分的または一般的な更新により、システムリソースが大量に消費され、サーバ更新に長時間かかることがあります。

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent

説明：端末サーバの部分的または一般的な更新中に、サーバ上の ZENworks エージェントは、端末サーバにログインしているすべてのユーザのセッションを同時に更新します。端末ユーザにログインしているユー

ザが多すぎる場合は、ZENworks エージェントによる端末サーバの更新に長時間かかり、サーバでのシステムリソースの使用量も多くなります。

アクション： 次の手順を実行して、ユーザセッションをバッチで更新します。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM\Software\Novell\ZENworks\ に移動します。
- 3 バッチ更新を有効にするには、EnableBatchRefresh という DWORD を作成して値を 1 に設定します。
デフォルトで、バッチには 5 つのセッションがあります。
- 4 (オプション) バッチのユーザセッション数を変更するには、maxUserRefreshThreads という DWORD を作成して、目的の値を設定します。

ZENworks システム更新

IV

このシステム更新機能を使用すると、適切なタイミングで Novell® ZENworks® 10 Configuration Management ソフトウェアの更新を取得したり、更新の自動ダウンロードをスケジュールしたりできます。

- ◆ 187 ページの第 19 章「ZENworks システム更新の概要」
- ◆ 189 ページの第 20 章「更新の設定」
- ◆ 209 ページの第 21 章「更新のダウンロードの管理」
- ◆ 217 ページの第 22 章「更新の展開」
- ◆ 235 ページの第 23 章「更新の削除」
- ◆ 237 ページの第 24 章「更新のコンテンツの確認」
- ◆ 241 ページの第 25 章「ステータスの更新」
- ◆ 243 ページの第 26 章「ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定」

ZENworks システム更新の概要

19

このシステム更新機能を使用すると、適切なタイミングで Novell® ZENworks® 10 Configuration Management ソフトウェアの更新を取得したり、更新の自動ダウンロードをスケジュールしたりできます。

ソフトウェアの更新は定期的に提供され、そのコンテンツを確認した後にそれぞれの更新を展開するかどうかが選択できます。

最初のいくつかの ZENworks 10 Configuration Management の更新は累積型ですが、その後の更新は追加型になります。たとえば、ZENworks の初めてのシステム更新がバージョン 10.0.3 の更新である場合、これには、バージョン 10.0.2 の更新に含まれているすべての更新が含まれています。ただし、バージョン 10.0.4 の更新を適用する前に、バージョン 10.0.3 の更新を適用する必要があります。

また、ユーザのナレッジベースを更新して、インベントリがより新しいソフトウェアを認識できるようにするために、最新の製品認識の更新 (PRU) をダウンロードすることもできます。

ZENworks ソフトウェアの更新を選択した場合、1 ステップまたはステージでグローバルに更新できます。さらに、ZENworks ソフトウェアがインストールされている管理ゾーンに含まれる、特定のデバイス、デバイスグループ、またはすべてのデバイスの更新も選択できます。ZENworks コントロールセンターを使用して、各ソフトウェア更新でのデバイスごとの成功と失敗を追跡できます。

次の図は、[システム更新] ページを示しています。

図 19-1 [システム更新] パネル ([使用可能なシステム更新]、[システム更新の展開]、および [展開ステージ])



ZENworks ソフトウェアの更新の設定および管理については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 189 ページの第 20 章「更新の設定」
- ◆ 209 ページの第 21 章「更新のダウンロードの管理」
- ◆ 217 ページの第 22 章「更新の展開」

- ◆ 235 ページの第 23 章「更新の削除」
- ◆ 237 ページの第 24 章「更新のコンテンツの確認」
- ◆ 241 ページの第 25 章「ステータスの更新」

更新の設定

更新プロセスを設定するには、次のタスクを実行します。

- ◆ 189 ページのセクション 20.1 「システム更新の設定」
- ◆ 198 ページのセクション 20.2 「展開ステージの作成」

20.1 システム更新の設定

システム更新は、使用する前に設定する必要があります。ご使用のシステムで必要となる次の設定をすべて行います。

- ◆ 189 ページのセクション 20.1.1 「更新スケジュールの確認」
- ◆ 191 ページのセクション 20.1.2 「ダウンロードスケジュール」
- ◆ 193 ページのセクション 20.1.3 「電子メール通知」
- ◆ 195 ページのセクション 20.1.4 「プロキシサーバの設定」
- ◆ 195 ページのセクション 20.1.5 「専用サーバの設定」
- ◆ 197 ページのセクション 20.1.6 「ステージタイムアウト設定」
- ◆ 198 ページのセクション 20.1.7 「再起動の動作」

20.1.1 更新スケジュールの確認

デフォルトは更新の確認をスケジュールしない（[スケジュールタイプ] フィールドには [スケジュールなし] と表示されます）です。このスケジュールオプションを選択すると、ソフトウェア更新をチェックできる唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動でチェックする方法です。

更新を確認する頻度を指定できます。これを行うと、スケジュールが実行されるときに、Novell から [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに、入手可能な更新の情報が自動的にダウンロードされます。これにより、更新のコンテンツ自体がダウンロードされるわけではありません。[ダウンロードスケジュール] パネルで、ダウンロードをスケジュールできます（「191 ページの「ダウンロードスケジュール」」を参照）。

ZENworks ソフトウェア更新の確認をスケジュールする

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてオプションを展開し、次に、[システム更新の設定] を選択します。

[更新のチェック] パネルには、更新のための 2 つのスケジュールリングオプションがあります。

- ◆ **スケジュールなし**：デフォルトは更新の確認をスケジュールしないです。このスケジュールオプションを選択すると、ソフトウェア更新をチェックする唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルでチェックする方法です。[スケジュールなし] オプションを指定するには、**ステップ 3** を続行してください。

- ◆ **繰り返し** : 更新を確認する頻度を指定できます。このオプションを設定すると、スケジュールが実行されるたびに、Novell から [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに、入手可能な更新の情報が自動的にダウンロードされます。これにより、更新のコンテンツ自体がダウンロードされるわけではありません。繰り返しのスケジュールを設定するには、**ステップ 4** ヘスキップします。
- 3** (オプション) ソフトウェア更新のスケジュール済みのチェックを除外する (デフォルト) には、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックして、[スケジュールなし] を選択し、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ 6** ヘスキップします。
- このオプションを選択すると、更新を手動でチェックする必要があります。詳細については、**211 ページの「手動による更新のダウンロード」** を参照してください。
- 4** (条件付き) ZENworks ソフトウェアに対する更新の確認の反復スケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[繰り返し] を選択します。

[環境設定](#) > [システム更新の設定](#)

システム更新の設定

システム更新のダウンロード、プロキシサーバの設定、および更新のスケジュール設定のためにサーバを設定します

更新のチェックのスケジュール

この設定では、管理者は Novell から入手可能な更新の有無をチェックするスケジュールを設定できます。

スケジュールタイプ:

曜日

日	月	火	水	木	金	土
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

開始時刻: 1 : 00

[オプションを非表示](#)

- デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する
- 協定世界時(UTC)を使用 (現在のUTC 12:33)
- 開始時刻および終了時刻の間のランダムな時間に開始される

終了時刻: 1 : 00

- スケジュール実行を以下の日付範囲に限定:
 開始日: 08/08/20
 終了日: 08/08/20

- 5** 次のフィールドに入力します:
- 5a** 曜日のチェックボックスを 1 つ以上選択します。
 - 5b** チェックが行われる時刻を設定するには、[開始時刻] ボックスを使用して時刻を指定します。
 - 5c** (オプション) 詳細なスケジュールオプションについては、[詳細オプション] をクリックし、必要に応じて次のオプションを選択します。
 - ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : スケジュールに従って確認が行われない場合、ただちにシステム更新の内容が確認されます。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後に更新の確認が発生します。

- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : ここで指定した時刻と **ステップ 5b** で指定した時刻の間で、ランダムに更新のチェックが行われるようにします。[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を以下の日付範囲に限定** : 他のオプションに加えて、チェックが行われる日付範囲を指定できます。

5d 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

6 このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックしてもページが閉じますが、適用していない変更は失われます。

20.1.2 ダウンロードスケジュール

デフォルトでは、更新のダウンロードをスケジュールしません ([スケジュールタイプ] フィールドに [スケジュールなし] が表示されます)。このスケジュールオプションを選択すると、更新をダウンロードできる唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動で行う方法のみとなります。

更新版をダウンロードする頻度を指定する場合、更新を確認するスケジュールとともに、このスケジュールを設定する必要があります ([189 ページの「更新スケジュールの確認」](#)を参照)。

更新がチェックされ、その情報が [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新パネル] に表示されると、スケジュールが実行された際に Novell から自動的にダウンロードされるようにスケジュールできます。

ZENworks ソフトウェア更新をスケジュールする

- 1** ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2** [管理ゾーンの設定] をクリックしてそのオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてそのオプションを展開し、次に、[システム更新の設定] を選択します。
[ダウンロードスケジュール] パネルには、更新をダウンロードするための 2 つのスケジューリングオプションがあります。
 - ◆ **スケジュールなし** : デフォルトでは、更新のダウンロードをスケジュールしません ([スケジュールタイプ] フィールドに [スケジュールなし] が表示されます)。このスケジュールオプションを選択すると、更新をダウンロードできる唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動で行う方法のみとなります。[スケジュールなし] オプションを指定するには、**ステップ 3** に進みます。
 - ◆ **繰り返し** : 更新をダウンロードする頻度を指定できます。更新がチェックされ、その情報が [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新パネル] に表示されると、スケジュールが実行された際に Novell から自動的にダウンロードされるようにスケジュールできます。繰り返しのスケジュールを設定するには、**ステップ 4** へスキップします。

- 3 (オプション) ソフトウェア更新のスケジュール済みダウンロードを除外する (デフォルト) には、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックして、[スケジュールなし] を選択し、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、[ステップ 6](#) へスキップします。

このオプションを選択すると、更新を手動でダウンロードする必要があります。詳細については、[210 ページのセクション 21.2 「割り当てられた権限」](#) を参照してください。

- 4 (条件付き) ZENworks ソフトウェアに更新をダウンロードするための反復スケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、次に、[繰り返し] を選択します。

[環境設定](#) > [システム更新の設定](#)

システム更新の設定

システム更新のダウンロード、プロキシサーバの設定、および更新のスケジュール設定のためにサーバを設定します

更新のチェックのスケジュール

この設定では、管理者は Novell から入手可能な更新の有無をチェックするスケジュールを設定できます。

スケジュールタイプ:
繰り返し

曜日

日	月	火	水	木	金	土
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

開始時刻: 1 : 00

[オプションを非表示](#)

- デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する
- 協定世界時 (UTC) を使用 (現在の UTC 14:32)
- 開始時刻および終了時刻の間のランダムな時間に開始される

終了時刻: 1 : 00

- スケジュール実行を以下の日付範囲に限定:
開始日: 08/08/20
終了日: 08/08/20

- 5 次のフィールドに入力します:

5a 曜日のチェックボックスを 1 つ以上選択します。

5b ダウンロードが行われる時刻を設定するには、[開始時刻] フィールドを使用して時刻を指定します。

5c (オプション) 詳細なスケジュールオプションについては、[詳細オプション] をクリックし、必要に応じて次のオプションを選択します。

- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する**: スケジュールに従って確認が行われない場合、ただちにシステム更新の内容が確認されます。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後に更新の確認が発生します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用**: 指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。

- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始**：ここで指定した時刻と **ステップ 5b** で指定した時刻の間で、ランダムに更新のダウンロードが行われるようにします。[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定**：他のオプションに加え、ダウンロードできる日を指定できます。

5d 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

6 このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

20.1.3 電子メール通知

ステージの使用と同時に、各ステージが完了したことを示すよう、電子メール通知を設定できます。更新を展開するとき、電子メール通知を使用するよう指定できます。

- 1** ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[環境設定] タブをクリックします。
- 2** [管理ゾーンの設定] をクリックして、オプションを展開し、[イベントおよびメッセージング] をクリックして、[SMTP 設定] を選択して [電子メール通知] パネルを開きます。

[環境設定](#) > [SMTP設定](#)

The screenshot shows a dialog box titled "SMTP設定" (SMTP Settings) with the subtitle "SMTPサーバに関連する設定の構成" (Configure settings related to the SMTP server). The main section is titled "電子メール通知" (Email Notification) and contains the following fields and options:

- SMTPサーバのアドレス (SMTP server address): [Text input field]
- SMTPポート (SMTP port): [Text input field]
- SMTPサーバには認証が必要です (Authentication is required for the SMTP server)
- ユーザ (User): [Text input field]
- パスワード (Password): [Text input field]

At the bottom of the dialog, there are four buttons: OK, 適用 (Apply), リセット (Reset), and キャンセル (Cancel).

通知を受信するにはステージングを使用し、ステージの動作を次のいずれかに設定する必要があります。

- ◆ 通知とともに自動的にステージを進める
- ◆ 次のステージに進み、完了時に通知する

ステージングの電子メール設定が機能するように SMTP を設定する必要があります。

3 (条件付き) SMTP を設定してない場合:

3a [SMTP 設定] ページにアクセスするには、左側のペインで [環境設定] をクリックし、[管理ゾーンの設定] ヘッダの矢印をクリックしてそのオプションを展開します。次に、[イベントとメッセージング] をクリックし、[SMTP 設定] を選択します。

3b [電子メール通知] セクションで、次のフィールドに入力します。

SMTP サーバアドレス: SMTP サーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

SMTP ポート: SMTP サーバの通信ポートを指定します。

SSL の使用: 暗号化された SSL チャネルを使用して電子メールを送信します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

SMTP サーバには認証が必要: 認証が必要な場合は、このチェックボックスをオンにし、[ユーザ] および [パスワード] 情報を指定します。

3c [OK] をクリックし、変更を保存します。

3d [管理ゾーンの設定] をクリックしてそのオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックし、次に [システム更新の設定] を選択して、[電子メール通知] パネルを表示します。

[環境設定](#) > [システム更新の設定](#)

4 次のフィールドに入力します:

送信者: 管理者の電子メールアドレスを指定するか、説明的なテキスト (たとえば、System-Update-Stage-Notice など) 入力します。単語と単語の間にはスペース文字を使用しないでください。

宛先: 管理者の電子メールアドレスを指定します。

これは、ステージが完了した際に通知を受け取る人物です。

5 [適用] をクリックして変更を有効化します。

6 [OK] をクリックしてページを閉じるか、[他の設定タスク](#)を続行します。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックしてもページが閉じますが、適用していない変更は失われます。

20.1.4 プロキシサーバの設定

このオプションは、使用しているすべての運用サーバがインターネットにアクセスできないようにするような制限的な環境で役立ちます。これは、[\[専用サーバの設定\]](#) パネルと共に使用されます。

プロキシサーバを指定する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [\[環境設定\]](#) をクリックします。
- 2 [\[環境設定\]](#) タブで、(必要に応じて) [\[管理ゾーンの設定\]](#) セクションを展開し、[\[インフラ管理\]](#) をクリックします。次に、[\[システム更新の設定\]](#) をクリックし、[\[プロキシサーバの設定\]](#) パネルを表示します。

- 3 次のフィールドに入力します：

プロキシサーバアドレス：プロキシサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

プロキシサーバポート プロキシサーバの通信ポートを指定します。

プロキシサーバで認証が必要：このチェックボックスをオンにすると、[\[ユーザ\]](#) および [\[パスワード\]](#) フィールドが編集可能になります。認証が必要な場合は、このチェックボックスをオンにし、プロキシサーバへアクセスするためのユーザ名およびパスワードを指定します。

- 4 [\[適用\]](#) をクリックして変更を有効化します。

- 5 [\[OK\]](#) をクリックしてページを閉じるか、[他の設定タスク](#)を続行します。

まだ [\[適用\]](#) をクリックして変更を有効にしていない場合は、[\[OK\]](#) をクリックすると変更が有効になります。[\[キャンセル\]](#) をクリックしてもページが閉じますが、適用していない変更は失われます。

20.1.5 専用サーバの設定

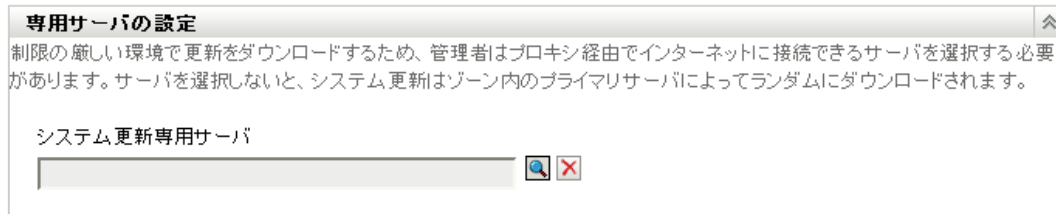
デフォルトでは、管理ゾーン内の使用可能なすべてのプライマリサーバは、ランダムに更新をダウンロードするために使用できます。ただし、更新のダウンロードを専用で処理するために、1つの ZENworks サーバを指定できます。選択したサーバは、直接または[プロキシサーバ](#)を経由して、インターネットにアクセスする必要があります。

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ [196 ページの「更新専用サーバの指定」](#)
- ◆ [196 ページの「更新専用サーバのクリア」](#)

更新専用サーバの指定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[専用サーバの設定] パネルを表示します。

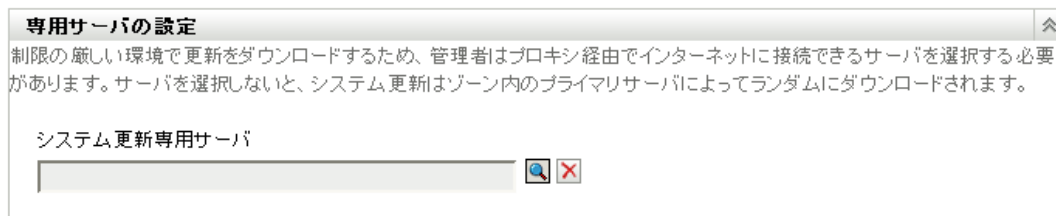


- 3 ZENworks プライマリサーバを参照して選択します。
サーバの ID が [システム更新専用サーバ] フィールドに表示されます。
この ZENworks サーバは、管理ゾーンのメンバーである必要があります。
- 4 [適用] をクリックして変更を有効化します。
- 5 [OK] をクリックしてページを閉じるか、他の設定タスクを続行します。
まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

更新専用サーバのクリア

更新専用サーバをクリアすると、更新は管理ゾーンのプライマリサーバからランダムに再試行されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[専用サーバの設定] パネルを表示します。



- 3 [クリア] をクリックして、[システム更新専用サーバ] フィールドから専用サーバを削除します。
- 4 (オプション) 最後に保存した専用サーバ設定に戻す必要がある場合は、[リセット] をクリックします。
これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした時などの最後に保存した設定の状態に専用サーバがリセットされます。

- 5 [適用] をクリックして変更を有効化します。

重要: [適用] をクリックすると、前の設定を復元することはできません。

20.1.6 ステージタイムアウト設定

展開ステージはオプションですが、ステージを使用すると、最初にテストグループ、次に管理対象デバイスなどのように、1度に1ステップずつ更新を展開することができます。更新プロセス中に失敗が発生した場合、プロセスは中断されます。[電子メール通知](#)を使用すると、各ステージの完了が通知されます。

グローバルデフォルトタイムアウトの設定は、3日です。これにより、各ステージに対して同じタイムアウトの長さが設定されます。個別のステージへのタイムアウトの設定については、[203 ページの「ステージのタイムアウトの変更」](#)を参照してください。

この値は、更新する計画のあるデバイスすべてを更新するのに十分な期間を設定します。

タイムアウト値に達すると、ステージの展開は停止し、電子メール通知が設定されている場合は電子メールメッセージが送信されます。展開をキャンセルすることも、エラーをクリアしてステージを再開しタイムアウトをリセットすることもできます。または、すべての保留中のデバイスを無視して、ステージの進行をトリガすることもできます(自動、または設定に基づいて管理者アクションを待機)。

[電子メール通知](#)を使用して、ステージの完了時を知ることができます。

グローバルステージタイムアウトを設定する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] パネルを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[ステージタイムアウトの設定] パネルを表示します。

ステージタイムアウトの設定

この設定では、管理者がすべてのステージのデフォルトのタイムアウト期間を設定できます。ステージが完了する前にタイムアウト値に達すると、展開プロセスは終了し、タイムアウトしたことがエラーメッセージによって管理者に通知されます。デフォルトのタイムアウト設定は3日です。

ステージタイムアウト:

3 日 0 時間 0 分

- 3 [ステージのタイムアウト] チェックボックスをオンにし、目的の日数、時間数、および分を指定します。
- 4 [適用] をクリックして、変更を有効にします。
- 5 [OK] をクリックしてページを閉じるか、[他の設定タスク](#)を続行します。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックしてもページが閉じますが、適用していない変更は失われます。

20.1.7 再起動の動作

更新の中には、それがデバイスに展開されてもデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了するために再起動が必要な場合、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

再起動の動作を設定する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] パネルを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[再起動の動作] パネルを表示します。

再起動動作

この設定では、管理者は更新がベースライン化された後にゾーンに登録されるデバイスの再起動の動作を制御できます。

再起動動作の選択:

- 更新の適用終了時に再起動するようユーザにプロンプトを表示(デフォルト)
- デバイスを再起動しない
- 強制的にデバイスを再起動

- 3 次のいずれかを行います。
 - ◆ **更新の適用終了時に再起動するようユーザにプロンプトを表示**: 更新が適用された後、再起動の要求がすぐに表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否すると、デバイスが再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。
 - ◆ **デバイスを再起動しない**: デバイスは再起動されませんが、再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。
 - ◆ **強制的にデバイスを再起動**: 更新が適用された後、更新に再起動が必要な場合はユーザが操作しなくてもデバイスは自動的に再起動されます。
- 4 [適用] をクリックして変更を有効化します。
- 5 [OK] をクリックしてページを閉じるか、他の設定タスクを続行します。
[適用] をクリックしなかったために変更内容のいくつかが無効化されていない場合は、[OK] をクリックすると有効になります。[キャンセル] をクリックしてもページが閉じますが、適用していない変更は失われます。

20.2 展開ステージの作成

展開ステージはオプションですが、ステージを使用すると、最初にテストグループ、次に管理対象デバイスなどのように、一度に1ステップずつ更新を展開することができます。更新プロセス中に失敗が発生した場合、プロセスは中断されます。電子メール通知を使用すると、ステージごとの終了時を知ることができます。

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ [199 ページのセクション 20.2.1 「ステージの理解」](#)
- ◆ [201 ページのセクション 20.2.2 「展開ステージの作成および入力」](#)
- ◆ [203 ページのセクション 20.2.3 「ステージのタイムアウトの変更」](#)

- ◆ 204 ページのセクション 20.2.4 「ステージング動作の変更」
- ◆ 205 ページのセクション 20.2.5 「再起動の動作の変更」
- ◆ 205 ページのセクション 20.2.6 「展開ステージのメンバーシップの変更」
- ◆ 207 ページのセクション 20.2.7 「展開ステージの名前変更」
- ◆ 207 ページのセクション 20.2.8 「展開ステージの削除」
- ◆ 207 ページのセクション 20.2.9 「ステージが開始する順序の変更」

20.2.1 ステージの理解

ステージを使用すると、次のことが実行できます。

- ◆ テストグループ、特定のデバイスやデバイスグループ、またはゾーン内のすべての管理対象デバイスなど、異なるデバイスまたはグループにステージを設定できます。
- ◆ 既存ステージのメンバーシップを変更します。
- ◆ ステージが実行される順序を変更します。
- ◆ ステージの名前変更および削除を行います。
- ◆ ステージ用のデフォルトタイムアウトを指定します。タイムアウト値に達すると、ステージの展開は停止し、電子メール通知が設定されている場合は電子メールメッセージが送信されます。展開をキャンセルすることも、エラーをクリアしてステージを再開しタイムアウトをリセットすることもできます。または、すべての保留中のデバイスを無視して、ステージの進行をトリガすることもできます(自動、または設定に基づいて管理者アクションを待機)。
- ◆ 再起動を求める、再起動を強制する、または再起動を行わないなどの、デバイスが更新を完了した際の再起動動作を指定します。
- ◆ 次のように、更新プロセスがステージを進める方法を指定します。
 - ◆ 通知の有無にかかわらず自動的に進める
 - ◆ 各ステージの終了後、通知を行い、1つずつステージを進める
 - ◆ 設定されたステージをバイパスし、すべてのデバイスに更新を即時適用する

展開ステージの作成には、多くの理由があります。

- ◆ 運用環境に展開する前に、特定のデバイスで更新をテストする。
- ◆ 1つのステージにすべてのプライマリサーバを含めることにより、これらを同時に更新できる。
- ◆ いくつかのステージでサーバをグループ化すると、更新を実行するために使用されるプライマリサーバで、更新プロセスが集中しないようにできる。
- ◆ いくつかのステージでワークステーションをグループ化すると、更新を実行するために使用されるプライマリサーバで、更新プロセスが集中しないようにできます。

ステージの一部ではないすべての管理対象デバイスは、最後の展開ステージが処理された後に、自動的に更新されます。

更新の進行中はステージを設定できません。

次の図は、[システム更新] ページ上の [展開ステージ] パネルを示しています。

図 20-1 [展開ステージ] パネル

展開ステージ					
アクション ▾ リネーム 削除 上へ移動 下へ移動					
<input type="checkbox"/> 順番	ステージ名	ステージメンバー	ステージング動作	再起動動作	ステージタイムアウト
<input type="checkbox"/> 1	Test	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
<input type="checkbox"/> 2	Production	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分

次の表は、カラム情報を説明しています。カラムの中には、カラム見出しをクリックして一覧にされている情報をソートできるものもあります。ソート順を逆にするには、再度それをクリックします。

表 20-1 展開ステージカラムの説明

カラム見出し	説明
順序	<p>ステージが実行される順序が表示されます。[上へ移動] および [下へ移動] オプションを使用してステージングの順序を変更できます。詳細については、207 ページの「ステージが開始する順序の変更」を参照してください。</p> <p>一覧にされている最初のステージには順序 1、2 番目のステージには順序 2、というように常に表示されます。そのため、ステージ名にシーケンス番号を含める必要はありません。</p>
ステージ名	<p>ステージを作成する際に、[アクション] > [ステージの追加] オプションを使用して指定するステージの名前です。</p> <p>ステージの目的が分かるように、この名前は内容が十分に伝わるものにしてください。</p>
ステージメンバー	<p>このカラムには、[メンバーの表示/変更] オプションが含まれています。このオプションは、ステージのメンバーすべてを一覧表示する [ステージメンバーの変更] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、ステージにメンバーを追加したり、ステージからメンバーを削除できます。</p> <p>ステージメンバーシップには、個別のデバイスと、デバイスを含むグループを含めることができます。</p> <p>詳細については、205 ページの「展開ステージのメンバーシップの変更」を参照してください。</p>
ステージング動作	<p>各ステージの現在の動作を表示します。これは、[アクション] > [ステージング動作の変更] オプションを使用して変更できます。詳細については、204 ページの「ステージング動作の変更」を参照してください。</p>

カラム見出し	説明
再起動動作	<p>デバイスの更新が展開された後の再起動の動作を表示します。</p> <p>更新の中には、それがデバイスに展開されてもデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了するために再起動が必要な場合、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。</p> <p>再起動オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザーに要求 (デフォルト): 更新が適用された後、再起動の要求がすぐに表示されます。ユーザーが最初に再起動を拒否すると、デバイスが再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。 ◆ デバイスを再起動しない: デバイスは再起動されませんが、再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。 ◆ 強制的にデバイスを再起動: 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザーの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。 <p>詳細については、205 ページの「再起動の動作の変更」を参照してください。</p>
ステージタイムアウト	<p>ステージタイムアウトを分数でリストに表示します。これは、[アクション] > [ステージタイムアウトの変更] オプションを使用して変更できます。デフォルトは3日、0時間、0分です。これは、197 ページの「ステージタイムアウト設定」で変更できるグローバルタイムアウト値です。ここで値を変更しても、選択した展開ステージに対する値が変更されるだけです。</p> <p>タイムアウト値に達すると、ステージの展開は停止し、電子メール通知が設定されている場合は電子メールメッセージが送信されます。展開をキャンセルすることも、エラーをクリアしてステージを再開しタイムアウトをリセットすることもできます。または、すべての保留中のデバイスを無視して、ステージの進行をトリガすることもできます (自動、または設定に基づいて管理者アクションを待機)。</p> <p>詳細については、203 ページの「ステージのタイムアウトの変更」を参照してください。</p>

20.2.2 展開ステージの作成および入力

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。

展開ステージ						
アクション ▾ リネーム 削除 上へ移動 下へ移動						
□ 序数	ステージ名	ステージメンバー	ステージ動作	再起動動作	ステージタイムアウト	
<input type="checkbox"/>	1	Test	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザーにプロンプトを表示	3日0時0分
<input type="checkbox"/>	2	Production	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザーにプロンプトを表示	3日0時0分

- 2 [展開ステージ] パネルで、[アクション] をクリックし、[ステージの追加] を選択します。

展開が処理中の場合は、ステージを追加できません。

- 3 展開ステージ名を指定して、[OK] をクリックします。

展開ステージは、[デバイス] タブにデバイスフォルダとして表示されるので、フォルダの目的が分かるような名前を指定する必要があります。

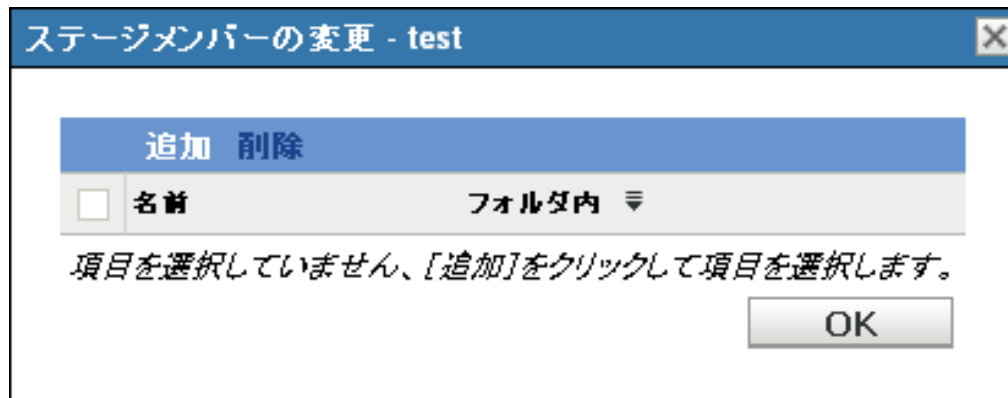
名前の最初に「Deployment Stage」のような文字を含めて、ZENworks コントロールセンターのデバイスリスト内でグループをソートできるようにします。

ZENworks コントロールセンターでの命名については、[385 ページの付録 A](#)「ZENworks コントロールセンターの命名規則」を参照してください。

新しく作成されたステージにはメンバーが含まれていません。メンバーを追加するには、ステージのメンバーシップを変更する必要があります。

4 展開ステージにデバイスを追加します。

- 4a** [ステージメンバー] カラムで、メンバーを追加するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



- 4b** [追加] をクリックし、デバイスを参照して選択し、[OK] をクリックします。

個別のデバイス、デバイスグループ、またはそれらを組み合わせたものを追加できます。

同じ展開ステージまたは異なるステージで、管理対象サーバとワークステーションの両方を持つことができます。または、サーバとワークステーションを別の展開ステージに分割できます。

重要: いくつかのネットワークサーバは、ZENworks 管理で使用するプライマリサーバになります。また、ネットワーク上のその他のサーバは、ZENworks Adaptive Agent がインストールされた管理対象デバイスのみになります。

他の管理対象サーバを更新する前や、特に管理対象ワークステーションを更新する前に、プライマリサーバを更新する必要があります。

- 4c** ステージへのメンバーの追加が終了するまで、[ステップ 4b](#) を繰り返します。

- 4d** 別のステージにメンバーを追加するには、[ステップ 4a](#) から [ステップ 4c](#) を繰り返してください。

5 すべての展開ステージの作成が終了するまで、[ステップ 2](#) から [ステップ 4](#) を繰り返します。

- 6** 展開ステージの順序を変更する必要がある場合は、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。

テスト目的でステージの 1 つを使用している場合、リスト内の最初のものを使用してください。

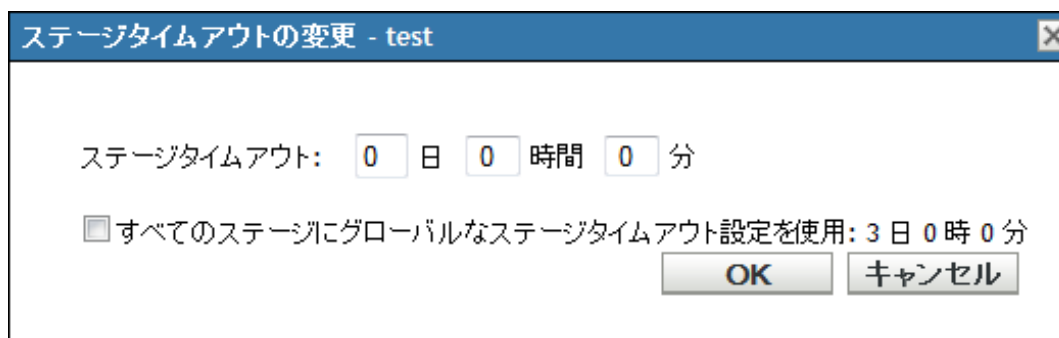
20.2.3 ステージのタイムアウトの変更

ステージのタイムアウトにより、ステージが終了するまでの時間の長さが設定されます。デフォルトのタイムアウトは3日です。このセクションの手順を使用して、個々のステージのタイムアウト用に値を設定します。グローバルなステージタイムアウト値は、「197ページの「[ステージタイムアウト設定](#)」」の次のステップによって確立されます。

更新の進行中はステージを変更できません。

選択したステージにタイムアウト値を設定する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、ステージのチェックボックスをオンにして、[アクション] をクリックし、[ステージタイムアウトの変更] を選択して次のダイアログボックスを表示します。



ステージタイムアウトの変更 - test

ステージタイムアウト: 0 日 0 時間 0 分

すべてのステージにグローバルなステージタイムアウト設定を使用: 3日 0時 0分

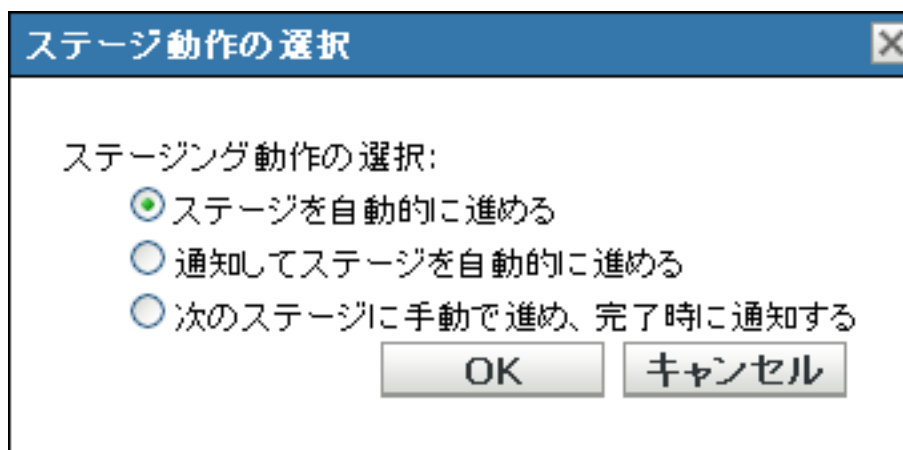
OK キャンセル

- 3 タイムアウトの値を指定します。
ここで行ったタイムアウトの値の変更は、選択したステージにのみ適用されます。このステージにタイムアウトの値を指定する場合、ステージ内のデバイスすべてを更新するのに十分な期間を設定します。
タイムアウト値に達すると、ステージの展開は停止し、電子メール通知が設定されている場合は電子メールメッセージが送信されます。展開をキャンセルすることも、エラーをクリアしてステージを再開しタイムアウトをリセットすることもできます。または、すべての保留中のデバイスを無視して、ステージの進行をトリガすることもできます(自動、または設定に基づいて管理者アクションを待機)。
- 4 (オプション) [すべてのステージにグローバルなステージタイムアウト設定を使用] チェックボックスをオンにし、グローバルタイムアウト値(デフォルトの3日、0時間、0分)を使用するように指定します。
詳細については、197ページの「[ステージタイムアウト設定](#)」を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

20.2.4 ステージング動作の変更

デフォルトのステージ動作は、設定したステージを自動的に進めるという動作です。デフォルト動作は変更できます。1つのステージのステージング動作を変更すると、その変更はすべてのステージに対して有効になります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、ステージの隣にあるチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[ステージ動作の変更] を選択すると、次のダイアログボックスが表示されます。



- 3 次のステージ動作の中からいずれか1つを選択します。

自動的にステージを進める: 1つのステージで更新が完了するとすぐに、次のステージが始まります。これはデフォルトの動作です (チェックボックスが有効になっています)。

最終ステージが完了すると、ステージのメンバーでない該当するデバイスが処理されます。

通知とともに自動的にステージを進める: 最初のステージを開始し、完了時に電子メール通知を送信します。次に、次のステージを自動的に開始します。

このオプションを使用するには、[電子メール通知] セクションの [システム更新のダウンロード] の設定ページで、通知方法を設定する必要があります。

次のステージに手動で進み、完了時に通知する: テストグループへの更新の結果の確認など、ステージ間でのユーザアクションのために、この方法を使用します。

このオプションは、最初のステージを自動的に開始します。ステージが完了したら、電子メール通知が送信され、次のステージを手動で開始するまでシステムが待機します。

このオプションを使用するには、[電子メール通知] セクションの [システム更新のダウンロード] の設定ページで、通知方法を設定する必要があります。

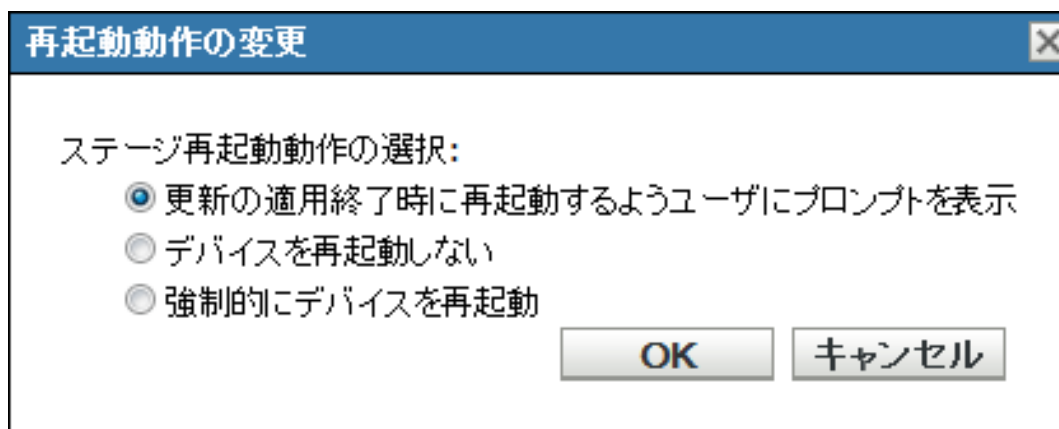
- 4 [OK] をクリックします。

20.2.5 再起動の動作の変更

更新の中には、それがデバイスに展開されてもデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了するために再起動が必要な場合、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

再起動の動作を変更する

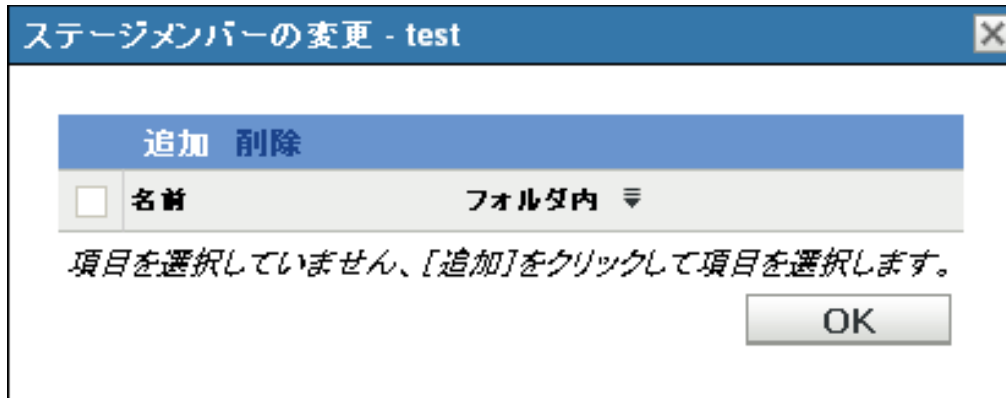
- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、展開ステージのチェックボックスを1つ以上オンにし、[アクション] をクリックして、[再起動の動作の変更] をクリックします。



- 3 次のいずれかを行います。
 - **更新の適用終了時に再起動するようユーザにプロンプトを表示**：更新が適用された後、再起動の要求がすぐに表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否すると、デバイスが再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。
 - **デバイスを再起動しない**：デバイスは再起動されませんが、再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。
 - **強制的にデバイスを再起動**：更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。
- 4 [OK] をクリックします。

20.2.6 展開ステージのメンバーシップの変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 (オプション) 展開ステージにデバイスを追加します。
 - 2a [ステージメンバー] カラムで、メンバーを追加するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



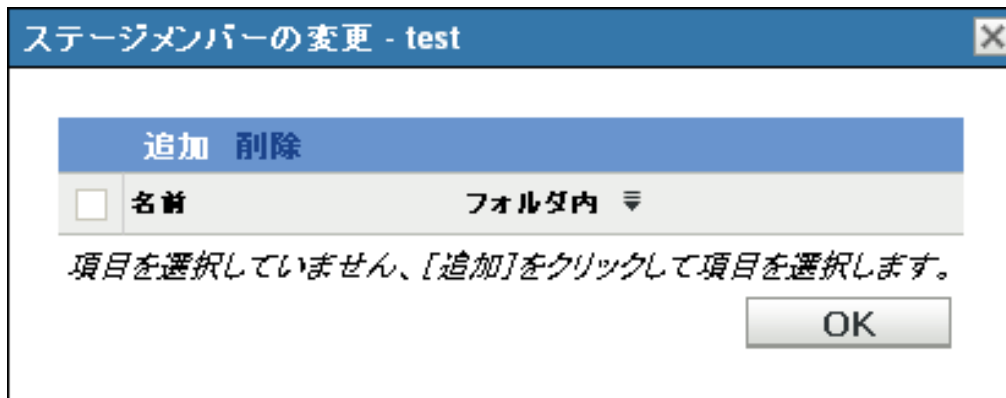
2b [追加] をクリックし、デバイスを参照して選択し、[OK] をクリックします。
個別のデバイス、デバイスグループ、またはそれらを組み合わせたものを追加できます。

同じ展開ステージまたは異なるステージで、管理対象サーバとワークステーションの両方を持つことができます。または、サーバとワークステーションを別の展開ステージに分割できます。

重要: いくつかのネットワークサーバは、ZENworks 管理で使用するプライマリサーバになります。また、ネットワーク上のその他のサーバは、ZENworks Adaptive Agent がインストールされた管理対象デバイスのみになります。

他の管理対象サーバを更新する前や、特に管理対象ワークステーションを更新する前に、プライマリサーバを更新する必要があります。

- 2c** ステージへのメンバーの追加が終了するまで、**ステップ 2b** を繰り返します。
- 2d** 別のステージにメンバーを追加するには、**ステップ 2a** ~ **ステップ 2c** を繰り返してください。
- 3** (オプション) 展開ステージからデバイスを削除します。
- 3a** [ステージメンバー] カラムで、メンバーを削除するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



- 3b** 削除するデバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにし、[削除] をクリックします。
- 4** ステージのメンバーシップの設定が完了したら、[OK] をクリックします。

20.2.7 展開ステージの名前変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、名前を変更する展開ステージのチェックボックスをオンにします。
- 3 [名前変更] をクリックします。
- 4 [名前変更] ダイアログボックスで、新しい名前を指定して、[OK] をクリックします。

ZENworks コントロールセンターでの命名については、[385 ページの付録 A](#)「ZENworks コントロールセンターの命名規則」を参照してください。

20.2.8 展開ステージの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、削除する 1 つ以上の展開ステージのチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

削除したステージは復元できません。

20.2.9 ステージが開始する順序の変更

ステージを使用する更新はすべて、現在一覧にされているステージングの順序に従って、ステージのメンバーであるデバイスに展開されます。

ステージングの順序を変更する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、移動する展開ステージのチェックボックスをオンにします。
- 3 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] をクリックし、ステージングの順序を変更します。
- 4 各ステージで必要に応じて [ステップ 2](#) および [ステップ 3](#) を繰り返します。

更新のダウンロードの管理

[システム更新] ページの [使用可能なシステム更新] パネルには、更新を確認した後に使用可能な更新が表示されます。このパネルには、Novell® の PRU (製品認識の更新) も組み込まれています。PRU は、ナレッジベースを更新して、ZENworks® Inventory による新しいソフトウェアの認識を可能にします。189 ページの「更新スケジュールの確認」で設定したスケジュールに従って、表示が更新されます。

最初のいくつかの ZENworks 10 Configuration Management の更新は累積型ですが、その後の更新は追加型になります。たとえば、ZENworks の初めてのシステム更新がバージョン 10.0.3 の更新である場合、これには、バージョン 10.0.2 の更新に含まれているすべての更新が含まれています。ただし、バージョン 10.0.4 の更新を適用する前に、バージョン 10.0.3 の更新を適用する必要があります。

詳細情報については、以下を参照してください。

- 209 ページのセクション 21.1 「入手可能な更新について」
- 210 ページのセクション 21.2 「割り当てられた権限」
- 213 ページのセクション 21.3 「PRU のダウンロードとインストール」
- 214 ページのセクション 21.4 「システム更新のキャンセルまたは削除」

21.1 入手可能な更新について

次の図は、[使用可能なシステム更新] パネルを示しています。

図 21-1 [使用可能なシステム更新] パネル

使用可能なシステム更新						
アクション ▼						自動リフレッシュ ▼
<input type="checkbox"/> 更新名	リリース日 ▾	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/> Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27	2009/05/31		ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> May 2009 PRU	2009/05/05	2009/05/31		ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

次の表では、カラム情報および [自動更新] ドロップダウンリスト ([ターゲットタイプ] の上のパネルの右側) について説明します。カラムの中には、カラム見出しをクリックして一覧にされている情報をソートできるものもあります。ソート順を逆にするには、再度それをクリックします。

表 21-1 [使用可能なシステム更新] カラムの説明

カラムの見出しまたはリスト	説明
更新名	Novell が作成した更新の名前が表示されます。 [リリース詳細] ページにアクセスするには、名前をクリックします。 詳細については、237 ページの第 24 章「更新のコンテンツの確認」を参照してください。
リリース日付	Novell が更新を作成した日付が表示されます。
ダウンロード日付	更新をダウンロードした日付が表示されます。
適用日	更新を適用した日付が表示されます。
ステータス	15 秒ごとに自動更新される、更新の現在のステータスが表示されます。個別のステータスの詳細については、241 ページの第 25 章「ステータスの更新」を参照してください。
重要度	ご使用の ZENworks インストールに対する更新のコンテンツの相対的重要度が表示されます。表示されるエントリには次のものが含まれます。 OPTIONAL: ZENworks の通常動作には不要。 MANDATORY: 適用が必要な必須の更新です。
ターゲットタイプ	次のような、更新のタイプを表示します。 ZENworks サーバ: 更新は、ZENworks サーバにのみ適用されます。 すべてのデバイス: 更新は、ZENworks サーバを含むすべての管理対象デバイスに適用されます。
自動リフレッシュ	[自動更新] ([ターゲットタイプ] の上にある、パネル右側のメニュー項目) をクリックし、次の中からいずれか 1 つを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 自動更新なし ◆ 15 秒ごとに更新 ◆ 30 秒ごとに更新 ◆ 60 秒ごとに更新 デフォルトでは、パネルビューは自動的に更新されません。ただし、[システム更新] タブをクリックすると、表示を手動で更新できます。

21.2 割り当てられた権限

ダウンロードをスケジュールしたり、手動でダウンロードできます。

- ◆ 211 ページのセクション 21.2.1 「更新のダウンロードのスケジュールリング」
- ◆ 211 ページのセクション 21.2.2 「手動による更新の確認」
- ◆ 211 ページのセクション 21.2.3 「手動による更新のダウンロード」
- ◆ 212 ページのセクション 21.2.4 「インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート」

21.2.1 更新のダウンロードのスケジューリング

更新の確認と更新のダウンロードの両方をスケジュールできます。

- 189 ページの「更新スケジュールの確認」
- 191 ページの「ダウンロードスケジュール」

21.2.2 手動による更新の確認

[システム更新] ページの [使用可能なシステム更新] パネルに最新の更新が表示されない場合、手動で表示を更新できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

アクション	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/> 更新のチェック						
<input type="checkbox"/> 更新版のダウンロード	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> ダウンロードのキャンセル						
<input type="checkbox"/> 更新をデバイスに展開		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> 必ずPRL先展開		2009/02/18	2009/05/31			
<input type="checkbox"/> 更新の削除						
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

更新名	スケジュールの開始	再起動動作	ステージ	ステータス	保留中	成功	失敗
使用できる項目がありません。							

順番	ステージ名	ステージメンバー	ステージ動作	再起動動作	ステージタイムアウト
<input type="checkbox"/> 1	Deployment Stage: Production	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
<input type="checkbox"/> 2	Deployment Stage: Accounting	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
<input type="checkbox"/> 3	Deployment Stage: Test	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分

- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。

利用可能な更新はすべて [利用可能] というステータスで表示されます。

- 3 一覧にされている更新を再ソートするには、[利用可能なシステム更新] パネル内の任意のカラムの見出しをクリックします。

ソート順を逆にするには、ヘッダを2回クリックします。

21.2.3 手動による更新のダウンロード

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。



- 2 [利用可能なシステム更新] パネルで、1つ以上の更新の横にあるチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックし、[更新のダウンロード] をクリックします。
更新がダウンロードされ、そのステータスが [ダウンロードされました] に設定されます。
更新のサイズによっては、ダウンロードプロセスに時間がかかる場合があります。
- 3 ダウンロードの進行状況の表示 ([ステータス] カラム) を更新するには、[システム更新] タブをクリックするか、[自動リフレッシュ] オプションを使用します。
- 4 展開ステージを使用して、選択した更新を適用する場合、217 ページの第 22 章「更新の展開」を参照して、ステージを設定して更新を展開します。
または
管理ゾーンに含まれる、該当するデバイスすべてにダウンロードした更新を即時適用するには、展開するダウンロードした更新のチェックボックスをオンにし、[アクション] > [更新をデバイスに展開] の順にクリックします。システム更新の展開の作成ウィザードによって、展開プロセスを段階的に実行します。詳細については、217 ページの第 22 章「更新の展開」を参照してください。

21.2.4 インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート

環境内にインターネットにアクセスできないサーバがある場合は、更新または PRU(製品認識の更新) ファイルを、Novell ダウンロードページ (<http://download.novell.com>) から取得し、CD などの媒体にコピーします。次に、zman system-update-import コマンドを使用して、その CD から ZENworks プライマリサーバにファイルをインポートします。詳細については、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』ガイドの「システム更新 / 製品認識の更新コマンド」を参照してください。

ファイルが ZENworks プライマリサーバにあると、更新または PRU が、ZENworks コントロールセンター([環境設定] > [システム更新])の [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに表示されます。管理対象デバイスに対する更新を展開するには、217 ページの第 22 章「更新の展開」の説明を参照してください。

21.3 PRU のダウンロードとインストール

ZENworks Inventory が新しいソフトウェアを認識できるように、ナレッジベースを更新するために、Novell では PRU (Product Recognition Update) を提供しています。

このアクションは、PRU をご使用のデータベースに展開し、管理対象デバイスへの展開のスケジュールを行います。展開は、デバイス上の ZENworks Adaptive Agent によって行われます。

PRU が最新ではない場合、インベントリから一部のソフトウェアが「未認識」として返されることがあります。ただし、ローカルソフトウェア製品ユーティリティを使用して、未認識のソフトウェアのフィンガープリントを取り、ナレッジベースを更新することができます。

PRU のダウンロードおよびインストールを行うには、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。

The screenshot shows the ZENworks Control Center interface. The left sidebar contains navigation options like 'Home', 'Devices', 'Users', 'Policies', 'Bundles', 'Batch Management', 'Expansion', 'Reports', 'Asset Management', 'Scheduled Tasks', and 'Roles'. The main content area is titled 'System Updates' and contains three sections:

- 使用可能なシステム更新 (Available System Updates):** A table with columns for Action, Release Date, Download Date, Validity Date, Status, Priority, and Target Devices. It lists updates such as 'Update for ZCM (10.1.2a)' and 'Update for ZCM (10.1.1)'.
- システム更新を展開しています (Deploying System Updates):** A section with a table for deployment stages. The table has columns for Action, Name, Delete, Move Up, Move Down, ID, Stage Name, Stage Number, Stage Action, Recurrence Action, and Stage Timeout. It shows stages for 'Production', 'Accounting', and 'Test'.

- 2 PRU が [利用可能なシステム更新] パネルに表示されない場合は、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。

最新の PRU に関する情報が入手可能な場合は表示されます。

- 3 一覧にされた PRU をダウンロードするには、[利用可能なシステム更新] パネルに移動し、一覧にされている PRU のチェックボックスをオンにし、[アクション] > [更新のダウンロード] の順にクリックします。

- ダウンロードした PRU をインストールするには、[利用可能なシステム更新] パネルに移動し、[アクション] > [今すぐPRU を展開] の順にクリックします。

これで、PRU が [システム更新を展開しています] パネルに一覧にされ、そこに進行状況が表示されます。

21.4 システム更新のキャンセルまたは削除

更新のダウンロードをキャンセルしたり、更新を [利用可能なシステム更新] リストから削除できます。

更新をキャンセルするには、次の手順に従います。

- ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。

The screenshot shows the ZENworks Control Center interface. The left sidebar contains navigation options like Home, Devices, Users, Policies, Bundles, Batch Management, Expansion, Reports, Environment Settings, Asset Management, and Configuration Tasks. The main content area is titled 'System Updates' and is divided into three sections:

- 使用可能なシステム更新 (Available System Updates):** A table listing updates with columns for Action, Release Date, Download Date, Expiry Date, Status, Priority, and Target Type.

アクション	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
更新のチェック						
更新版のダウンロード						
ダウンロードのキャンセル	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
更新をデバイスに展開		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
今すぐPRUを展開		2009/02/18	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
更新の削除						
Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
- システム更新を展開しています (System Updates Being Expanded):** A section with a table for tracking expansion progress.

更新名	スケジュールの開始	再起動動作	ステータス	保留中	成功	失敗
使用できる項目がありません。						
- 展開ステージ (Expansion Stages):** A table for managing deployment stages.

順番	ステージ名	ステージメンバー	ステージング動作	再起動動作	ステージタイムアウト
1	Deployment Stage: Production	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
2	Deployment Stage: Accounting	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
3	Deployment Stage: Test	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分

- ダウンロード中のシステム更新のチェックボックスをオンにし、[アクション] > [ダウンロードのキャンセル] の順にクリックします。

更新をキャンセルすると、更新のダウンロードがキャンセルされます。すでにダウンロード済みのファイルは自動的に削除されませんが、更新を削除すると、ダウンロードしたファイルも削除されます。

アップデートのダウンロード中に ZENworks データベースとのサーバの接続が解除された場合、再接続してもダウンロードは再開されません。[ダウンロードのキャンセル] アクションを実行しようとする、更新がキャンセル状態でハングします。zman sudu --force コマンドを使用して更新を削除します。

更新を削除するには、次の手順に従います。

- ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。

Novell. ZENworks. ログアウト administrator ヘルプ

DDZONEFR

環境設定 登録 システム情報 アセットインベントリ アセット管理 システム更新

使用可能なシステム更新

アクション	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/> 更新のチェック						
<input type="checkbox"/> 更新版のダウンロード						
<input type="checkbox"/> ダウンロードのキャンセル	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> 更新をデバイスに展開 今すぐPRUを展開		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> 更新の削除		2009/02/18	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.2a)		2008/12/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.1)		2008/10/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

システム更新を展開しています

アクション	更新名	スケジュールの開始	再起動動作	ステージ	ステータス	保留中	成功	失敗
<input type="checkbox"/>								

使用できる項目がありません。

展開ステージ

アクション	リネーム	削除	上へ移動	下へ移動	
序数	ステージ名	ステージメンバー	ステージング動作	再起動動作	ステージタイムアウト
<input type="checkbox"/> 1	Deployment Stage: Production	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
<input type="checkbox"/> 2	Deployment Stage: Accounting	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
<input type="checkbox"/> 3	Deployment Stage: Test	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分

- 2 削除するシステム更新のチェックボックスをオンにし、[アクション] > [更新の削除] の順にクリックします。

更新を削除するとこの更新はリストから除外され、ダウンロードされたすべてのファイルは削除されます。ただし、次回更新をチェックした際に更新サーバ上に削除した更新が残っている場合は、ダウンロード予定としてリストに表示されています。

- 3 [OK] をクリックして、削除を確認します。

更新の展開

- ◆ 217 ページのセクション 22.1 「更新の展開について」
- ◆ 220 ページのセクション 22.2 「更新の展開」
- ◆ 227 ページのセクション 22.3 「保留中のステージの開始」
- ◆ 227 ページのセクション 22.4 「展開の再スケジュール」
- ◆ 228 ページのセクション 22.5 「ステージングのバイパス」
- ◆ 228 ページのセクション 22.6 「展開のキャンセル」
- ◆ 229 ページのセクション 22.7 「展開の再試行のエラーのクリア」
- ◆ 229 ページのセクション 22.8 「デバイス別のステータス表示」

22.1 更新の展開について

更新の展開オプションは、次のとおりです。

- ◆ 展開ステージを使用せずに、すべてのデバイスに更新を展開します。展開をスケジュールできます。
- ◆ 展開を一時停止し、管理者に電子メール通知を送信するようにステージを設定しない限り、前のステージが完了した後に、1つのステージが自動的に開始する展開ステージを使用して、更新を展開します。展開をスケジュールできます。
- ◆ 次のステージの開始を手動制御できるよう、電子メール通知を使用した展開ステージを使用して、更新を展開します。このオプションは、運用環境内のすべてのデバイスに更新を展開する前に、テスト目的で使用できます。展開をスケジュールすることができます。
- ◆ 展開ステージを使用せずに、更新を特定のデバイス (個別に選択されたもの、およびデバイスグループによるもの) に展開します。このオプションを使用して、運用環境に含まれるすべてのデバイスに更新を展開する前に、それをテストできます。展開をスケジュールすることができます。

管理ゾーンのすべてのデバイスに更新を展開する前に、ZENworks コントロールセンター内の特定の管理対象デバイスをリタイアすることを選択した場合は、まず、そのデバイスがリタイアしたことを確認してから、更新を適用する必要があります。デバイスがリタイアされるのは、デバイスにインストールされている ZENworks Adaptive Agent がリフレッシュされたときのみです。したがって、エージェントのリフレッシュの前に更新を展開した場合、その更新はリタイア対象のデバイスにも適用されます。エージェントは、次のデバイス更新スケジュール (デフォルトのデバイス更新間隔は 12 時間) 時に自動的にリフレッシュされます。次のデバイス更新スケジュールの前に更新を展開する場合は、エージェントを手動でリフレッシュする必要があります。

[システム更新の展開] パネルに、更新の展開の進行状況および結果が表示されます。

更新プロセス全体が完了すると、このパネルから更新が削除されます。[リリース詳細] ページの [展開履歴] で展開された更新に関する情報を表示できます。

次の図は、[システム更新を展開しています] パネルを示しています。

図 22-1 [システム更新を展開しています] パネル

システム更新の展開								
アクション ▼								
<input type="checkbox"/>	名前の変更	スケジュールの開始	動作の起動	ステージ	ステータス	保留中	成功	失敗
<input type="checkbox"/>	ZCM Update 10.0.2	今すぐ	ユーザにプロンプトを表示	すべてのデバイスステージ	処理中	1	0	0

次の表は、カラム情報を説明しています。カラムの中には、カラム見出しをクリックして一覧にされている情報をソートできるものもあります。ソート順を逆にするには、再度それをクリックします。

表 22-1 [システム更新を展開しています] カラムの説明

カラム見出し	説明
更新名	Novell が作成した更新の名前が表示されます。 名前をクリックして [デバイス別のステータス] ページにアクセスします。[保留中]、[成功]、[失敗] カラムの下線付きの番号をクリックし、そのステータスを持つデバイスを表示するようにフィルタされた適切な [デバイス別のステータス] ページを表示することもできます。
スケジュールの開始	設定されているスケジュールがあればそれを表示します。展開の再スケジュールアクションを使用して、更新を再スケジュールします。詳細については、 227 ページのセクション 22.4「展開の再スケジュール」 を参照してください。 各デバイスには独自のスケジュールを設定できます。
再起動動作	デバイスの更新が展開された後の再起動の動作を表示します。 更新の中には、それがデバイスに展開されてもデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了するために再起動が必要な場合、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。 再起動オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求：更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。これがデフォルトの設定です。 ◆ デバイスを再起動しない：デバイスは再起動されませんが、再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。 ◆ 強制的にデバイスを再起動：更新が適用された後、更新に再起動が必要な場合はユーザが操作しなくてもデバイスは自動的に再起動されます。

カラム見出し	説明
ステージ	<p>展開の状態を示します。表示されるエントリは次のとおりです。</p> <p>stage_name: 一覧表示されている現在のステージのメンバーである管理対象デバイスに更新を展開中です。</p> <p>選択したデバイスステージ: ステージを使用せずに、選択した管理対象デバイスに更新が展開されています。</p> <p>すべてのデバイスステージ: ステージを使用せずに、管理ゾーン内のすべての管理対象デバイスに更新が展開されています。</p> <p>最後のステージが完了すると、[すべてのデバイスステージ] と表示されます。これは、管理ゾーンに残った、完了したステージに含まれなかったデバイスが更新を受け取る最中であることを意味します。つまり、管理対象デバイスは、更新をスキップできません。</p> <p>ステージが使用されている場合は、ステージ名をクリックすると各ステージメンバーのデバイスのステータスが表示されます。詳細については、229 ページのセクション 22.8「デバイス別のステータス表示」を参照してください。</p>
ステータス	<p>展開中の更新のステータスを示します (ステージが使用されている場合は、最新のステージに対して)。可能なステータスに関する詳細については、241 ページの第 25 章「ステータスの更新」を参照してください。</p> <p>[ステータス] カラムの中の項目をクリックし、現在のステータスを説明するメッセージを表示します。</p> <p>更新のステータスが APPLIED または BASELINE ステータスに達すると、このパネルは更新の展開項目が表示されなくなりますが、[展開履歴] パネルに表示されます。詳細については、229 ページのセクション 22.8「デバイス別のステータス表示」を参照してください。</p>
保留中	<p>更新の展開プロセスが保留中になっているデバイスの数を表示します。別のステージの完了後に次のステージが自動的に開始されないようなステージのメンバーである場合、デバイスは保留中になります。</p> <p>番号をクリックして [デバイス別のステータス] ページを表示します。このページには、更新の展開が保留中のデバイスが表示されます。詳細については、229 ページのセクション 22.8「デバイス別のステータス表示」を参照してください。</p>
成功	<p>更新の展開プロセスが完了したデバイスの数を表示します。</p> <p>番号をクリックして [デバイス別のステータス] ページを表示します。このページには、更新を正常に受信したデバイスが表示されます。詳細については、229 ページのセクション 22.8「デバイス別のステータス表示」を参照してください。</p>
失敗	<p>更新の展開プロセスが失敗したデバイスの数です。</p> <p>番号をクリックして [デバイス別のステータス] ページを表示します。このページには、更新の受信に失敗したデバイスが表示されます。詳細については、229 ページのセクション 22.8「デバイス別のステータス表示」を参照してください。</p> <p>失敗した展開に対しては、エラーを無視して続行するか、エラーが解決した場合は更新を再展開することができます。</p>

22.2 更新の展開

- (オプション) 展開ステージを使用する場合で、以前に設定したことがない場合は設定を行います。
詳細については、198 ページのセクション 20.2 「展開ステージの作成」を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックすると、[利用可能なシステム更新] パネルが表示されます。

The screenshot shows the ZENworks Control Center interface. The left sidebar has a tree view with '環境設定' (Environment Settings) selected. The main content area is titled '利用可能なシステム更新' (Available System Updates) and contains a table with the following data:

アクション	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
更新のチェック						
更新版のダウンロード	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
ダウンロードのキャンセル						
更新をデバイスに展開		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
今すぐPRUを展開						
更新の削除		2009/02/18	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.2a)		2008/12/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.1)		2008/10/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- (オプション) 新しい更新が表示されていない場合は、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。
入手可能な更新の説明を次に示します。

アクション	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
更新名						
Jun 2009 PRU	2009/06/02			使用可能	中程度	すべてのデバイス
Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27			使用可能	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- (オプション) 入手可能な更新のコンテンツを表示するには、([更新名] カラムで) 更新の名前をクリックし、[リリース詳細] ページを表示します。



詳細については、[237 ページの第 24 章「更新のコンテンツの確認」](#)を参照してください。

- 更新をダウンロードするには、そのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックして、[更新版のダウンロード] をクリックします。

更新によってダウンロードが完了した後、そのステータスが [ダウンロードされました] に自動的に変更されます。更新をダウンロードする時間の長さは、そのサイズおよびハードウェアの設定に依存します。

同時に複数の更新をダウンロードできますが、展開できるのは一度に 1 つのみです。これらの手順は更新ごとに繰り返されるので、今回は展開しようと計画している更新のみをダウンロードする必要があります。

ダウンロードされた更新の説明を次に示します。

使用可能なシステム更新							
アクション ▼	更新名	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/>	Jun 2009 PRU	2009/06/02			使用可能	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27			使用可能	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- ダウンロードされた更新を展開するかどうかを判断し、そのチェックボックスをオンにします。

一度に 1 つの更新しか展開できません。

ダウンロードした更新のコンテンツを確認するには、[237 ページの第 24 章「更新のコンテンツの確認」](#)のダウンロードされた更新のコンテンツの確認に関する説明を参照してください。

異なる展開の更新をダウンロードする場合、[ステップ 4](#)に戻ります。

7 [アクション] > [更新をデバイスに展開] の順にクリックします。

これにより、該当するすべてのデバイスに更新を展開するためのシステム更新の展開の作成ウィザードが開始されます。展開ステージが有効になっている場合は、それらを使用できます。

展開ウィザードでは、展開のスケジュールなどを含む、さまざまなオプションが提供されます。

システム更新の展開の作成	
手順1: 展開の再起動動作の選択	
更新名	ZCM 10.0.7の更新
リリース日:	2008年4月7日
ダウンロード日:	2008年4月12日
優先度レベル:	オプション
説明:	
ターゲット:	
製品バージョン	0
更新に関する注:	
更新のReadme:	

更新されたファイル:

管理ゾーンの展開オプションを選択してください:

- システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する
- システム更新を管理ゾーン内のすべてのデバイスに展開する
- ステージを使用してシステム更新を管理ゾーン内のデバイスに展開する

8 展開ウィザードで、次の手順を完了します。

8a [システム更新と展開オプションの選択] ページで、展開オプションを選択します (これらはすべて後続のウィザードページでスケジュールできます)。

注: ZENworks システムのサイズによっては、1つの ZENworks プライマリサーバに選択した更新を展開してから、これらのサーバと通信する管理対象デバイスに更新を展開することを、ベストプラクティスとして推奨します。

次のアクションを順番に実行することを推奨します。

1. システム更新をダウンロードする ZENworks プライマリサーバを指定します。
2. システム更新が [ダウンロードされました] 状態になった後、更新を上記で指定したプライマリサーバにのみ割り当てます。
3. サーバの ZENworks エージェントを更新して、システム更新を終了し、サーバを再起動します。
4. サーバが再起動された実行された後、システムの他のプライマリサーバを更新し、管理対象デバイスを更新します。

運用環境では、[システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する] オプションを使用して最初のプライマリサーバを更新してから、残りのプライマリサーバを更新し、その次に管理対象デバイスを更新することを推奨します。ま

たは、[ステージを使用してシステム更新を管理ゾーン内のデバイスに展開する] オプションを使用して、最初のプライマリサーバを含むステージに更新を展開してから、残りのプライマリサーバおよび管理対象デバイスを含むその他のステージに更新を展開します。

- ◆ **システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する** : **ステップ 8e** で選択したデバイスにのみ、選択した更新を展開します。ステージは使用されません。このオプションを選択した場合は、ウィザードの次のページで、展開に含まれるデバイスの再起動動作を選択できます。


- ◆ **システム更新を管理ゾーン内のすべてのデバイスに展開する** : 管理ゾーンの中のすべてのデバイスに選択した更新を展開します。ステージは使用されません。このオプションを選択した場合は、ウィザードの次のページで、展開に含まれるデバイスの再起動動作を選択できます。

このオプションは、管理対象デバイスの前に ZENworks サーバが更新されることを保証するものではありません。大規模な ZENworks システムや運用環境では、次のいずれかのオプションを使用することをお勧めします。

- ◆ **管理ゾーンに含まれるデバイスにステージを使用してシステム更新を展開** : ステージのいずれかにメンバーシップを持つデバイスにのみ選択した更新を展開します。ステージは1つずつ実行されます。つまり、前のステージが完了するまで次のステージは開始されません。すべてのステージの完了後、[すべてのデバイス] ステージが実行されます。このオプションを選択し、再起動動作をステージごととして設定した場合は、ウィザードの次のページで、他の全ステージの後で自動的に実行される**すべてのデバイスステージ**の再起動動作を選択できます。

ステージの詳細については、[198 ページのセクション 20.2 「展開ステージの作成」](#) を参照してください。

8b [次へ] をクリックして、次のページを表示します。

システム更新の展開の作成
 手順2: 展開の再起動動作の選択
展開の再起動動作の選択
<input checked="" type="radio"/> 更新の適用が終了したときにユーザに対して再起動するよう促す
<input type="radio"/> デバイスを再起動しない
<input type="radio"/> 強制的にデバイスを再起動

8c 次のいずれかを行います：

- ◆ **更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求** : 更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するように定期的に要求されます。これがデフォルトの設定です。
- ◆ **デバイスを再起動しない** : デバイスは再起動されませんが、再起動されるまで定期的に再起動を実行するように求められます。
- ◆ **強制的にデバイスを再起動** : 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。

更新の中には、それがデバイスに展開されてもデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了するために再起動が必要な場合、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

8d [次へ] をクリックします。

8e (オプション) **ステップ 8a** で [システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する] を選択した場合、次のウィザードページが表示されます。

システム更新の展開の作成	
手順3: 展開デバイスとグループの選択	
追加 削除	
<input type="checkbox"/>	名前
項目を選択していません、[追加] をクリックして項目を選択します。	

<< 戻る

次へ >>

キャンセル

8f デバイスまたはグループを展開の設定に追加するには、[追加] をクリックし、更新の展開に含めるデバイスまたはデバイスグループを参照して選択し、次に [OK] をクリックします。

8g [次へ] をクリックし、[展開スケジュールの選択] ページを表示します。

8h 次のフィールドに入力します。

スケジュールタイプ: スケジュールオプションのいずれかを選択します。

- ◆ **今すぐ:** ウィザードを終了次第、更新を展開します。

システム更新の展開の作成	
手順2: 展開スケジュールの選択	
スケジュールタイプ:	
<input type="text" value="今すぐ"/>	▼

このスケジュールは、ウィザードの完了時に直ちに実行されます。

<< 戻る

次へ >>

キャンセル

- ◆ **特定の日付:** 設定したスケジュールに従って更新を展開します。[日付特有] オプションに対して、次のオプションが表示されます。

システム更新の展開の作成	
🔧 手順4: 展開スケジュールの選択	
スケジュールタイプ:	日付特有
開始日	2008年4月12日
<input type="checkbox"/> 毎年イベントを実行	
<input checked="" type="checkbox"/> デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する	
スケジュールの実行が開始される時間を選択:	
<input checked="" type="radio"/> 開始時刻にすぐに実行	
<input type="radio"/> 開始時刻および終了時刻の間でランダムに開始	
開始時刻	1 : 00 am
終了時刻	1 : 00 am

次のフィールドに入力します。


- ◆ **開始日** : カレンダから展開する日付を選択します。
- ◆ **毎年イベントを実行** : 毎年開始日に更新を展開するには、このオプションを選択します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : 更新ではこのオプションを使用しないでください。これは、更新には適用されません。
- ◆ **開始時刻にただちに開始** : 指定する開始時刻に更新を展開できます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : 指定する時刻の間にランダムに更新を展開できます。[終了時刻] フィールドに入力します。

8i [次へ] をクリックすると、[展開オプションの確認] ページが表示されるので、情報を確認します。

システム更新の展開の作成	
🔧 手順5: 展開オプションの確認	
更新名:	ZCM Update 10.0.2
展開タイプ:	システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する
展開の再起動動作:	更新の適用が終了したときにユーザに対して再起動するよう促す
展開スケジュール:	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> スケジュールタイプ: 日付特有 スケジュールされたイベントが実行される日: 2008年4月12日 開始時間: 1:00 AM 終了時間: </div>

9 これではよい場合は、[完了] をクリックして更新の展開を開始します。これではよくない場合は、[戻る] をクリックして変更します。

10 (条件付き) 展開スケジュールタイプとして、**ステップ 8h** で [今すぐ] を選択した場合、更新は次回のデバイス更新スケジュール中のみ展開されます。ただし、デバイスにすぐに更新を適用したい場合は、次のいずれかの方法で手動で管理対象デバイスを更新する必要があります。

- ◆ [デバイス] タブ > [管理対象] タブ > [サーバ]、または [ワークステーション] の順にクリックし、更新するデバイスの隣のチェックボックスをオンにして、[クイックタスク] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
- ◆ 管理対象デバイスで、 アイコンを右クリックし、次に [更新] をクリックします。
- ◆ 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。

11 更新の展開の進行状況を見るには、次のいずれかを行います。

- ◆ ZENworks コントロールセンターでは、[システム更新] ページのパネルを参照します。
 - ◆ 展開が完了すると、[使用可能なシステム更新] パネルの [状態] ステータス [状態] カラムに、[状態] ベースライン済み] が自動的に表示されます。
 - ◆ 展開が完了したときに、[展開されたシステム更新] パネルに、そのリストに更新が表示されます。
- ◆ 更新が展開される Windows デバイスで、[ZENworks] アイコンを右クリックし、[進捗表示] を選択すると、[ZENworks 進行状況] ダイアログボックスが開きます。

これらのデバイスは ZENworks の管理対象デバイスでなく、ZENworks アイコンを持たないため、Linux デバイスではダウンロードの進行状況を見ることはできません。

更新 MSI ファイルのダウンロードの進行状況が表示されます。終了するとダイアログボックスが自動的に閉じ、[進捗表示] オプションがグレー表示になります。

5分待機すると、デバイスのすべての ZENworks サービスが終了します。その後、MSI (Windows 用) または RPM (Linux 用) がインストールされ、サービスが再開されます。

12 更新が正常に展開されたことを確認する

12a MSI または RPM がインストールされ、更新プロセスが完了したことを確認するには、次のログファイルを確認します。

Windows: `installation_path\novell\zenworks\logs\systemupdate.log`

Linux: `/var/opt/novell/log/zenworks/SystemUpdate.log`

次のファイルが存在するかどうかを確認できます (Windows と Linux 両方同じパス)。

`installation_path\novell\zenworks\work\system-update\systemupdate.ini.timestamp`

12b ZENworks ソフトウェアをデバイス上でテストし、適切に動作していることを確認します。

12c 更新が展開されたことを確認するには、次のいずれかの操作を行って、バージョン番号が増加したかどうかを判別してください(たとえば、ZENworks の最初の更新では、値が 10.0.x から 10.0.2 に変更されます)。

- ◆ Windows レジストリを開いて、次のキーを参照します。

HKEY_LOCAL_MACHINE/Software/Novell

ZCM キーでは、更新プロセスは、[バージョン] の値だけ増加する必要があります。

- ◆ Windows デバイスで、次のファイルを確認します。

Installation_path\Novell\ZENworks\version.txt

- ◆ Linux デバイスで、次のファイルを確認します。

/etc/opt/novell/zenworks/version.txt

12d それぞれのテストデバイスに対して、[ステップ 12a](#) ~ [ステップ 12c](#) を繰り返します。

13 (オプション) 展開ステージの終了時に電子メール通知を受信している場合で、次のステージの開始準備ができている場合は、[展開されたシステム更新] パネルに移動し、[アクション] > [次のステージに進む] の順にクリックします。

14 別の更新を展開するには、[ステップ 4](#) から繰り返します。

22.3 保留中のステージの開始

デフォルトのステージ動作は、設定したステージを自動的に進めるという動作です。ただし、すべてのステージに対して、個別ステージのステージ動作を設定できます。

[保留中ステージの開始] オプションは、ステージを自動完了させるのではなく、[次のステージに手動で進め、完了時に通知する] オプションを使用し、続行する前に各ステージを停止して手動による入力を行う場合のみ、利用できます。

保留中ステージを開始するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新を展開しています] パネルで、更新のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [保留中ステージの開始] の順にクリックします。

22.4 展開の再スケジュール

展開の開始後に再スケジュールすることはできません。

- ◆ [227 ページのセクション 22.4.1「すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール」](#)
- ◆ [228 ページのセクション 22.4.2「その他のステータスに対する展開の再スケジュール」](#)

22.4.1 すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。

同時に展開された更新がすべてのデバイスにある必要はないので、デバイス別に個別の展開スケジュールを設定できます。

- 2 [アクション] > [展開の再スケジュール] の順にクリックして、[再展開スケジュール] ダイアログボックスを開きます。
- 3 [OK] をクリックして [今すぐ] のデフォルトのスケジュールを受諾するか、[スケジュールタイプ] フィールドの [日付特有] を選択して、新しい日付を指定して [OK] をクリックします。

22.4.2 その他のステータスに対する展開の再スケジュール

- 1 更新のチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [展開の再スケジュール] の順にクリックします。
- 3 [デバイス別のステータス] ページで更新のチェックボックスをオンにし、次に、[展開の再スケジュール] をクリックします。
- 4 [デバイス別のステータス] ページで、[デバイス] カラムに一覧にされているデバイスを1つ以上選択します。
- 5 [デバイスの再スケジュール] をクリックして、[再展開スケジュール] ダイアログボックスを開きます。
- 6 [OK] をクリックしてデフォルトの [今すぐ] を承認するか、[スケジュールタイプ] フィールドで [日付特有] を選択し、新しい日付を指定して [OK] をクリックします。

22.5 ステージングのバイパス

いつでもステージをバイパスし、管理ゾーンの中のすべての管理対象デバイスに更新を即時展開できます。

- 1 更新のチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [ステージをバイパスしてすべてのデバイスに適用] の順にクリックします。

22.6 展開のキャンセル

このオプションの主な目的は、まだ開始されていない展開をキャンセルすることです。

ステージを使用してのみ展開を適用する方法を選択し、更新の展開をキャンセルした場合、[使用可能なシステム更新] パネル内のステータスが [中断] に変わります。

ただし、更新では、個々のデバイスに展開したり、他のデバイスのステージを介して展開することを選択できます。そのため、[使用可能なシステム更新] パネルのステータスは次のように変わります。

- [準備完了] (ステージを使用した展開のみをキャンセルした場合)。
- [中断] (ステージを使用した展開と個別に選択したデバイスへの展開の両方をキャンセルした場合)。

展開をキャンセルする

- 1 更新のチェックボックスをオンにします。

2 [アクション] > [展開のキャンセル] の順にクリックします。

警告: 現在実行中 (スケジュールされたばかりのものではない) の展開をキャンセルすると、その時点までに実行された展開のアクションを元に戻すことはできません。現在、ロールバックオプションはありません。

3 [OK] をクリックし、展開のキャンセルを確認します。

22.7 展開の再試行のエラーのクリア

展開を中止するほどエラーが深刻ではないと判断した場合に、展開を続行する

1 [アクション] > [エラーをクリアして続行] の順にクリックします。

22.8 デバイス別のステータス表示

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ [229 ページのセクション 22.8.1 「デバイスのステータスの理解」](#)
- ◆ [230 ページのセクション 22.8.2 「デバイスのプロパティの表示」](#)
- ◆ [231 ページのセクション 22.8.3 「デバイスのステータスに関する情報の表示」](#)
- ◆ [231 ページのセクション 22.8.4 「無視されたデバイスの切り替え」](#)
- ◆ [232 ページのセクション 22.8.5 「更新をデバイスに再展開」](#)
- ◆ [232 ページのセクション 22.8.6 「更新をデバイスへ再スケジュール」](#)
- ◆ [233 ページのセクション 22.8.7 「デバイスの更新」](#)

22.8.1 デバイスのステータスの理解

次の図は、[システム更新] ページの [システム更新を展開しています] パネルを示しています。

図 22-2 [システム更新を展開しています] パネル

システム更新の展開								
アクション								
<input type="checkbox"/>	名前の変更	スケジュールの開始	動作の起動	ステータス	ステータス	保留中	成功	失敗
<input type="checkbox"/>	ZCM Update 10.0.2	今すぐ	ユーザにプロンプトを表示	すべてのデバイスステータス	処理中	1	0	0

下線付きの任意のリンクをクリックして、該当するデバイスのステータスを表示できます。たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図のように展開が保留中のデバイスのステータスが表示されます。

図 22-3 保留中のステータスがあるデバイスの [デバイス別のステータス] ページ

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

1 - 1/1 5の表示 ▼ 項目

このページで表示可能なステータスは、次のとおりです。

すべてのデバイス：ステータスにかかわらず、選択した更新を受信するように設定されたすべてのデバイスを一覧にします。

保留中のデバイス：選択した更新が保留中のデバイスのみを一覧にします。

成功したデバイス：選択した更新が正常に展開されたデバイスすべてを一覧にします。

失敗したデバイス：選択した更新が失敗したデバイスのみを一覧にします。

更新は割り当てられました：選択した更新が割り当てられたデバイスのみを一覧にします。

次の表は、カラム情報を説明しています。カラムの中には、カラム見出しをクリックして一覧にされている情報をソートできるものもあります。ソート順を逆にするには、再度それをクリックします。このページは自動的に更新され、更新がデバイスに適用されるごとにデバイスを使用できるようにします。

カラム見出し	説明
デバイス	デバイス名です。これをクリックすると、ZENworks コントロールセンターにデバイスのプロパティページが表示されます。
ステータス	デバイスに対する現在の更新の展開ステータスです。ステータスに関する情報を表示するには、ステータス項目をクリックします。 個別のステータスの詳細については、 241 ページの第 25 章「ステータスの更新」 を参照してください。
デバイスタイプ	デバイスがサーバまたはワークステーションのいずれであるかが表示されます。
フォルダ内	デバイスの ZENworks オブジェクトが保存されている ZENworks コントロールセンターのフォルダが表示されます。

22.8.2 デバイスのプロパティの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの **[環境設定]** をクリックし、**[システム更新]** タブをクリックします。
- 2 **[システム更新を展開しています]** パネルで、**[更新名]**、**[ステージ]**、**[保留中]**、**[成功]**、または **[失敗]** カラム内にある下線付きのリンクをクリックし、適切な **[デバイス別のステータス]** ページを表示します。

たとえば、**[保留中]** カラムのリンクをクリックすると、次の図のように展開が保留中のデバイスのステータスが表示されます。

The screenshot shows a table titled "ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス". The table has columns for "アクション", "デバイス", "ステータス", "デバイスタイプ", and "In Folder". A row is shown for the device "zendoc3a" with the status "更新が割り当てられました" (Update assigned) and type "サーバ" (Server). The path in the "In Folder" column is "/devices/servers/zendoc3a".

アクション	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 **[デバイス]** カラムの下線の付いたリンクをクリックし、デバイスのプロパティを表示します。

22.8.3 デバイスのステータスに関する情報の表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新を展開しています] パネルで、[更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] カラム内にある下線付きのリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図のように展開が保留中のデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション ▼					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 [ステータス] カラムの下線の付いたリンクをクリックし、デバイスに関するステータス情報を表示します。

22.8.4 無視されたデバイスの切り替え

デバイスで更新が失敗したときに、エラーを解決せずに展開を続行する場合に、デバイスの無視は便利です。たとえば、デバイスがオフラインで、展開を続行できるようにするためそのデバイスが無視する場合などです。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新を展開しています] パネルで、[更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] カラム内にある下線付きのリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図のように展開が保留中のデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション ▼					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 1つ以上のデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [アクション] > [無視されたデバイスの切り替え] の順にクリックします。

[アクション] メニューから使用できるオプションは、[すべての割り当てデバイスのステータス] パネル、[保留中のステータスのデバイス] パネル、[失敗ステータスのデバイス] パネルのいずれを表示中であるかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

22.8.5 更新をデバイスに再展開

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新を展開しています] パネルで、[更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] カラム内にある下線付きのリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図のように展開が保留中のデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション ▼					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 1つ以上のデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [アクション]、[更新をデバイスに再展開] の順にクリックします。

[アクション] メニューから使用できるオプションは、[すべての割り当てデバイスのステータス] パネル、[保留中のステータスのデバイス] パネル、[失敗ステータスのデバイス] パネルのいずれを表示中であるかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

22.8.6 更新をデバイスへ再スケジュール

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新を展開しています] パネルで、[更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] カラム内にある下線付きのリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図のように展開が保留中のデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション ▼					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 1つ以上のデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [アクション]、[デバイスの再スケジュール] の順にクリックします。

[アクション] メニューから使用できるオプションは、[すべての割り当てデバイスのステータス] パネル、[保留中のステータスのデバイス] パネル、[失敗ステータスのデバイス] パネルのいずれを表示中であるかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

更新の展開がスケジュールされている場合のみ、[デバイスの再スケジュール] オプションが表示されます。更新のスケジュールが [今すぐ] に設定されている場合、このオプションは使用できません。

22.8.7 デバイスの更新

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインにある [環境設定] をクリックして、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新を展開しています] パネルで、[更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] カラム内にある下線付きのリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図のように展開が保留中のデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション ▼					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 1つ以上のデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。

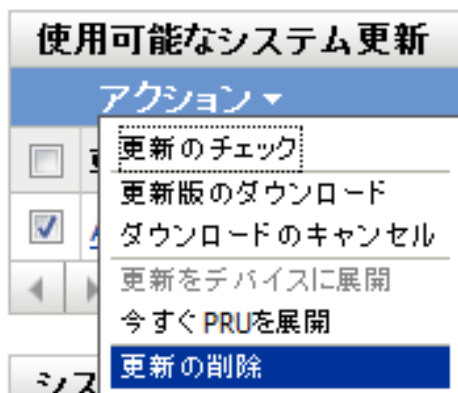
[アクション] メニューから使用できるオプションは、[すべての割り当てデバイスのステータス] パネル、[保留中のステータスのデバイス] パネル、[失敗ステータスのデバイス] パネルのいずれを表示中であるかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

更新の削除

23

ダウンロードに失敗した更新、または展開しない更新をクリアできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [利用可能なシステム更新] パネルで、1つ以上の更新のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [更新の削除] の順にクリックします。



更新がリストから削除され、ダウンロードされたすべてのファイルが削除されます。ただし、削除された更新が更新サーバでまだ使用可能な状態である場合、次回更新のチェックを行ったときに、可能なダウンロードとして再度リストに表示されます。

次の理由から、更新のコンテンツを確認できます。

- ◆ 更新をダウンロードするかどうかを判断する
- ◆ 更新をダウンロードするか判断する
- ◆ 更新によって何が展開されるかを確認する
- ◆ 更新の履歴を確認する

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ◆ [237 ページのセクション 24.1 「リリース詳細ページの表示」](#)
- ◆ [238 ページのセクション 24.2 「リリース詳細の更新」](#)
- ◆ [238 ページのセクション 24.3 「展開履歴」](#)

24.1 リリース詳細ページの表示

- 1 ZENworks® コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、次に、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、[更新名] カラムの更新名をクリックして、[リリース詳細] ページを表示します。



24.2 リリース詳細の更新

表 24-1 システム更新リリース詳細パネルの情報

カラム見出し	説明
更新名	Novell® 作成の更新の名前。
GUID の更新	更新の GUID。
リリース日付	Novell によって更新がリリースされた日付。
ダウンロード日付	更新のコンテンツ (更新のインストールに必要なすべてのファイルを含む) をダウンロードした日付。
優先度レベル	ZENworks インストールに対する更新コンテンツの相対的重要度。表示されるエントリには以下のものが含まれます。 オプション : ZENworks の通常動作には不要。 MANDATORY : 適用が必要な必須の更新です。
説明	更新の目的とそのコンテンツに関する簡単な説明。
ターゲット	ターゲットデバイスがプライマリサーバのみか、すべての管理対象デバイスか、ZENworks の役割を持つサーバかを示します。
製品バージョン	この更新に含まれる ZENworks のバージョンです。
前提条件の更新	この更新を行うために必要なすべての更新。
置き換え更新	現在の更新で置換されるすべての更新。
更新のメモ	更新に関係する重要事項に関する簡単な説明。
更新の README	ぎりぎり追加された説明など、更新の展開に関する情報です。README を開くには、このエントリをクリックします。
更新したファイル	ZENworks ソフトウェアを更新するために適用される更新に含まれるすべてのファイルを一覧表示します。

24.3 展開履歴

この [展開履歴] パネルには、選択した更新に対する履歴の現在のスナップショットが表示されます。パネルの内容は自動的に更新されません。

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ [239 ページのセクション 24.3.1 「展開履歴の詳細の理解」](#)
- ◆ [239 ページのセクション 24.3.2 「展開履歴タスクの実行」](#)

24.3.1 展開履歴の詳細の理解

表 24-2 展開履歴の詳細パネルのカラム

カラム見出し	説明
ステージ	<p>使用される展開方法を示します。表示されるエントリは次のとおりです。</p> <p>stage_name: 一覧にされているステージのメンバーである管理対象デバイスに更新が展開されました。</p> <p>選択したデバイスステージ: ステージのメンバーではない、管理ゾーン内の選択した管理対象デバイスに更新が展開されました。</p> <p>すべてのデバイスステージ: ステージのメンバーでない、管理ゾーン内のすべての管理対象デバイスに更新が展開されました。</p>
ステータス	<p>[適用済み] または [ベースライン済み] などの、正常に展開された更新のステータスを示します。</p> <p>処理中: ステージのメンバーに対して、現在更新を展開中です。</p> <p>個別のステータスの詳細については、241 ページの第 25 章「ステータスの更新」を参照してください。</p>
保留中	<p>更新の展開プロセスが保留中になっているデバイスの数を表示します。デバイスがステージのメンバーであり、1つのステージの完了後に自動的に他のステージが開始されない場合は、デバイスは保留状態になります。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには、番号をクリックします。すると、保留中の更新の展開があるデバイスが表示されます。</p>
成功	<p>更新の展開プロセスが完了したデバイスの数を表示します。</p> <p>番号をクリックして [デバイス別のステータス] ページを表示します。このページには、更新を正常に受信したデバイスが表示されます。</p>
失敗	<p>更新の展開プロセスが失敗したデバイスの数を表示します。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新の受け取りに失敗したデバイスが表示されます。</p> <p>展開が失敗した場合、エラーを無視して続行するか、エラーが解決した場合は更新を再展開することができます。</p>

24.3.2 展開履歴タスクの実行

表 24-3 更新の展開履歴を評価するためのタスク

タスク	手順	追加の詳細
展開が保留中になっているデバイスの表示	<ol style="list-style-type: none">[展開ステージ] パネルで、[保留中] カラムの番号をクリックします。[デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。	更新の展開が保留中のデバイスが表示されます。

タスク	手順	追加の詳細
展開が正常終了したデバイスを表示する	<ol style="list-style-type: none"> 1. [展開ステージ] パネルで、[成功] カラムの番号をクリックします。 2. [デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。 	選択した更新が正常に適用されたデバイスが表示されます。
展開が失敗したデバイスを確認する	<ol style="list-style-type: none"> 1. [展開ステージ] パネルで、[失敗] カラムの番号をクリックします。 2. [デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。 	<p>更新の展開が失敗したデバイスが表示されます。</p> <p>失敗したデバイスがあるときに、展開が正常に終了したと見なすためには、失敗したデバイスを無視するか、失敗したデバイスに更新を再展開する前にエラーを修正する必要があります。</p>

ステータスの更新

ZENworks コントロールセンターのいくつかの [システム更新] パネルの [ステータス] カラムに、次の更新ステータスが表示されます。

中断: [アクション] > [展開のキャンセル] の順に選択するなどして、更新の展開が停止されています。

適用済み: 更新が管理対象デバイスに正常に適用されています。

使用可能: このステータスを持つ更新により、更新に関する情報がダウンロードされました。これは、[更新ID] カラムの更新名をクリックすることにより表示できます。

再起動を待機しています: 更新の適用後にユーザが手動で再起動するまで、デバイスは待機します。

ベースライン済み: 更新が /Devices フォルダに割り当てられています。つまり、管理ゾーンに追加されたすべての新規デバイスは、まだその更新レベルに達していなければ、自動的に更新されます。更新がベースライン済みになると、システム更新によって更新されたパッケージ (MSI および RPM) は削除され、新しいパッケージに置換されます。ベースライン済みの更新が完了と見なされても、無視された個々のデバイスが存在する可能性があります。

ZENworks Configuration Management の以前のバージョンでは、更新がベースラインされると、すべての ZENworks サーバ上の ZENworks エージェントパッケージは最新のソフトウェアで再構築されました。本バージョンでは、エージェントパッケージは各サーバのアップグレードプロセス中に再構築されます。

キャンセルされました: [アクション] > [ダウンロードのキャンセル] の順に選択し、ダウンロードまたは展開が正常にキャンセルされた後に表示されます。

キャンセルしています: [アクション] > [ダウンロードのキャンセル] の順に選択すると一時的に表示されます。

展開しています: 更新は現在展開されています。展開の詳細と、展開中の更新に対して取れるアクションについては、[217 ページの第 22 章「更新の展開」](#)を参照してください。

ダウンロード済み: 更新のコンテンツがダウンロードされ、展開の用意ができました。展開の詳細および展開した更新に対して実行できるアクションについては、[217 ページの第 22 章「更新の展開」](#)を参照してください。

ダウンロードしています: ダウンロードプロセスが完了した割合を表示します。このステータスは、ダウンロードが完了すると [ダウンロードされました] に変更されます。

[エラー]: 更新される 1 つ以上のデバイスでエラーが発生したため、ステージを完了できませんでした。エラーを無視して続行するか、続行する前にエラーを修正するかを選択できます。このステータスは、更新のダウンロードのエラーも示します。

進行中: 現在のステージはアクティブです。

更新をインストールしています: 更新は現在デバイスにインストールされています。

準備完了: 現在のステージを開始する準備ができました。

再起動が進行中です：デバイスは再起動中です。

再起動プロセスがキャンセルされました：更新適用後のデバイスの再起動は、キャンセルされました。

スケジュール済み：更新にスケジュールが定義されていることを示します。システム更新の展開の作成ウィザードで展開を作成する場合は、[217 ページの第 22 章「更新の展開」](#)を参照してください。[アクション] > [展開の再スケジュール] オプションを使用して、更新のスケジュールを変更できます。

ステージ完了：ステージが完了しました。

ステータス不明：デバイスの更新のステータスが不明です。

置き換え済み：更新は、[使用可能なシステム更新] セクションにある別の更新で置き換えられたことを示します。このステータスは、この更新の展開プロセスの実行中で、保留中のデバイスがある場合にのみ表示されます。置き換え済み更新を削除できますが、展開はできません。

更新は中断されました：デバイスの更新がキャンセルされています。

更新完了：デバイスで更新のインストールが完了しました。

更新が完了しましたがエラーがありました：デバイスで更新のインストールが完了しましたが、エラーがありました。詳細は、更新ログを確認してください。

更新は割り当てられました：更新がデバイスに割り当てられました。

ゾーンの更新前アクション：サーバの更新が開始される前に、管理ゾーンのアクションが実行されます。

ゾーンの更新後アクション：サーバアップグレードが終了した後に、管理ゾーンのアクションが実行されます。

ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定

26

管理対象デバイスに存在する ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作を設定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、[システム更新エージェント] をクリックします。
- 3 次のフィールドに入力します。

パーミッションプロンプトの表示: [オン] を選択すると、システム更新を開始できるようになったときに管理対象デバイスにダイアログボックスが表示されます。この設定を [オン] に設定した場合、ユーザは更新の開始をキャンセル、延期、または許可できます。

デフォルトでは、この設定は [オフ] に設定されます。この場合、ユーザは更新のキャンセルや延期ができず、更新はユーザに確認されずに直ちに開始します。

パーミッションプロンプトの最大延期 この設定は、ユーザが更新を延期できる回数を指定します。[パーミッションプロンプトの表示] 設定で [オン] を選択した場合、システム更新が開始する前にユーザに確認のメッセージが表示されます。この場合、ユーザは更新を延期できます。ユーザが何度でも更新を延期できるようにするには、[無制限] を選択します。または、[制限] を選択して、ユーザが更新を延期できる回数を指定します。デフォルトでは、ユーザは更新を 5 回延期できます。

注: 英語以外の言語のローカリゼーション後にこの機能が追加されたので、延期できる回数に制限があることをユーザに示すために必要な文字列として利用できる訳文がありません。ローカライズした文字列をローカル言語に使用できない場合 (これは英語以外のすべての言語に該当)、この設定は無視され、ユーザは何度でも延期できます。{0} に残りの延期回数を指定し、

HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\ZCM\SystemUpdate の下のレジストリに *PERMISSION_MSG_POSTPONES_REMAINING* 文字列を設定することによって、この制限を修正できます。

パーミッションプロンプトのタイムアウト ユーザは、更新を適用する許可を求められたら、更新が開始するまで応答を待機する時間を指定できます。ユーザが応答するまでパーミッションプロンプトを表示するには、[タイムアウトなし] を選択します。または、[_ 分後にタイムアウト] を選択して、更新が開始するまで、応答のないプロンプトをユーザの画面に表示させる分数を指定します。デフォルトで、ユーザがプロンプトに応答するまでの時間は 5 分です。

この値は分単位で指定します。

パーミッションプロンプトの Nag 時間 ユーザが更新の開始を延期することにした場合、この設定は、更新が開始を待機していることをユーザに知らせるプロンプトが表示される間隔を指定します。デフォルトで、このプロンプトは 15 分ごとに表示されます。

この値は分単位で指定します。

この値は分単位で指定します。デフォルトは 120 分です。

再起動プロンプトの Nag ダイアログ この設定が [オン] に設定されていると、管理対象デバイスにダイアログボックスが表示され、アップデートの完了には再起動が必要であることをユーザに通知します。デフォルトでは [オン] に設定され、ダイアログボックスは 15 分ごとに表示されます。

再起動プロンプトの最大延期 この設定は、更新に必要な場合、ユーザが再起動を延期できる回数を指定します。[再起動プロンプトの Nag ダイアログ] 設定に [オン] を選択した場合、再起動が行われる前にユーザに確認のメッセージが表示されます。この場合、ユーザは再起動を延期できます。ユーザが何度でも再起動を延期できるようにするには、[無制限] を選択します。または、[制限] を選択して、ユーザが再起動を延期できる回数を指定します。デフォルトでは、ユーザは再起動を 5 回延期できます。

注： 英語以外の言語のローカリゼーション後にこの機能が追加されたので、延期できる回数に制限があることをユーザに示すために必要な文字列として利用できる訳文がありません。ローカライズした文字列をローカル言語に使用できない場合 (これは英語以外のすべての言語に該当)、この設定は無視され、ユーザは何度でも延期できます。{0} に残りの延期回数を指定し、
`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\ZCM\SystemUpdate` の下のレジストリに `REBOOT_MSG_POSTPONES_REMAINING` 文字列を設定することによって、この制限を修正できます。

再起動プロンプトのタイムアウト 更新の割り当てに [再起動についてユーザにプロンプトを表示する] オプションを使用した場合、デフォルトで、ユーザからの応答を 5 分待機し、応答がない場合は、自動的に再起動を開始します。ユーザが応答するまでダイアログボックスを表示し続けるには、[タイムアウトなし] を選択します。または、[_分後にタイムアウト] を選択して、再起動を開始するまで再起動応答を待機する分数を指定します。

再起動プロンプトの Nag 時間 更新の割り当てに [再起動の抑制] オプションを使用した場合、または必要な再起動をユーザがキャンセルすることにした場合、更新を完了するには再起動が必要であることをユーザに知らせるダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、ダイアログボックスは 15 分ごとに表示されます。管理者はこの設定を使用して、ユーザにプロンプトを表示する間隔を定義できます。
この値は分単位で指定します。

ウォッチャアイコンの更新 管理対象デバイスのシステムトレイの通知領域に表示する別のアイコンを指定できます。ファイルへのパスは管理対象デバイス上に定める必要があります。ファイルが存在しない場合、またはファイルが有効な .ico ファイルでない場合は、デフォルトのアイコンが表示されます。

エージェントメッセージの上書き 更新時にダイアログボックスに表示されるエージェントシステム更新メッセージのカスタムテキストを指定できます。[追加] をクリックして、[エージェントシステム更新メッセージの編集] ダイアログボックスを表示します。ドロップダウンリストからメッセージキーを選択し、目的のテキストを入力して、[OK] をクリックします。

また、作成したカスタムメッセージを削除および編集できます。

- 4 [OK] をクリックします。

ゾーン管理



このセクションには、広範なゾーン機能を制御できる管理ゾーン環境設定に関する情報が含まれています。

- ◆ [247 ページの第 27 章「管理ゾーンの環境設定の変更」](#)

管理ゾーンの環境設定によって、ゾーンの機能を広い範囲で制御できます。デバイスにコンテンツを配布する時間および ZENworks のサーバ間でコンテンツを複製する頻度 (複数のサーバがある場合) を制御する [コンテンツ] 設定があります。デバイス管理設定では、デバイスが更新された情報を確認するために ZENworks サーバにアクセスする頻度、動的グループの更新頻度、およびどのレベルのメッセージ (情報、警告、またはエラー) を ZENworks Adaptive Agent で記録するかを制御することができます。インベントリ、ディスクバリおよび展開設定、その他さまざまな設定があります。

環境設定はカテゴリにグループ化されます。

- ◆ 247 ページのセクション 27.1 「環境設定のアクセス」
- ◆ 250 ページのセクション 27.2 「コンテンツ設定」
- ◆ 251 ページのセクション 27.3 「デバイス管理の設定」
- ◆ 252 ページのセクション 27.4 「検出と展開の設定」
- ◆ 252 ページのセクション 27.5 「イベントとメッセージング設定」
- ◆ 253 ページのセクション 27.6 「インフラ管理設定」
- ◆ 253 ページのセクション 27.7 「インベントリ設定」
- ◆ 254 ページのセクション 27.8 「レポートサービスの設定」
- ◆ 255 ページのセクション 27.9 「Asset Management 設定」
- ◆ 255 ページのセクション 27.10 「パッチ管理サービス設定」

27.1 環境設定のアクセス

デバイスに適用する管理ゾーンの設定は、ゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。ゾーン設定は、デバイスフォルダまたは個々のデバイス上でゾーン設定を行うことで上書きできます。これにより、必要に応じて最多のデバイスに適用するゾーン設定を確立して、フォルダおよびデバイス状の設定を上書きすることができます。

デフォルトでは、ゾーンの設定は一般的な機能を提供する値を使用して事前に設定されています。ただし、使用している環境に必要な動作に適応するように設定を変更することができます。

- ◆ 247 ページのセクション 27.1.1 「ゾーンでの環境設定の変更」
- ◆ 248 ページのセクション 27.1.2 「フォルダの環境設定の変更」
- ◆ 249 ページのセクション 27.1.3 「デバイスでの環境設定の変更」

27.1.1 ゾーンでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[ディスクバリと展開]、[イベントとメッセージング] など) をクリックします。



3 設定をクリックして、詳細ページを表示します。

4 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。

- ◆ 250 ページの「コンテンツ設定」
- ◆ 251 ページの「デバイス管理の設定」
- ◆ 252 ページの「検出と展開の設定」
- ◆ 252 ページの「イベントとメッセージング設定」
- ◆ 253 ページの「インフラ管理設定」
- ◆ 253 ページの「インベントリ設定」
- ◆ 254 ページの「レポート管理サービスの設定」
- ◆ 255 ページの「Asset Management 設定」
- ◆ 255 ページの「パッチ管理サービス設定」

5 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定がデバイスに適用されると、設定がフォルダレベルまたはデバイスレベルで上書きされない限り、設定はゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。

27.1.2 フォルダの環境設定の変更

1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

2 [デバイス] パネル ([管理対象] タブ) で、設定を変更するフォルダを参照します。

3 フォルダが見つかったら、フォルダ名の隣にある [詳細] をクリックしてフォルダの詳細を表示します。

4 [設定] タブをクリックします。

- 5 [設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラ管理] など) をクリックします。



- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。

- 7 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、または次のセクションを参照してください。

- ◆ 250 ページの「[コンテンツ設定](#)」
 - ◆ 251 ページの「[デバイス管理の設定](#)」
 - ◆ 252 ページの「[検出と展開の設定](#)」
 - ◆ 252 ページの「[イベントとメッセージング設定](#)」
 - ◆ 253 ページの「[インフラ管理設定](#)」
 - ◆ 253 ページの「[インベントリ設定](#)」
 - ◆ 254 ページの「[レポートングサービスの設定](#)」
 - ◆ 255 ページの「[Asset Management 設定](#)」
 - ◆ 255 ページの「[パッチ管理サービス設定](#)」
- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定は、設定がサブフォルダまたは個別のデバイス上で上書きされない限り、サブフォルダに含まれるすべてのデバイスを含めフォルダ内のすべてのデバイスによって継承されます。

27.1.3 デバイスでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイス] パネル ([管理対象] タブ) で、設定を変更するデバイスを参照します。
- 3 デバイスを見つけたら、デバイス名をクリックして詳細を表示します。

- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、変更したい設定の設定カテゴリ ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラ管理] など) をクリックします。

デバイス > サーバ > linux-zcm

☰ ▼

linux-zcm

概要	インベントリ	関係	設定	コンテンツ	統計情報	パッチ
設定						
コンテンツ						☺
デバイス管理						☸
カテゴリ	説明	から継承				
ローカルデバイスのログ	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)				
デバイスの更新スケジュール	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)				
ZENworksエージェント	ZENworksエージェントを設定します。	(システム)				
システム更新エージェント	ZENworksエージェントでシステム更新動作を設定します。	---				
ZENworks Explorer設定	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	(システム)				
システム変数	システム変数を設定します。	---				
起動前サービス	ブレード前サービスを設定します。	---				
プライマリユーザ	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---				
リモート管理	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)				
インフラ管理						☺
インベントリ						☺
アセット管理						☺

- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、または次のセクションを参照してください。

- [250 ページの「コンテンツ設定」](#)
 - [251 ページの「デバイス管理の設定」](#)
 - [252 ページの「検出と展開の設定」](#)
 - [252 ページの「イベントとメッセージング設定」](#)
 - [253 ページの「インフラ管理設定」](#)
 - [253 ページの「インベントリ設定」](#)
 - [254 ページの「レポートサービスの設定」](#)
 - [255 ページの「Asset Management 設定」](#)
 - [255 ページの「パッチ管理サービス設定」](#)
- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

27.2 コンテンツ設定

[コンテンツ] セクションには、次の設定が含まれています。

コンテンツ停止スケジュール: コンテンツ (バンドル、ポリシー、環境設定など) がデバイスに提供されない時間帯を定義します。詳細については、[コンテンツ停止スケジュール \(../resources/help/settings_sysreplication.html\)](#) を参照してください。

コンテンツの複製: コンテンツ (バンドルファイルおよびポリシーファイル) が ZENworks プライマリサーバおよびサテライト上で更新される頻度を決定します。詳細については、[コンテンツの複製 \(../resources/help/settings_contentreplication.html\)](#) を参照してください。

27.3 デバイス管理の設定

[デバイス管理] セクションには、次の設定が含まれています。

ローカルデバイスのログ: メッセージを管理対象デバイスのローカルドライブにログするように設定します。ログするメッセージの重大度のレベル、およびログファイルをバックアップするタイミングを決定できます。また、ZENworks コントロールセンターで表示するために、ZENworks サーバに送信されるメッセージの重大度のレベルも決定できます。詳細については、[ローカルデバイスのログ \(../resources/help/settings_syslocallogging.html\)](#) を参照してください。

デバイスの更新スケジュール: デバイスが、バンドル、ポリシー、環境設定、および登録情報の更新のため、ZENworks サーバにコンタクトする頻度を指定します。また、一定の日数の間に ZENworks サーバに連絡しないデバイスにどのように対処するかも指定できます。詳細については、[デバイス更新スケジュール \(../resources/help/settings_sysrefreshsched.html\)](#) を参照してください。

ZENworks エージェント: ZENworks Adaptive Agent 用のアンインストールおよびキャッシングの設定や、特定の Adaptive Agent モジュールの有効化または無効化を行います。詳細については、[ZENworks エージェント \(../resources/help/settings_agent.html\)](#) を参照してください。

登録: 登録されているデバイスの命名方法、登録ルールが有効かどうか、および ZENworks コントロールセンター内のデバイスオブジェクトの登録情報が更新される際に名前を変更できるかどうかなどを含む、デバイスの登録時に使用される設定を制御します。詳細については、[登録 \(../resources/help/settings_registration.html\)](#) を参照してください。

ZENworks Explorer の環境設定: ZENworks Adaptive Agent の ZENworks Explorer コンポーネントの一般設定を行います。バンドルがデバイスやデバイスのユーザに割り当てられなくなった後、それをアンインストールするかどうかを選択できます。また、Windows Explorer 内、[スタート] メニュー上、およびすべてのバンドルが含まれている ZENworks Window 内のデフォルトフォルダの名前を変更できます。詳細については、[ZENworks Explorer の環境設定 \(../resources/help/settings_applicationbundles.html\)](#) を参照してください。

システム変数: ZENworks コントロールセンターに情報を入力する際に、パス、名前、その他を置き換えるために使用できる変数を定義します。詳細については、[システム変数 \(../resources/help/settings_systemvariables.html\)](#) を参照してください。

Preboot Services: Preboot Services を使用するデバイスを設定します。詳細については、[Preboot Services \(../resources/help/settings_sysimaging.html\)](#) を参照してください。

プライマリユーザ:いつ、どのようにデバイスのプライマリユーザが計算されるかを決定します。詳細については、[プライマリユーザ \(../resources/help/settings_primaryuser.html\)](#) を参照してください。

プライマリワークステーション:いつ、どのようにデバイスのプライマリワークステーションが計算されるかを決定します。[なし(計算しない)] オプションを選択して、計算を無効にすることもできます。詳細については、[プライマリワークステーション \(../resources/help/settings_primaryws.html\)](#) を参照してください。

動的グループの更新スケジュール:グループ内のメンバーシップを更新するために、動的グループの条件がデバイスに適用される頻度を決定します。動的グループ内のメンバーシップは、動的グループの基準をデバイスに適用することで決定されます。デバイスが基準を満たす場合は、グループに追加されます。動的グループに手動でデバイスを追加したり、動的グループからデバイスを削除したりすることはできません。詳細については、[動的グループの更新スケジュール \(../resources/help/settings_dynamicgroupschedule.html\)](#) を参照してください。

Wake-on-LAN:デバイスの起動を再試行する回数および再試行の間隔を設定します。詳細については、[Wake-on-LAN \(../resources/help/settings_wakeonlan.html\)](#) を参照してください。

リモート管理:管理対象デバイスでのリモート管理サービスの動作または実行を決めるルールセットである、リモート管理の設定を行います。詳細については、[リモート管理 \(../resources/help/settings_sysremotemanagement.html\)](#) を参照してください。

27.4 検出と展開の設定

[検出と展開] セクションには、次の設定が含まれています。

アドバタイズされた検出設定:ZENworks システムが、ZENworks のプレエージェントがインストールされているネットワーク上のデバイスの検出を試行する頻度を指定します。詳細については、[アドバタイズされた検出設定 \(../resources/help/settings_discovery_advertised.html\)](#) を参照してください。

調査:一度に実行できる検出要求の最大数や検出に使用するテクノロジーなどを含む、検出プロセス時に使用される設定を制御します。また、WMI (Windows* Management Instrumentation) および SNMP 検出技術で使用される IP と SNMP の設定も指定できます。詳細については、[検出 \(../resources/help/settings_discoverysettings.html\)](#) を参照してください。

Windows プロキシ:ZENworks サーバの代わりに検出と展開を実行するためのゾーン内にある管理対象の Windows デバイスを指定します。これは、主に Linux 上で動作する ZENworks サーバが、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイスを使用する展開タスクの負担を減らすことができるように設計されています。詳細については、[Windows プロキシ \(../resources/help/settings_winproxysettings.html\)](#) を参照してください。

27.5 イベントとメッセージング設定

[イベントとメッセージング] セクションには、次の設定が含まれています。

集中型のメッセージログ：メッセージの自動クリーンアップ、電子メール通知、SNMP トラップ、および UDP 転送を含む、プライマリサーバによって実行されるメッセージログに関連する設定を行います。詳細については、[集中型のメッセージログ \(../resources/help/settings_syscentralizedlogging.html\)](#) を参照してください。

SMTP 設定：電子メール通知を ZENworks 管理者に送信するように SMTP サーバを設定します。詳細については、[SMTP 設定 \(../resources/help/settings_smtpsettings.html\)](#) を参照してください。

27.6 インフラ管理設定

[インフラ管理] セクションには、次の設定が含まれています。

最密サーバのデフォルトのルール：最密のサーバルールが定義されていない場合や、いずれも適用されない場合に、最も近いコレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバをデバイスが特定するために使用するルールを定義します。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にサーバを並べただけのリストです。リストにサーバを追加したり、リストからサーバを削除することはできません。詳細については、[最密サーバのデフォルトルール \(../resources/help/settings_closestserverdefaultrule.html\)](#) を参照してください。

最密サーバルール：ZENworks 管理ゾーンに複数のサーバが含まれる場合、デバイスがコレクション、コンテンツ、および設定機能に関してどのサーバに連絡するかを決定するために使用されるルールを作成します。詳細については、[最密サーバルール \(../resources/help/settings_closestserverrules.html\)](#) を参照してください。

HTTP プロキシ設定：使用するプロキシサーバを定義します。プロキシサーバを使用すると、デバイスはそれを介して ZENworks サーバに間接的に接続できます。デバイスの ZENworks Adaptive Agent はプロキシサーバに接続し、その後、ZENworks サーバへリソースをリクエストします。プロキシは、ZENworks サーバに接続してリソースを提供するか、キャッシュからリソースを提供します。詳細については、[HTTP プロキシ設定 \(../resources/help/settings_httpproxy.html\)](#) を参照してください。

システム更新設定：更新をチェックする頻度、ダウンロードスケジュールの指定、電子メール通知の設定などを含む、システム更新機能をどのように使用するかを設定します。詳細については、[システム更新設定 \(../resources/help/settings_systemupdate.html\)](#) を参照してください。

ZENworks のニュース設定：ZENworks ニュースをダウンロードするサーバとスケジュールを設定します。詳細は、「[ZENworks のニュース設定 \(../resources/help/settings_zenworksnews.html\)](#)」を参照してください。

27.7 インベントリ設定

[インベントリ] セクションには、次の設定が含まれています。

インベントリ：オンデマンドスキャン、初期スキャン、および繰り返しスキャンを含む、インベントリスキャンの設定を行います。スキャン実行時に省略するディレクトリを指定したり、ZENworks Knowledgebase に含まれていないソフトウェアアプリケーションを識別したりすることもできます。詳細については、[インベントリ \(../resources/help/settings_sysinventory.html\)](#) を参照してください。

インベントリスケジュール: スキャンが自動実行されないような指定、または日付指定、繰り返し、イベントドリブンスキャンなどの指定を含む、インベントリスキャンを実行するタイミングを指定します。詳細については、[インベントリスケジュール \(../resources/help/settings_sysinventoryschedule.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventoryschedule.html) を参照してください。

コレクションデータフォーム: デバイス向けにどのデモグラフィックデータ (ユーザの名前または電話番号、ユーザが所属する部署など) を収集するか設定します。詳細については、[コレクションデータフォーム \(../resources/help/settings_sysinventorycollectwizard.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventorycollectwizard.html) を参照してください。

コレクションデータフォームのスケジュール: コレクションデータフォームの送信方法を設定します。通常のインベントリスキャンの一部としてスケジュールしたり、「デバイスのクイックタスク」を使用したり、「コレクションデータフォームのスケジュール」を使用したりすることができます。詳細については、[コレクションデータフォームのスケジュール \(../resources/help/settings_sysinventorywizardschedule.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventorywizardschedule.html) を参照してください。

インベントリのみ: ZENworks Adaptive Agent はインストールされていないものの、インベントリモジュールがインストールされているゾーン内で、デバイス用のインベントリスキャン設定を行います。このタイプのスキャンは、Windows NT、Windows 95、Windows 98、Windows Me、NetWare、および Mac OS* X で動作するデバイスに対して役立ちます。詳細については、[インベントリのみ \(../resources/help/settings_sysumi.html\)](http://../resources/help/settings_sysumi.html) を参照してください。

インベントリをみのスケジュール: インベントリをみのスキャンを実行するタイミングを設定します。詳細については、[インベントリをみのスケジュール \(../resources/help/settings_sysumischedule.html\)](http://../resources/help/settings_sysumischedule.html) を参照してください。

インベントリをみの調整: データベース内で重複が起こらないように新しいワークステーションを調整するかどうか、および調整方法を制御します。管理ゾーンに対して新規のワークステーションのスキャンが行われると、ワークステーションに識別子が割り当てられます。ディスク破損などによって識別子が失われた場合は、次のスキャン時に新しい識別子が割り当てられます。調整を使用すると、ワークステーションが既にデータベースに含まれているかどうかを確認できます。含まれる場合は、データベース内の識別子が新しい識別子に一致するように変更されます。詳細については、[インベントリをみの調整 \(../resources/help/settings_sysinventoryreconcile.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventoryreconcile.html) を参照してください。

27.8 レポートینگサービスの設定

[レポートینگサービス] セクションには、次の設定が含まれています。

電子メール通知の設定: ZENworks 管理者に電子メール通知を送信するように ZENworks Reporting Server を設定します。詳細については、[電子メール通知の設定 \(../resources/help/cfg_mzset_reptsvr_set.html\)](http://../resources/help/cfg_mzset_reptsvr_set.html) を参照してください。

フォルダ同期スケジュール: ZENworks Reporting Server Infoview で作成した [カスタムレポート] フォルダを ZENworks コントロールセンターと同期させる更新間隔を定義します。詳細については、[フォルダ同期スケジュール \(../resources/help/cfg_report_foldersync.html\)](http://../resources/help/cfg_report_foldersync.html) を参照してください。

ZENworks Reporting Server のパスワードをリセット: ユーザは、ZENworks Reporting Server のパスワードをリセットできます。詳細については、[パスワードのリセット \(../resources/help/cfg_report_resetpassphrase.html\)](http://../resources/help/cfg_report_resetpassphrase.html) を参照してください。

ファイルの場所の通知設定 : ZENworks Reporting Server またはその他のリモートサーバのレポートインスタンス用の宛先ディレクトリを指定します。詳細については、[ファイルの場所の通知設定 \(../resources/help/cfg_report_filelocsettings.html\)](#) を参照してください。

FTP サーバ通知設定 : レポートインスタンスを転送する FTP サーバに宛先を指定します。詳細については、[FTP サーバ通知設定 \(../resources/help/cfg_report_ftpsrvrsettings.html\)](#) を参照してください。

27.9 Asset Management 設定

[Asset Management] セクションには、次の設定が含まれています。

レポート : Asset Management 用のレポート設定を行います。詳細については、[レポート \(../resources/help/settings_sysamreport.html\)](#) を参照してください。

コンプライアンス : ライセンスコンプライアンスデータが更新される時間を設定します。詳細については、[コンプライアンス \(../resources/help/settings_sysamcompliance.html\)](#) を参照してください。

使用状況モニタリング : ソフトウェアの使用率監視を有効にします。詳細については、[使用状況モニタリング \(../resources/help/am_usagemonitor.html\)](#) を参照してください。

使用表示 : 使用状況データを、ZENworks コントロールセンターの [ライセンス管理] ページ ([アセット管理] > [ライセンス管理] タブ) に表示するかどうかを設定します。詳細については、[使用表示 \(../resources/help/am_usagedisplay.html\)](#) を参照してください。

27.10 パッチ管理サービス設定

[パッチ管理サービス] セクションには、次の設定が含まれています。

サブスクリプションサービスの情報 : ステータスを含む、サブスクリプションに関する情報を表示します。サブスクリプション設定を更新することもできます。詳細については、[サブスクリプションサービスの情報 \(../resources/help/b9f6zcf.html\)](#) を参照してください。

HTTP プロキシの設定 : インターネットのパッチサブスクリプションにアクセスするための HTTP プロキシを設定します。HTTP プロキシサーバを使用すると、ZENworks Patch Management サービスがサブスクリプションサービスをインターネット経由でダウンロードできます。詳細については、[HTTP プロキシの設定 \(../resources/help/b9f9hi0.html\)](#) を参照してください。

サブスクリプションのダウンロード : ZENworks プライマリサーバ用のサブスクリプションダウンロードオプションを設定します。詳細については、[サブスクリプションのダウンロード \(../resources/help/b9fa3i3.html\)](#) を参照してください。

内容

VI

ZENworks はプライマリサーバ、サテライト、および管理対象デバイス間でコンテンツを複製し、配布します。これには次のコンテンツが含まれます。

- ◆ **バンドル**：デバイス上のアプリケーションまたはファイルの展開および管理に必要な、ファイル、構成設定、インストール指示など。ZENworks Configuration Management と ZENworks Patch Management で使用されます。
- ◆ **ポリシー**：管理対象デバイスのハードウェアとソフトウェアの環境設定の範囲を制御するルール。ZENworks Configuration Management で使用されます。
- ◆ **パッチ**：管理対象デバイス上の既存のソフトウェアの更新に必要な、ファイルと手順。ZENworks Patch Management で使用されます。
- ◆ **システム更新**：ZENworks システムコンポーネントのソフトウェア更新。ZENworks Configuration Management、ZENworks Asset Management、ZENworks Patch Management で使用されます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [259 ページの第 28 章「コンテンツリポジトリ」](#)
- ◆ [265 ページの第 29 章「コンテンツの複製」](#)
- ◆ [273 ページの第 30 章「コンテンツ配信」](#)

コンテンツリポジトリ

それぞれの ZENworks® サーバには、コンテンツリポジトリがあります。コンテンツリポジトリは、サーバへ複製されたすべてのバンドルおよびポリシーコンテンツや、取得後サーバに保存されたすべてのイメージを保存できます。

ZENworks 10 Configuration Management ではコンテンツレポジトリをホストするファイルシステムをサポートしますが、各ファイルシステムには利点と制限があります。たとえば、XFS ファイルシステムは、リポジトリ内のコンテンツの性質に応じて非常に大きいファイル进行处理するという利点があります。

単一のコンテンツリポジトリを、複数のプライマリサーバによって共用することはできません。各サーバは、自分のコンテンツリポジトリを使用する必要があります。

コンテンツリポジトリは自己保守を行います。バンドルまたはポリシーを追加すると、複製設定に基づいて、バンドルまたはポリシーのコンテンツが該当するコンテンツリポジトリに追加されます。バンドルまたはポリシーを削除したり、そのコンテンツをホストするサーバを変更したりすると、バンドルまたはポリシーのコンテンツも該当するサーバから削除されます。

必要に応じて、コンテンツリポジトリは別の場所へ移動できます。次のセクションではそれらの手順について説明します。

- ◆ 259 ページのセクション 28.1 「Windows サーバ上の [コンテンツリポジトリ] の場所の変更」
- ◆ 261 ページのセクション 28.2 「Linux サーバでの、コンテンツリポジトリの場所の変更」
- ◆ 263 ページのセクション 28.3 「Linux サーバのコンテンツリポジトリの NSS ボリュームへのマウント」

28.1 Windows サーバ上の [コンテンツリポジトリ] の場所の変更

コンテンツリポジトリは、Windows サーバ上の次の場所に存在します。

`installation_path\zenworks\work\content-repo`

コンテンツリポジトリとして異なるディスクドライブを指定できます。Windows では、ドライブを「マウント」することによりこれが行われます。マウントとは、マップされたドライブ文字を使用せずに、単にハードドライブのパーティションへの既存のパスを指すことです。

次のステップで、デフォルトのコンテンツリポジトリの場所を、新規コンテンツリポジトリとなるディスクドライブのパーティションにマウントします。

- 1 使用するディスクドライブがサーバに接続され、NTFS として適切にフォーマットされていることを確認してください。

このディスクドライブは、マシンの既存のディスクドライブまたは新しいディスクドライブを使用できます。ハードウェアは、サーバによって認識される必要があります。ただし、新規ディスクドライブをマシンに追加した場合は、ドライブ文字を指定しないでください。Windows では、ドライブ文字にはマウントできません。

- 2 空の content-repo ディレクトリが、新規コンテンツリポジトリの場所へのポインタとなるデフォルトの場所 (*installation_path\zenworks\work\content-repo*) に存在する必要があるため、デフォルトの場所にコンテンツがないことを確認するために次のいずれかの操作を行ってください。

- 現在このディレクトリにあるコンテンツを保存する必要がある場合は、既存のディレクトリを名前変更して content-repo という新しいディレクトリを作成します。

後から、この名前変更されたディレクトリのコンテンツを新しいコンテンツリポジトリの場所にコピーすることができます ([ステップ 10](#) 参照)。

- 既存の content-repo ディレクトリ内のコンテンツがどれも必要ない場合は、ディレクトリを削除して再作成します。
- 上記のパスに content-repo ディレクトリがない場合は、パスとディレクトリを作成します。

- 3 [スタート] をクリックして、[マイ コンピュータ] アイコンを右クリックしてから、[管理] を選択します。

[スタート] をクリックして、[実行] コマンドラインで「*compmgmt.msc*」を入力します。

- 4 左ペインの [ストレージ] セクションで [ディスク管理] を選択します。

[ステップ 1](#) で選択したディスクドライブが、右側のペインに表示されます。

- 5 (条件付き) ドライブ文字が、新規コンテンツリポジトリの場所として使用するパーティションに関連付けられている場合、次の操作を行います。

5a [コンピュータ管理] ダイアログボックスで、ドライブのパーティションを右クリックします。

5b [ドライブ文字およびパスの変更] を選択します。

5c ドライブ文字を選択します。

5d [削除] をクリックし、[はい] を選択して確定します。

- 6 コンテンツリポジトリとして使用するディスクドライブのパーティションで右クリックしてから、[Change Driver Letter and Paths (ドライブ名とパスの変更)] を選択します。

これは、[ステップ 8](#) の content-repo ディレクトリにマウントするディスクドライブです

- 7 [追加] をクリックします。

[ドライブ名またはパスの追加] ダイアログボックスが表示されます。

- 8 [次の空の NTFS フォルダでマウントする] を選択し、デフォルトの content-repo ディレクトリを参照して選択し、[次へ] をクリックします。

デフォルトのディレクトリは、*installation_path\zenworks\work\content-repo* です。

これは、[ステップ 6](#) で選択したハードドライブのパーティションへのデフォルトのパスをマウントします。

必要に応じて、Windows のコンピュータ管理機能を使用して、ドライブを NTFS としてフォーマットします。

- 9 必要に応じてボタンをクリックし、終了したり、設定の変更を保存します。
- 10 (条件付き。ステップ 2 を参照) 名前変更された古い content-repo ディレクトリから、新しい content-repo ディレクトリにファイルをコピーします。

この時点から、すべての ZENworks 10 Configuration Management のデータは、選択したハードドライブのパーティションにある新規コンテンツリポジトリの場所に直接書き込まれます。

28.2 Linux サーバでの、コンテンツリポジトリの場所の変更

ローカルマウントまたは NFS、SMB、または CIFS などのネットワーク共有にデータを保存し、content-repo ディレクトリの共有をマウントしてデータにアクセスすることができます。

データをローカルデバイス上に保存したい場合は、ローカルハードドライブにシンボリックリンクを作成することもできます。ただし、既存の content-repo ディレクトリを削除する必要があります。

- 1 (オプション) 次のコマンドを実行して、コンテンツを content-repo ディレクトリから、シンボリックリンクを作成するディスク上の新しいディレクトリに移動します。

```
mv /var/opt/novell/zenworks/content-repo/* another-local-directory-on-device
```

- 2 次のコマンドを実行して、content-repo ディレクトリを削除します。

```
rm -rf /var/opt/novell/zenworks/content-repo/
```

- 3 次のコマンドを実行して、データを保存する新しいディレクトリにシンボリックリンクを作成します。

```
ln -s another-local-directory-on-device /var/opt/novell/zenworks/content-repo
```

シンボリックリンクを使用してディレクトリをリンクする方法の詳細については、ln(1) のマニュアルページを参照してください。

- 4 ZENworks では、シンボリックリンクを作成したディレクトリに対して ZENworks ユーザが完全な所有者権限を持つことが必要です。次のコマンドを実行して、ZENworks ユーザをこのディレクトリの所有者に指定します。

```
chown zenworks:zenworks -R /var/opt/novell/zenworks/content-repo/
```

ディレクトリの所有者を変更する方法については、chown(1) マニュアルページを参照してください。

次のセクションでは、Linux でのコンテンツリポジトリの場所の管理に関する情報について説明します。

- ◆ 262 ページのセクション 28.2.1 「共有のマウント」
- ◆ 262 ページのセクション 28.2.2 「共有のマウント解除」
- ◆ 262 ページのセクション 28.2.3 「永続的なマウントの作成」
- ◆ 262 ページのセクション 28.2.4 「新規リポジトリへの既存のコンテンツの移動」

28.2.1 共用のマウント

リモートマシンで共用を設定したら、次のコマンドを使用して、`/var/opt/novell/zenworks/content-repo` からそれをマウントできます。

```
mount -t cifs -o username=username //example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo
```

コマンドでは、`//example.machine.com/share_name` はマウントする共用であり、`/var/opt/novell/zenworks/content-repo` はマウントポイントです。

別の共用上のコンテンツリポジトリの一部のデータからのみ保存する必要がある場合、それを行うことが可能です。たとえば、ZENworks イメージファイルを別の共用に保存する必要がある場合、次のコマンドを使用できます。

```
mount -t cifs -o username=username //example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo/images
```

または、バンドルおよびポリシーのコンテンツを別の共用に保存するために、次のコマンドを使用できます。

```
mount -t cifs -o username=username //example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo/content
```

28.2.2 共用のマウント解除

「[262 ページのセクション 28.2.1 「共用のマウント」](#)」で作成したこのマウントは一時的なものであり、オペレーティングシステムがシャットダウンまたは再起動したときに、共用がマウント解除されます。また、次のコマンドを使用して、共用を手動でマウント解除することもできます。

```
umount /var/opt/novell/zenworks/content-repo
```

28.2.3 永続的なマウントの作成

Linux サーバが起動するたびにマウントが発生するようにするには、`/etc/fstab` 設定ファイルに次のエントリを追加する必要があります。

```
//example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo cifs credentials=path_to_credentials_file 0 0
```

コマンドに一覧表示されているアカウント情報ファイルには、ユーザ名およびパスワードが含まれています。詳細については、マニュアルページの `mount.cifs(8)` を参照してください。アカウント情報ファイルの形式は次のとおりです。

```
username=value
```

```
password=value
```

28.2.4 新規リポジトリへの既存のコンテンツの移動

新しい共有をマウントしてコンテンツリポジトリの場所を変更すると、古い場所にあったコンテンツはすべて利用できなくなります。このコンテンツを利用できるようにするには、新しいリポジトリに移動させる必要があります。

所有権の問題については、[TID 7000673 \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) を参照してください。

28.3 Linux サーバのコンテンツリポジトリの NSS ボリュームへのマウント

Linux サーバの content-repo ディレクトリを NSS ボリュームにマウントできます。

開始する前に、次の前提条件を満たしていることを確認します。

- ◆ NSS ボリュームがセットアップされ、サーバの /media/nss/NSSVOL/ ディレクトリにマウントされている
- ◆ Samba サービスがインストールされ、サーバで root として実行するよう設定されている。これを検証するには、次のコマンドを実行して、特に PPID=1 のプロセスについて UID 列の値が root であることを確認します。

```
ps -Alf | grep samba
```

content-repo ディレクトリをマウントするには、次の手順に従います。

- 1 /etc/init.d/ ディレクトリに移動して、novell-zenserver、novell-zenloader、および novell-zemmnt サービスを停止します。
- 2 次のコマンドを実行して、content-repo ディレクトリの内容をディスク上の一時ディレクトリに移動して content-repo ディレクトリを空にします。

```
mv /var/opt/novell/zenworks/content-repo/* another-local-directory-on-device
```

- 3 /media/nss/NSSVOL ディレクトリに移動して、そこに zencontent サブディレクトリを作成します。
- 4 YaST[®] を使用して新しく作成したサブディレクトリをサーバ上の Samba 共有リスト (zeshare など) に追加します。
- 5 Samba サービスを再起動します。
- 6 (条件付き) Samba root ユーザがまだ存在していない場合は、次のコマンドを実行して Samba root ユーザを追加します。

```
smbpasswd -a root
```

セキュリティ上の理由により、root パスワードはログインパスワードとは別のものを指定してください。

- 7 (オプション) 新しく作成した共有に Samba プロトコルでアクセスできることをテストするには、Samba root ユーザ資格情報を使用して Windows デバイスから共有にアクセスします。

- 8 次のコマンドを実行して zeshare 共有をマウントします。

```
mount //localhost/zeshare /var/opt/novell/zenworks/content-repo -t cifs -o username=root
```

- 9 バックアップしたコンテンツを /var/opt/novell/zenworks/content-repo ディレクトリに復元します。これでコンテンツが NSS ボリュームに保存されます。
- 10 /etc/init.d/ ディレクトリに移動して、novell-zenserver、novell-zenloader、および novell-zemmnt サービスを再起動します。
- 11 (条件付き) サーバがリブートするたびに共有が自動的にマウントされるようにするには、次の行を /etc/fstab ファイルに追加します。

```
//localhost/zeshare /var/opt/novell/zenworks/content-repo cifs username=root,password=rootpass 0 0
```


コンテンツの複製

ファイルを含むバンドルまたはポリシーを追加する場合は、ファイルが ZENworks® サーバにあるコンテンツリポジトリにアップロードされます。さらに、ZENworks データベースが更新され、バンドルまたはポリシーとそこに含まれるコンテンツが追加されます。

ZENworks サーバとサテライトデバイスは、まとめてコンテンツサーバと呼ばれますが、ZENworks データベースを定期的に読み込み、新しいバンドルとポリシーを見つけます。バンドルまたはポリシーのコンテンツを含まない各コンテンツサーバは、コンテンツがあるコンテンツサーバからコンテンツを取得します。

さまざまな設定によって、ゾーン内のコンテンツサーバの間でのコンテンツの複製方法を制御できます。

コンテンツ複製設定は、次の場所から継承できます。

- ◆ **(システム)**: バンドルは、管理ゾーン向けに規定された設定を継承します ([環境設定] タブ > [管理ゾーンの設定] > [コンテンツ] > [コンテンツ複製])。
- ◆ **フォルダ**: バンドルは、親フォルダについて確立された設定を継承します。
- ◆ **デバイス**: バンドルは設定を継承しませんが、設定はバンドルで直接構成されます。
- ◆ **--**: バンドルは設定を継承せず、設定はバンドルで直接構成されません。つまり、設定はシステムレベル、フォルダレベル、またはバンドルレベルでは構成されません。

設定をシステムレベルまたはフォルダレベルで構成する場合は、[設定の上書き] をクリックして、バンドル、ポリシー、またはフォルダレベルでの設定を構成できます。

バンドルフォルダまたはポリシーフォルダ上で設定を指定する場合、左側のナビゲーションペインで [フォルダタスク] リストの [継承の強制] をクリックして、すべての子 (すべてのサブフォルダと個々のバンドルおよびポリシー) が設定を継承するようにします。

コンテンツ複製設定では、次のことを行えます。

- ◆ デフォルトで、コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製するかどうかを指定します。
- ◆ 手動で、コンテンツサーバにコンテンツを含めるか、コンテンツを除外します。
- ◆ 複製の発生頻度をスケジュールします。
- ◆ コンテンツサーバからコンテンツサーバへの 1 秒当たりの複製量に制限を設定します。
- ◆ 管理対象デバイス上の ZENworks エージェントまたはサテライトデバイスで、チェックサム比較を使用してコンテンツ複製中にエラーが発生しないこと、およびコンテンツが改変されなかったことを確認するかどうかを指定します。

これらのタスクの実行の詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 266 ページのセクション 29.1 「管理ゾーンレベルでのコンテンツ複製の設定」
- ◆ 267 ページのセクション 29.2 「コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製」
- ◆ 268 ページのセクション 29.3 「コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する」
- ◆ 268 ページのセクション 29.4 「コンテンツのインクルードまたは除外」

29.1 管理ゾーンレベルでのコンテンツ複製の設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[コンテンツ] > [コンテンツの複製] の順をクリックします。
- 3 次のフィールドに入力します。

プライマリサーバの反復コンテンツ複製スケジュール: [日]、[時間]、および [分] の各フィールドを使用して、スケジュールを設定します。

フィールドを自由に組み合わせて使用できます。たとえば、30 時間ごとに指定するには、「30 時間」または「1 日と 6 時間」のどちらの入力も可能です。

注: サテライトデバイスが非常に低速なリンク (128K WAN など) の一端にある場合、コンテンツ複製スケジュールを無効にして、`zac wake-cdp (cdp)` コマンドを使用して手動でコンテンツを複製できます。`chron` ジョブを使用してこのコマンドを必要に応じて実行することもできます。現在のコンテンツ複製スケジュールでは、特定の日付または時刻を設定できないためです (土曜日や日曜日など)。`zac wake-cdp` コマンドの詳細は、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「コンテンツ配布コマンド」を参照してください。

サテライトデバイスのコンテンツ複製スケジュールを無効にするには、[スケジュールタイプ] を [スケジュールなし] に設定します。スケジュールタイプの設定については、97 ページのセクション 7.2.3 「コンテンツの役割」を参照してください。

プライマリサーバの出力スロットリング (KB/秒): 使用するスロットリングレートを選択します。

この率は、ゾーン内の ZENworks サーバすべてに適用されます。個別にスロットリング率を設定することはできません。

コンテンツ複製のスロットリング率で、コンテンツを他のコンテンツサーバに複製するとき、またはコンテンツを管理対象デバイスに配布するときの ZENworks サーバが転送するコンテンツの最大量 (KB/秒) が決まります。

デフォルトでは、スロットリング率はありません。つまり、ZENworks サーバは利用可能な帯域幅すべてを使用します。

Agent Content Checksum (エージェントコンテンツチェックサム): 管理対象デバイス上の ZENworks エージェントがダウンロードしたコンテンツのチェックサムを計算して、このチェックサムを ZENworks プライマリサーバのコンテンツに対する保存されたチェックサムと比較するかどうかを指定します。

チェックサムを比較すると、コンテンツのダウンロード時にエラーが発生しなかったこと、コンテンツが変更されなかったことを確認できます。

通常は、デフォルトの [オン] を使用します。ZENworks システムに重大なパフォーマンスの問題が発生した場合、この設定を [オフ] にしてパフォーマンスを向上できます。

Satellite Content Checksum (サテライトコンテンツチェックサム): サテライトデバイス上の ZENworks エージェントがダウンロードしたコンテンツのチェックサムを計算して、このチェックサムを ZENworks プライマリサーバのコンテンツに対する保存されたチェックサムと比較するかどうかを指定します。

チェックサムの比較は、コンテンツ複製中にエラーが発生せず、コンテンツが改変されなかったことの確認に役立ちます。

通常は、デフォルトの [オン] を使用します。ZENworks システムに重大なパフォーマンスの問題が発生した場合、この設定を [オフ] にしてパフォーマンスを向上できます。

4 [適用] または [OK] をクリックして変更を保存します。

29.1.1 Web サービスタイムアウトの高度なコンテンツ複製設定の手動設定

ニーズに合わせて Web サービスタイムアウト値を調整できます。たとえば、サテライトデバイスが低速 WAN リンクを使用し、不足しているコンテンツがある場合、デフォルトのタイムアウト値の 30 秒では Web サービスコールには不足しています。

サテライトデバイスの Web サービスタイムアウトを変更するには、次の手順に従います。

Windows の場合、サテライトデバイスのレジストリに次の文字列値を作成します。

HKEY-LOCAL-MACHINE\SOFTWARE\Novell\Zenworks\CDPWebCallWaitTimeout として、値を目的のミリ秒数に設定します。

Linux の場合、サテライトデバイスの /etc/opt/novell/zenworks/conf/xplatzmd.properties ファイルで、次の行を追加します。

```
CDPWebCallWaitTimeout=xxx
```

ここで、xxx は目的のタイムアウト値です (ミリ秒単位)。

29.2 コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製

デフォルトでは、新規コンテンツサーバ (ZENworks サーバまたはサテライトデバイス) がゾーンに追加され、そのコンテンツサーバにすべてのバンドルおよびポリシーのコンテンツが複製されます。ただし、特定のバンドルまたはコンテンツのポリシーを複製しないようにすることもできます。

たとえば、Microsoft* Office 用のバンドルがあるとしたら、これを特定のコンテンツサーバに含めていて、追加サーバには複製したくないとしたら、これが発生しないようにするには、新規コンテンツサーバへの複製を除外するよう、Microsoft Office のバンドルの複製設定を変更します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、複製設定を変更するオブジェクト (バンドル、ポリシー、またはフォルダ) の詳細ページにアクセスし、[設定] タブをクリックします。
- 2 バンドルの設定を指定するには、[バンドル管理] をクリックして、[Primary Server Replication (プライマリサーバ複製)] または [Satellite Server Replication (サテライトサーバ複製)] をクリックします。
または
ポリシーの設定を指定するには、[ポリシー管理] をクリックして、[Primary Server Replication (プライマリサーバ複製)] または [Satellite Server Replication (サテライトサーバ複製)] をクリックします。
または

バンドルまたはポリシーフォルダの設定を指定するには、[コンテンツ] をクリックして、[*Primary Server Replication* (プライマリサーバ複製)] または [*Satellite Server Replication* (サテライトサーバ複製)] をクリックします。

- 3 [プライマリサーバ複製ステータス] セクションで、該当するボタンをクリックして、新しいプライマリサーバまたはサテライトデバイスをコンテンツのホストに含めたり除外したりします。
- 4 (オプション) バンドルフォルダまたはポリシーフォルダ上で設定を指定する場合、左側のナビゲーションペインで [フォルダタスク] リストの [継承の強制] をクリックして、すべての子 (すべてのサブフォルダと個々のバンドルおよびポリシー) が設定を継承するようにします。子で構成された設定は失われ、このアクションを取り消さないことに注意してください。
- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

29.3 コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する

コンテンツを ZENworks プライマリサーバのコンテンツリポジトリからエクスポートして、このコンテンツをサテライトデバイスのコンテンツリポジトリに手動でインポートできます。このプロセスは、オフラインコンテンツ複製と呼ばれることもあります。

コンテンツをコンテンツリポジトリからエクスポートする方法については、『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「サテライトコマンド」で `zman satellite-server-export-content (ssec)` コマンドを参照してください。コンテンツをエクスポートした後、ネットワークドライブまたはストレージデバイスにコピーして、コンテンツをサテライトデバイスのコンテンツリポジトリに手動でインポートできます。

コンテンツをサテライトデバイスのコンテンツリポジトリにインポートする方法については、『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「コンテンツ配布コマンド」で `zac cdp-import-content (cic)` コマンドを参照してください。

1 つの ZENworks プライマリサーバからコンテンツを手動でエクスポートして、このコンテンツを別のプライマリサーバにインポートすることはできません。

29.4 コンテンツのインクルードまたは除外

デフォルトの複製設定によって、コンテンツが自動的に新しいコンテンツサーバに複製されるかどうかが決まります (267 ページのセクション 29.2 「コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製」参照)。各バンドル、ポリシー、またはフォルダの設定を構成します。バンドルまたはポリシーのコンテンツを新しいコンテンツサーバに含める場合は、新しいサーバすべてに複製します。同じように、コンテンツを除外する場合は、新しいサーバのどれにも複製しません。

場合によっては、デフォルトの複製設定では、希望するコンテンツの複製範囲が与えられなかったり、範囲が変更されたりすることがあります。この場合は、手動で、特定のコンテンツサーバにコンテンツを含めたり除外したりすることができます。これには 3 通りの方法があります。

- ◆ 269 ページのセクション 29.4.1 「複数のコンテンツサーバ上での 1 コンテンツの管理」
- ◆ 269 ページのセクション 29.4.2 「フォルダレベルでのコンテンツの管理」

- 270 ページのセクション 29.4.3「1つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理」
- 270 ページのセクション 29.4.4「複数のコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理」

29.4.1 複数のコンテンツサーバ上での 1 コンテンツの管理

このセクションでは、1つのバンドルまたはポリシーのコンテンツの複数のコンテンツサーバへの複製を管理する手順を提供します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、変更するコンテンツ複製のあるバンドルまたはポリシーの詳細ページに移動します。
- 2 [設定] タブで、[バンドル管理] または [ポリシー管理] をクリックし、[Primary Server Replication (プライマリサーバ複製)] または [Satellite Server Replication (サテライトサーバ複製)] をクリックします。
[プライマリサーバ複製ステータス] パネルおよび [サテライトサーバ複製ステータス] パネルに、ゾーン内のすべてのコンテンツサーバが表示されます。バンドルまたはポリシーのコンテンツがコンテンツサーバに含まれている場合、[インクルード済み] カラムに、アイコンが表示されます。
- 3 コンテンツサーバの複製ステータスを変更するには、サーバの隣にあるチェックボックスをオンにし、[対象項目] をクリックしてサーバ上のコンテンツを含めるか、[除外] をクリックしてサーバからコンテンツを除外します。
コンテンツサーバをサーバに含めたり除外したりする際には、次のレプリケーションルールに注意してください。
 - ZENworks サーバが1つ以上のサテライトデバイスの親サーバである場合、最初にサテライトデバイスから除外しないと、ZENworks サーバからコンテンツを除外することはできません。
 - 管理ゾーンに ZENworks サーバが1つだけある場合、コンテンツを除外できません。
 - 最初にサテライトデバイスの親である ZENworks サーバを含めないと、サテライトデバイスを含めることはできません。

29.4.2 フォルダレベルでのコンテンツの管理

このセクションでは、バンドルまたはポリシーフォルダ内のコンテンツの複製を管理する手順を説明します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、変更するコンテンツ複製のあるバンドルまたはポリシーフォルダの詳細ページに移動します。
- 2 [設定] タブをクリックし、[コンテンツ] をクリックします。
- 3 [Primary Server Replication (プライマリサーバ複製)] または [Satellite Server Replication (サテライトサーバ複製)] をクリックします。
[プライマリサーバ複製ステータス] パネルおよび [サテライトサーバ複製ステータス] パネルに、ゾーン内のすべてのコンテンツサーバが表示されます。バンドルまたはポリシーのコンテンツがコンテンツサーバに含まれている場合、[インクルード済み] カラムに、アイコンが表示されます。

- 4 コンテンツサーバの複製ステータスを変更するには、サーバの隣にあるチェックボックスをオンにし、[対象項目] をクリックしてサーバ上のコンテンツを含めるか、[除外] をクリックしてサーバからコンテンツを除外します。

コンテンツサーバをサーバに含めたり除外したりする際には、次のレプリケーションルールに注意してください。

- ◆ ZENworks サーバが1つ以上のサテライトデバイスの親サーバである場合、最初にサテライトデバイスから除外しないと、ZENworks サーバからコンテンツを除外することはできません。
 - ◆ 管理ゾーンに ZENworks サーバが1つだけある場合、コンテンツを除外できません。
 - ◆ 最初にサテライトデバイスの親である ZENworks サーバを含めないと、サテライトデバイスを含めることはできません。
- 5 (オプション) 左側のナビゲーションペインで [フォルダタスク] リストの [継承の強制] をクリックして、すべての子 (すべてのサブフォルダと個々のバンドルおよびポリシー) が設定を継承するようにします。

29.4.3 1つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理

このセクションでは、複数のバンドルまたはポリシーのコンテンツ複製を1つのコンテンツサーバで管理する手順を説明します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、変更するコンテンツ複製のあるコンテンツサーバの詳細ページに移動します。
- 2 [コンテンツ] タブをクリックします。
[複製設定] パネルには、ゾーン内のすべてのバンドルとポリシーが表示されます。バンドルまたはポリシーのコンテンツがコンテンツサーバに含まれている場合、[インクルード済み] カラムに、アイコンが表示されます。
- 3 バンドルまたはポリシーの複製ステータスを変更するには、バンドルまたはポリシーの隣にあるチェックボックスをオンにし、[対象項目] をクリックしてサーバ上のそのコンテンツを含めるか、[除外] をクリックしてサーバからそのコンテンツを除外します。

コンテンツをサーバに含めたり除外したりする際には、次のレプリケーションルールに注意してください。

- ◆ ZENworks サーバが1つ以上のサテライトデバイスの親サーバである場合、最初にサテライトデバイスから除外しないと、ZENworks サーバからコンテンツを除外することはできません。
- ◆ 管理ゾーンに ZENworks サーバが1つだけある場合、コンテンツを除外できません。
- ◆ 最初にサテライトデバイスの親である ZENworks サーバを含めないと、サテライトデバイスを含めることはできません。

29.4.4 複数のコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理

[コンテンツの指定] ウィザードを使用して、複数のコンテンツサーバ上の複数のコンテンツを含めたり除外したりできます。たとえば、4つのコンテンツサーバのうち2つのみに含めるバンドルを4つ持つことができます。個別のバンドル (269 ページのセクション 29.4.1 「複数のコンテンツサーバ上での1コンテンツの管理」参照) または個別のコンテ

ンツサーバ (270 ページのセクション 29.4.3 「1つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理」参照) の複製を管理するのではなく、ウィザードを使用して、4つのバンドルすべてとコンテンツサーバの複製を一度に管理できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックして、[サーバ] フォルダをクリックして開きます。
- 2 左のナビゲーションペインにある [サーバタスク] リストで、[コンテンツの指定] をクリックしてウィザードを起動します。
- 3 画面の指示に従って、ウィザードを完了します。

ウィザードページの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、次の表を参照してください。

ウィザードページ	詳細
Include or Exclude Content Servers/Satellite devices (コンテンツサーバ/サテライトデバイスを含めるまたは除外)	<p>コンテンツを含めるコンテンツサーバを [インクルード済み] リストに移動します。コンテンツを除外するコンテンツサーバを [除外] リストに移動します。</p> <p>コンテンツサーバをサーバに含めたり除外したりする際には、次のレプリケーションルールに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworksサーバが1つ以上のサテライトデバイスの親サーバである場合、最初にサテライトデバイスから除外しないと ZENworksサーバからコンテンツを除外することはできません。 ◆ 管理ゾーンに ZENworksサーバが1つだけある場合、コンテンツを除外できません。 ◆ 最初にサテライトデバイスの親である ZENworksサーバも含めないと、サテライトデバイスを含めることはできません。
システムページに追加された新しいサーバ	今後追加されるコンテンツサーバにコンテンツを含めるか除外するかを選択します。
ページを更新するコンテンツを選択する	[使用できるコンテンツ] リストから [選択されたコンテンツ] リストに移動することで影響を受けるコンテンツを識別します。

次の場所から [コンテンツの指定] ウィザードを起動することもできます。

- ◆ バンドルページ
- ◆ ポリシーページ
- ◆ [設定] ページ > [サーバの階層] パネル

コンテンツ配信

コンテンツ配信または配布は、コンテンツサーバ (ZENworks® プライマリサーバまたはコンテンツ役割を持つサテライト) から、管理対象デバイスにバンドルおよびポリシーのコンテンツを転送するプロセスを示します。

最近接サーバルールの設定、コンテンツをダウンロードできない配信中止日の設定、および管理対象デバイスがダウンロードするコンテンツを検索する頻度の設定など、管理対象デバイスにコンテンツを配信する方法の決定に使用できるさまざまな設定があります。

これらのタスクの実行の詳細については、次のセクションを参照してください。

- [273 ページのセクション 30.1 「最近接サーバルールの設定」](#)
- [273 ページのセクション 30.2 「配信停止スケジュール」](#)
- [274 ページのセクション 30.3 「デバイスの更新スケジュールの設定」](#)

30.1 最近接サーバルールの設定

複数のコンテンツサーバがある場合は、最近接サーバルールを使用して、管理対象デバイスがコンテンツのダウンロードに使用するコンテンツサーバを決定できます。最近接サーバルールによって、ネットワークアドレスに基づいてコンテンツサーバにデバイスをマップできます (DNS 名と IP アドレス)。

詳細については、[113 ページの第 9 章「最近接サーバルール」](#) を参照してください。

30.2 配信停止スケジュール

管理対象デバイスにコンテンツをダウンロードさせたくない時間がある場合は、コンテンツ停止スケジュールを作成できます。スケジュールは次のレベルで定義できます。

- **管理ゾーン**：スケジュールはすべてのデバイスに継承されます。
- **デバイスフォルダ**：スケジュールはフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。このスケジュールは、管理ゾーンの停止スケジュールを上書きします。
- **デバイス**：スケジュールは、それが定義されたデバイスのみにも適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルで設定されているすべてのスケジュールを上書きします。

停止スケジュールには、1 つまたは複数の時間帯を含めることができます。

コンテンツ停止スケジュールを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターを起動します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 管理ゾーン向けのコンテンツ停止スケジュールを作成するには、[設定] タブをクリックしてから、[コンテンツ] ([管理ゾーンの設定] パネル) > [コンテンツ停止スケジュール] の順にクリックします。

- デバイスフォルダのコンテンツ停止スケジュールを作成するには、フォルダの詳細ページを開いて、[設定] > [コンテンツ] ([設定] パネル内) > [コンテンツ停止スケジュール] の順にクリックします。
- デバイス向けのコンテンツ停止スケジュールを作成するには、デバイスの詳細ページを開いて、[設定] > [コンテンツ] ([設定] パネル) > [コンテンツ停止スケジュール] の順にクリックします。

デバイス > ワークステーション > aexxus > コンテンツ停止スケジュール

aexxus

コンテンツ停止スケジュール ✕

管理対象のデバイスにコンテンツが提供されるのを防ぐ停止スケジュールの設定。

現在: /デバイス/ワークステーション/aexxus

次の設定に戻す: (未設定)

コンテンツ停止スケジュール ⌵

追加 削除

<input type="checkbox"/>	開始日	開始時刻	終了日	終了時刻
使用できる項目がありません。				

- 3 デバイスまたはデバイスフォルダ向けにコンテンツ停止スケジュールを作成する場合、[上書きの設定] をクリックし、[コンテンツ停止スケジュール] パネルを有効にします。
- 4 [追加] をクリックして、[停止時間帯の指定] ダイアログボックスを表示してから、次のフィールドを入力します。
 - 開始日** : スケジュールに含めたい最初の日付を選択します。
 - 終了日** : スケジュールに含めたい最後の日付を選択します。停止時間帯 (開始時刻と終了時刻によって指定) は、開始日から終了日までの毎日発生します。
 - 開始時刻** : 停止時間帯の開始時刻を選択します。
 - 終了時間** : 停止時間帯の終了時刻を選択します。停止時間を 24 時間にしたい場合は、開始と同じ時刻を選択します。
- 5 [OK] をクリックして、停止時間帯を保存します。
- 6 停止時間帯を追加するには、[ステップ 4](#) を繰り返します。
- 7 完了したら、[OK] または [適用] をクリックして、スケジュールを保存します。

30.3 デバイスの更新スケジュールの設定

デバイスの起動時に、デバイス上の ZENworks Adaptive Agent が情報をリフレッシュするために ZENworks サーバにコンタクトします。開始後に情報が変更されている場合、デバイスにその変更が表示されるようにするには Adaptive Agent がその情報を再度リフレッシュする必要があります。

情報をリフレッシュした結果、ダウンロードすべき新しいコンテンツが存在することが判明した場合は、Adaptive Agent がコンテンツサーバにコンタクトしてダウンロードプロセスを開始します。

デバイス更新スケジュールを使用して、デバイスが ZENworks サーバにコンタクトしてバンドル、ポリシー、設定、および登録情報を更新する頻度を決定できます。スケジュールは次のレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**：スケジュールはすべてのデバイスに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：スケジュールはフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。このスケジュールは、管理ゾーンのスケジュールを上書きします。
- ◆ **デバイス**：スケジュールは、それが定義されたデバイスのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルで設定されているすべてのスケジュールを上書きします。

デバイス更新スケジュールを作成するには、次の手順に従います。

1 ZENworks コントロールセンターを起動します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 管理ゾーン向けのデバイス更新スケジュールを作成するには、[設定] タブをクリックして、[デバイス] ([管理ゾーンの設定] パネル) > [デバイス更新停止スケジュール] の順にクリックします。
- ◆ デバイスフォルダ向けのデバイス更新スケジュールを作成するには、フォルダの詳細ページを開いて、[設定] > [デバイス管理] ([設定] パネル) > [デバイス更新スケジュール] の順にクリックします。
- ◆ デバイス向けのデバイス更新スケジュールを作成するには、デバイスの詳細ページを開いて、[設定] > [コンテンツ] ([設定] パネル) > [デバイス更新スケジュール] の順にクリックします。

デバイス > ワークステーション > brvmware > デバイスの更新スケジュール

brvmware

デバイスの更新スケジュール [X]

このデバイスの更新間隔を設定します。

現在 /デバイス/ワークステーション/brvmwarexxxx

次の設定に戻す: システム

デバイスの更新スケジュール [↑]

手動の更新

デバイスは、ユーザが手動でするまで更新されません

スケジュールされた更新:

全更新スケジュール

すべての更新: ポリシー、バンドル、設定、登録など

0 日 12 時間 0 分

任意の待機時間

最小 300 秒 最大: 360 秒

部分更新スケジュール

ポリシー、設定、および登録の更新のみの実行

0 日 2 時間 0 分

OK 適用 リセット キャンセル

- 3 デバイスまたはデバイスフォルダのデバイス更新スケジュールを作成する場合は、**[上書きの設定]** をクリックして **[デバイスの更新スケジュール]** パネルをアクティブ化し、次のスケジュールから選択します。

手動のリフレッシュ: デバイスのユーザが手動でリフレッシュを開始した場合のみにデバイスがリフレッシュされるようにするには、**[手動のリフレッシュ]** を選択し、**[適用]** をクリックします。ユーザは、デスクトップの通知領域 (システムトレイ) にある ZENworks アイコンをクリックしてリフレッシュを開始できます。

スケジュールされたリフレッシュ: リフレッシュスケジュールを作成する場合、**[スケジュールされたリフレッシュ]** を選択します。完全または部分的な更新スケジュールを使用できます。

- ◆ **全リフレッシュスケジュール:** ZENworks サーバから、バンドル、ポリシー、設定、および登録情報を含むそのすべての情報をデバイスが更新する頻度を定義します。次のフィールドを使用して、全更新スケジュールを作成します。
 - ◆ **日、時間、分:** リフレッシュ間の時間の長さを指定します。たとえば、リフレッシュ間隔を 8.5 時間に設定する場合、0 日、8 時間、30 分と指定します。デフォルトは 12 時間です。
 - ◆ **任意の待機時間:** 同じ更新スケジュールを持つ複数のデバイスが同時に更新を開始しないようにするには、このオプションを選択します。たとえば、同じ更新スケジュールを持つ 1000 個のデバイスがある場合は、ZENworks サーバに過度な負担をかけてしまう可能性があります。このオプションを選択すると、デバイスはリフレッシュを開始する前にランダムに生成された時間の長さだけ待機します。**[最小]** および **[最大]** フィールドを使用して、ランダムに生成される時間の範囲 (秒数) を指定します。
- ◆ **部分リフレッシュスケジュール:** ZENworks サーバから、デバイスがそのポリシー、環境設定、および登録情報を更新する頻度を定義します。バンドル情報は更新されません。

[日]、**[時間]**、および **[分]** のフィールドで、リフレッシュ間の時間を指定します。たとえば、リフレッシュ間隔を 3 時間に設定する場合、0 日、3 時間、0 分と指定します。デフォルトは 2 時間です。

[スケジュールされた更新] 設定は、全更新と部分更新の両方に適用できます。

リフレッシュの間隔はデバイスのリフレッシュが完了するまではリセットされません。たとえば、リフレッシュ間隔を 8 時間に設定したと仮定します。デバイスの最初のリフレッシュが午後 6 時に行われ、完了するまでに 13 秒かかります。2 度目のリフレッシュは午前 2 時 13 秒 (リフレッシュが午後 6 時 13 秒に完了してから 8 時間後) に行われます。2 度目のリフレッシュが完了するまでに 15 秒かかる場合、3 番目のリフレッシュは午前 10 時 28 秒に行われます。

- 4 完了したら、**[OK]** または **[適用]** をクリックして、スケジュールを保存します。

次のセクションでは、ZENworks® 管理ゾーンと信頼されたユーザソース (Microsoft Active Directory* または Novell® eDirectory™) との接続、およびユーザが ZENworks 管理ゾーンへログインする方法の管理について説明します。

- ◆ [279 ページの第 31 章「ユーザソース」](#)
- ◆ [295 ページの第 32 章「ユーザの認証」](#)

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management では、コンテンツをユーザおよびデバイスに割り当てることができます。デバイス割り当て済みのコンテンツは、デバイスが実行中でネットワークに接続している場合は常に利用できます。ユーザ割り当て済みコンテンツは、ユーザが管理ゾーンにログインしている場合にのみ利用できます。たとえば、ユーザにバンドルを割り当てると、そのバンドルはユーザのログイン後初めて利用可能になります。

デバイスとは異なり、ユーザは管理ゾーン内で定義されていません。代わりに、信頼されたユーザソースとして使用する LDAP ディレクトリに接続します。必要に応じて、複数のディレクトリに接続できます。

注：ユーザソースを定義すると、自動的に ZENworks Adaptive Agent からプロンプトが表示され、デバイスユーザに ZENworks 管理ゾーンへのログインを促します。ユーザにこのプロンプトを表示させたくない場合は、ZENworks Adaptive Agent レベルで、ユーザ管理モジュールをアンインストールまたは使用不可にすることができます。詳細については、[161 ページのセクション 14 「展開後の Adaptive Agent の設定展開後」](#)を参照してください。

次のセクションでは、ユーザソースを定義する手順について説明します。

- ◆ [279 ページのセクション 31.1 「前提条件」](#)
- ◆ [280 ページのセクション 31.2 「ユーザソースの管理」](#)
- ◆ [286 ページのセクション 31.3 「ユーザソース接続の管理」](#)
- ◆ [289 ページのセクション 31.4 「ユーザソースのプライマリサーバ接続の管理」](#)
- ◆ [290 ページのセクション 31.5 「ユーザソースの認証サーバ接続の管理」](#)
- ◆ [292 ページのセクション 31.6 「LDAP 負荷分散および耐障害性の提供」](#)

31.1 前提条件

- **最小限のディレクトリバージョン：**Novell eDirectory™ 8.7.3 または Microsoft Active Directory* (Windows 2000 SP4 の場合)
- **最小限の LDAP バージョン：**LDAPv3
- **最小限のユーザアカウント権限** 読み取り権限。

Active Directory では、基本ユーザアカウントを使用できます。これにより、ディレクトリに対する十分な読み取り権限が与えられます。

eDirectory では、CN、O、OU、C、DC、GUID、WM:NAME DNS、および Object Class の属性に対する継承可能な読み取り権限が必要です。権限は、ディレクトリのルートコンテキストか、ZENworks ルートコンテキストに指定する別のコンテキストで割り当てることができます。

ユーザソースディレクトリにアクセスするために使用されるユーザ名およびパスワードは、ZENworks Linux プライマリサーバの /etc/CASA/authtoken/svc/iaRealms.xml ファイルに、クリアテキスト形式で保存されます。セキュリティ上の理由により、デフォルトでこのファイルへのアクセスは制限されています。

- **DNS 名の解決** : Active Directory では、ZENworks サーバ (特に、ZENworks サーバ上の DNS クライアント) が、ユーザソースとして定義された各 Active Directory ドメインの DNS 名を解決する必要があります。そうしないと、Active Directory ドメインのユーザが ZENworks 管理ゾーンにログインできません。

31.2 ユーザソースの管理

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ [280 ページのセクション 31.2.1 「ユーザソースの追加」](#)
- ◆ [284 ページのセクション 31.2.2 「ユーザソースの削除」](#)
- ◆ [284 ページのセクション 31.2.3 「ユーザソースの編集」](#)
- ◆ [285 ページのセクション 31.2.4 「ユーザソースからのコンテナの追加」](#)

31.2.1 ユーザソースの追加

- 1 ZENworks コントロールセンターで、**[設定]** タブをクリックします。



- 2 [ユーザソース] パネルで、**[新規作成]** をクリックして新規ユーザソースの作成ウィザードを起動します。

新規ユーザソースの作成	
🏠 ステップ 1: 接続情報	
ユーザソースを設定すると、バンドルオブジェクトおよびポリシーオブジェクトをLDAPディレクトリに含まれているIDに割り当てることができます。	
接続名:*	<input type="text"/>
アドレス:*	<input type="text" value="164.99.94.171"/>
<input checked="" type="checkbox"/> SSLの使用	
ポート:	<input type="text" value="636"/>
ルートLDAPコンテキスト:	<input type="text"/> (オプション)
	(例: dc=company,dc=com)
<input style="margin-right: 10px;" type="button" value=" << 戻る "/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value=" 次 >> "/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value=" キャンセル "/>	

3 説明に従って、ユーザソースへの接続を作成します。

各ウィザードページの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、次の表を参照してください。

ウィザードページ	詳細
接続情報ページ	<p>LDAP ディレクトリへの接続を作成するのに必要な情報を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 接続名 : LDAP ディレクトリへの接続の記述名を指定します。 ◆ アドレス : LDAP のディレクトリが存在するサーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。 ◆ SSL の使用 : デフォルトでは、このオプションは有効です。LDAP が SSL (Secure Socket Layer) プロトコルを使用していない場合は、オプションを無効にします。 ◆ ポート : このフィールドは、[SSL の使用] オプションが有効か無効かによって、SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) にデフォルト設定されます。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。 ◆ ルートコンテキスト : ルートコンテキストは、ユーザコンテナの参照を開始できるポイントをディレクトリ内に構築します。ルートコンテキストを指定することによって、ディレクトリ内の参照を少なくすることができますが、これを使用するかどうかはオプションです。ルートコンテキストを指定しない場合、ディレクトリのルートコンテナがエン트리ポイントとなります。
[証明書] ページ	<p>(条件付き) 前のウィザードページ ([接続情報]) で [SSL の使用] を選択した場合、[証明書] ページが次のステップとしてウィザードに表示されます。証明書が正しいことを確認します。</p>

ディレクトリにアクセスするためのユーザ名およびパスワードを指定します。

- ◆ **ユーザ名**：ディレクトリに対して読み取り専用のアクセス権を持つユーザのユーザ名を指定します。ユーザには読み取り専用のアクセス権以上の権限を与えることができますが、読み取り専用のアクセス権が必要かつ推奨される権限です。

Novell eDirectory アクセスには、標準の LDAP 表記法を使用します。例：

```
cn=admin_read_only,ou=users,o=mycompany
```

Microsoft Active Directory には、標準のドメイン表記法を使用します。例：

```
AdminReadOnly@mycompany.com
```

- ◆ **パスワード**：[ユーザ名] フィールドで指定したユーザのパスワードを指定します。

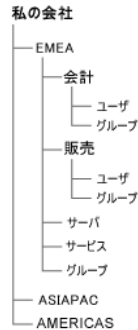
ZENworks 管理ゾーンに対してユーザを認証するために使用するメカニズムを選択します。使用可能なメカニズムは、Novell eDirectory ユーザソースを設定しているか、Microsoft Active Directory ユーザソースを設定しているかによって異なります。

- ◆ **Kerberos**：Active Directory のみ。Kerberos* 認証を有効にします。この認証では、Active Directory サーバは、ユーザ名やパスワードを使用する代わりに Novell Common Authentication Services Adapter (CASA) でユーザの認証に使用する Kerberos チケットを生成します。Kerberos 認証は多くの場合、スマートカードで使用されます。
- ◆ **ユーザ名 / パスワード**：eDirectory または Active Directory。ユーザ名およびパスワードを使用した簡易認証を有効にします。
- ◆ **共有シークレット**：eDirectory のみ。eDirectory へのログインにスマートカードを使用する場合、ユーザが ZENworks に自動的にログインできるようにします。このオプションは、[接続情報ページ](#)で指定した eDirectory のスキーマが novell-zenworks-configure ツールを使用して拡張される場合にのみ有効になります。[共有シークレット] が認証メカニズムとして選択されていない場合、管理対象デバイス上のユーザがスマートカードを使用して eDirectory にログインしようとする、ZENworks ログインダイアログボックスが表示されます。ユーザが eDirectory のユーザ名およびパスワードを指定した後、そのパスワードは Novell SecretStore に格納されます。ユーザが次回スマートカードを使用して eDirectory にログインするときに、SecretStore からパスワードが取得され、ユーザはパスワードを指定せずに ZENworks にログインします。

使用可能な両方のメカニズム (Active Directory の場合は [Kerberos] および [ユーザ名 / パスワード]、eDirectory の場合は [ユーザ名 / パスワード] および [共有シークレット]) を選択した場合、ZENworks Configuration Management は認証に最初のメカニズムを使用しようとしています。認証に失敗すると、次のメカニズムが使用されます。たとえば、Active Directory に [Kerberos] および [ユーザ名 / パスワード] を選択した場合、ZENworks Configuration Management は最初に Kerberos 認証を使用しようとしています。Kerberos 認証が失敗すると、ユーザ名 / パスワードの簡易認証が使用されます。

[ユーザコンテナ] ページ

ユーザソースとしてLDAP ディレクトリに接続すると、ディレクトリ内にある公開するコンテナを定義できます。定義するユーザコンテナの数は、ディレクトリをどれぐらい公開したいかに応じて決まります。次に例を示します。




Accounting コンテナおよび Sales コンテナ内のすべてのユーザにZENworks コンテンツを受信させたいとします。それに加えて、グループに基づいてコンテンツを配布するために、会計、販売、およびグループコンテナに含まれるユーザグループにアクセスしたいと仮定します。ユーザおよびグループへのアクセスを取得するには、2つのオプションがあります。

Accounting、Sales、および Gtoupd のコンテナのみをエクスポートしたいとします。それらのユーザおよびグループへのアクセスを取得するには、次の2つのオプションがあります。

- ◆ MyCompany/EMEA をユーザコンテナとして追加できます。そうすることにより、サーバおよびサービスコンテナを含む、EMEA の下にあるすべてのコンテナがZENworks コントロールセンターで表示されます。EMEA コンテナにあるユーザおよびユーザグループのみ表示されますが(サーバおよびサービスは表示されません)、構造は公開されます。
- ◆ MyCompany/EMEA/Accounting を最初のユーザコンテナ、MyCompany/EMEA/Sales を2番目のユーザコンテナ、MyCompany/EMEA/Groups を3番目のユーザコンテナとして追加できます。これらのコンテナのみ、ZENworks コントロールセンターの MyCompany ディレクトリリファレンスの下のフォルダとして表示されます。

ユーザがいるコンテナを追加する

1. [追加] をクリックして、[ユーザコンテナの追加] ダイアログボックスを表示します。
2. [コンテキスト] フィールドで  をクリックして、目的のコンテナを参照して選択します。
3. [表示名] フィールドで、ZENworks コントロールセンターでユーザコンテナを表示するのに使用される名前を指定します。
4. [OK] をクリックしてコンテナをリストに追加します。

31.2.2 ユーザソースの削除

ソースを削除すると、ソースのユーザに対するすべての割り当ておよびメッセージが削除されます。ソースの削除は元に戻すことはできません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルでユーザソースの隣にあるチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックして、削除を確認します。

31.2.3 ユーザソースの編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースの下線付きリンクをクリックします。
- 3 次の設定を編集できます。

ユーザ名とパスワード: [編集] をクリックしてフィールドを編集し、[OK] をクリックします。

ZENworks システムはユーザ名を使用して LDAP ディレクトリにアクセスします。ユーザ名は、ディレクトリに読み込み専用アクセス権を提供する必要があります。読み込み専用以上のアクセス権を提供するユーザ名を指定することもできますが、読み込み専用のアクセス権が必要かつ推奨される権限です。

Novell eDirectory アクセスには、ユーザ名を指定するときの標準 LDAP 表記を使用します。たとえば、次のようにします。

```
cn=admin_read_only,ou=users,o=mycompany
```

Microsoft Active Directory には、標準のドメイン表記法を使用します。例:

```
AdminReadOnly@mycompany.com
```

認証メカニズム: [編集] をクリックして目的のメカニズムを選択し、[OK] をクリックします。

詳細については、[296 ページのセクション 32.2 「認証メカニズム」](#) を参照してください。

SSL の使用: デフォルトでは、このオプションは有効です。[いいえ] をクリックして、LDAP が SSL (Secure Socket Layer) プロトコルを使用していない場合にオプションを無効にします。

このオプションを編集した場合、接続パネルに示される各接続に対して次の操作を行う必要があります。

- ◆ **証明書の更新:** 証明書の更新については、[287 ページのセクション 31.3.4 「ユーザソースの証明書の更新」](#) を参照してください。
- ◆ **ポートの更新:** LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。

注: ユーザソースを編集して [SSL の使用] オプションを有効または無効にした場合、サーバで ZENworks サービスを再起動しないとユーザソースへの認証が失敗します。

ルートコンテキスト: [編集] をクリックしてルートコンテキストを指定し、[OK] をクリックします。

ルートコンテキストは、ユーザコンテナの参照を開始できるポイントをディレクトリ内に構築します。ルートコンテキストを指定することによって、ディレクトリ内の参照を少なくすることができますが、これを使用するかどうかはまったくのオプションです。ルートコンテキストを指定しない場合、ディレクトリのルートコンテナがエントリーポイントとなります。[編集] をクリックして、ルートコンテキストを修正します。

説明: [編集] をクリックして、ユーザソースに関するオプションの情報を変更し、[OK] をクリックします。

ユーザコンテナ: 詳細については、[285 ページのセクション 31.2.4 「ユーザソースからのコンテナの追加」](#) を参照してください。ユーザコンテナを削除または名前変更することもできます。

接続: 詳細については、[287 ページのセクション 31.3.2 「ユーザソース接続の編集」](#) を参照してください。

認証サーバ 詳細については、[290 ページのセクション 31.5 「ユーザソースの認証サーバ接続の管理」](#) を参照してください。

31.2.4 ユーザソースからのコンテナの追加

管理ゾーン内にユーザソースを定義すると、そのソースからコンテナをいつでも追加できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースをクリックします。

設定 > TREE67

TREE67

設定	
一般	
名前:	TREE67
ディレクトリタイプ:	eDirectory
通信ステータス:	
接続の詳細 [編集]	アドレス: 192.168.5.67 ポート: 636 SSLの使用: はい
ユーザ名とパスワード: [編集]	cn=admin,o=context
ルートコンテキスト: [編集]	
説明: [編集]	
ユーザコンテナ	
追加 置換 削除 リネーム	
<input type="checkbox"/> コンテキスト	名前
<input type="checkbox"/> /TREE67/context	context

- 3 [ユーザコンテナ] パネルで、[追加] をクリックし、[ユーザコンテナの追加] ダイアログボックスを表示し、次のフィールドに入力します。

コンテキスト: をクリックして、追加するコンテナを参照して選択します。

表示名: ZENworks コントロールセンターでユーザコンテナを表示するのに使用される名前を指定します。名前は、他のユーザコンテナの名前と同じにはできません。

- 4 [OK] をクリックして、ユーザコンテナを追加します。

コンテナとそのユーザおよびユーザグループが [ユーザ] ページで利用できるようになります。

31.3 ユーザソース接続の管理

認証の役割を持つプライマリサーバとサテライトデバイスを使用して、ZENworks 管理ゾーンに対してユーザを認証できます。パフォーマンスを改善するために、サテライトが WAN または低速リンクでユーザを認証せずに済むように、Novell eDirectory または Active Directory ツリーのローカルレプリカへの複数の接続を作成できます。ローカル LDAP ユーザソースへの接続を作成すると、ある接続が機能しなくなったときに別のユーザソース接続にフェールオーバーすることで、耐障害性も実現します。

たとえば、ZENworks 環境で Novell eDirectory を使用する場合、認証の役割を持つサテライトが認証の目的で、リモートサーバではなく、ローカル認証サーバに接続できるように、システムで複数の認証サーバを使用できます。

ユーザソース接続が接続できない場合、試行する後続のユーザソース接続について 1 分以上の遅延が発生します。これは、CASA に現在設定できない内部遅延があるためです。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [286 ページのセクション 31.3.1 「ユーザソース接続の作成」](#)
- ◆ [287 ページのセクション 31.3.2 「ユーザソース接続の編集」](#)
- ◆ [287 ページのセクション 31.3.3 「ユーザソース接続の削除」](#)
- ◆ [287 ページのセクション 31.3.4 「ユーザソースの証明書の更新」](#)

31.3.1 ユーザソース接続の作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックし、[ユーザソース] パネルでユーザソースをクリックします。
- 2 [接続] パネルで、[追加] をクリックして [Create New Connection(新しい接続の作成)] ウィザードを起動します。
- 3 次のフィールドに入力します。

接続名: LDAP ディレクトリへの接続の記述名を指定します。

アドレス: LDAP のディレクトリが存在するサーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。

ポート: このフィールドのデフォルトは、ユーザソースが SSL を使用するかどうかによって、標準 SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) です。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。

Add Connection to all Primary Servers (接続をすべてのプライマリサーバに追加する): 作成している接続を管理ゾーン内のすべての ZENworks プライマリサーバに追加します。

- 4 (条件付き) ユーザソースが SSL (セキュアソケットレイヤ) プロトコルを使用する場合、[次へ] をクリックして [証明書] ページを表示し、証明書が正しいことを確認して、[次へ] をクリックして [概要] ページに進みます。

または

ユーザソースが SSL を使用しない場合、[次へ] をクリックして [概要] ページに進みます。

- 5 情報を確認し、必要に応じて [戻る] ボタンをクリックして情報を変更し、[完了] をクリックします。

サテライトの認証の役割の設定については、91 ページの第 7 章「サテライト」を参照してください。

31.3.2 ユーザソース接続の編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックし、[ユーザソース] パネルでユーザソースをクリックします。
- 2 [接続] パネルで、接続名をクリックして [接続詳細の編集] ダイアログボックスを表示します。
- 3 必要に応じてフィールドを編集します。

接続名: LDAP ディレクトリへの接続の記述名が表示されます。このフィールドは編集できません。

アドレス: LDAP のディレクトリが存在するサーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。

SSL の使用: ユーザソースが SSL を使用するかどうかに応じて、[はい] または [いいえ] が表示されます。このフィールドは編集できません。

ポート: このフィールドは、ユーザソースが SSL を使用するかどうかによって、標準 SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) にデフォルト設定されます。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。

証明書: ユーザソースが SSL を使用する場合、ユーザソースの証明書が表示されます。証明書は編集できません。

Update: ユーザソースが SSL を使用する場合、新しい証明書が存在する場合は [更新] ボタンをクリックして証明書を更新します。

- 4 [OK] をクリックします。

31.3.3 ユーザソース接続の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースの下線付きリンクをクリックします。
- 3 [接続] パネルで、接続のチェックボックスをオンにします。
- 4 [削除] をクリックします。

31.3.4 ユーザソースの証明書の更新

証明書は、ユーザソースとユーザソース間のセキュアな通信を行うために使用されます。証明書が期限切れの場合、または証明書を変更する場合は、証明書を更新する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定 > engdom.loc

全般	
名前:	engdom.loc
ディレクトリタイプ:	Active Directory
通信ステータス:	
ユーザー名とパスワード: (編集)	cn=Admin,cn=users,DC=engdom,DC=loc
認証方式: (編集)	ユーザー名/パスワード
SSLの使用:	はい (ヘルプ)
ルートコンテキスト: (編集)	DC=engdom,DC=loc
説明: (編集)	

ユーザーコンテナ	
追加 置換 削除 リネーム	
<input type="checkbox"/> コンテキスト	名前
<input type="checkbox"/> /engdom.loc/Users	Users

接続			
追加 削除			
<input type="checkbox"/> 接続	アドレス	ポート	sslの使用
<input type="checkbox"/> AD	192.168.8.203	636	✓

- 2 [ユーザーソース] パネルで、ユーザーソースをクリックします。
- 3 [接続] パネルで、接続をクリックして [接続詳細の編集] ダイアログボックスを表示します。

接続詳細の編集 [X]

接続名:*

アドレス:*

SSLの使用: はい

ポート: ▲ ▼

証明書:

```

Issued To: CN=win2003x32.engdom.loc
Issued By: CN=win2003x32.engdom.loc

Valid from: Mon Jun 15 16:42:16
EEST 2009
Valid until: Tue Jun 15 22:42:16
EEST 2010

MD5 Fingerprint:

```

4 [アップデート] をクリックします。

31.4 ユーザソースのプライマリサーバ接続の管理

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、認証接続を設定するプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [Configure Primary Authentication Connections (プライマリ認証接続の設定)] の順にクリックします。
- 4 ドロップダウンリストからユーザソースを選択します。
- 5 (条件付き) ユーザソース接続を追加するには、[追加] をクリックして、[Add User Source Connections (ユーザソース接続の追加)] ダイアログボックスを表示します。
 1. (オプション) [接続名] フィールドで、LDAP ディレクトリへの接続の名前のすべてまたは一部を指定します。[フィルタ] をクリックして、検索条件に一致する接続のリストを表示します。

2. (オプション) [接続アドレス] フィールドで、LDAP ディレクトリへの接続の IP アドレスまたは DNS ホスト名の一部を指定し、[フィルタ] をクリックしてその IP アドレスを含むすべての接続を表示します。
3. 追加する接続の横のチェックボックスをオンにし、[OK] をクリックして [Configure Primary Authentication Connections (プライマリ認証接続の設定)] ダイアログボックスに戻ります。
- 6 (条件付き) 接続を削除するには、接続を選択して [削除] をクリックします。
- 7 (条件付き) 接続のリストの順序を変更するには、接続を選択して [上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。

31.5 ユーザソースの認証サーバ接続の管理

ユーザソースの詳細ページの [Authentication Servers (認証サーバ)] パネルでは、接続の追加、削除、並べ替えなど、認証サーバ接続を編集できます。

[Authentication Servers (認証サーバ)] パネルには、認証の役割で設定されているユーザソースの ZENworks プライマリサーバおよびサテライトデバイスについての情報が表示されます。各デバイスのユーザソース設定も編集できます。

ユーザが以前のバージョンの ZENworks にログインすると、ZENworks プライマリサーバに接続し、プライマリサーバはユーザを含むユーザソースに接続して、管理ゾーンに対して認証されます。

認証の役割を持つサテライトデバイスは、さまざまなデバイス間のワークロードを分散し、認証を管理対象デバイス上でローカルに実行することで、認証プロセスを高速化できるようになりました。複数のサテライトデバイスに認証の役割を付与できます。また、認証の役割を持つ各サテライトに複数のユーザソースを設定でき、各サテライトには各ユーザソースへの複数の接続を指定してフェールオーバーを実現できます。

管理対象デバイス上では、認証モジュールは、管理対象デバイスが認証の役割を持つサテライトに昇格されるか、認証の役割が既存のサテライトに追加されるまで無効です。

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ [290 ページのセクション 31.5.1 「認証サーバへの接続の割り当て」](#)
- ◆ [291 ページのセクション 31.5.2 「接続の削除」](#)
- ◆ [291 ページのセクション 31.5.3 「接続の並べ替え」](#)

31.5.1 認証サーバへの接続の割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースの名前をクリックして詳細を表示します。
- 3 [Authentication Servers (認証サーバ)] パネルで、サーバ名の横のチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックして [Edit Authentication Server Connections (認証サーバ接続の編集)] ダイアログボックスを表示します。
- 4 [追加] をクリックして、[Add User Source Connections (ユーザソース接続の追加)] ダイアログボックスを表示します。

デフォルトで、ユーザソースへのすべての接続が表示されるため、[追加] リンクは無効になっています。接続が削除されると、[追加] リンクが有効になります。

- 5 (オプション) [接続名] フィールドを使用して、接続のリストをフィルタします。
LDAP ディレクトリへの接続の名前のすべてまたは一部を指定します。[フィルタ] をクリックして、検索条件に一致する接続のリストを表示します。
ZENworks 管理ゾーンに多数の接続がある場合、[接続名] フィールドを使用して、条件に一致する接続だけを表示できます。たとえば、London を含むすべての接続を表示するには、[接続名] フィールドに「London」と入力して [フィルタ] をクリックします。
- 6 (オプション) [接続アドレス] フィールドを使用して、接続のリストをフィルタします。
LDAP ディレクトリへの接続の IP アドレスまたは DNS ホスト名の一部を指定し、[フィルタ] をクリックしてその IP アドレスを含むすべての接続を表示します。
ZENworks 管理ゾーンに多数の接続がある場合、[接続アドレス] フィールドを使用して、条件に一致する接続だけを表示できます。たとえば、172 から始まる IP アドレスを含むすべての接続を検索し表示するには、[接続アドレス] フィールドに「172」と入力して [フィルタ] をクリックします。
- 7 [User Source Connections (ユーザソース接続)] リストで、目的の接続の横のチェックボックスをオンにします。
- 8 [OK] をクリックします。

31.5.2 接続の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースの名前をクリックして詳細を表示します。
- 3 [Authentication Servers (認証サーバ)] パネルで、サーバ名の横のチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックして [Edit Authentication Server Connections (認証サーバ接続の編集)] ダイアログボックスを表示します。
- 4 [User Source Connections (ユーザソース接続)] リストで、目的の接続の横のチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

31.5.3 接続の並べ替え

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースの名前をクリックして詳細を表示します。
- 3 [Authentication Servers (認証サーバ)] パネルで、サーバ名の横のチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックして [Edit Authentication Server Connections (認証サーバ接続の編集)] ダイアログボックスを表示します。
- 4 [User Source Connections (ユーザソース接続)] リストで、目的の接続の横のチェックボックスをオンにし、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。
認証サーバはリストの順序で接続を使用し、デバイスを ZENworks 管理ゾーンに対して認証します。
- 5 [OK] をクリックします。

31.6 LDAP 負荷分散および耐障害性の提供

ユーザソースのアクセス用に複数の LDAP サーバがある場合は、各 LDAP サーバがわかるように、ZENworks サーバを設定できます。これによって、負荷分散と耐障害性が提供されます。

たとえば、複数の ZENworks サーバがある場合、各 ZENworks サーバが異なる LDAP サーバを介してユーザソースをアクセスするように設定できます。これによって、LDAP サーバ間のワークロードがより均等に分散されます。

同様に、ZENworks サーバごとに、ユーザソースに接続するための複数の LDAP ソースのリストを表示できます。LDAP サーバの 1 つが使用できなくなると、ZENworks サーバは、別の LDAP サーバを使用します。

ZENworks Configuration Management SP3 以前のバージョンでは、ZENworks サーバで次のディレクトリにある `alt-servers.properties` 設定ファイルで ZENworks サーバの LDAP サーバを追加指定する必要があります。

- ◆ `c:\program files\novell\zenworks\conf\datamodel\authsource` (Windows の場合)
- ◆ `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel/authsource` (Linux の場合)

ただし、ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3) では、ZENworks コントロールセンターまたは `zman` コマンドラインユーティリティを使用して、LDAP サーバを追加指定できます。

Novell ZENworks 10 Configuration Management 10.2.x から ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3) にアップグレードする場合、`alt-servers.properties` ファイルに指定された既存の追加 LDAP サーバを手動で再定義する必要があります。ZENworks サーバの追加 LDAP サーバを追加または再定義する方法は、次のセクションを参照してください。

- ◆ [292 ページのセクション 31.6.1「ZENworks コントロールセンターを使用した ZENworks サーバの追加 LDAP サーバの定義」](#)
- ◆ [293 ページのセクション 31.6.2「zman コマンドラインユーティリティを使用した ZENworks サーバの追加 LDAP サーバの定義」](#)

31.6.1 ZENworks コントロールセンターを使用した ZENworks サーバの追加 LDAP サーバの定義

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[**環境設定**] タブをクリックし、[**ユーザソース**] パネルでユーザソースをクリックします。
- 2 [**接続**] パネルで、[**追加**] をクリックして [Create New Connection(新しい接続の作成)] ウィザードを起動します。
- 3 次のフィールドに入力します。

接続名 : LDAP ディレクトリへの接続の記述名を指定します。

アドレス : LDAP のディレクトリが存在するサーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。

ポート : このフィールドは、ユーザソースが SSL を使用するかどうかによって、標準 SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) にデフォルト設定されます。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。

Add Connection to all Primary Servers (接続をすべてのプライマリサーバに追加する): 作成している接続を管理ゾーン内のすべての ZENworks プライマリサーバに追加します。

- 4 (条件付き) ユーザソースが SSL (セキュアソケットレイヤ) プロトコルを使用する場合、[次へ] をクリックして [証明書] ページを表示し、証明書が正しいことを確認して、[次へ] をクリックして [概要] ページに進みます。

または

ユーザソースが SSL を使用しない場合、[次へ] をクリックして [概要] ページに進みます。

- 5 情報を確認し、必要に応じて [戻る] ボタンをクリックして情報を変更し、[完了] をクリックします。

31.6.2 zman コマンドラインユーティリティを使用した ZENworks サーバの追加 LDAP サーバの定義

ZENworks サーバに追加の LDAP サーバを定義するには、サーバで `user-source-add-connection (usac)` コマンドを実行します。zman ssucrs コマンドの詳細は、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「ユーザコマンド」を参照してください。

ユーザの認証

次のセクションでは、ZENworks® 管理ゾーンへのユーザの認証について説明します。

- ◆ 295 ページのセクション 32.1 「ユーザソースの認証」
- ◆ 296 ページのセクション 32.2 「認証メカニズム」
- ◆ 301 ページのセクション 32.3 「資格情報のストレージ」
- ◆ 301 ページのセクション 32.4 「ZENworks ユーザ認証の無効化」
- ◆ 302 ページのセクション 32.5 「ユーザ認証のトラブルシューティング」

32.1 ユーザソースの認証

デフォルトでは、管理ゾーンのユーザソースとして定義された LDAP ディレクトリ (Novell® eDirectory™ または Microsoft* Active Directory) にユーザがログインしたとき、ユーザは管理ゾーンに対して自動的に認証されます。ユーザの ZENworks への認証は、ユーザの LDAP ディレクトリ (またはユーザの LDAP ディレクトリコンテキスト) が ZENworks でユーザソースとして定義されている場合にのみ実行されます。

ZENworks Adaptive Agent は、Windows ログインクライアントまたは Novell ログインクライアントと統合され、ユーザにシングルログインを提供します。ユーザが Windows または Novell クライアントで eDirectory または Active Directory のアカウント情報を入力した場合、ユーザのアカウント情報が ZENworks ユーザソースのものと一致すると、管理ゾーンにログインします。一致しない場合、別の ZENworks ログイン画面が表示され、ユーザに正しいアカウント情報を入力するよう求めます。

たとえば、あるユーザが 2 つのディレクトリツリー Tree1 と Tree2 でアカウントを持っているとします。Tree1 は、管理ゾーンのユーザソースとして定義されていますが、Tree2 は定義されていません。そのユーザが Tree1 にログインすると、自動的に管理ゾーンにログインします。一方、そのユーザが Tree2 にログインした場合は、Adaptive Agent のログイン画面が表示され、Tree1 のアカウント情報を入力するよう求められます。

ユーザが複数のユーザソースが有効になっているデバイスに初めてログインするとき、ユーザはユーザソースを選択し、ユーザソース資格情報を入力するよう求められます。以降のログインでは、ユーザは最初のログインで選択した同じユーザソースに自動的にログインします。ただし、最初のログインでユーザにユーザソースを選択させないようにするには、次の手順を実行してデバイスにシームレスにログインできるようにします。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM/Software/Novell/ZCM/ZenLgn/ に移動します。
- 3 EnableSeamlessLogin という DWORD を作成して、値を 1 に設定します。

シームレスログインが有効になると、ユーザのデバイスへの初回ログインが遅くなる場合があります。これは、既存のすべてのユーザソースが検索され、ユーザアカウントに一致する最初のユーザソースにユーザがログインするためです。多数のユーザが同じデバイスを使用する場合、ユーザ情報をデバイスにキャッシュできないため、以降のログインも遅くなる場合があります。

ログイン時間を短縮するには、デフォルトのユーザソースを指定して、ユーザがデバイスにシームレスにログインできるようにします。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM/Software/Novell/ZCM/ZenLgn/ に移動します。
- 3 DefaultRealm という String を作成して、目的のユーザソースに値を設定します。
たとえば、すべてのユーザがユーザソース POLICY-TREE にログインする場合、DefaultRealm という String を作成して、その値を POLICY-TREE に設定します。

指定されたデフォルトユーザソースへのログインが失敗した場合、その他の既存のユーザソースが検索され、ユーザはユーザアカウントに一致するユーザソースにログインします。

Windows XP、Windows 2000、Windows 2003 デバイスでは、ユーザは ZENworks へのログインプロセス中にログインステータスを表示するよう選択できます。

ステータスメッセージを画面に表示するには、次の手順に従います。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\NWGINA に移動します。
- 3 EnableStatusMessages という DWORD を作成して、値を 1 に設定します。

32.2 認証メカニズム

次のメカニズムを使用して、管理対象デバイスを ZENworks 管理ゾーンに認証できます。

- ◆ [296 ページのセクション 32.2.1 「Kerberos \(Active Directory のみ\)」](#)
- ◆ [298 ページのセクション 32.2.2 「共有シークレット」](#)
- ◆ [300 ページのセクション 32.2.3 「ユーザ名 / パスワード \(eDirectory と Active Directory\)」](#)

32.2.1 Kerberos (Active Directory のみ)

Kerberos* は MIT が開発した認証プロトコルで、安全ではないネットワーク上で通信する必要があるエンティティ (ユーザとネットワークサービスなど) に身元を相互に提供させ、認証を安全に行います。

Kerberos 機能は Windows Active Directory 環境にネイティブです。

Kerberos ではキー配布センター (KDC) の使用が要求され、これはエンティティ間の信頼された第三者として機能します。すべての Kerberos サーバマシンで、KDC (Key Distribution Center) に対して認証するためにキータブファイルが必要になります。キータブファイルとは、ホストキーをコピーし、ローカルディスクに格納した暗号化されたファイルです。

Kerberos 認証を使用する際、Active Directory サーバは、ユーザ名やパスワードを使用する代わりに Novell Common Authentication Services Adapter (CASA) でユーザの認証に使用する Kerberos チケットを生成します。

- ◆ [297 ページの 「ZENworks 環境での Kerberos のセットアップ」](#)
- ◆ [297 ページの 「ユーザソースの追加中に Kerberos 認証を有効にする」](#)

- ◆ 297 ページの「既存のユーザソースで Kerberos 認証を有効にする」
- ◆ 297 ページの「Kerberos 認証と ZENworks ログインダイアログボックスの相互作用の理解」

ZENworks 環境での Kerberos のセットアップ


- 1 Kerberos サービスプリンシパルアカウントをセットアップし、このアカウントの keytab ファイルを生成します。

詳細については、[Microsoft TechNet Web サイト \(http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753771\(WS.10\).aspx\)](http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753771(WS.10).aspx) を参照してください。

たとえば、atsserver というユーザをドメインに作成した場合、次のコマンドをコマンドプロンプトから実行します。

```
ktpass /princ host/atsserver.users.myserver.com@MYSERVER.COM -pass atsserver_password -mapuser atsserver -out atsserver.keytab -mapOp set -ptype KRB5_NT_PRINCIPAL
```

このコマンドは keytab ファイルを作成し、ユーザ atsserver を Kerberos プリンシパルに変更します。

- 2 keytab ファイルを ZENworks コントロールセンターにインポートします。
 - 2a ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックし、[インフラ管理]、[ユーザソース設定] の順にクリックします。
 - 2b  をクリックして、keytab ファイルを参照して選択します。
 - 2c [OK] をクリックしてファイルをインポートします。

ユーザソースの追加中に Kerberos 認証を有効にする

Kerberos 認証をユーザソースの追加中に有効にできます。詳細については、[280 ページのセクション 31.2.1「ユーザソースの追加」](#) を参照してください。

既存のユーザソースで Kerberos 認証を有効にする

既存のユーザソースで Kerberos 認証を有効にできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースをクリックして [全般] セクションの [認証メカニズム] の横の [編集] をクリックします。
- 3 [Kerberos] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

Kerberos 認証と ZENworks ログインダイアログボックスの相互作用の理解

以下の表は、Kerberos 認証を Active Directory を使用した ZENworks のユーザ操作を説明しています。

表 32-1 Active Directory を使用した ZENworks Kerberos 認証

Windows ログインと ユーザソースログインの一致	ZENworks でも ユーザ名/パスワード認証を使用する	同じドメインのメンバー	別のドメインのメンバー	Windows と ZENworks 視覚情報の一致	管理ゾーンにログインできる	ZENworks ログインダイアログボックスが表示される
✓	✓	✓		✓	対応	いいえ
✓		✓		✓	対応	いいえ
	✓		✓		対応	対応
			✓		非対応	非対応
			✓	✓	非対応	非対応
					非対応	非対応
				✓	非対応	非対応
✓	✓			✓	対応	いいえ
	✓		✓	✓	対応	いいえ
	✓				対応	対応

たとえば、2 番目の行で、ユーザの初期ログイン、ユーザソース、ZENworks ログイン資格情報は一致します。このため、ユーザは ZENworks 管理ゾーンにログインでき、ZENworks ログインダイアログボックスは表示されません。

別の例として 3 番目の行では、ユーザの初期ログイン資格情報は別のドメインの資格情報を使用し、ZENworks ログイン資格情報とは異なります。このため、ユーザは ZENworks 管理ゾーンにログインできますが、ZENworks ログインダイアログボックスが表示されません。

32.2.2 共有シークレット

共有シークレット認証を使用する際、Novell Identity Assurance Solution Client をインストールして設定する必要があります。詳細およびサポートされるスマートカードリーダーおよびスマートカードについては、Novell マニュアルの Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/>) で Identity Assurance Solution Client のマニュアルを参照してください。

スマートカードを使用した ZENworks への認証は、現在 Windows XP と、Windows Server 2003 デバイスの端末セッションでのみサポートされています。

ユーザがスマートカードを使用して eDirectory にログインする場合、ユーザソースが追加されたときに指定された eDirectory のスキーマが novell-zenworks-configure ツールを使用して拡張されている場合は、ユーザは自動的に ZENworks にログインします。

ユーザソースの追加については、280 ページのセクション 31.2.1 「ユーザソースの追加」を参照してください。

eDirectory スキーマの拡張については、299 ページの「eDirectory スキーマの拡張による共有シークレット認証の有効化」を参照してください。

eDirectory が拡張されていない場合、共有シークレットを認証メカニズムとして使用できません。この結果、管理対象デバイスのユーザがスマートカードを使用して eDirectory にログインしようとする、ZENworks ログインダイアログボックスが表示されます。ユーザが eDirectory のユーザ名およびパスワードを指定した後、そのパスワードは Novell SecretStore に格納されます。ユーザが次回スマートカードを使用して eDirectory にログインするときに、SecretStore からパスワードが取得され、ユーザはパスワードを指定せずに ZENworks にログインします。

eDirectory スキーマの拡張による共有シークレット認証の有効化

共有シークレット認証メカニズムを使用して ZENworks で認証するには、ユーザソースが追加されたときに指定された eDirectory のスキーマを novell-zenworks-configure ツールを使用して拡張されている必要があります。

次の手順に従って eDirectory スキーマを拡張します。

- 1 ZENworks サーバで novell-zenworks-configure ユーティリティを実行します。

Windows の場合： コマンドプロンプトで ZENworks_installation_path\bin\ に移動し、次のコマンドを入力します。

```
novell-zenworks-configure.bat -c ExtendSchemaForSmartCard
```

Linux の場合： コンソールのプロンプトで、/opt/novell/zenworks/bin に移動し、次のコマンドを入力します。

```
./novell-zenworks-configure -c ExtendSchemaForSmartCard
```

- 2 Novell eDirectory スキーマの拡張およびオプションの zcmSharedSecret 属性のユーザクラスへの追加の操作を続行するよう通知されます。デフォルトでは 1 が選択されます。<Enter> キーを押します。
- 3 Novell eDirectory サーバの DNS 名または IP アドレスを入力して、スキーマを拡張します。
- 4 eDirectory サーバとの通信に SSL (セキュアソケットレイヤ) または平文通信を選択するよう求められます。SSL 通信には 1、平文通信には 2 を選択し、もう一度 <Enter> キーを押します。
- 5 eDirectory サーバとの通信のポートを入力します。
SSL 通信のデフォルトポートは 636 で、平文通信は 389 です。
- 6 管理者ユーザの完全識別名 (FDN) を入力します。
cn=admin,o=organization などです。
- 7 **ステップ 6** で指定された管理者ユーザのパスワードを入力します。
- 8 (オプション) ACL を適用する ZENworks ユーザソース管理者の完全識別名を入力します。

ZENworks ユーザソース管理者は、ユーザソースからユーザを読み取る ZENworks ユーザソース設定でユーザとして設定され、**ステップ 6** で指定された管理者ユーザである必要はありません。このユーザの完全識別名を指定する場合、プログラムは指定されたコンテナに ACL を設定し、このユーザの zcmSharedSecret 属性に読み込みアクセスを提供します。

- 9 スキーマを拡張するユーザコンテナを入力します。

+ 記号で区切って複数のコンテナを指定できます。たとえば、o=sales or o=sales + o=marketing とします。

- 10 *Enter* を押して、上記のコンテナ内のすべてのユーザにランダムシークレットを生成します。
- 11 (条件付き) eDirectory サーバとの通信に SSL 通信を選択した場合、サーバから証明書が提示されます。「y」を入力して、証明書を受け入れます。

32.2.3 ユーザ名 / パスワード (eDirectory と Active Directory)

ユーザ名 / パスワード認証を Novell eDirectory または Microsoft Active Directory ユーザソースで使用する場合、ユーザがワークステーションまたはドメインへのログインに指定する資格情報が ZENworks ログイン資格情報と一致する場合、ZENworks ログインダイアログボックスは表示されず、ユーザは ZENworks 管理ゾーンに認証されます。

ユーザ名とパスワードはシークレットストアにも保存されます。ユーザが後でユーザ名またはパスワードが使用できない ZENworks にログインすると (ユーザがスマートカードを使用したログインした場合など)、保存された資格情報が使用され、ZENworks ログインダイアログボックスは省略されます。

ユーザソースの追加中にユーザ名 / パスワード認証を有効にする

ユーザ名 / パスワード認証をユーザソースの追加中に有効にできます。詳細については、[280 ページのセクション 31.2.1 「ユーザソースの追加」](#) を参照してください。

既存のユーザソースでユーザ名 / パスワード認証を有効にする

既存のユーザソースでユーザ名 / パスワード認証を有効にできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックし、ユーザソースをクリックし、[全般] セクションの [認証メカニズム] の横の [編集] をクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、ユーザソースをクリックして [全般] セクションの [認証メカニズム] の横の [編集] をクリックします。
- 3 [ユーザ名とパスワード] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

ユーザ名 / パスワード認証と ZENworks ログインダイアログボックスの相互作用の理解

以下の表は、ユーザ名 / パスワード認証を Active Directory を使用した ZENworks のユーザ操作を説明しています。

表 32-2 Active Directory を使用した ZENworks ユーザ名 / パスワード認証

Windows ログインとユーザソースログインの一致	ZENworks で Kerberos 認証も使用する	同じドメインのメンバー	別のドメインのメンバー	Windows と ZENworks 視覚情報の一致	管理ゾーンにログインできる	ZENworks ログインダイアログボックスが表示される
✓	✓			✓	対応	いいえ
	✓		✓	✓	対応	いいえ
	✓				対応	対応

Windows ログインとユーザーソースログインの一致	ZENworks で Kerberos 認証も使用する	同じドメインのメンバー	別のドメインのメンバー	Windows と ZENworks 視覚情報の一致	管理ゾーンにログインできる	ZENworks ログインダイアログボックスが表示される
✓		✓		✓	対応	いいえ
			✓	✓	対応	いいえ
				✓	対応	いいえ
					対応	対応
✓		✓			対応	対応
✓			✓		対応	対応

たとえば、最初の行で、ユーザの初期ログイン、ユーザソース、ZENworks ログイン資格情報は一致します。このため、ユーザは ZENworks 管理ゾーンにログインでき、ZENworks ログインダイアログボックスは表示されません。

別の例として 2 番目の行では、ユーザの初期ログイン資格情報は別のドメインの資格情報を使用し、ZENworks ログイン資格情報と一致します。このため、ユーザは ZENworks 管理ゾーンにログインでき、ZENworks ログインダイアログボックスは表示されません。

32.3 資格情報のストレージ

ZENworks は、Novell CASA (Common Authentication Services Adapter) を使用してシングルサインオンを実現しています。ZENworks Adaptive Agent が Microsoft クライアント、Novell クライアント、または ZENworks ログイン画面で入力された資格情報を通じて管理ゾーンにユーザを認証すると、ユーザ名およびパスワードがユーザのデバイス上のセキュアな CASA ボールトに保存されます。

CASA は、ZENworks Adaptive Agent と共にインストールされます。これには、ストレージボールト内の資格情報の管理に使用されるインタフェースとして、CASA マネージャが含まれます。CASA マネージャは、[スタート] > [プログラムファイル] > [Novell CASA] メニューから利用できます。一般的に、ユーザまたはデバイスのユーザは CASA マネージャを使用する必要がありません。ユーザのアカウント情報は、LDAP ディレクトリで変更された場合、ユーザの次回ログイン時に CASA ストレージボールト内で更新されます。CASA マネージャを実行すると、GTK# ライブラリをインストールするよう要求されます。(CASA マネージャの実行に必要な) ライブラリのインストールを選択した場合は、インストール元である Novell Web サイトが表示されます。

管理対象デバイスから CASA を削除しないでください。CASA マネージャをユーザに表示しないようにする場合は、[スタート] > [プログラムファイル] メニューから [Novell CASA] フォルダを削除できます。

32.4 ZENworks ユーザ認証の無効化

デフォルトでは、ユーザソースが ZENworks 管理ゾーン内で定義されている場合、ZENworks Adaptive Agent はユーザが Microsoft クライアントまたは Novell クライアント経由でログインする際にユーザを認証しようとします。

必要に応じて、ゾーンへのユーザ認証を無効化できます。たとえば、何人かのユーザはデバイス割り当て済みコンテンツのみを受信することができます。こうすることにより、それらのユーザはそのゾーンにログインできないため、オーバーヘッドがかかりません。

ゾーンに対するユーザ認証を無効にするには、次の手順に従います。

- 1 ユーザのデバイスでレジストリ内の次のキーを探します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Novell\ZCMZenLgn

- 2 (オプション) ログインを無効化する場合は、次の DWORD 値を追加します。

[値の名前] : DisablePassiveModeLogin

[値のデータ] : ゼロでない値 (たとえば、1、2、3、100)

ログインを無効にすると、ユーザが Microsoft クライアントまたは Novell クライアント経由でログインする際に、管理ゾーンへの認証は行われません。

- 3 (オプション) Microsoft クライアントまたは Novell クライアント経由のログインが失敗した場合に、ZENworks ログインプロンプトが表示されないようにするには、次の DWORD 値を追加します。

[値の名前] : DisablePassiveModeLoginPrompt

[値のデータ] : ゼロでない値 (たとえば、1、2、3、100)

通常、Adaptive Agent は、Microsoft クライアントまたは Novell クライアントで入力された資格情報を使用してユーザをゾーンへ認証しようと試みます。ログインに失敗すると、ZENworks ログインプロンプトが表示され、ユーザは別の資格情報を使用して認証を行う機械が与えられます。この値の設定により、ZENworks のログインプロンプトが無効になります。

32.5 ユーザ認証のトラブルシューティング

このセクションでは、いくつかのユーザ認証関係の問題について説明します。認証時に発生する可能性のある他の問題をトラブルシューティングしたい場合は、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp)にある TID 3273870 を参照してください。

- ◆ [303 ページの「ZENworks のログイン画面に、不正なユーザ名が表示される」](#)
- ◆ [303 ページの「ZENworks サーバにログインできない」](#)
- ◆ [303 ページの「同時に多数のクライアントがログインしている場合、ログインに失敗する可能性がある」](#)
- ◆ [304 ページの「Windows 2003、Windows XP、Windows Vista のデバイス上でデバッグログを有効にするには？」](#)
- ◆ [304 ページの「CASA デバッグログを有効にするには？」](#)
- ◆ [304 ページの「ZENworks サーバ上のユーザソースへのログインが遅い」](#)
- ◆ [305 ページの「Windows Vista デバイスからログインしているときに ZENworks サーバにログインできない」](#)
- ◆ [305 ページの「eDirectory ユーザに割り当てられた設定が、ユーザがログインしたデバイスに適用されない」](#)

- ◆ 306 ページの「Novell Client がデバイスからアンインストールされている場合、ZENworks ログイン画面がデバイスに表示される」
- ◆ 306 ページの「スマートカードを使用してデバイスに認証すると eDirectory パスワードの指定が要求される」

ZENworks のログイン画面に、不正なユーザ名が表示される

説明： デフォルトでは、[ZENworks ログイン] 画面の [ユーザ名] オプションにより、Windows のローカルユーザ名が表示されます。

考えられる原因： ユーザのフルネームのみを変更した場合 ([マイコンピュータ] > [管理] > [システムツール] > [ローカルユーザとグループ] > [氏名])、[ZENworks ログイン] 画面には、新しいフルネームではなく古いユーザ名が表示されます。

アクション： ローカルユーザのアカウントの詳細を変更するには、ユーザ名およびユーザのフルネームの両方を変更する必要があります。

- 1 デスクトップで、[スタート] メニュー > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
- 2 [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、「control userpasswords2」と入力し、[OK] をクリックします。
- 3 ユーザ名をダブルクリックし、ユーザの [ユーザ名] と [フルネーム] の両方を編集します。
- 4 [OK] をクリックします。

ZENworks サーバにログインできない

考えられる原因： OES 2.0 サーバにインストールされた eDirectory のアカウントを持つユーザが、OES 2.0 以外の ZENworks サーバにログインしようとしています。

アクション： OES 2.0 以外の ZENworks サーバにログインするには、ユーザが LUM (Linux User Management) ユーザである必要があります。LUM ユーザの詳細については、*Novell Linux User Management Technology Guide* (http://www.novell.com/documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/index.html?page=/documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/data/fbdecbed.html) を参照してください。

同時に多数のクライアントがログインしている場合、ログインに失敗する可能性がある

説明： サーバがサポートできる同時クライアント接続数の最大値は、設定されている Connector acceptCount に依存します。同時に行われるクライアント要求の数が、Connector acceptCount の値を超えると、サーバが接続を許可できないため、クライアントの接続要求が失敗する可能性があります。

アクション： サーバがサポートできるクライアントの接続要求数を増やします。

Windows サーバの場合：

- 1 管理者としてログインします。
- 2 ZENworks_Install_path\share\ats\catalinabase\conf\server.xml ファイルを開きます。

- 3 [ポート 2645 上の SSL Coyote HTTP//1.1 コネクタの定義] セクションで、Connector acceptCount の値を目的の値に変更します。値は 300 が最適です。
- 4 認証トークンサービスを再起動します。
 - 4a デスクトップで、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
 - 4b [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、「service.msc」と入力し、[OK] をクリックします。
 - 4c CasaAuthTokenSvc を再起動します。

Linux サーバの場合

- 1 root としてログインします。
- 2 /srv/www/casaats/conf/server.xml ファイルを開きます。
- 3 [ポート 2645 上の SSL Coyote HTTP//1.1 コネクタの定義] セクションで、Connector acceptCount の値を目的の値に変更します。値は 300 が最適です。
- 4 認証トークンサービスを再起動します。
 - 4a サーバのプロンプトで、/etc/init.d/ に移動します。
 - 4b casa_atstd restart コマンドを実行します。

Windows 2003、Windows XP、Windows Vista のデバイス上でデバッグログを有効にするには？

アクション： ログを有効にするには、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3418069 を参照してください。

CASA デバッグログを有効にするには？

アクション： ログを有効にするには、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3418069 を参照してください。

ZENworks サーバ上のユーザソースへのログインが遅い

説明： 管理対象デバイスから ZENworks サーバのユーザソースへのログインに時間がかかることがあります。これはログインプロセスがデバイス更新を同期するからです。

アクション： ログインプロセスを高速化するには、次の手順を実行してログインプロセスを変更し、デバイスの更新を非同期に行うようにします。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\ZCM に移動します。
- 3 ZENLoginUserRefreshAsync という名前の文字列を作成し、値に「TRUE」を設定します。
- 4 再度デバイスにログインします。

重要: デバイスを非同期に更新するようにログインプロセスを変更した場合、最新のポリシーがすぐに利用できない場合があります。この設定では、ポリシーの精度よりもログインパフォーマンスが優先されます。

説明: 管理ゾーンに認証の役割が設定されたプライマリサーバとサテライトの両方がある場合、認証リクエストを処理するサテライトがダウンし、ポート 2645 がデバイスで開いていない場合に ZENworks サーバのユーザソースへのログインが遅くなることがあります。

アクション: 認証の役割が設定されたサテライトで、ポート 2645 を開きます。

Windows Vista デバイスからログインしているときに ZENworks サーバにログインできない

説明: Novell SecureLogin がインストールされ、Active Directory がユーザソースとして設定されている Windows Vista* デバイスにログインする場合は、ZENworks サーバに自動的にログインされません。

アクション: 次を実行します。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM\Software\Protocom\SecureLogin\ に移動します。
- 3 ForceHKLMandNoDPAPI と呼ばれる DWORD を作成し、値を 1 に設定します。
- 4 デバイスを再起動します。

eDirectory ユーザに割り当てられた設定が、ユーザがログインしたデバイスに適用されない

考えられる原因: 同じユーザ名とパスワードを持つ複数の eDirectory ユーザが、eDirectory ツリーの別のコンテキストで存在する可能性があります。

説明: eDirectory ユーザがユーザ名とパスワードを指定してデバイスにログインすると、同じユーザ名とパスワードを持ち、eDirectory ツリーの別のコンテキストに存在するユーザがデバイスにログインし、このユーザの設定がデバイスに適用されます。これはログイン GINA がコンテキストを無視するためです。

例として、user1 と user2 が同じユーザ名とパスワードを持つとします。

User1: CN = bob, OU = org1, O = Company1 (bob.org1.company1)

User2: CN = bob, OU = org2, O = Company1 (bob.org2.company1)

user2 がユーザ名とパスワードを指定してデバイスにログインすると、user1 が Novell CASA の検索で先に見つかるため、user2 ではなく user1 がデバイスにログインします。user1 に割り当てられた設定がデバイスに適用されます。

アクション: 2 人の eDirectory ユーザが同じユーザ名とパスワードを持つことはできません。ユーザ名が同一でも、パスワードは別のものにしてください。

Novell Client がデバイスからアンインストールされている場合、ZENworks ログイン画面がデバイスに表示される

説明： Novell Client 2 for Windows Vista/2008 (IR1a) をデバイスからアンインストールした場合、デバイスにログインするときに ZENworks ログイン画面がデバイスに表示されません。

アクション： ZENworks Configuration Management にログインするには、デバイスの ZENworks アイコンを右クリックして [ログイン] をクリックします。

スマートカードを使用してデバイスに認証すると eDirectory パスワードの指定が要求される

説明： スマートカードを使用して初めてデバイスに認証すると、スマートカード PIN を指定した後に eDirectory パスワードの指定を要求されます。

アクション： ユーザソースを追加した後、ZENworks サービスを再起動する必要があります。

ZENworks 10 製品のライセンス

VIII

このセクションには、ZENworks 製品の評価、アクティブ化、および非アクティブ化に関する情報が含まれています。

- ◆ [309 ページの第 33 章「ZENworks 10 製品のライセンス」](#)

ZENworks® 10 ファミリ製品には、次の機能が含まれています。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management
- ◆ ZENworks 10 Asset Management
- ◆ ZENworks 10 Patch Management
- ◆ Asset Inventory for UNIX/Linux

デフォルトでは、すべての製品がインストールされます。これにより、ライセンスキーを提供して製品をアクティブ化したり、またはライセンスをまだ購入していない製品を評価できます。ライセンス登録した製品または評価製品を、使用しなくなったら、非アクティブ化することもできます。

次のセクションでは、製品ライセンスの管理について説明します。

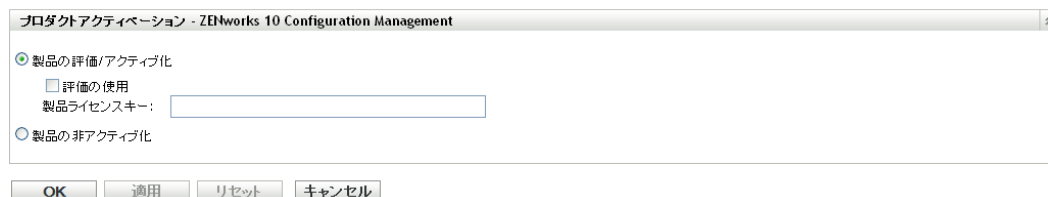
- ◆ 309 ページのセクション 33.1 「製品の評価」
- ◆ 310 ページのセクション 33.2 「製品の有効期限の延長」
- ◆ 310 ページのセクション 33.3 「製品のアクティブ化」
- ◆ 311 ページのセクション 33.4 「製品の非アクティブ化」
- ◆ 311 ページのセクション 33.5 「変更可能なライセンス状態」
- ◆ 312 ページのセクション 33.6 「ZENworks 10 Asset Management と ZENworks 7 Desktop Management の併用」
- ◆ 312 ページのセクション 33.7 「事前定義されたレポートの表示」

ライセンス情報を表示するために実行可能な他の操作については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ライセンスコマンド」を参照してください。

パッチ管理サブスクリプションライセンスに関する詳細は、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「パッチ管理ライセンスの更新」を参照してください。

33.1 製品の評価

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、評価する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。

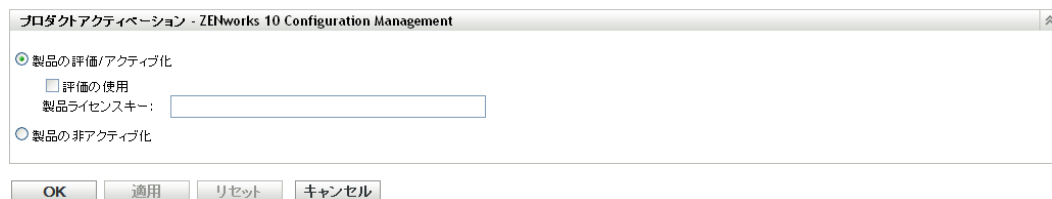


- 5 [使用評価] オプションを選択し、次に、[適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、311 ページのセクション 33.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

33.2 製品の有効期限の延長

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、評価する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。

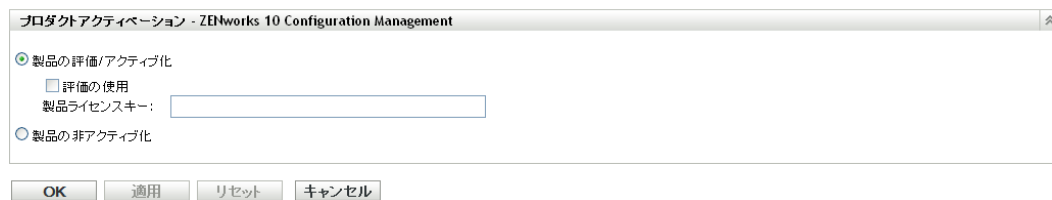


- 5 [製品ライセンスキー] に延長した評価ライセンスキーを指定後、[適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、311 ページのセクション 33.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

33.3 製品のアクティブ化

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、アクティブ化する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。

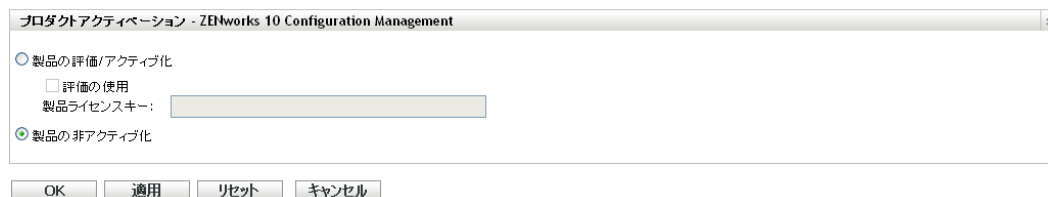


- 5 [製品ライセンスキー] にライセンスキーを指定し、[Apply(適用)] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、311 ページのセクション 33.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

33.4 製品の非アクティブ化

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、非アクティブ化する製品をクリックします。



- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の非アクティブ化] オプションを選択します。
- 5 [適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

可能なライセンス状態の変更については、[311 ページのセクション 33.5 「変更可能なライセンス状態」](#)を参照してください。

33.5 変更可能なライセンス状態

新しいライセンス状態への移行は、製品の現在のライセンス状態と、その前のライセンス状態によって異なります。状況に応じて製品の評価、アクティブ化、または非アクティブ化を選択できます。

次に例を示します。

- ◆ 現在非アクティブ化されている製品は、評価、評価延長、またはアクティブの状態に移行できます。
- ◆ 評価から非アクティブ化の状態に移行した製品は、アクティブ、評価、または評価延長の状態に移行できます。

注：ZENworks サーバでライセンスの状態を変更すると、ライセンス状態の変更が管理対象デバイスに反映されるまで最大 30 分かかります。ライセンス状態の変更を管理対象デバイスに即座に反映させるには、ZENworks サーバの zenserver サービスを再起動します。

表 33-1 ZENworks 製品のライセンス状態の変更

以前のライセンス状態	現在のライセンス状態	新しいライセンス状態	追加情報
	非アクティブ化	評価	製品の評価期間は 60 日です。
	非アクティブ化	評価延長	製品の評価期間は 120 日です。
	非アクティブ化	アクティブ	
	評価	評価延長	残りの評価期間に 60 日が追加されます。
	評価	アクティブ	

以前のライセンス状態	現在のライセンス状態	新しいライセンス状態	追加情報
	評価	非アクティブ化	
	アクティブ	非アクティブ化	
評価	非アクティブ化	アクティブ	
評価	非アクティブ化	評価	残りの評価期間が与えられます。 たとえば、製品を 10 日間の評価期間で使用した後に非アクティブ化し、次に、製品を再度評価することを選択した場合は、50 日間の評価期間を取得します。
評価	非アクティブ化	評価延長	残りの評価期間に 60 日が追加されます。
評価延長	非アクティブ化	評価延長	残りの評価期間が与えられます。
評価延長	非アクティブ化	アクティブ	
アクティブ	非アクティブ化	アクティブ	

33.6 ZENworks 10 Asset Management と ZENworks 7 Desktop Management の併用

お使いの環境にインストールされた ZENworks 7 Desktop Management とともに ZENworks 10 Asset Management を使用できます。

ZENworks 10 Configuration Management または ZENworks Patch Management エージェント機能を有効にすると (ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブ > [デバイス管理] > [ZENworks エージェント])、ZENworks 7 Desktop Management Agent がアンインストールされることが通知されます。

ZENworks 10 Configuration Management エージェント機能には、次のものがあります。

- ◆ バンドル管理
- ◆ ポリシー管理
- ◆ イメージ管理
- ◆ パッチ管理
- ◆ リモート管理
- ◆ ユーザ管理

これらの機能は、ZENworks 7 Desktop Management を環境内で使用し続ける場合には有効にしないでください。

33.7 事前定義されたレポートの表示

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks Reporting Server をインストールしておく必要があります。ZENworks Reporting Server のインストール方法については、『ZENworks 10 Configuration Management Reporting Server インストールガイド』を参照してください。

ライセンス登録の事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks Reporting Server の [レポート] パネルで、[ZENworks Reporting Server InfoView] をクリックして ZENworks Reporting Server InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] > [Predefined Reports] > [ZENworks System] の順にナビゲートします。
- 4 ライセンスに関する次の事前定義レポートが含まれています。

ZENworks License Information: 管理ゾーン内のすべてのデバイスにインストールされている Asset Inventory for UNIX/Linux、ZENworks Configuration Management、および ZENworks Asset Management のライセンスの詳細を表示します。製品のライセンスステータス、ライセンスの有効期限、ライセンスを保持しているサーバに接続している管理対象デバイスとインベントリデバイスの数、管理対象ユーザの数などの情報を表示できます。

レポートの作成と管理の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システムレポートングリファレンス』マニュアルを参照してください。

データベース管理

IX

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management では、zman コマンドラインユーティリティを使用して、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップおよび復元することができます。Oracle* または Microsoft SQL Server* データベースをバックアップまたは復元するには、それぞれのデータベースのマニュアルを参照してください。

重要：ZENworks データベースをホストしている ZENworks サーバをバックアップする場合は、ZENworks サーバのバックアップ (1 回のみ必要) 前に ZENworks データベースを少なくとも 1 回はバックアップしておく必要があります。ZENworks データベースは定期的にバックアップすることもできます。ただし、サーバとデータベースは任意の順番でバックアップすることができます。

ZENworks サーバおよび ZENworks データベースを復元する場合は、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、最後にバックアップした ZENworks データベースを復元する必要があります。ZENworks サーバのバックアップおよび復元の詳細については、[135 ページの第 10 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」](#)を参照してください。

ZENworks 10 Configuration Management を使用すると、Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースにデータをマイグレートすることもできます。

詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [317 ページの第 34 章「組み込みデータベースの保守」](#)
- ◆ [337 ページの第 35 章「外部データベースの保守」](#)
- ◆ [355 ページの第 36 章「データベースのベストプラクティスおよびヒント」](#)

組み込みデータベースの保守

- 317 ページのセクション 34.1「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存」
- 317 ページのセクション 34.2「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更」
- 319 ページのセクション 34.3「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」
- 325 ページのセクション 34.4「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア」
- 326 ページのセクション 34.5「組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動」
- 328 ページのセクション 34.6「組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート」

34.1 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存

ZENworks にバンドルされた組み込み Sybase SQL Anywhere データベースを含む ZENworks® 10 Configuration Management をインストールした場合は、今後の使用のためにデータベースの資格情報を保存しておくことをお勧めします。

- 1 サーバプロンプトに次のいずれかのコマンドを入力して、組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報を取得できます。

```
zman database-get-credentials
```

または

```
zman dgc
```

資格情報がコンソール上に表示されます。

zman の詳細については、サーバの zman マニュアルページ (man zman) を表示するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

- 2 資格情報をコピーし、ファイルに保存しておきます。

リモート Sybase SQL Anywhere データベース、Oracle データベース、または Microsoft SQL Server データベースの資格情報の取得と保存については、各データベースのマニュアルを参照してください。

34.2 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更

デフォルトでは、Sybase SQL Anywhere はポート 2638 を使用します。データベースが実行されるポートを変更できます。

- 1 zenworks_database.conf ファイルで、サーバがリスンする新規ポート番号を指定します。

zenworks_database.conf ファイルは、Windows の場合は %ZENWORKS_HOME%\conf、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks にあります。

- 2 すべてのプライマリサーバ上にある zdm.xml ファイルの次のエントリで、新規ポート番号を指定します。

```
<entry key="Port">2638</entry>
```

デフォルトでは、デフォルトのポート番号である 2638 がエントリに一覧表示されません。

zdm.xml ファイルは、Windows の場合は %ZENWORKS_HOME%\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります。

- 3 (条件付き) ZENworks Reporting Server がプライマリサーバにインストールされている場合、新規ポート番号を ODBC データ情報に追加します。

- ◆ **Windows サーバの場合** : 以下を実行します。

1. デスクトップの [スタート] メニューの [設定] をクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。次に、[ODBC データソース] をダブルクリックします。

[ODBC データソース管理者] ウィンドウが表示されます。

2. [システム DSM] タブをクリックします。
3. [ZENworks Datastore] をダブルクリックします。
[ODBC 環境設定] ウィンドウが表示されます。
4. [ネットワーク] タブをクリックします。
5. [ネットワークプロトコルおよびオプションの選択] パネルで、TCP/IP ポート番号の値 (デフォルトでは 2638) を、zenworks_database.conf で指定したポート番号 (ステップ 1 で指定した新しい番号) に変更します。

- ◆ **Linux サーバの場合** /opt/novell/zenworks/share/boe/bobje/odbc.ini ファイルで、TCP/IP の値を zenworks_database.conf で指定したポート番号 (ステップ 1 で指定した新しい番号) に変更します。

- 4 すべてのプライマリサーバで、データベースサービス、zenserver、および ZENLoader サービスを再起動します。

- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks Embedded Datastore]、[Novell ZENworks Loader Service]、および [Novell ZENworks Server] のサービスを再起動します。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、指定された順序で次のコマンドを入力します。

- ◆ /etc/init.d/novell-zenmnttr stop
- ◆ /etc/init.d/novell-zenserver stop
- ◆ /etc/init.d/novell-zenloader stop
- ◆ /etc/init.d/sybase-asa restart
- ◆ /etc/init.d/novell-zenserver start

- ◆ /etc/init.d/novell-zenloader start
- ◆ /etc/init.d/novell-zenmnr start

TCP ポートおよび UDP ポートが 2638 から変更されたとしても、データベースサーバは UDP ポート 2638 もリスンします。詳細については、[Sybase データベースのマニュアル \(http://www.ianywhere.com/developer/product_manuals/sqlanywhere/1001/en/html/dbdaen10/da-serverport-network-conparm.html\)](http://www.ianywhere.com/developer/product_manuals/sqlanywhere/1001/en/html/dbdaen10/da-serverport-network-conparm.html) を参照してください。

34.3 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースは、ローカルマシンのディレクトリやネットワークロケーションにバックアップできます。

- ◆ 319 ページのセクション 34.3.1「Windows サーバまたは Linux サーバにおける組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」
- ◆ 321 ページのセクション 34.3.2「Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Windows マシン上のネットワークロケーションにバックアップする」
- ◆ 323 ページのセクション 34.3.3「Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする」

34.3.1 Windows サーバまたは Linux サーバにおける組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ

- 1 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力し、ZENworks 管理者名およびパスワードを保存します。

```
zman admin-store-credential administrator
```

アカウント情報を保存しない場合、各 zman コマンドの ZENworks の管理者名およびパスワードを入力する必要があります。

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースを即時バックアップするか、バックアップが特定の時刻に実行されるようにスケジュールできます。組み込み Sybase SQL Anywhere データベースを即時バックアップするには、[ステップ 2](#) を続行します。バックアップが特定の時刻に実行されるようにスケジュールするには、[ステップ 3](#) にスキップします。

- 2 (条件付き) 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをデータベースサーバ上のディレクトリにすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup complete_path_of_the_backup_directory_on_database_server
```

たとえば、データベースを Windows データベースサーバ上の c:\dbbackup というディレクトリにバックアップするには、zman database-backup c:\dbbackup を実行します。データベースを Linux データベースサーバ上の /root/dbBackup というディレクトリにバックアップするには、zman database-backup /root/dbBackup を実行します。

- 3 (条件付き) 毎日または月の特定日の特定の時刻にバックアップを実行するようにスケジュールするには、スケジュールファイルを作成して実行する必要があります。

- 3a 「CREATE EVENT」 `backupschedule.sql` で、次のコンテンツでスケジュールファイルを作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
SCHEDULE
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM'
ON (1,2,3,4)
```

サンプルスケジュールファイルは、Windows サーバでは

`ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database` ディレクトリに、Linux サーバでは `/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/database` ディレクトリに含まれています。

- 3b コマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup complete_path_of_the_backup_directory complete_path_of_backUpSchedule.sql
-d SQL_function_call
```

たとえば、データベースを Windows サーバの `c:\dbbackup\day_of_the_week` ディレクトリに、`c:\backupschedule.sql` ファイルのスケジュールに従ってバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup c:\dbbackup c:\backUpSchedule.sql -d "DAYNAME(now())"
```

このコマンドの詳細については、デバイスの `zman` マニュアルページ (`man zan`) を見るか、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「`zman(1)`」を参照してください。

- 4 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力し、[ステップ 1](#) に保存された資格情報をクリアします。

```
zman admin-clear-credential
```

バックアップスケジュールに従って、`zenworks_zone_name.db` データベースファイルと `zenworks_zone_name.log` トランザクションログファイルがデータベースのバックアップディレクトリに作成されます。

データベースのバックアップ場所またはバックアップスケジュールを後から変更したい場合は、次のセクションを参照してください。

- ◆ 358 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所の変更」
- ◆ 359 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールの変更」

34.3.2 Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Windows マシン上のネットワークロケーションにバックアップする

Windows サーバ上にインストールされて実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、別の Windows マシンのネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンとリモートマシンが必要です。ローカルマシンは、ZENworks サーバコンポーネントおよび組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされた Windows サーバです。リモートマシンとは、データベースのバックアップ先となるネットワークロケーションがある Windows マシンのことです。

- 1 ローカルマシン上で次の手順を実行します。
 - 1a 管理ユーザを作成し、パスワードを指定します。

たとえば、管理ユーザ名を Administrator、パスワードを novell に指定します。
 - 1b デスクトップの [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順にクリックし、[管理ツール] をダブルクリックし、[サービス] をダブルクリックします。
 - 1c [Novell ZENworks Datastore] サービスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - 1d [ログイン] タブをクリックします。
 - 1e [このアカウント] を選択し、[ステップ 1a](#) で作成した管理ユーザの名前およびパスワードを指定します。

たとえば、ユーザを Administrator、パスワードを novell と指定します。
 - 1f [OK] をクリックします。
- 2 バックアップを保存するネットワークロケーションがあるリモートマシンで、次のステップを実行します。
 - 2a [ステップ 1a](#) で作成したユーザと同一の資格情報を持つアカウントを作成します。

たとえば、ユーザを Administrator、パスワードを novell と指定します。
 - 2b ネットワークロケーションに対する読み取り / 書き込み権限をユーザに与えます。

データベースを即時バックアップするには、[ステップ 3](#) を続行します。バックアップが毎日特定の時刻または月の特定の日に実行されるようにスケジュールするには、[ステップ 4](#) にスキップします。
- 3 (条件付き) リモートマシン上のネットワークロケーションに、データベースをすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup \\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\custom_directory
```

ここで、`\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory` は、リモートマシン上のネットワークロケーションであり、`custom_directory_name` は、`zman` で新規作成し、データベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。

4 (条件付き) バックアップをスケジュールするには、次の操作を行います。

4a 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル `backupschedule.sql` を作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
SCHEDULE
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM'
ON (1,2,3,4)
```

サンプルスケジュールファイルは、`ZENworks_Installation_directory\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database` ディレクトリに含まれています。

4b コマンドプロンプトに次のコマンドを実行します。

```
zman database-backup \\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\custom_directory
c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

ここで、`\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory` は、リモートマシン上のネットワークロケーションであり、`custom_directory_name` は、`zman` で新規作成し、データベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。

このコマンドの詳細については、デバイスの `zman` マニュアルページ (`man zan`) を見るか、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「`zman(1)`」を参照してください。

バックアップスケジュールに従って、`zenworks_zone_name.db` および `zenworks_zone_name.log` がリモートマシン上のネットワークロケーションに作成されます。バックアップされたデータベースは、`zenworks_zone_name.db` に保存されます。データベースのバックアップの結果は、`zenworks_zone_name.log` にログインされます。

データベースのバックアップ場所またはバックアップスケジュールを後から変更したい場合は、次のセクションを参照してください。

- ◆ [358 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所の変更」](#)
- ◆ [359 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールの変更」](#)

34.3.3 Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする

Linux サーバ上にインストールされて実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンおよびリモートマシンが必要です。ローカルマシンは、ZENworks サーバコンポーネントおよび組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされた Linux サーバです。リモートマシンとは、データベースのバックアップ先となるネットワークロケーションがある Linux マシンのことです。

Samba 共有または NFS 共有など、任意の Linux 共有を使用して Linux マシン上にデータベースをバックアップできます。

Linux サーバ上にインストールされて実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Samba 共有を使用して Linux マシンのネットワークロケーションにバックアップするには、次の手順に従います。

- 1 リモートマシンに Samba 共有を作成する
 - 1a コマンドプロンプトで `useradd user_name` コマンドを入力して、ユーザを作成します。
 - 1b [ステップ 1a](#) で作成したユーザ名でリモートマシンにログインし、`passwd specify_the_password` コマンド。
 - 1c データベースのバックアップを保存するディレクトリを作成します。
たとえば、`backup` という名前でディレクトリを作成します。
 - 1d `yast2 samba-server` コマンドを実行して、Samba サーバの設定を開きます。
 - 1e [共有] タブをクリックし、[追加] をクリックして共有名および[ステップ 1c](#) で作成したバックアップディレクトリへのパスを指定します。
たとえば、共有名を `dbbackup` に指定します。
 - 1f [dbbackup] 共有を選択し、[編集] をクリックし、次の属性を追加します。
 - ◆ `create mask = 0640`
 - ◆ `force user = user_name_created_in_ ステップ 1a`
 - ◆ `guest ok = yes`
 - ◆ `public = yes`
 - ◆ `wide links = no`
 - ◆ `writable = yes`
- 2 ローカルマシン上にディレクトリを作成します。
たとえば、`zenworks_dbbackup` という名前で `/root` の中にディレクトリを作成します。
- 3 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力し、ローカルマシン上の `zenworks_dbbackup` というディレクトリに Samba 共有をマウントします。

```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/share_name -o  
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step_1b  
local_directory_name_with_complete_path_created_in_Step2
```

例：

```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/dbbackup -o
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step_1b /root/
zenworks_dbbackup
```

データベースを即時バックアップするには、[ステップ 4](#) を続行します。バックアップが毎日特定の時刻または月の特定の日に実行されるようにスケジュールするには、[ステップ 5](#) にスキップします。

- 4** (条件付き) リモートマシン上のネットワークロケーションに、データベースをすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup database_backup_directory
```

例:

```
zman database-backup /root/zenworks_dbbackup
```

- 5** (条件付き) バックアップをスケジュールするには、次の操作を行います。

- 5a** 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル `backupschedule.sql` を作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
SCHEDULE
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM'
ON (1,2,3,4)
```

サンプルスケジュールファイルは、`ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database` ディレクトリに含まれています。

- 5b** コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup database_backup_directory c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

例を次に示します。

```
zman database-backup /root/zenworks_dbbackup c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

このコマンドの詳細については、デバイスの `zman` マニュアルページ (`man zman`) を見るか、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zman\(1\)](#)」を参照してください。

バックアップスケジュールに従って、`zenworks_zone_name.db` および `zenworks_zone_name.log` がリモートマシン上のネットワークロケーションに作成されます (`/root/zenworks_dbbackup`)。バックアップされたデータベースは、`zenworks_zone_name.db` に保存されます。データベースのバックアップの結果は、`zenworks_zone_name.log` にログインされます。

データベースのバックアップ場所またはバックアップスケジュールを後から変更したい場合は、次のセクションを参照してください。

- 358 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所の変更」
- 359 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールの変更」

34.4 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア

次のセクションでは、バックアップされた組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストアに関する情報について説明します。

- 325 ページのセクション 34.4.1 「Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」
- 326 ページのセクション 34.4.2 「Linux サーバにおける組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア」

重要: データベースが ZENworks サーバ上にある場合は、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、ZENworks データベースを復元する必要があります。ZENworks サーバとデータベース (少なくとも 1 回) をバックアップしたことを確認します。ZENworks データベースは定期的にバックアップすることもできます。ただし、サーバとデータベースは任意の順番でバックアップすることができます。ZENworks サーバのバックアップおよび復元の詳細については、135 ページの第 10 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」を参照してください。

34.4.1 Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元

- 1 Windows サーバのプロンプトで、`ZENworks_Installation_directory:\novell\zenworks\bin` に移動し、次のコマンドを入力します。

```
ZenworksWindowsDBRestore.bat ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\Database  
c:\dbBackup\zenworks_zone_name.db c:\dbBackup\zenworks_zone_name.log
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

```
Before proceeding, make sure you have backed up any files in:<Installation  
directory>:\Novell\ZENworks\database Press any key to continue.
```

- 3 次のメッセージが表示されたら、Y と入力します。

```
The following services are dependent on the Novell ZENworks Datastore  
service. Stopping the Novell ZENworks Datastore service will also stop  
these services: Novell ZENworks Loader, Novell ZENworks Agent Service,  
Novell ZENworks Server. Do you want to continue this operation? (Y/N) [N]:
```

- 4 次のメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

```
The Novell ZENworks Datastore service was stopped successfully. Press any  
key to continue...
```

- 5 次のメッセージが表示されたら、Yes と入力します。

```
Overwrite <installation
directory>:\Novell\ZENworks\database\zenworks_<zone_name>.db? (Yes/No/
All)
```

- 6 次のメッセージが表示されたら、Yes と入力します。

```
Overwrite <installation
directory>:\Novell\ZENworks\database\zenworks_<zone_name>.log? (Yes/No/
All):
```

backupFile および backupLogFile が *ZENworks_Installation_directory*:\Novell\ZENworks\database にコピーされ、データベースがリストアされます。

- 7 (条件付き) *zenworks_installation_directory*\novell\zenworks\database\conf\zenworks_database.conf ファイルに記載された以外の場所にデータベースを復元する場合、*zenworks_database.conf* を手動で編集してデータベースの新しい場所を指定します。

34.4.2 Linux サーバにおける組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのリストア

- 1 ZENworks サーバに root としてログインします。

- 2 /opt/novell/zenworks/bin に変更し、次のコマンドを入力します。
`/ZenworksLinuxDBRestore.sh -F "/root/dbBackup/zenworks_<zone_name>.db"`

- 3 次のメッセージが表示されたら、Y と入力します。

```
The backup database file will OVERWRITE the existing database. Is that OK?
[y/n]
```

- 4 次のメッセージが表示されたら、「Y」と入力します。

```
The novell-zenloader needs to be stopped for the database restore to be
performed. Would you like to proceed [y/n]?
```

バックアップファイルが /var/opt/novell/zenworks/database にコピーされ、復元ログファイルが /var/opt/novell/log/zenworks/dbrestore.log にコピーされます。データベースが復元されました。

34.5 組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動

ZENworks 10 Configuration Management では、Sybase SQL Anywhere データベース (組み込み Sybase データベース) から、OEM Sybase データベース (外部 Sybase データベース) へ、データを移動できます。

- ◆ [327 ページのセクション 34.5.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [327 ページのセクション 34.5.2 「内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動」](#)


34.5.1 データの移動の準備

内部 Sybase データベースから外部 Sybase データベースにデータを移動する前に、次の操作を行います。

- ◆ Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、内部 Sybase データベースとともに、ZENworks10 Configuration Management がインストールされていることを確認してください。
- ◆ 外部 Sybase データベースをインストールします。外部 Sybase データベースをインストールする方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。

34.5.2 内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動

1 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを中止します。

- ◆ **Windows の場合 :** 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択してツールバー上の  をクリックします。
- ◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。

2 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスから、zenworks_database.conf および database ディレクトリ内のすべてのファイルを、外部 Sybase データベースがあるデバイス上の適切なディレクトリにコピーします。


zenworks_database.conf は、Windows の場合は ZENworks_installation_path\conf\ ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。

database ディレクトリは、Windows の場合は ZENworks_installation_path ディレクトリ、Linux の場合は /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。

3 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、zenworks_database.conf を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。

4 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、zdm.xml を編集します。(Windows の場合は ZENworks_installation_path\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります)。

- ◆ Embedded エントリキーの値を false に変更します。デフォルトでは、これは true です。
- ◆ Server エントリキーの値を、外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスの IP アドレスに設定します。
- ◆ Port エントリキーの値が、外部 Sybase データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。

- 5 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを開始します。
- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [スタート] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択します。次に、ツールバーで  をクリックします。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa start」と入力します。
- 6 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを開始します。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmnr restart
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

34.6 組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート

ZENworks 10 Configuration Management では、ZENworks プライマリサーバ上で実行されている内部組み込み Sybase SQL Anywhere データベースまたは外部 Sybase SQL Anywhere データベースから、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていないデバイス上にインストールされている Oracle データベースにデータをマイグレートできます。

重要 : ZENworks Reporting Server がデバイスにインストールされている場合は、データベースのマイグレート後、Reporting Server は動作しません。Reporting Server が動作するには、データベースマイグレート後に Oracle クライアントをインストールしたプライマリサーバに、ZENworks Reporting Server を再度インストールする必要があります。詳細については、[333 ページのセクション 34.6.3 「移行後のタスク」](#) を参照してください。

データベースを移行するには、次を参照してください。

- ◆ [329 ページのセクション 34.6.1 「データの移動の準備」](#)

- ◆ 331 ページのセクション 34.6.2 「Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート」
- ◆ 333 ページのセクション 34.6.3 「移行後のタスク」
- ◆ 334 ページのセクション 34.6.4 「データベースのマイグレーションのトラブルシューティング」
- ◆ 336 ページのセクション 34.6.5 「Sybase データベースへ戻す」

34.6.1 データの移動の準備

Sybase データベースから Oracle データベースへデータをマイグレートする前に、次を実行してください。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management のライセンス状態がアクティブであることを確認します。この製品は、ライセンスバージョンか評価バージョンのいずれかでインストールおよび実行される必要があります。
- ◆ report-save (rpsv) (宛先フォルダ) コマンドを使用して、すべてのレポート、rights.xml、および ownership.xml を保存します。XML ファイルには、すべてのレポートの権限と所有権の詳細が含まれています。
- ◆ Sybase データベースが設定されているプライマリサーバが、ZENworks 10 Configuration Management にアップグレードされていることを確認します。
- ◆ ZENworks プライマリサーバに、内部または外部の Sybase データベースがインストールされていることを確認します。
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていないデバイスに、Oracle データベースがインストールされていることを確認してください。
- ◆ USERS 表領域に ZENworks データベーススキーマを作成して保存するのに十分な領域があることを確認します。表領域には、データの入っていない ZENworks データベーススキーマを作成するのに最低 100 MB と、マイグレートされるデータベースのサイズに応じて適切な追加の領域が必要です。データベースのマイグレーションユーティリティは、デフォルトで USERS 表領域のみを使用します。マイグレーション時にその他の表領域を手動で指定することはできません。
- ◆ データベースプロンプトで、次のクエリを実行することにより、NLS_CHARACTERSET パラメータが AL32UTF8 に設定され、NLS_NCHAR_CHARACTERSET パラメータが AL16UTF16 に設定されていることを確認します。


```
select parameter, value from nls_database_parameters where parameter like '%CHARACTERSET%';
```
- ◆ (条件付き) 新しいユーザスキーマを作成してデータベースをマイグレートする場合は、次の要件を満たしていることを確認してください。
 - ◆ データベース管理者の資格情報を知っている必要があります。
 - ◆ Oracle のアクセスユーザに関連付けるための表領域がすでに存在している必要があります。

- ◆ ネットワーク内のサーバ上にある既存のユーザスキーマを使用して、次のシナリオでデータベースのマイグレートを選択できます。
 - ◆ データベース管理者が必要な権限を持つユーザスキーマを作成し、ZENworks 管理者は、そのユーザスキーマ用の資格情報をデータベース管理者から受け取ります。この場合、データベースをマイグレートするのにデータベース管理者の資格情報は必要ありません。
 - ◆ Oracle データベース内でユーザスキーマを作成し、データベースのマイグレーション時にそれを使用します。

既存のユーザスキーマを使用してデータベースをマイグレートする場合は、次の追加の要件を満たしているか確認します。

- ◆ ユーザスキーマにデータベースを作成する次の権限があることを確認します。

```
CREATE SESSION
CREATE_TABLE
CREATE_VIEW
CREATE_PROCEDURE
CREATE_SEQUENCE
CREATE_TRIGGER
```

- ◆ USERS 表領域上で、ユーザスキーマのクォータが無制限に設定されていることを確認します。
- ◆ 管理ゾーン内のすべてのサーバで実行されている ZENworks サービスを、手動で中止します。

サービスを停止する

- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを中止します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenmtr stop
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenserver stop
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenloader stop
- ◆ プライマリサーバ上の Novell ZENworks Embedded Datastore サービスが実行されていることを確認してください。
 - ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスのステータスは、[開始済み] である必要があります。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/sybase-asa status」と入力します。

- ◆ (オプション) データベースマイグレーションの状態は、`novell-zenworks-configure.log` ファイルにログされます。デフォルトでは、**Info** (情報) および **Severe** (重度) のタイプのメッセージのみログされます。他のメッセージタイプ (たとえば、**Finer** (より良い)、**Finest** (最高)、および **Warning** (警告) など) もファイルにログしたい場合は、`novell-zenworks-configure.properties` ファイルで次のことを行います。

1. `Logger.logLevel` の値を適切なメッセージタイプに設定します。

たとえば、**Finest** (最高) のタイプをログする場合には、次のように設定します。

```
#Logger.logLevel = FINEST
```

2. 次のように「#」を外して、非コメント化します。

```
Logger.logLevel = FINEST
```

`novell-zenworks-configure.properties` ファイルは、Windows の場合は

`%ZENWORKS_HOME%\conf\`、Linux の場合は、`/etc/opt/novell/zenworks/` にあります。

34.6.2 Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート

- ◆ [331 ページの「Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート」](#)
- ◆ [332 ページの「データベースのマイグレーションの再開」](#)

Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート

- 1 [329 ページのセクション 34.6.1 「データの移動の準備」](#) に一覧表示されているすべてのタスクが完了していることを確認してください。
- 2 データベースのマイグレーションユーティリティを実行します。
 - ◆ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイルに移動し、次のコマンドを入力します。


```
novell-zenworks-configure.bat -c DBMigrateConfigureAction
```
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin` に移動し、次のコマンドを入力します。


```
novell-zenworks-configure -c DBMigrateConfigureAction
```
- 3 ターゲットデータベースのタイプとして、**Oracle** を入力します。
- 4 Oracle データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- 5 Oracle データベースサーバによって使用されるポートを入力します。
- 6 Oracle データベースの完全修飾ネットサービス名を入力します。
- 7 新しいユーザスキーマを作成するか、既存のユーザスキーマを使用するか選択できます。

新しいユーザスキーマを作成する場合は、[ステップ 8](#) を続行します。

既存のユーザスキーマを使用する場合は、[ステップ 9](#) へスキップします。
- 8 データベースサーバの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 9 データベースのユーザ名の入力が必要であれば、スキーマ名を入力します。

- 10 データベースユーザのパスワードの入力が求められたら、データベーススキーマのパスワードを入力します。
データベースのマイグレーションを開始します。
- 11 データベースのマイグレーションが終了したら、`novell-zenworks-configure.log` ファイルをチェックして、マイグレーションが正常に行われたかを確認できます。ログファイルは、Windows の場合は、`%ZENWORKS_HOME%\log\`、Linux の場合は、`/var/opt/novell/log/zenworks/` にあります。
- 12 データベースが正常にマイグレートされた後に、[333 ページのセクション 34.6.3 「移行後のタスク」](#)に進みます。

データベースのマイグレーションの再開

何らかの理由でデータベースのマイグレーションが停止した場合、`dbmigration.xml` ファイルが作成されていれば、ZENworks migration utility を使用してマイグレーションを再開できます。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installtion_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。

- 1 データベースのマイグレーションユーティリティを実行します。
 - ◆ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで `ZENworks_installtion_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイルに移動し、次のコマンドを入力します。
`novell-zenworks-configure.bat -c DBMigrateConfigureAction`
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin` に移動し、次のコマンドを入力します。
`novell-zenworks-configure -c DBMigrateConfigureAction`
- 2 ターゲットデータベースのタイプとして、**Oracle** を入力します。
- 3 **Oracle** データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
データベースをマイグレートする際には、使用する **Oracle** データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定する必要があります。たとえば、データベースをマイグレートする際にデータベースサーバの IP アドレスを指定した場合は、データベースのマイグレーションを再開する場合にそれと同じ IP アドレスを指定する必要があります。データベースサーバのホスト名は指定できません。
- 4 **Oracle** データベースサーバによって使用されるポートを入力します。
- 5 **Oracle** データベースの完全修飾ネットサービス名を入力します。
- 6 既存のスキーマの使用を選択します。
- 7 データベースの移行を停止する前に指定したデータベースのユーザ名の入力が求められたら、スキーマ名を入力します。
- 8 データベースの移行を停止する前に指定したデータベースユーザのパスワードの入力が求められたら、データベーススキーマのパスワードを入力します。
- 9 データベースの移行の再開を選択します。
データベースの移行を開始します。
- 10 データベースが正常に移行された後に、「[333 ページのセクション 34.6.3 「移行後のタスク」](#)」に進みます。

34.6.3 移行後のタスク

管理ゾーンに 1 つのサーバしかない場合、Oracle データベースにデータが正常にマイグレートされた後に、すべての ZENworks サービスが自動的に開始されます。

管理ゾーンに複数のサーバがある場合は、次の操作を行います。

- 1 **マイグレーションユーティリティ**を実行するデバイスで、すべてのサーバの適切なディレクトリに次のファイルをコピーします。

```
zdm.xml
dmaccounts.properties
dmmappings.properties
```

ファイルは、Windows の場合は、ZENworks_installation_path\conf\datamodel ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel ディレクトリにあります。

- 2 ZENworks サービスを再起動します。

- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを開始します。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

- ◆ /etc/init.d/.novell-zenmnr restart
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

- 3 Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへの ZENworks レポートのマイグレート :

3a ZENworks Reporting Server のインスタンスを持たないプライマリサーバに、Oracle クライアントをインストールします。

3b ZENworks Reporting Server の新しいインスタンスを、Oracle クライアントがインストールしてあるデバイスにインストールします。

3c Reporting Server の新しいインスタンスが実行されているデバイスに、レポートをコピーします。これらは、移行する前に保存した ZENworks レポートです。詳細については、[329 ページのセクション 34.6.1 「データの移動の準備」](#) を参照してください。

3d 次のコマンドを使用して、レポートを発行し、レポートの所有権の復元を復元します。

```
zman rpld path_of_directory_containing_rights.xml_and_ownership.xml
```

3e データベースの移行前にインストールされていた ZENworks Reporting Server のインスタンスをアンインストールします。

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

Oracle 10g データベースの場合、ユーザソースのログイン名も含め、管理者名の大文字と小文字が区別されます。インストール中に自動作成されたデフォルトの ZENworks 管理者アカウントでは最初の文字に大文字を使用しているため、ZENworks コントロールセンターにログインするときには Administrator と入力する必要があります。

34.6.4 データベースのマイグレーションのトラブルシューティング

- ◆ 334 ページの「Java ヒープ領域例外のトラブルシューティング」
- ◆ 335 ページの「Oracle データベースのクラッシュのトラブルシューティング」
- ◆ 335 ページの「Oracle テーブルスペース問題のトラブルシューティング」
- ◆ 335 ページの「データベースマイグレーション失敗問題のトラブルシューティング」
- ◆ 336 ページの「既存のユーザスキーマの使用によるデータベースマイグレーションのトラブルシューティング」

Java ヒープ領域例外のトラブルシューティング

メモリ不足により、データベースマイグレーション時に Java ヒープ領域の例外が発生した場合は、次の操作を行います。

- 1 Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を編集し、マイグレーションユーティリティが実行されているデバイスの RAM に応じて、次の行のヒープ領域の値を変更します。

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -Djava.library.path=%ZENLIB% -cp "%MYCP%"  
%DEBUG_OPTS% %JAVA_OPTS% -Xmx128m  
com.novell.zenworks.configure.ConfigureLoader %CONFIG_OPTS%
```

ヒープ領域の値は、-Xmx128m 以内のメガバイト (MB) で表されます。デフォルトでは、128 です。

たとえば、デバイスの RAM が 512 MB である場合、`novell-zenworks-configure.bat` ファイルの行を次のように更新できます。

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -Djava.library.path=%ZENLIB% -cp "%MYCP%"  
%DEBUG_OPTS% %JAVA_OPTS% -Xmx512m  
com.novell.zenworks.configure.ConfigureLoader %CONFIG_OPTS%
```

重要： ヒープ領域の値は、デバイスの RAM 以下である必要があります。

- 2 コンソールのプロンプトで、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を実行します。
- 3 表示される指示に従います。

マイグレーションの再開に必要なファイルの場所の入力を求められたら、`DBMigration.xml` の完全パスを入力します。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。

XML ファイルには、テーブルが正常にマイグレートされたかどうかを示すテーブルおよびフラグのリストが含まれています。データベースマイグレーションの再開時に、フラグの値が `False` に設定されているテーブルのみがマイグレートされます。

Oracle データベースのクラッシュのトラブルシューティング

データベースの移行中に Oracle データベースがクラッシュした場合：

- 1 コンソールのプロンプトで、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を実行します。
- 2 表示される指示に従います。

マイグレーションの再開に必要なファイルの場所の入力を求められたら、`DBMigration.xml` の完全パスを入力します。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。

XML ファイルには、テーブルが正常にマイグレートされたかどうかを示すテーブルおよびフラグのリストが含まれています。データベースマイグレーションの再開時に、フラグの値が `False` に設定されているテーブルのみがマイグレートされます。

重要： `DBMigration.xml` のコンテンツは編集しないでください。

Oracle テーブルスペース問題のトラブルシューティング

Oracle の `USERS` 表領域に `ZENworks` データベーススキーマを作成し保存するのに十分な領域がない場合は、表を作成しようとすると、次のメッセージが表示されてデータベースのマイグレーションが失敗します。

```
SEVERE: Terminating the database migration...
SEVERE: An error has occurred while migrating the database.
```

この問題を解決するには、Oracle データベースの管理者が `USERS` 表領域のサイズを増やす必要があります。データの入っていない `ZENworks` データベーススキーマを作成するのに最低 100 MB と、マイグレートされるデータベースのサイズに応じて適切な追加の領域が表領域に存在することを確認してください。

データベースマイグレーション失敗問題のトラブルシューティング

`NLS_CHARACTERSET` パラメータが `AL32UTF8` に設定されておらず、`NLS_NCHAR_CHARACTERSET` パラメータが `AL16UTF16` に設定されていない場合、データベースのマイグレーションが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to run the sql script: localization-updater.sql,
message:Failed to execute the SQL command: insert into
zLocalizedMessage(messageid,lang,messagestr)
values('POLICYHANDLERS.EPE.INVALID_VALUE_FORMAT','fr','La stratégie {0} n'a
pas pu être appliquée du fait que la valeur de la variable "{1}" n'est pas
dans un format valide. '),
message:ORA-00600: internal error code, arguments: [ktfbbsearch-7], [8], [],
[], [], [], [], []
```

この問題を解決するには、`NLS_CHARACTERSET` パラメータを `AL32UTF8` に設定し、`NLS_NCHAR_CHARACTERSET` パラメータを `AL16UTF16` に設定します。文字セットパラメータが推奨値で設定されたことを確認するには、データベースプロンプトで、次のクエリを実行します。

```
select parameter, value from nls_database_parameters where parameter like
'%CHARACTERSET%';
```

既存のユーザスキーマの使用によるデータベースマイグレーションのトラブルシューティング

既存のユーザスキーマを使用してデータベースをマイグレートする場合、データベースマイグレーションユーティリティは、ZENworks データベースを作成しますが、データのマイグレートに失敗する可能性があります。

この問題を解決するには、次の操作を行います。

- 1 新しく作成された ZENworks データベースから、データベース管理者が ZENworks のテーブル、ビュー、およびユーザシーケンスを削除するようにしてください。その後、`user_recyclebin` データベーステーブルをクリアします。
- 2 同じユーザスキーマを使用して、データベースのマイグレーションを再度開始します。詳細については、[331 ページの「Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート」](#)を参照してください。

34.6.5 Sybase データベースへ戻す

Sybase データベースの使用に戻す場合は、次の手順に従います。

- 1 マイグレーションユーティリティを実行するデバイスで、次のファイルの名前を変更します。

`zdm.xml.bak` to `zdm.xml`

`dmaccounts.properties.bak` to `dmaccounts.properties`

`dmmappings.properties.bak` to `dmmappings.properties`

ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel` ディレクトリ、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` ディレクトリにあります。

- 2 すべての ZENworks サービスを再起動します。
 - ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを開始します。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenmtr restart`
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenserver restart`
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenloader restart`

外部データベースの保守

- ◆ 337 ページのセクション 35.1 「外部 Sybase データベースのバックアップ」
- ◆ 346 ページのセクション 35.2 「外部 Sybase データベースの復元」
- ◆ 348 ページのセクション 35.3 「ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへのデータの移動」
- ◆ 350 ページのセクション 35.4 「外部 OEM Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動」
- ◆ 352 ページのセクション 35.5 「別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」
- ◆ 353 ページのセクション 35.6 「別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」

35.1 外部 Sybase データベースのバックアップ

外部 Sybase データベース (Remote OEM Sybase または Remote Sybase SQL Anywhere) が ZENworks 10 Configuration Management インストールメディアを使用してインストールされている場合、ローカルマシンまたはネットワークロケーションに直接バックアップできます。

- ◆ 337 ページのセクション 35.1.1 「Windows サーバまたは Linux サーバにおける外部 Sybase データベースのバックアップ」
- ◆ 340 ページのセクション 35.1.2 「Windows サーバ上で実行されている外部 Sybase データベースを、リモート Windows マシン上のネットワークロケーションにバックアップする」
- ◆ 343 ページのセクション 35.1.3 「Linux サーバ上で実行されている外部 Sybase データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする」

35.1.1 Windows サーバまたは Linux サーバにおける外部 Sybase データベースのバックアップ

外部 Sybase データベースがインストールされ、実行している Windows または Linux サーバで、次の手順を実行します。

- 1 DBISQL ユーティリティを起動します。
 - 1a コマンドプロンプトで、Windows では %ZENWORKS_HOME%\sybase\ASA\win32 ディレクトリ、Linux では /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32s ディレクトリに移動します。
 - 1b dbisql コマンドを入力します。
 - 1c [Identification(識別)] タブで、データベース資格情報を指定します。
 - 1d [データベース] タブで、現在実行されているデータベースサービスの名前を指定します。
 - 1e [OK] をクリックします。

- 2 外部 Sybase データベースをすぐにバックアップするか、または特定の時間にバックアップを実行するようにスケジュールするか、指定します。データベースを即時バックアップするには、**ステップ 2a** を続行します。バックアップが特定の時刻に実行されるようにスケジュールするには、**ステップ 3** にスキップします。

- 2a** 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースをデータベースサーバのディレクトリにすぐにバックアップするには、次のクエリを [SQL Statements (SQL ステートメント)] セクションに指定します。

```
BACKUP DATABASE DIRECTORY 'complete_path_of_the_backup_directory_on_database_server'  
TRANSACTION LOG TRUNCATE
```

データベースを Windows のディレクトリにバックアップしたい場合は、データベースバックアップディレクトリのパスを指定するときに \\(2 つのバックスラッシュ) をデリミタとして使用する必要があります。

例:

- ◆ **Windows の場合:** データベースを c:\dbbackup ディレクトリにバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
BACKUP DATABASE DIRECTORY 'c:\dbbackup' TRANSACTION LOG TRUNCATE
```

- ◆ **Linux の場合:** データベースを /root/dbBackup ディレクトリにバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
BACKUP DATABASE DIRECTORY '/root/dbBackup' TRANSACTION LOG TRUNCATE
```

クエリで指定したデータベースバックアップのロケーションの完全パスは、後からデータベースバックアップロケーションを変更するときに指定する必要があります。ため、これを手動でアーカイブする必要があります。

- 2b** [SQL ステートメントの実行] をクリックします。

- 3 バックアップが毎日特定の時刻または月の特定の日に実行されるようにスケジュールするには、次の手順に従います。

1. 次のクエリを [SQL ステートメント] に指定して実行します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name  
SCHEDULE  
START TIME specify_the_schedule  
HANDLER  
BEGIN  
BACKUP DATABASE DIRECTORY  
'complete_path_of_the_backup_directory_on_database_server'  
TRANSACTION LOG TRUNCATE  
END;
```

2. [SQL ステートメントの実行] をクリックします。

データベースバックアップイベントを作成する際は、次のガイドラインを使用します。

- ◆ バックアップスケジュール名は一意にしてください。

- ◆ データベースを Windows のディレクトリにバックアップしたい場合は、データベースバックアップディレクトリのパスを指定するときに \\(2つのバックスラッシュ) をデリミタとして使用する必要があります。たとえば、c:\dbbackup とします。
- ◆ クエリで指定したバックアップスケジュールを手動でアーカイブする必要があります。後からデータベーススケジュールを変更するときに、これを指定する必要があります。

例:

- ◆ 毎日午前1時にLinuxの/var/ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY '/var/'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

- ◆ その月の第1日、第2日、第3日、および第4日の午前1時に Windows の c:\dbbackup ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS ON (1,2,3,4)
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY 'c:\dbbackup'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

- ◆ Linux の /var/day_of_the_week ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS
HANDLER
BEGIN
DECLARE backupDir varchar(256);
DECLARE backup_stmt varchar(512);
SET backupDir = DAYNAME(now());
SET backup_stmt = 'BACKUP DATABASE DIRECTORY ' || '''/var/' ||
backupDir || ''' || ' TRANSACTION LOG TRUNCATE';
EXECUTE IMMEDIATE backup_stmt;
END;
```

バックアップスケジュールに従って、zenworks_zone_name.db データベースファイルと zenworks_zone_name.log トランザクションログファイルがデータベースのバックアップディレクトリに作成されます。

データベースのバックアップ場所またはバックアップスケジュールを後から変更したい場合は、[360 ページのセクション 36.2.2 「外部 Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールおよび場所の変更」](#)を参照してください。

35.1.2 Windows サーバ上で実行されている外部 Sybase データベースを、リモート Windows マシン上のネットワークロケーションにバックアップする

Windows サーバ上にインストールされて実行されている外部 Sybase データベースを、別の Windows マシンのネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンとリモートマシンが必要です。ローカルマシンは、外部 Sybase データベースをインストールした Windows サーバです。リモートマシンとは、データベースのバックアップ先となるネットワークロケーションがある Windows マシンのことです。

- 1 ローカルマシン上で次の手順を実行します。
 - 1a 管理ユーザを作成し、パスワードを指定します。

たとえば、管理ユーザ名を Administrator、パスワードを novell に指定します。
 - 1b デスクトップの [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順にクリックし、[管理ツール] をダブルクリックし、[サービス] をダブルクリックします。
 - 1c [Novell ZENworks Datastore] サービスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - 1d [ログイン] タブをクリックします。
 - 1e [このアカウント] を選択し、[ステップ 1a](#) で作成した管理ユーザの名前とパスワードを指定します。

たとえば、ユーザを Administrator、パスワードを novell と指定します。
 - 1f [OK] をクリックします。
- 2 バックアップを保存するネットワークロケーションがあるリモートマシンで、次のステップを実行します。
 - 2a [ステップ 1a](#) で作成したユーザと同一の資格情報を持つアカウントを作成します。

たとえば、ユーザを Administrator、パスワードを novell と指定します。
 - 2b ネットワークロケーションに対する読み取り / 書き込み権限をユーザに与えます。
- 3 ローカルマシンから DBISQL ユーティリティを起動します。
 - 3a コマンドプロンプトで、Windows では %ZENWORKS_HOME%\sybase\ASA\win32 ディレクトリ、Linux では /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32s ディレクトリに移動します。
 - 3b dbisql コマンドを入力します。
 - 3c [Identification(識別)] タブで、データベース資格情報を指定します。

- 3d** [データベース] タブで、現在実行されているデータベースサービスの名前を指定します。
- 3e** [OK] をクリックします。
- 4** 外部 Sybase データベースをすぐにバックアップするか、または特定の時間にバックアップを実行するようにスケジュールするか、指定します。データベースを即時バックアップするには、**ステップ 4a** を続行します。バックアップが特定の時刻に実行されるようにスケジュールするには、**ステップ 5** にスキップします。
- 4a** 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースをリモートマシン上のネットワークロケーションに即時バックアップするには、[SQL ステートメント] セクションに次のクエリを指定します。

```
BACKUP DATABASE DIRECTORY
'\\\\IP_address_of_remote_machine\backup_directory\custom_directory' TRANSACTION LOG
TRUNCATE
```

クエリで、\\\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\\ はリモートマシン上の共有ネットワークロケーションで、custom_directory_name は新しく作成してデータベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。

たとえば、次のクエリを実行するとデータベースが dbbackup ディレクトリにバックアップされます。

```
BACKUP DATABASE DIRECTORY '\\shared_network_location_on_remote_machine\dbbackup'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
```

クエリで指定したデータベースバックアップのロケーションの完全パスは、後からデータベースバックアップロケーションを変更したいときに指定する必要があります。そのため、これを手動でアーカイブする必要があります。

- 4b** [SQL ステートメントの実行] をクリックします。
- 5** バックアップが毎日特定の時刻または月の特定の日に実行されるようにスケジュールするには、次の手順に従います。

1. 次のクエリを [SQL ステートメント] に指定して実行します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
START TIME specify_the_schedule
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY
'\\\\IP_address_of_remote_machine\backup_directory\custom_directory'
,
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

クエリで、\\\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\\ はリモートマシン上の共有ネットワークロケーションで、custom_directory_name は新しく作成してデータベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。

データベースバックアップイベントを作成する際は、次のガイドラインを使用します。

- ◆ バックアップスケジュール名は一意にしてください。
- ◆ クエリで指定したバックアップスケジュールは、後からデータベーススケジュールを変更したいときに指定する必要があるため、これを手動でアーカイブする必要があります。

2. [SQL ステートメントの実行] をクリックします。

例:

- ◆ 毎日午前1時に Windows の dbbackup ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY
'\\\\\\shared_network_location_on_remote_machine\\dbbackup'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

- ◆ その月の第1日、第2日、第3日、および第4日の午前1時に Windows サーバの dbbackup ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS ON (1,2,3,4)
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY
'\\\\\\shared_network_location_on_remote_machine\\dbbackup'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

- ◆ Windows サーバの dbbackup\day_of_the_week ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```
CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS
HANDLER
BEGIN
DECLARE backupDir varchar(256);
DECLARE backup_stmt varchar(512);
SET backupDir = DAYNAME(now());
```

```

SET backup_stmt = 'BACKUP DATABASE DIRECTORY '||
'''\shared_network_location_on_remote_machine\\dbbackup/' ||
backupDir || ''''|| 'TRANSACTION LOG TRUNCATE';

EXECUTE IMMEDIATE backup_stmt;

END;

```

バックアップスケジュールに従って、zenworks_zone_name.db および zenworks_zone_name.log がリモートマシン上のネットワークロケーションに作成されます。バックアップされたデータベースは、zenworks_zone_name.db に保存されます。データベースのバックアップの結果は、zenworks_zone_name.log にログインされます。

データベースのバックアップ場所またはバックアップスケジュールを後から変更したい場合は、[360 ページのセクション 36.2.2 「外部 Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールおよび場所の変更」](#)を参照してください。

35.1.3 Linux サーバ上で実行されている外部 Sybase データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする

Linux サーバ上にインストールされて実行されている外部 Sybase データベースを、Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンおよびリモートマシンが必要です。ローカルマシンは外部 Sybase データベースをインストールした Linux サーバです。リモートマシンとは、データベースのバックアップ先となるネットワークロケーションがある Linux マシンのことです。

Samba 共有または NFS 共有など、任意の Linux 共有を使用して Linux マシン上にデータベースをバックアップできます。

Linux サーバ上にインストールされて実行されている外部 Sybase データベースを、Samba 共有を使用して Linux マシンのネットワークロケーションにバックアップするには、次の手順に従います。

- 1 リモートマシンに Samba 共有を作成する
 - 1a コマンドプロンプトで `useradd user_name` コマンドを入力して、ユーザを作成します。
 - 1b [ステップ 1a](#) で作成したユーザ名でリモートマシンにログインし、`passwd specify_the_password` コマンドを使用してパスワードを設定します。
 - 1c データベースのバックアップを保存するディレクトリを作成します。
たとえば、`backup` という名前でディレクトリを作成します。
 - 1d `yast2 samba-server` コマンドを実行して、Samba サーバの設定を開きます。
 - 1e **[共有]** タブをクリックし、**[追加]** をクリックして共有名および[ステップ 1c](#) で作成したバックアップディレクトリへのパスを指定します。
たとえば、共有名を `dbbackup` に指定します。
 - 1f **[dbbackup]** 共有を選択し、**[編集]** をクリックし、次の属性を追加します。
 - ◆ `create mask = 0640`
 - ◆ `force user = user_name_created_in_ ステップ 1a`
 - ◆ `guest ok = yes`

- ◆ public = yes
- ◆ wide links = no
- ◆ writeable = yes

2 ローカルマシン上にディレクトリを作成します。

たとえば、zenworks_dbbackup という名前で /root. の中にディレクトリを作成します。

3 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力し、ローカルマシン上の zenworks_dbbackup というディレクトリに Samba 共有をマウントします。

```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/share_name -o
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step_1b
local_directory_name_with_complete_path_created_in_Step2
```

例 :

```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/dbbackup -o
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step_1b /root/
zenworks_dbbackup
```

4 ローカルマシンから DBISQL ユーティリティを起動します。

4a コマンドプロンプトで、Windows では %ZENWORKS_HOME%\sybase\ASA\win32 ディレクトリ、Linux では /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32s ディレクトリに移動します。

4b dbisql コマンドを入力します。

4c [Identification(識別)] タブで、データベース資格情報を指定します。

4d [データベース] タブで、現在実行されているデータベースサービスの名前を指定します。

4e [OK] をクリックします。

5 外部 Sybase データベースをすぐにバックアップするか、または特定の時間にバックアップを実行するようにスケジュールするか、指定します。データベースを即時バックアップするには、この手順を続行します。バックアップが特定の時刻に実行されるようにスケジュールするには、[ステップ 5](#) にスキップします。

5a 外部 Sybase データベースをリモートマシン上のネットワークロケーションに即時バックアップするには、[SQL ステートメント] セクションに次のクエリを指定します。

```
BACKUP DATABASE DIRECTORY 'complete_path_of_the_backup_directory_on_database_server'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
```

たとえば、次のクエリを実行するとデータベースが /root/zenworks_dbbackup ディレクトリにバックアップされます。

```
BACKUP DATABASE DIRECTORY '/root/zenworks_dbbackup/' TRANSACTION LOG
TRUNCATE
```

クエリで指定したデータベースバックアップのロケーションの完全パスは、後からデータベースバックアップロケーションを変更したいときに指定する必要があります。そのため、これを手動でアーカイブする必要があります。

5b [SQL ステートメントの実行] をクリックします。

6 バックアップが毎日特定の時刻または月の特定の日に実行されるようにスケジュールするには、次の手順に従います。

1. 次のクエリを [SQL ステートメント] に指定して実行します。


```

CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
START TIME specify_the_schedule
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY
`complete_path_of_the_backup_directory_on_database_server`
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;

```

データベースバックアップイベントを作成する際は、次のガイドラインを使用します。

- ◆ 指定するバックアップスケジュールは一意にしてください。
- ◆ クエリで指定したバックアップスケジュールは、後からデータベーススケジュールを変更したいときに指定する必要があるため、これを手動でアーカイブする必要があります。

2. [SQL ステートメントの実行] をクリックします。

例：

- ◆ 毎日午前1時にLinuxの/root/zenworks_dbbackupディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```

CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY `/root/zenworks_dbbackup/`
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;

```

- ◆ その月の第1日、第2日、第3日、および第4日の午前1時にLinuxの/root/zenworks_dbbackupディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```

CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS ON (1,2,3,4)
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY `/root/zenworks_dbbackup/`
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;

```

- ◆ Linuxの/root/zenworks_dbbackupday_of_the_weekディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のクエリを実行します。

```

CREATE EVENT ZENDBbackup
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM' EVERY 24 HOURS

```

```

HANDLER
BEGIN
DECLARE backupDir varchar(256);
DECLARE backup_stmt varchar(512);
SET backupDir = DAYNAME(now());
SET backup_stmt = 'BACKUP DATABASE DIRECTORY ' || '''/root/
zenworks_dbbackup//' || backupDir || '''' || ' TRANSACTION LOG
TRUNCATE';
EXECUTE IMMEDIATE backup_stmt;
END;

```

バックアップスケジュールに従って、zenworks_zone_name.db および zenworks_zone_name.log がリモートマシン上のネットワークロケーションに作成されます (/root/zenworks_dbbackup)。バックアップされたデータベースは、zenworks_zone_name.db に保存されます。データベースのバックアップの結果は、zenworks_zone_name.log にログインされます。

データベースのバックアップ場所またはバックアップスケジュールを後から変更したい場合は、[360 ページのセクション 36.2.2 「外部 Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールおよび場所の変更」](#) を参照してください。

35.2 外部 Sybase データベースの復元

重要: データベースが ZENworks サーバ上にある場合は、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、ZENworks データベースを復元する必要があります。ZENworks サーバとデータベース (少なくとも 1 回) をバックアップしたことを確認します。ZENworks データベースは定期的にバックアップすることもできます。ただし、サーバとデータベースは任意の順番でバックアップすることができます。ZENworks サーバのバックアップおよび復元の詳細については、[135 ページの第 10 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」](#) を参照してください。

バックアップした外部 Sybase データベース (Remote OEM Sybase または Remote Sybase SQL Anywhere) の復元先として、データベースサーバのインストール先と同じデバイスか、または別のデバイスを選択できます。

バックアップした外部 Sybase データベースを復元するには、次の手順に従います。

- 1 バックアップしたデータベースを復元したいデータベースサーバ上の Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを停止します。バックアップしたデータベースを別のデバイスに復元したい場合は、データベースサーバのみでなくそのデバイス上のサービスも停止する必要があります。
 - ◆ **Windows の場合:** 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリックします。
 - ◆ **Linux の場合:** コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。

2 データベースが登録されるプライマリサーバの ZENworks Server サービスを停止します。

- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks Server] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリックします。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.novell-zenserver stop」。

3 次のファイルを、外部 Sybase データベースがバックアップされているデバイスから外部 Sybase データベースの復元先のデバイスにコピーします。

- ◆ zenworks_zone_name.db
- ◆ zenworks_zone_name.log

デフォルトで、ファイルは Windows Sybase データベースサーバの `ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\Database`、および Linux Sybase データベースサーバの `/var/opt/novell/zenworks/database/` にコピーする必要があります。

4 バックアップしたデータベースを復元したデータベースサーバ上の Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを開始します。バックアップしたデータベースを別のデバイスに復元したい場合は、データベースサーバのみでなくそのデバイス上のサービスも開始する必要があります。

- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [開始] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択してツールバー上の ▶ をクリックします。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。

5 データベースが登録されているプライマリサーバで、ZENworks Server サービスを開始します。

- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server] サービスを右クリックして [開始] をクリックするか、[Novell ZENworks Server] サービスを選択してツールバー上の ▶ をクリックします。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/.novell-zenserver restart
```

- 6 (条件付き) データベースを `zenworks_database.conf` ファイルで指定された場所以外の場合に復元したい場合、ファイルを手動で編集してデータベースの新しい場所を指定する必要があります。 `zenworks_database.conf` ファイルは Windows の `zenworks_installation_directory\novell\zenworks\database\conf\` ディレクトリ、および Linux の `/etc/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

35.3 ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへのデータの移動

ZENworks 10 Configuration Management では、ある OEM Sybase データベース (外部 Sybase データベース) から、別の外部 Sybase データベースにデータを移動できます。

- ◆ [348 ページのセクション 35.3.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [348 ページのセクション 35.3.2 「ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動」](#)

35.3.1 データの移動の準備

ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースにデータを移動する前に、次の操作を行います。

- ◆ Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、外部 Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていることを確認してください。このデータベースから、別の外部データベースにデータが移動しました。
- ◆ 外部 Sybase データベースがインストールされている、別の Windows デバイスまたは Linux デバイスがあるようにしてください。外部 Sybase データベースをインストールする方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。

35.3.2 ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動

次の手順では、データの移動元のデバイスを EDB1、データの移動先のデバイスを EDB2 とします。

- 1 データの移動元の EDB1 デバイスで、Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを中止します。
 - ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリックします。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。
- 2 EDB1 デバイスから、zenworks_database.conf および database ディレクトリ内のすべてのファイルを、EDB2 デバイス上にある適切なディレクトリにコピーします。
- zenworks_database.conf は、Windows の場合は ZENworks_installation_path\conf\ ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。
- database ディレクトリは、Windows の場合はデフォルトで ZENworks_installation_path ディレクトリ、Linux の場合は /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。
- 3 EDB2 デバイスで、zenworks_database.conf を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。
- 4 EDB1 デバイスで、zdm.xml を編集します (Windows の場合は ZENworks_installation_path\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります)。
- ◆ Server エントリキーの値を、EDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
 - ◆ Port エントリキーの値が、EDB2 デバイスが実行されているポート番号であることを確認してください。
- 5 EDB2 デバイスで、Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを開始します。
- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [スタート] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択します。次に、ツールバーで ▶ をクリックします。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa start」と入力します。
- 6 EDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを開始します。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmnr restart
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

ZENworks サーバは、新しいデータベース (EDB2) を指しています。

35.4 外部 OEM Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動

ZENworks 10 Configuration Management では、OEM Sybase データベース (外部 Sybase データベース) から、ZENworks サーバにインストールされている組み込み OEM Sybase SQL Anywhere データベース (組み込み Sybase データベース) へ、データを移動できます。

- ◆ [350 ページのセクション 35.4.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [350 ページのセクション 35.4.2 「外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動」](#)

35.4.1 データの移動の準備

外部 Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへデータを移動する前に、次の操作を行います。

- ◆ Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、外部 OEM Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていることを確認してください。
- ◆ 組み込み OEM Sybase データベースを ZENworks サーバにインストールします。データベースをインストールする方法の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド](#)』の「[外部 ZENworks データベースのインストール](#)」を参照してください。

組み込み Sybase データベースのインストール時には、[Sybase アクセス設定] ページの設定中に次の点を考慮する必要があります。

- ◆ データベース名は、外部 Sybase データベースの名前と同じにしても、一意の名前にしても構いません。
- ◆ ユーザ名とパスワードは、外部 Sybase データベースのものと同じにする必要があります。
- ◆ データベースのサーバ名は、一意にする必要があります。

35.4.2 外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動

1 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、次の操作を行います。

1a Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを停止します。

- ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリックします。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d./sybase-asa stop」と入力します。

1b database ディレクトリのコンテンツを削除します。

database ディレクトリは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

2 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを中止します。

◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリックします。

◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「`/etc/init.d/.sybase-asa stop`」と入力します。

3 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスから、database ディレクトリ内のすべてのファイルを、組み込み Sybase データベースを含む ZENworks サーバの該当するディレクトリにコピーします。

database ディレクトリは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

4 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、`zenworks_database.conf` を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。

5 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、`zdm.xml` を編集します (Windows の場合は `ZENworks_installation_path/conf/datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります)。

◆ 次のエントリを追加します。

```
<entry key="Embedded">true</entry>
```

- ◆ Server エントリキーの値を 127.0.0.1 (組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバの IP アドレス) に設定します。
- ◆ Port エントリキーの値が、組み込み Sybase データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
- ◆ Engine エントリキーの値を、組み込みデバイスのインストール時に指定したデータベースサーバ名に設定します。
- ◆ (オプション) 組み込み Sybase データベースのインストール時に一意のデータベース名を指定した場合は、Database エントリキーの値をその一意のデータベース名に設定します。

6 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、ZENworks サービスを再起動します。

◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。

2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、[Novell ZENworks Embedded Datastore]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを開始します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmtr restart
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
 - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart
 - ◆ /etc/init.d/.sybase-asa restart

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

35.5 別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する

ある MS SQL データベースから別の MS SQL データベースにデータを移動する場合、新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する必要があります。

次のセクションでは、詳細情報について説明します。

- ◆ [352 ページのセクション 35.5.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [353 ページのセクション 35.5.2 「新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する」](#)

35.5.1 データの移動の準備

新しい MS SQL データベースを指すようにサーバを設定する前に、次の操作を行います。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management が、MS SQL データベースとともに、(Windows または Linux 上に) インストールされていることを確認します。このデータベースから、別の MS SQL データベースにデータが移行されました。このデバイが MSDB1 と呼ばれているとします。
- ◆ MS SQL データベースがインストールされている別の Windows デバイスがあるようにしてください。このデバイが MSDB2 と呼ばれているとします。MS SQL データベースをインストールする方法の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド](#)』の「[外部 ZENworks データベースのインストール](#)」を参照してください。
- ◆ MSDB1 から MSDB2 へのデータの移動の詳細については、MS SQL データベースのマニュアルを参照してください。

35.5.2 新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する

新しいデータベース (MSDB2) を指すように ZENworks サーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 MSDB1 デバイスで、zdm.xml (Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります) を編集し、次の操作を行います。
 - ◆ Port エントリキーの値が、MS SQL データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
 - ◆ Server エントリキーの値を、MSDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
 - ◆ Database エントリキーの値を、MSDB2 デバイスのデータベースディレクトリのパスに設定します。
- 2 MSDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
 - ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを開始します。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenmtr restart`
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenserver restart`
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenloader restart`

35.6 別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する

ある Oracle データベースから別の Oracle データベースにデータを移動する場合、新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する必要があります。

次のセクションでは、詳細情報について説明します。

- ◆ [354 ページのセクション 35.6.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [354 ページのセクション 35.6.2 「新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する」](#)

35.6.1 データの移動の準備

新しい Oracle データベースを指すようにサーバを設定する前に、次の操作を行います。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management が、Oracle データベースとともに、(Windows または Linux 上に) インストールされていることを確認します。このデータベースから、別の Oracle データベースにデータがマイグレートされました。このデバイスが ORDB1 と呼ばれているとします。
- ◆ ORDB1 と同じデータベース資格情報で Oracle データベースがインストールされた別な Windows デバイスがあることを確認します。このデバイスが ORDB2 と呼ばれているとします。Oracle データベースをインストールする方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。
- ◆ ORDB1 から ORDB2 にデータを移動します。データの移動の詳細については、Oracle データベースのマニュアルを参照してください。

35.6.2 新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する

新しい Oracle データベース (ORDB2) を指すように ZENworks サーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ORDB1 デバイスで、zdm.xml (Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります) を編集し、次の操作を行います。
 - ◆ Port エントリキーの値が、Oracle データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
 - ◆ Server エントリキーの値を、ORDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
 - ◆ Database エントリキーの値を、ORDB2 デバイスにインストールされた Oracle データベースのネットサービス名に設定します。
- 2 ORDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
 - ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Server]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks Agent Service] のサービスを開始します。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenmnr restart`
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenserver restart`
 - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenloader restart`

データベースのベストプラクティス およびヒント

36

このセクションでは、Sybase データベースのヒントとベストプラクティスについて説明します。

- 355 ページのセクション 36.1 「データベースのベストプラクティス」
- 358 ページのセクション 36.2 「データベースのヒント」

36.1 データベースのベストプラクティス

- 355 ページのセクション 36.1.1 「組み込み Sybase データベースまたは外部 Sybase データベースの再構築」

36.1.1 組み込み Sybase データベースまたは外部 Sybase データベースの再構築

組み込みまたは外部 Sybase データベースをインストールしてある場合、最新バージョンの Sybase データベースエンジンで実行されるようにデータベースを再構築します。

- 1 データベース資格情報をアーカイブしたことを確認します。

外部 Sybase データベースの資格情報をアーカイブするには、データベース管理者に連絡してください。

組み込みまたは外部 OEM Sybase データベースの資格情報をアーカイブするには、データベースサーバで次のタスクを実行します。

- 1a データベースサービスが実行されていることを確認します。

Windows の場合 : Windows サービスで、*Novell ZENworks Embedded Datastore* が起動していることを確認します。

Linux の場合 : コンソールプロンプトで「`/etc/init.d/sybase-asa status`」と入力して、データベースの状態を確認します。データベースが実行されていない場合は、「`/etc/init.d/.sybase-asa start`」と入力します。

- 1b `zman dgc` コマンドを実行して、Sybase 接続情報を取得します。

- 1c 要求されたら、ZENworks 管理者の資格情報を指定します。

- 1d データベースのユーザ名とパスワードをテキストファイルにコピーして保存します。

- 2 Novell ZENworks Embedded Datastore サービスが実行している場合は停止します。

- **Windows の場合 :** 以下を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。

2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリックします。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールプロンプトで 「/etc/init.d/sybase-asa stop」 と入力します。
- 3 コンソールプロンプトで、Sybase データベースディレクトリに移動します。デフォルトで、Windows では %ZENWORKS_HOME%\database、Linux では /var/opt/novell/zenworks/database です。
- 4 zenworks_zone_name.db および Zenworks_zone_name.log ファイルの信頼できるバックアップを作成します。
- 5 Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを開始します。
 - ◆ **Windows の場合** : 以下を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを右クリックして [スタート] をクリックするか、[Novell ZENworks Embedded Datastore] サービスを選択します。次に、ツールバーで ▶ をクリックします。
 - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa start」 と入力します。
- 6 (条件付き) データベースが Linux にインストールされている場合は、次のスクリプトファイルを実行します。


```
source /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32/sa_config.sh
```
- 7 (条件付き) Sybase SQL Anywhere EBF の SQL Anywhere 10.0.1 EBF 3960 以前のバージョンの場合は、DBISQL ユーティリティを起動してデータベース認証をセットアップします。
 - 7a DBISQL ユーティリティを起動します。
 - 7a1 コマンドプロンプトで、Windows では %ZENWORKS_HOME%\sybase\ASA\win32 ディレクトリ、Linux では /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32s ディレクトリに移動します。
 - 7a2 dbisql コマンドを入力します。
 - 7a3 [Identification(識別)] タブで、データベース資格情報を指定します。
 - 7a4 [データベース] タブで、現在実行されているデータベースサービスの名前を指定します。
 - 7a5 [OK] をクリックします。
 - 7b [SQL ステートメント] セクションで、次のクエリを指定します。


```
select setting
from sysoptions
where "option" like 'database%' >># output_filename
```
 - 7c [SQL ステートメントの実行] をクリックします。
 クエリの結果は、クエリで指定した出力ファイルに書き込まれます。

7d クエリの結果を出力ファイルからコピーし、
%zenworks_home%\share\asa\scripts\saopts.sql ファイルの database_authentication 属性の値として貼り付けます。

database_authentication 属性は、saopts.sql ファイルの次のエントリにあります。

```
if not exists( select * from SYS.SYSOPTION
  where ucase( "option" ) = ucase( 'database_authentication' ) ) then
  set option PUBLIC.database_authentication =
<output_of_the_query_run_in_step_7b>;
end if
go
```

8 Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを停止します。

- ◆ **組み込みデータベースの場合** : Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを含むすべての ZENworks サービスを停止します。

1. コンソールプロンプトで、novell-zenworks-configure -c Start コマンドを実行します。
2. 「停止」に該当するオプション番号を入力します。
3. <Enter> キーを2回押します。

- ◆ **外部データベースの場合** : Windows では Windows サービスマネージャを停止し、Linux では /etc/init.d/sybase-asa stop コマンドを実行して、Novell ZENworks Embedded Datastore Service を停止します。

9 データベースサーバのコンソールプロンプトで、次のコマンドを実行してデータベースサービスを開始します。

Windows の場合 : dbeng10 %ZENWORKS_HOME%\database\zenworks_ZONE_NAME.db -n rebuild

Linux の場合 : dbeng10 /var/opt/novell/zenworks/database/zenworks_ZONE_NAME.db -n rebuild

10 Windows では c:\dbreload\ 内に、Linux では /tmp/dbreload/ 内に、unload という名前で一時ディレクトリを作成します。

11 unload コマンドを実行します。

Windows の場合 : dbunload -c "UID=zenadmin;PWD=database_password;ENG=rebuild" -an c:\dbreload\unload\zenworks_<management_zone_name>.db

Linux の場合 : dbunload -c "UID=zenadmin;PWD=database_password;ENG=rebuild" -an /tmp/dbreload/unload/zenworks_<management_zone_name>.db

12 データベースの再構築が正常に完了した後、新しく構築したデータベースの信頼できるバックアップを作成します。

再構築プロセス中に問題が発生した場合は、[Novell サポート \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) にお問い合わせください。

13 dbeng10 コマンドを使用して、Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを停止します。

- ◆ **Windows の場合** : Windows タスクバーの [再構築] アイコンを右クリックして、[シャットダウン] をクリックします。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールプロンプトで、「q」と入力します。

14 データベースディレクトリ内のデータベースと該当するログファイルを、unload ディレクトリにある新しいもので上書きします (zenworks_management_zone_name.*).

unload ディレクトリは、Windows の c:\dbreload\、Linux の /tmp/dbreload/ にあります。

15 Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを開始します。

- ◆ **組み込みデータベースの場合** : Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを含むすべての ZENworks サービスを開始します。
 1. コンソールプロンプトで、`novell-zenworks-configure -c Start` コマンドを実行します。
 2. 「起動」に該当するオプション番号を入力します。
 3. <Enter> キーを 2 回押します。
- ◆ **外部データベースの場合** : Windows の [サービス] ウィンドウで Novell ZENworks Embedded Datastore サービスを起動するか、Linux で `/etc/init.d/sybase-asa start` コマンドを実行します。

16 新しく作成したデータベースのバックアップを定期的に (毎日または毎週) 作成します。

36.2 データベースのヒント

- ◆ 358 ページのセクション 36.2.1「組み込み Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所およびスケジュールの変更」
- ◆ 360 ページのセクション 36.2.2「外部 Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールおよび場所の変更」

36.2.1 組み込み Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所およびスケジュールの変更

次のセクションを参照してください。

- ◆ 358 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所の変更」
- ◆ 359 ページの「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールの変更」

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップの場所の変更

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップの場所を初期バックアップ以降に変更するには、次の手順に従います。

- 1 プライマリサーバのコンソールプロンプトで次のコマンドを実行して、既存のデータベースバックアップスケジュールを削除します。

```
zman db current_database_backup_location DropSchedule.sql
```

Dropschedule.sql は、Windows サーバでは

ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database ディレクトリに、Linux サーバでは `/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/database` ディレクトリにあります。

- 2 次のコマンドを入力して、データベースを新しい場所にバックアップします。

```
zman database-backup complete_path_of_the_new_database_backup_directory  
complete_path_of_the_database_backup_schedule_file -d SQL_function_call
```

たとえば、データベースを Windows サーバの c:\dbbackup\newdbbackups ディレクトリに c:\backUpschedule.sql に指定されたデータベースバックアップスケジュールに従ってバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup c:\dbbackup\newdbbackups c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

このコマンドの詳細については、デバイスの zman マニュアルページ (man zan) を見るか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールの変更

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップのスケジュールを初期バックアップ以降に変更するには、次の手順に従います。

- 1 「Alter Event」 コンテンツでスケジュールファイルを作成します。

```
ALTER EVENT backup_schedule_name  
SCHEDULE  
START TIME specify_the_schedule
```

次のようにして、Alterschedule.sql ファイルを使用して、毎週月曜日、火曜日、水曜日の午後 11 時にデータベースをバックアップできます。

```
ALTER EVENT ZENDBBackup  
SCHEDULE  
START TIME '11:00 PM'  
ON ('Monday', 'Tuesday', 'Wednesday')
```

サンプルの Alterschedule.sql ファイルは、Windows サーバでは ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database ディレクトリに、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/database ディレクトリにあります。

- 2 次のコマンドを入力して、データベースを新しいスケジュールに従ってバックアップします。

```
zman database-backup complete_path_of_the_database_backup_directory  
complete_path_of_the_modified_database_backup_schedule_file -d SQL_function_call
```

たとえば、データベースを Windows サーバの c:\dbbackup\ ディレクトリに c:\AlterSchedule.sql に指定されたデータベースバックアップスケジュールに従ってバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup c:\dbbackup\ c:\AlterSchedule.sql -d SQL_function_call
```

このコマンドの詳細については、デバイスの zman マニュアルページ (man zan) を見るか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

36.2.2 外部 Sybase データベースの初期バックアップ以降のバックアップのスケジュールおよび場所の変更

外部 Sybase データベースのバックアップの場所とバックアップスケジュールを初期バックアップ以降に変更するには、外部 Sybase データベースがインストールされて実行されているデバイスで次のタスクを実行します。

- 1 DBISQL ユーティリティを起動します。
 - 1a コマンドプロンプトで、Windows では %ZENWORKS_HOME%\sybase\ASA\win32 ディレクトリ、Linux では /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32s ディレクトリに移動します。
 - 1b dbisql コマンドを入力します。
 - 1c [Identification(識別)] タブで、データベース資格情報を指定します。
 - 1d [データベース] タブで、現在実行されているデータベースサービスの名前を指定します。
 - 1e [OK] をクリックします。
- 2 データベースのバックアップスケジュールとバックアップの場所を変更します。

同じ SQL クエリを使用して、データベースのバックアップスケジュールとバックアップの場所を変更できます。バックアップスケジュールと場所は、同時に変更することも別々に変更することもできます。

```
ALTER EVENT
name_of_the_existing_backup_schedule_event_containing_the_database_backup
_schedule_or_location_that_you_want_to_change
SCHEDULE
new_database_backup_schedule or existing_backup_schedule
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY
'complete_path_of_the_existing_database_backup_location or
complete_path_of_new_database_backup_location'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

データベースを Windows のディレクトリにバックアップしたい場合は、データベースバックアップディレクトリのパスを指定するときに \\(2つのバックスラッシュ) をデリミタとして使用する必要があります。

たとえば、データベースバックアップイベント zendbbackup で、毎日午前 1 時に c:\dbbackup にローカルにデータベースをバックアップするとします。データベースのバックアップスケジュールまたは場所を変更したい場合は、次のことを確認します。

- 毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後 11 時にデータベースをバックアップするには、次のクエリを DBISQL ユーティリティで実行して、zendbbackup イベントのデータベースバックアップスケジュールを変更します。

```
ALTER EVENT zendbbackup
SCHEDULE
'11:00 PM' ON ('Monday', 'Wednesday', 'Friday')
HANDLER
```



```
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY 'c:\\dbbackup'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

- ◆ データベースのバックアップ場所を e:\zendb\dbbackup などの新しい場所に変更したい場合は、次のクエリを DBISQL ユーティリティで実行して、zendbackup イベントのデータベースのバックアップの場所を変更します。

```
ALTER EVENT zendbackup
SCHEDULE
'1:00 AM' EVERY 24 HOURS
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY 'e:\\zendb\\dbbackup'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```

- ◆ その月の第 1 日、第 2 日、および第 3 日の午前 2 時にデータベースを新しい場所 e:\zendb\dbbackup にバックアップするには、次のクエリを DBISQL ユーティリティで実行して、zendbackup イベントのデータベースのバックアップスケジュールと場所を変更します。

```
ALTER EVENT zendbackup
SCHEDULE
'2:00 AM' EVERY 24 HOURS ON (1,2,3)
HANDLER
BEGIN
BACKUP DATABASE DIRECTORY 'e:\\zendb\\dbbackup'
TRANSACTION LOG TRUNCATE
END;
```


メッセージログ



このセクションでは、Novell® ZENworks® システムの設定および管理に役立つ Message Logger の機能とプロシージャに関する情報を提供します。

- ◆ [365 ページの第 37 章「概要」](#)
- ◆ [367 ページの第 38 章「Message Logger の設定」](#)
- ◆ [373 ページの第 39 章「メッセージの管理」](#)

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の Message Logger コンポーネントを使用すると、他の ZENworks コンポーネント (zenloader、webservice、ZMD(ZENworks Management Daemon)、リモート管理、ポリシーエンフォーサなど) がさまざまな出力ターゲットにメッセージをログすることができます。出力ターゲットには、システムログ、ローカルログ、データベース、SMTP、SNMP トラップ、および UDP があります。

次のセクションでは、Message Logger コンポーネントに関する追加情報について説明します。

- ◆ [365 ページのセクション 37.1 「Message Logger の機能」](#)
- ◆ [365 ページのセクション 37.2 「メッセージ重大度」](#)
- ◆ [366 ページのセクション 37.3 「メッセージ形式」](#)

37.1 Message Logger の機能

Message Logger は、次の機能を実行します。

- ◆ ローカルファイルにメッセージを書き込む
- ◆ システムログまたはイベントログにメッセージを書き込む
- ◆ 管理コンソールにメッセージを書き込む
- ◆ 管理サーバにメッセージを送信する
- ◆ SMTP メールとして、メッセージをプライマリサーバから SMTP サーバに送信する
- ◆ SNMP トラップとして、メッセージをプライマリサーバからリモートマシンまたはローカルマシンに送信する
- ◆ UDP パケットとして、メッセージを UDP 宛先に送信する
- ◆ ZENworks データベースにメッセージを書き込む
- ◆ ZENworks データベースからデータベースエントリを自動的にパージする
- ◆ ZENworks データベースのメッセージを自動的に確認する

37.2 メッセージ重大度

メッセージとは、さまざまなコンポーネントやモジュールによって生成されるイベントのことです。これらのイベントには、エラー、警告、ユーザに対する情報、モジュールをデバッグするためのデバッグステートメントなどが含まれます。

メッセージは、次の重大度レベルに基づいて分類されます。

エラー: ユーザエラーまたはシステムエラーのため、アクションを完了できないことを示します。これらのメッセージは重大であり、管理者からの即時の注意を必要とします。

警告: 例外状況を示します。エラーではないものの、これが原因で後で問題が発生する可能性があります。これらのメッセージは、管理者からの即時の注意を必要としません。

情報 : 管理者にとって重要であり有益である、製品またはシステムで発生した何らかの事象に関するフィードバックです。

デバッグ : 発生する可能性のある問題をトラブルシューティングおよび解決するためのデバッグ情報を提供します。デバッグメッセージは、ローカルファイルにのみ保存されます。

37.3 メッセージ形式

メッセージは、出力ターゲットに基づいてさまざまな形式でログされます。メッセージ形式の詳細については、[373 ページのセクション 39.1「メッセージ形式の理解」](#)を参照してください。

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の Message Logger コンポーネントを設定する方法について説明します。

- ◆ 367 ページのセクション 38.1 「ゾーンレベルでの Message Logger の設定」
- ◆ 371 ページのセクション 38.2 「フォルダレベルでの Message Logger の設定」
- ◆ 371 ページのセクション 38.3 「デバイスレベルでの Message Logger 設定の実行」
- ◆ 372 ページのセクション 38.4 「デバッグメッセージの有効化」

38.1 ゾーンレベルでの Message Logger の設定

次のセクションでは、メッセージログを有効にするために管理ゾーンで設定を行う場合に役立つ情報について説明します。

- ◆ 367 ページのセクション 38.1.1 「ローカルデバイスのログ」
- ◆ 368 ページのセクション 38.1.2 「集中型のメッセージログ」


38.1.1 ローカルデバイスのログ

ZENworks コントロールセンターの [ローカルデバイスのログ] ページでは、ローカルドライブおよび管理対象デバイスのシステムログファイルへのメッセージログを設定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックして、[ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 3 [ローカルファイル] パネルで、次のオプションを設定します。

重大度が次の場合は、メッセージをローカルファイルにログします：次の中から1つを選択します。

- ◆ **エラー：**重大度が「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **警告とそれ以上：**重大度が「警告」と「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **情報とそれ以上：**重大度が「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **デバッグとそれ以上：**重大度が「デバッグ」、「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。

個別のデバイスで ZENworks® Adaptive Agent の問題をトラブルシューティングする必要がある場合、追加の情報もログ記録されるようにするため重大度の設定を変更できます。デバイス上で、通知領域にある  アイコンをダブルクリックし、左のナビゲーションペインの [ログ] をクリックして、[重大度が次の場合にメッセージを記録] ドロップダウンリストからオプションを選択します。

サイズによるローリング: ファイルサイズに基づいて、現在のログファイルを閉じて新しいファイルを開始します。

- ◆ **ファイルサイズを制限:** ログファイルの最大サイズをキロバイト (KB) またはメガバイト (MB) で指定します。ファイルのサイズが指定した制限に達すると現在のログファイルが閉じられ、新しいファイルが開始されます。
- ◆ **バックアップファイルの数:** サイズ制限に達したために閉じたファイルは、一定の数だけバックアップとして保管しておくことができます。その数を指定します。バックアップファイルの最大数は 13 です。

日付によるローリング: 次のスケジュールに基づいて、現在のログファイルを閉じて新しいファイルを開始します。

- ◆ **日次パターン:** 毎日新しいファイルを開始します。
- ◆ **月次パターン:** 毎月新しいファイルを開始します。

Windows 管理対象デバイス上のローカルファイルとして、次のファイルが含まれます。

- ◆ zmd-messages.log(\novell\zenworks\logs\localstore 内)
- ◆ loader-messages.log (\novell\zenworks\logs 内)
- ◆ services-messages.log(\novell\zenworks\logs 内)

Linux 管理対象デバイス上のローカルファイルとして、次のファイルが含まれます。

- ◆ loader-messages.log(/var/opt/novell/log/zenworks 内)
- ◆ services-messages.log(/var/opt/novell/log/zenworks 内)

4 [システムログ] パネルで、次のオプションを設定します。

重大度が次の場合は、メッセージをローカルシステムに送信: 次のの中から 1 つを選択します。

- ◆ **エラー:** 重大度が「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **警告とそれ以上:** 重大度が「警告」と「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **情報とそれ以上:** 重大度が「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。

この設定では、ローカルシステムログに追加するメッセージタイプを決定できます。ローカルシステムログは、\var\log\messages ディレクトリ (Linux デバイス上) および zenworks/logs/centralstore ディレクトリ (Windows デバイス上) です。

このシステムログディレクトリに追加されたメッセージは、ZENworks サーバに送信され、ZENworks コントロールセンターの [環境設定] > [システム情報] ページか、またはサーバやワークステーションの [概要] ページで表示されます。

38.1.2 集中型のメッセージログ

ZENworks コントロールセンターの [集中型のメッセージログ] ページでは、プライマリサーバによって実行されるメッセージログに関連する設定を行うことができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[イベントとメッセージング] をクリックして、[集中型のメッセージログ] をクリックします。
- 3 [メッセージの自動クリーンアップ] パネルで、自動的に承認する、またはログ済みのメッセージを ZENworks サーバから削除するように設定します。

優先される保守サーバ: データベースからログされたメッセージを承認または削除するために、メッセージクリーンアップアクションが実行される優先サーバの IP アドレスを指定します。

情報: 情報メッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録された情報メッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての情報メッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までの情報メッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての情報メッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録された情報メッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての情報メッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までの情報メッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての情報メッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

警告: 警告メッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録された警告メッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての警告メッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までの警告メッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての警告メッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録された警告メッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての警告メッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までの警告メッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての警告メッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

エラー: エラーメッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録されたエラーメッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべてのエラーメッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までのエラーメッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべてのエラーメッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録されたエラーメッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべてのエラーメッセー

ジが削除されます。0 を指定すると、今日までのエラーメッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべてのエラーメッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

メッセージクリーンアップを実行する曜日と時刻を選択する：メッセージクリーンアップアクションを実行する曜日と時刻を指定できます。管理者はメッセージクリーンアップアクションの日次スケジュールを設定できます。

協定世界時 (UTC) の使用：指定した時間を UTC (GMT) に変換できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

- 4 [電子メール通知] パネルで、電子メールを使用して管理者にエラーメッセージを送信するための設定を行います。

重大度が次の場合は、電子メール経由でログメッセージを送信：電子メールを使用したログメッセージの送信をトリガするメッセージの重大度を選択できます。

送信者：送信者の電子メールアドレスを指定します。

宛先：受信者の電子メールアドレスを指定します。カンマ (,) で区切れば、複数の電子メールアドレスを指定できます。

件名：プライマリサーバから電子メールを送信する際に含まれる件名を指定します。マクロの値を使用して、[件名] フィールドをカスタマイズできます。[件名] フィールドのカスタマイズに関する詳細については、[374 ページのセクション 39.1.2 「電子メール形式」](#) を参照してください。

- 5 [SNMP トラップ] パネルで、ログメッセージを送信する ZENworks サーバの SNMP トラップを設定します。

重要度が次の場合に SNMP トラップとして送信：ログメッセージの重大度が「エラー」の場合、SNMP トラップを送信します。

トラップターゲット：SNMP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

ポート：この操作用に設定された SNMP サーバのポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 162 です。

コミュニティ文字列：送信される SNMP トラップの接続文字列を指定します。

- 6 [UDP 転送者] パネルで、UDP サービスを通じてログメッセージを送信するための設定を行います。次の表では、使用できるオプションに関する情報について説明しています。

UDP 経由でのメッセージ送信：ログされたメッセージの重大度が「エラー」の場合に、UDP の宛先にメッセージを送信します。

UDP の宛先：[追加]、[編集]、および [削除] オプションを使用して、次の作業を実行できます。

◆ サーバの追加

1. [追加] をクリックして、[UDP の宛先アドレスの追加] ダイアログボックスを表示します。
2. この操作用に設定されたサーバの名前と UDP ポート番号を指定します。
3. [OK] をクリックします。

- ◆ サーバの削除
 1. サーバ (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。
 2. [削除] をクリックします。
- ◆ サーバ詳細の編集
 1. サーバの横にあるチェックボックスをオンにします。
 2. [編集] をクリックして、[UDP の宛先の編集] ダイアログボックスを表示します。
 3. 目的に応じて設定を変更し、[OK] をクリックします。

38.2 フォルダレベルでの Message Logger の設定

デフォルトでは、ゾーンレベルで行った Message Logger 設定が、すべての管理対象デバイスに適用されます。ただし、1つのフォルダ内のすべてのデバイスに対して、[ローカルデバイスのログ] 設定を変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 Message Logger の設定を行う [フォルダ(詳細)] オプションをクリックします。
- 3 [設定] をクリックし、[デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 4 [上書き] をクリックします。
- 5 必要に応じて、ログ設定を編集します。
- 6 変更内容を適用するには、[適用] をクリックします。
または
ゾーンレベルで設定された [ローカルデバイスのログ] 設定に戻すには、[元に戻す] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。

38.3 デバイスレベルでの Message Logger 設定の実行

デフォルトでは、ゾーンレベルで行った Message Logger 設定が、すべての管理対象デバイスに適用されます。ただし、管理対象デバイスに対する [ローカルデバイスのログ] の設定は変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] をクリックして管理対象デバイスのリストを表示します。
- 3 Message Logger 設定を行うデバイスをクリックします。
- 4 [設定] をクリックし、[デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 5 [上書き] をクリックします。
- 6 必要に応じて、ログ設定を編集します。
- 7 変更内容を適用するには、[適用] をクリックします。

または

ゾーンレベルで設定された [ローカルデバイスのログ] 設定に戻すには、[元に戻す] をクリックします。

8 [OK] をクリックします。

38.4 デバッグメッセージの有効化

すべてのコンポーネントに対してデバッグメッセージのログを有効にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックして、[ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 3 [ローカルファイル] パネルで、[重大度が次の場合は、メッセージをローカルファイルにログしません] オプションを選択して、重大度として [デバッグとそれ以上] を選択します。
- 4 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

Message Logger コンポーネントを使用すると、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の他のコンポーネントによってログされたメッセージを管理できます。

- ◆ 373 ページのセクション 39.1 「メッセージ形式の理解」
- ◆ 376 ページのセクション 39.2 「メッセージステータスの表示」
- ◆ 377 ページのセクション 39.3 「メッセージの表示」
- ◆ 379 ページのセクション 39.4 「メッセージの承認」
- ◆ 382 ページのセクション 39.5 「メッセージの削除」
- ◆ 384 ページのセクション 39.6 「事前定義されたレポートの表示」

39.1 メッセージ形式の理解

- ◆ 373 ページのセクション 39.1.1 「ローカルログファイル形式」
- ◆ 374 ページのセクション 39.1.2 「電子メール形式」
- ◆ 374 ページのセクション 39.1.3 「SNMP メッセージ形式」
- ◆ 375 ページのセクション 39.1.4 「UDP ペイロード形式」

メッセージは、ローカルログ、電子メール通知、SNMP トラップ、および UDP 通知など、出力ターゲットに基づくさまざまな形式でログされます。

すべてのエラーメッセージに、エラーの生成対象であるコンポーネント名がログされます。エラーをトラブルシューティングするには、そのコンポーネントのリファレンスガイドを参照してください。

例 1: ポリシー管理に関連するエラーです。

```
[DEBUG] [7/22/2007 3:42:45 PM] [] [PolicyManager] [] [Name = RM_dev, Guid = 271414163524d000190dbc6fa94272aa, Type = remote management policy, Version = 2] [] [].
```

このエラーをトラブルシューティングするには、『[ZENworks 10 Configuration Management Policy Management リファレンス](#)』を参照してください。

例 2: リモート管理に関連するエラーです。

```
[ERROR] [15-07-2007 12:44:16] [] [Remote Management] [RemoteManagement.VNCEVENT_CANNOT_OPEN_EVENT] [Unable to open the <ZRMUserLoginEvent> event] [] [].
```

このエラーをトラブルシューティングするには、『[ZENworks 10 Configuration Management Remote Management リファレンス](#)』を参照してください。

39.1.1 ローカルログファイル形式

メッセージは管理対象デバイスおよび ZENworks サーバに次の形式でログ記録されます。

[severity] [loggingTime] [userGUID] [componentName] [MessageID] [MessageString] [additionalInfo] [RelatedGUID].

たとえば、[DEBUG] [1/22/2007 12:09:15 PM] [] [ZMD] [] [refreshing QuickTaskRefresh(GeneralRefresh)] [] []
です。

39.1.2 電子メール形式

電子メールメッセージは、メッセージヘッダとメッセージ本文で構成されます。

- ◆ [374 ページの「メッセージヘッダ」](#)
- ◆ [374 ページの「メッセージ本文」](#)

メッセージヘッダ

電子メールの件名フィールドは、キーワード代替マクロを使用して、必要に応じてカスタマイズできます。

マクロ	値
%s	メッセージの重大度です。
%c	コンポーネント名です。
%d	メッセージが生成されるデバイスの ID です。
%t	メッセージ生成の時刻です。
%a	メッセージが生成されるデバイスの別名です。

たとえば、件名の行に「ERROR occurred on device Testifies at 4/1/07 5:31:01 PM」と表示する場合は、[件名] フィールドに「%s occurred on device %a at %t」と入力します。

メッセージ本文

メッセージ本文は次のフィールドで構成されます。

- ◆ **デバイスの別名** : メッセージが生成されるデバイスの名前です。
- ◆ **デバイス IP アドレス** : メッセージが生成されるデバイスの IP アドレスです。
- ◆ **エラー** : [日付] コンポーネント名 メッセージ ID ローカライズ済み文字列。
- ◆ **追加情報** : (オプション) 追加情報です。

39.1.3 SNMP メッセージ形式

SNMP メッセージは、次の 2 つの部分で構成されます。

- ◆ [374 ページの「SNMP メッセージヘッダ」](#)
- ◆ [375 ページの「プロトコルデータユニット \(PDU\)」](#)

SNMP メッセージヘッダ

ヘッダには次のフィールドが含まれています。

バージョン番号 : 使用される SNMP のバージョンを指定します。ZENworks 10 Configuration Management では SNMPv1 を使用します。

コミュニティ文字列 : ネットワーク管理システム (NMS) グループに対するアクセス環境を定義します。

プロトコルデータユニット (PDU)

PDU には次のフィールドが含まれています。

エンタープライズ : トラップを生成する管理対象オブジェクトのタイプを識別します。ZENworks 10 Configuration Management では 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100 を使用します。

エージェントアドレス : トラップが生成されたマシンの IP アドレスを提供します。

汎用トラップタイプ : 整数値 6 が含まれます。タイプ 6 は、エンタープライズ固有のトラップタイプで、SNMP には標準の解釈がありません。トラップの解釈は、Message Logger MIB によって定義されている特定のトラップタイプフィールドの値に基づいています。

固有のトラップコード : ZENworks 10 Configuration Management で生成されたエンタープライズ固有のトラップの場合、特定のトラップタイプのフィールド値は、次のとおりです。

- ◆ 重大度レベル MessageLogger.ERROR の場合、特定のトラップは 1 です。
- ◆ 重大度レベル MessageLogger.WARN の場合、特定のトラップは 2 です。
- ◆ 重大度レベル MessageLogger.INFO の場合、特定のトラップは 3 です。

タイムスタンプ : トラップが発生した時間を示すタイムスタンプです。

変数バインディング : トラップに関連する追加情報を提供します。このフィールドは、次の名前 / 値のペアで構成されます。

- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.1 の場合、値はデバイス GUID です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.2 の場合、値はデバイス名です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.3 の場合、値はコンポーネント名です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.4 の場合、値はメッセージがログされた時刻です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.5 の場合、値はメッセージ ID です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.6 の場合、値は考えられる原因です。

39.1.4 UDP ペイロード形式

ペイロードは、各要素に対する \0 または 0x00 (16 進数) など、NULL で終了する区切り文字を持つバイト配列です。各要素のデータは、UTF-8 エンコード文字列で表示され、次のように説明されます。

- ◆ 最初の要素は、ZENworks のバージョン情報です。たとえば、10 です。
- ◆ 2 番目の要素は、メッセージの重大度の値です。重大度の値は、「情報」メッセージは 4、「警告」メッセージは 6、「デバッグ」メッセージは 8 です。
- ◆ 3 番目の要素は、メッセージ日付です。日付はローカル固有のものではなく、UTF-8 文字列で表示されます。たとえば、09-Mar-2008 14:15:44 などです。
- ◆ 4 番目の要素は、ユーザ ID です。

- ◆ 5 番目の要素は、コンポーネント名です。
- ◆ 6 番目の要素は、非ローカライズメッセージの ID です。
- ◆ 7 番目の要素は、ローカライズメッセージの文字列です。
- ◆ 8 番目の要素は、追加の情報です。
- ◆ 9 番目の要素は、推定される原因の URL です。
- ◆ 10 番目の要素は、カンマで区切られた関連 GUID オブジェクトです。

注：要素にデータがない場合は、\0\0 として表示されます。

39.2 メッセージステータスの表示

ZENworks コントロールセンターでは、ホームページの次のパネルで、ログされたメッセージのステータスを表示できます。

- ◆ [376 ページのセクション 39.2.1 「メッセージ概要」](#)
- ◆ [377 ページのセクション 39.2.2 「デバイスホットリスト」](#)




39.2.1 メッセージ概要

[メッセージ概要] パネルには、管理ゾーンの主要オブジェクトで生成された致命的メッセージ、警告メッセージ、および通常メッセージの数が表示されます。




図 39-1 メッセージ概要

メッセージ概要				
				合計
 サーバ	3	0	5	8
 ワークステーション	9	1	1	11
 ポリシー	3	0	17	20
 バンドル	2	0	5	7

[メッセージ概要] パネルでは、次を実行できます。







- ◆ root フォルダを表示するオブジェクトタイプをクリックします。たとえば、[サーバ] をクリックして、[サーバ] のルートフォルダを表示します。
- ◆ 任意のオブジェクトタイプで、いずれかのステータスカラム (  ) の数字をクリックすると、現在そのステータスであるオブジェクトがすべて一覧表示されます。たとえば、通常ステータスのサーバのリストを表示するには、[サーバ] のカラムの数字をクリックします。
- ◆ 任意のオブジェクトタイプで、[合計] カラムの数字をクリックすると、重大、警告、または通常メッセージタイプを持つオブジェクトがすべて表示されます。たとえば、[サーバ] の合計数をクリックすると、メッセージがログされているすべてのサーバが一覧表示されます。

39.2.2 デバイスホットリスト




[デバイスホットリスト] では、不適合  ステータスを持つか、致命的  または警告  のメッセージを生成したデバイスのリストが表示されます。適合問題を解決し、メッセージを承認するまで、デバイスはホットリストに残ります。このリストは、デバイスに対して注意が必要である問題の概要として使用できます。

デバイスホットリストを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。

デバイスホットリスト					
			タイプ	項目	
3	45	22		blr-nrm-r6a	
2	28	27		blr-nrm-r9a	
2	25	23		blr-nrm-r5v2	
2	0	0		blr-nrm-r3f	
1	52	1		blr-nrm-r11d	

1 - 5 / 15 10 ▼ 項目の表示

- ◆  このカラムには、エラーが発生したためにデバイスに適用できなかったバンドルまたはポリシーの数が表示されます。エラーおよび警告のメッセージをレビューして適合問題を検出する必要があります。
- ◆  このカラムには、デバイスに関して生成された未承認のエラーメッセージの数が表示されます。エラーは失敗した操作のことで、ZENworks Adaptive Agent はデバイスで操作を完了できません。
- ◆  このカラムには、デバイスに関して生成された未承認の警告メッセージの数が表示されます。警告とは問題のあるアクションです。問題によっては、結果的に ZENworks Adaptive Agent がデバイスでアクションを完了できないことがあります。

- 2 デバイスのメッセージログを表示するには、デバイスをクリックします。

39.3 メッセージの表示

ZENworks コントロールセンターでは、ログされたメッセージを次のように表示できます。:

- ◆ [377 ページのセクション 39.3.1 「メッセージログ」](#)
- ◆ [378 ページのセクション 39.3.2 「システムメッセージログ」](#)

39.3.1 メッセージログ

[メッセージログ] には、オブジェクトに関して生成されたすべての未承認メッセージが表示されます。

メッセージログを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、ホームページの [デバイスホットリスト] をクリックして、メッセージログを表示するデバイスをクリックします。




[デバイス] メニューを使用して、ログを表示することもできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] をクリックして管理対象デバイスのリストを表示します。
- 3 デバイスの名前をクリックして、[概要] タブをクリックして表示します。

メッセージログ		詳細
ステータス	メッセージ	日付
	ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。	5/20
	バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加できませんでした	5/20
	アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効になっています。	5/19
	アクションを実行できません。タイプ Patch Bundle のバンドルは無効になっています。	5/19
	ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。	5/19

1 - 5/9 5 ▼ 項目の表示

ステータス：メッセージのタイプを示すアイコンを表示します。

-  重大メッセージ
-  警告
-  通常

メッセージ：発生したイベントの簡単な説明が表示されます。

日付：イベントが発生した日時が表示されます。











- 4 詳細ビューのログメッセージを表示するには、[メモリログ] パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

メッセージログのメッセージを承認または削除できます。メッセージの承認の詳細については、[379 ページのセクション 39.4 「メッセージの承認」](#)を参照してください。メッセージの削除の詳細については、[382 ページのセクション 39.5 「メッセージの削除」](#)を参照してください。

39.3.2 システムメッセージログ

[システムメッセージログ] パネルには、管理ゾーンの ZENworks サーバおよび管理対象デバイスによって生成された未承認メッセージが表示されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [システム情報] をクリックして、システムメッセージログを表示します。

システムメッセージログ			
ステータス	メッセージ	日付	ソース
	デバイス no112ddja が正常に登録されました	18:15	 no112ddja
	ホスト: NO112DDJA を登録しようとする際、要求に CPU 情報がなかったため登録ルールが失敗しました	18:15	 nov-fr-ddsvr
	ホスト: TC-XPSP3 を登録しようとする際、要求に CPU 情報がなかったため登録ルールが失敗しました	6/2	 nov-fr-ddsvr
	デバイス no112-xpit23 が正常に登録されました	5/20	 no112-xpit23
	ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。	5/20	 nov-fr-ddsvr

1 - 5/19 5 ▼ 項目の表示

ステータス：メッセージのタイプを示すアイコンを表示します。

- ✖ 重大メッセージ
- ⚠ 警告
- 通常

メッセージ: 発生したイベントの簡単な説明が表示されます。

日付: イベントが発生した日時が表示されます。

- 3 詳細ビューのログメッセージを表示するには、[システムメモリログ] パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

システムメッセージログからのメッセージを承認または削除できます。メッセージの承認の詳細については、[379 ページのセクション 39.4 「メッセージの承認」](#) を参照してください。メッセージの削除の詳細については、[382 ページのセクション 39.5 「メッセージの削除」](#) を参照してください。

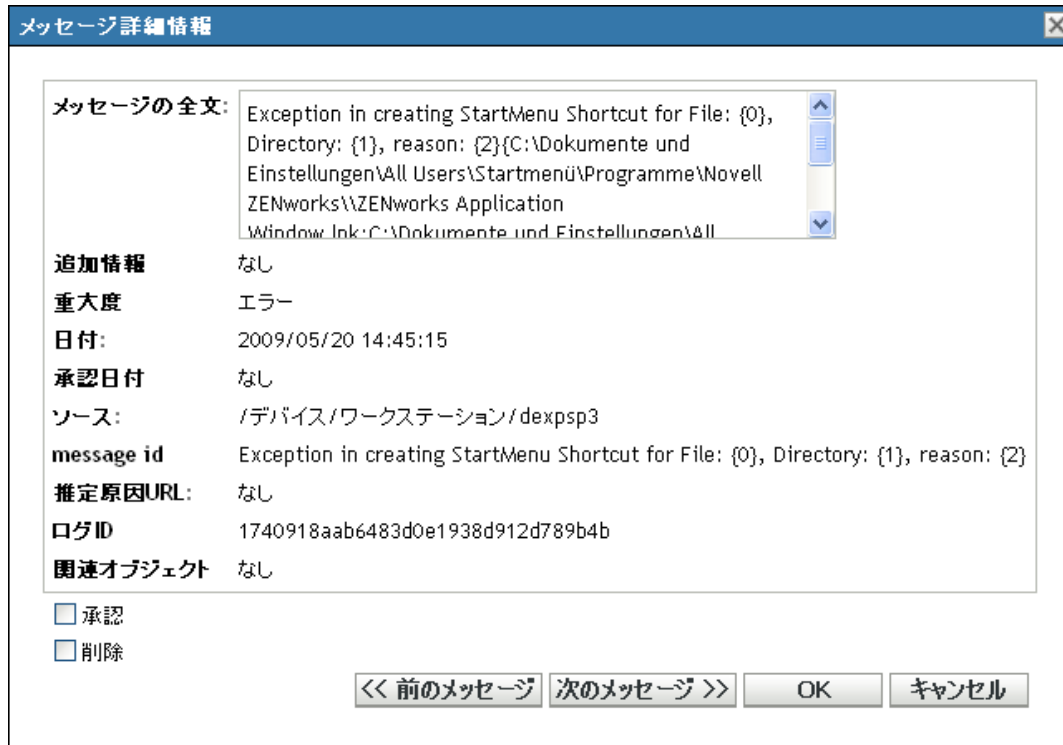
39.4 メッセージの承認

承認済みメッセージとは、レビュー済みであり、承認済み (✓) というマークの付いたメッセージです。

- ◆ [379 ページのセクション 39.4.1 「メッセージの承認」](#)
- ◆ [380 ページのセクション 39.4.2 「複数メッセージの承認」](#)
- ◆ [381 ページのセクション 39.4.3 「指定の時刻にログされたメッセージの承認」](#)

39.4.1 メッセージの承認

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、承認するメッセージをクリックします。
- 2 [メッセージ詳細情報] ダイアログボックスで、[承認] オプションを選択して、[OK] をクリックします。



承認済みメッセージが、[ステップ 1](#) で選択したパネルに基づいて、[メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルから削除されます。

承認済みのメッセージは、これらのログの [詳細] ビューにチェックマーク (✓) 付きで引き続き一覧表示されます。

39.4.2 複数メッセージの承認

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。
- 2 承認するメッセージを選択し、[承認] をクリックします。

承認		削除	
<input type="checkbox"/>	ステータス	メッセージ	日付
<input type="checkbox"/>		05a067083d15f0944eacbd1f154e486b{[NULL];HandlerNotFound;Ni	09/05/20 18:24:27
<input type="checkbox"/>		ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。	09/05/20 18:24:26
<input type="checkbox"/>		バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加	09/05/20 18:17:03
<input type="checkbox"/>		バンドル 362015fa0fa84753acc8bbcccd173f9ef をセッションに追加で	09/05/20 18:17:03
<input type="checkbox"/>		アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効に	09/05/19 23:01:51

1 - 5/13 5 ▼ 項目の表示

承認済みメッセージは、チェックマーク (✓) でマークが付けられます。

39.4.3 指定の時刻にログされたメッセージの承認

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [設定タスク] で、[メッセージクリーンアップ] をクリックして表示します。

メッセージクリーンアップ

このダイアログにより、特定の期間にメッセージログに書き込まれたすべてのメッセージを承認または永久に削除することができます。

アクション:

承認
 永久に削除

日付の範囲:

開始日: 09/06/03
終了日: 09/06/03

フィルタ:

なし
 デバイス:

OK キャンセル

- 3 [メッセージクリーンアップ] ダイアログボックスで、[承認] を選択します。
- 4 [日付の範囲] オプションで、[開始日] と [終了日] を選択します。
- 5 [フィルタ] オプションを選択します。
なし: 選択した日付範囲のメッセージがすべてのデバイスからクリーンアップされません。
デバイス: 選択した日付範囲のメッセージが選択したデバイスからクリーンアップされます。
- 6 [OK] をクリックします。

メッセージクリーンアップアクションが開始され、クリーンアップアクションの完了後にシステムメッセージがログされます。システムログの表示の詳細については、[378 ページ](#)のセクション 39.3.2 「システムメッセージログ」を参照してください。

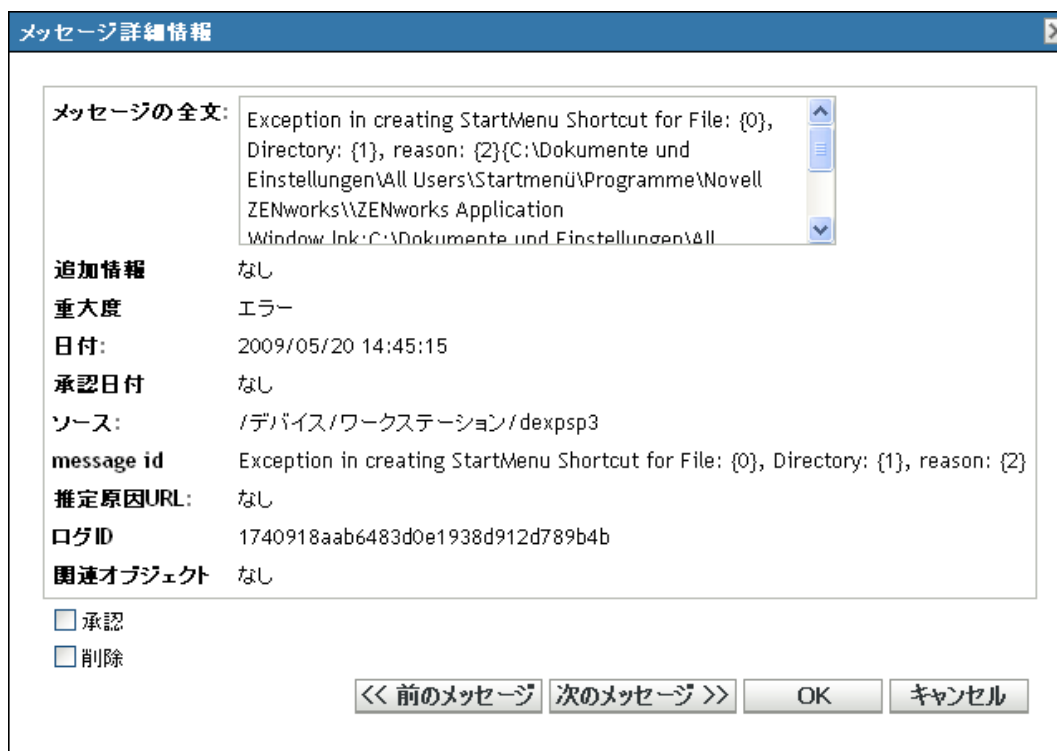
39.5 メッセージの削除

メッセージを削除すると、ZENworks システムからメッセージが完全に削除されます。

- ◆ 382 ページのセクション 39.5.1 「メッセージの削除」
- ◆ 382 ページのセクション 39.5.2 「複数メッセージの削除」
- ◆ 383 ページのセクション 39.5.3 「指定の時刻にログされたメッセージの削除」

39.5.1 メッセージの削除

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、削除するメッセージをクリックします。
- 2 [メッセージ詳細情報] ダイアログボックスで、[削除] オプションを選択して、[OK] をクリックします。



39.5.2 複数メッセージの削除

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

承認 削除				
<input type="checkbox"/>	ステータス	メッセージ	日付	▼
<input type="checkbox"/>		05a067083d15f0944eacbd1f154e486b[[NULL]];HandlerNotFound;Ni	09/05/20 18:24:27	▼
<input type="checkbox"/>		バンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。	09/05/20 18:24:26	▼
<input type="checkbox"/>		バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加	09/05/20 18:17:03	
<input type="checkbox"/>		バンドル 362015fa0fa84753acc8bbccd173f9ef をセッションに追加で	09/05/20 18:17:03	
<input type="checkbox"/>		アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効に	09/05/19 23:01:51	

1 - 5/13 5 ▼ 項目の表示

2 削除するメッセージを選択し、[削除] をクリックします。

39.5.3 指定の時刻にログされたメッセージの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [設定タスク] で、[メッセージクリーンアップ] をクリックします。

メッセージクリーンアップ
✕

このダイアログにより、特定の期間にメッセージログに書き込まれたすべてのメッセージを承認または永久に削除することができます。

アクション:

承認

永久に削除

日付の範囲:

開始日:

終了日:

フィルタ:

なし

デバイス:

- 3 [メッセージクリーンアップ] ダイアログボックスで、[永久に削除] を選択します。
- 4 [日付の範囲] オプションで、[開始日] と [終了日] を選択します。
- 5 [フィルタ] オプションを選択します。
なし: 選択した日付範囲のメッセージがすべてのデバイスからクリーンアップされ
ます。
デバイス: 選択した日付範囲のメッセージが選択したデバイスからクリーンアップ
されます。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [削除の確認] ダイアログボックスで、[OK] をクリックしてメッセージを削除しま
す。
クリーンアップアクションの完了後にシステムメッセージが表示されます。システム
ログの表示の詳細については、378 ページのセクション 39.3.2 「システムメッセ
ージログ」を参照してください。

39.6 事前定義されたレポートの表示

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks Reporting Server をインストールしておく
必要があります。ZENworks Reporting Server のインストール方法については、『ZENworks
10 Configuration Management Reporting Server インストールガイド』を参照してください。

メッセージの事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks Reporting Server の [レポーティング] パネルで、[ZENworks Reporting
Server InfoView] をクリックして ZENworks Reporting Server InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] フォルダ > [Predefined Reports] > [ZENworks System]
フォルダの順にナビゲートします。
- 4 メッセージに関する次の事前定義レポートが含まれています。
ZENworks メッセージ: すべての ZENworks システムメッセージのログ時刻や説明な
ど、メッセージの詳細を表示します。

レポートの作成と管理の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システ
ムレポーティングリファレンス』マニュアルを参照してください。

ZENworks コントロールセンターの 命名規則

A

ZENworks® コントロールセンター内のオブジェクト (フォルダ、バンドル、ポリシー、グループ、登録キーなど) に名前を付ける場合は、次の命名規則に従うようにしてください:

- ◆ 名前はフォルダ内で一意である必要があります。
- ◆ ZENworks データベースで使用しているデータベースによっては、名前で大文字と小文字を区別しない場合があります。ZENworks 10 Configuration Management に含まれる組み込みデータベースは大文字と小文字を区別しないため、「Folder 1」と「FOLDER 1」は同じ名前と見なされ、同じフォルダ内で使用することはできません。大文字と小文字を区別する外部データベースを使用している場合、Folder 1 と FOLDER 1 は別個となります。
- ◆ 空白を使用する場合、コマンドラインに名前を入力するには、引用符で囲む必要があります。たとえば、zman ユーティリティで入力するときには、reg key 1 を引用符で囲む必要があります (“reg key 1”)
- ◆ 次の文字は無効なので使用できません。 \ * ? : " ' < > | ` % ~

スケジュールタイプ

次のようなスケジュールを利用できます。

- ◆ 387 ページのセクション B.1 「特定の日付」
- ◆ 388 ページのセクション B.2 「イベント」
- ◆ 389 ページのセクション B.3 「今すぐ」
- ◆ 389 ページのセクション B.4 「繰り返し」

B.1 特定の日付

[特定の日付] スケジュールオプションでは、イベントを実行する 1 つまたは複数の日付を指定できます。

図 B-1 特定の日付スケジュール

スケジュールタイプ:

開始日: *

毎年イベントを実行
 デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する

スケジュールの実行が開始される時間を選択:

開始時刻にすぐに実行
 開始時刻および終了時刻の間のランダムな時間に開始される

開始時刻: : 終了時刻: :

協定世界時(UTC)を使用 (現在のUTC 12:39)

Wake-on-LAN (デバイスのみに適用)
 配布後直ちにインストール
 インストール後直ちに起動

開始日付: をクリックして、イベントの日付の選択に使用できるカレンダーを表示します。一度に複数の日付を追加できます。

イベントを毎年実行する: [開始日付] リストに表示されている日に毎年イベントを実行するには、このオプションを選択します。

スケジュールの実行が開始される時間を選択: 次のいずれかを行います。

- ◆ 開始時刻にただちに開始: [開始時刻] フィールドで指定する時刻にイベントが開始されます。
- ◆ 開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始: [開始時刻] フィールドと [終了時刻] フィールドに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。

協定世界時 (UTC) を使用: 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいます。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。

B.2 イベント

このスケジュールオプションでは、スケジュール済みのアクションをトリガするイベントを指定できます。

図 B-2 イベントスケジュール

スケジュールタイプ:
イベント

このスケジュールがトリガされるイベントを選択:

- ユーザのログイン
- ユーザのログアウト
- デバイス起動
- デバイスロック時
- デバイスマンロック時
- ZENworksログイン
- ZENworksログアウト
- ネットワークに接続しているデバイス (Windowsのみ)

Wake-on-LAN (デバイスのみに適用)

配布後直ちにインストール
 インストール後直ちに起動

<< 戻る 次 >> キャンセル

次のトリガから選択します。

ユーザのログイン: デバイスのオペレーティングシステムへのユーザログイン。

ユーザのログアウト: デバイスのオペレーティングシステムからのユーザログアウト。

デバイスのブート: デバイスの電源が入ります。

デバイスのシャットダウン: デバイスの電源が切れます。

デバイスロック時: オペレーティングシステムがロックされます。

デバイスアンロック時: オペレーティングシステムがアンロックされます。

ZENworks ログイン: ZENworks® 管理ゾーンへのユーザログイン。

ZENworks ログアウト: ZENworks 管理ゾーンからのユーザログアウト。

ネットワークに接続しているデバイス (Windows のみ): 接続解除されたデバイスが、新しい有線またはワイヤレスネットワーク接続を検出します。

注: デバイスの起動時に、ZENworks® Adaptive Agent はデバイスの更新スケジュールに従って ZENworks サーバに接続し、バンドル、ポリシー、構成、登録に関する情報を更新します。情報の変更がある場合、イベントトリガの 1 つが発生しても、Adaptive Agent は変更がデバイスに反映される前に情報を更新する必要があります。デフォルトでは、デバイス起動後デバイスは 300 ~ 360 秒間でランダムに更新され、12 時間間隔で完全に更新されます。

たとえば、バンドルを作成し、デバイスがネットワークに接続したときにそのバンドルが起動するようにスケジュールした場合、デバイスがネットワークに接続した場合でも、Adaptive Agent がそのバンドルをアップロードまたは起動する前に、デバイスは手動で更新されるか、スケジュールに従って更新される必要があります。

B.3 今すぐ

イベントをただちに実行するには、このスケジュールオプションを選択します。

B.4 繰り返し

[繰り返し] スケジュールオプションでは、指定の間隔でイベントを繰り返すことができます。

注: 以下のセクションでは、反復スケジュールのすべてが説明されています。スケジュールするイベントまたはアクションによっては、一部のオプションは選択できません。

図 B-3 反復スケジュール

スケジュールタイプ:
繰り返し

デバイスの更新時

リフレッシュ後に実行を延期: 0 日 0 時間 0 分

曜日

日	月	火	水	木	金	土
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

開始時刻: 1 : 00
[詳細オプション](#)

月

日付: 1

月の最終日

最初 : 日曜日

開始時刻: 1 : 00
[詳細オプション](#)

固定間隔

0 月 0 週 0 日 0 時間 0 分

開始日: 2010/04/20 開始時刻: 1 : 00
[詳細オプション](#)

Wake-on-LAN (デバイスのみに適用) [オプション](#)

配布後直ちにインストール

インストール後直ちに起動

<< 戻る 次 >> キャンセル

デバイスの更新時: このスケジュールでは、ZENworks Adaptive Agent によりデバイスでの更新が実行されるたびにイベントが発生します。更新時にただちにイベントが発生しないようにする場合は、[リフレッシュ後に実行を延期] オプションを選択し、イベントを延期する日数、時間、または分数を指定します。

曜日: このスケジュールでは、イベントを実行する曜日を指定できます。イベントは、毎週同じ曜日に実行されます。


[曜日] を選択して、次のフィールドに入力します。

- ◆ **日曜日 ... 土曜日:** イベントを実行する曜日を指定します。
- ◆ **開始時刻:** イベントを実行する時刻を指定します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する:** 設定したスケジュールが何らかの原因によりイベントを実行できなかった場合に、このイベントが即座に実行されます。

- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいますとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : [開始時刻] フィールドと [終了時刻] フィールドに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。
- ◆ **スケジュール実行を以下の日付範囲に限定** : イベントの実行が開始日付と終了日付で指定された日付に限定されます。

月 : このスケジュールでは、月の中でイベントを実行する日を 1 日または複数日指定できます。

[月] を選択して、次のフィールドに入力します。

- ◆ **日にち (月)** : イベントを実行する日にち (月) を指定します。有効な日は 1 から 31 です。29、30、または 31 を指定する場合、それらの日がない月にはイベントは実行されません。
- ◆ **最終日 (月)** : 日にちには関係なく、月の最終日 (28、30、または 31) にイベントが実行されます。
- ◆ **第 1 土曜日** : 週の特定日を指定します。たとえば、第 1 日曜日、または第 3 火曜日。 をクリックして、複数の日を追加します。
- ◆ **開始時刻** : イベントを実行する時刻を指定します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : 設定したスケジュールが何らかの原因によりイベントを実行できなかった場合に、このイベントが即座に実行されます。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいますとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : [開始時刻] ボックスと [終了時刻] ボックスに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。
- ◆ **スケジュール実行を以下の日付範囲に限定** : イベントの実行が開始日付と終了日付で指定された日付に限定されます。

固定間隔 : このスケジュールでは、イベントを実行する日の間の間隔を指定できます。たとえば、14 日ごとにイベントを実行することができます。


[固定間隔] を選択して、以下のフィールドに入力します。

- ◆ **月、週、日、時間、分** : イベントが実行される時間の間の間隔を指定します。月、週、日、時間、および分の任意の組み合わせを使用できます。たとえば、7 日、8 時間と 1 週間、8 時間は同じスケジュールになります。

- ◆ **開始日** : 間隔の最初の開始日を指定します。
- ◆ **開始時刻** : 間隔の最初の開始時刻を指定します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : 設定したスケジュールが何らかの原因によりイベントを実行できなかった場合に、このイベントが即座に実行されます。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいますとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **スケジュール実行を以下の日付範囲に限定** : イベントの実行が、開始日付、終了日付、および終了時刻で指定された期間に限定されます。

ZENworks アイコンの外観のカスタマイズ

C

ZENworks® アイコンが、管理対象デバイスの Windows 通知領域にあります。これはデフォルトの静的アイコンです。管理対象デバイスが更新されると、デフォルトの静的アイコンがデフォルトのアニメーションアイコンに置き換わります。

ZENworks 10 Configuration Management SP3 では、ZENworks アイコンの外観を変更できます。デフォルトのアイコンは、会社のロゴなどの別のアイコンに置換できます。

- ◆ 393 ページのセクション C.1「デフォルトの ZENworks アイコンの新しいカスタムアイコンとの交換」
- ◆ 394 ページのセクション C.2「カスタムアイコンのデフォルト ZENworks アイコンとの交換」

C.1 デフォルトの ZENworks アイコンの新しいカスタムアイコンとの交換

次の 16x16 ピクセルアイコンファイルが必要です。

- ◆ **カスタム静的アイコン**：Application.ico という名前の静的アイコン。
- ◆ **カスタムアニメーションアイコン** refresh_xx.ico で指定される、1 つ以上のカスタムアニメーションアイコン。xx は 00 ～ 99 の 2 桁の数値です。これらのアイコンは、管理対象デバイスが更新されたときに表示されます。
少なくとも 1 つのアニメーションアイコンが必要です。複数のアニメーションアイコンの指定を選択した場合、アイコンはファイル名の xx の順序で表示されます。たとえば、refresh_00.ico と refresh_01.ico アイコンがある場合、refresh_00.ico が先に表示され、その次に refresh_01.ico が表示されます。

管理対象デバイスのデフォルトアイコンを置き換えるには、次の手順に従います。

- 1 %ZENWORKS_HOME%\bin ディレクトリに移動して、その中に \icons\ZIcon サブディレクトリを作成します。
- 2 Application.ico と refresh_xx.ico アイコンを %ZENWORKS_HOME%\bin\icons\ZIcon ディレクトリにコピーします。
- 3 Windows タスクマネージャを使用して ZenNotifyIcon.exe プロセスを停止します。
- 4 %ZENWORKS_HOME%\bin ディレクトリに移動して、ZenNotifyIcon.exe をダブルクリックしてプロセスを再開します。

カスタムアイコンを処理するときには、次の点に注意してください。

- ◆ Application.ico を %ZENWORKS_HOME%\bin\icons\ZIcon ディレクトリから削除する場合、デフォルトの ZENworks アイコンがデバイスの通知領域に表示されます。

- ◆ アニメーションアイコンを %ZENWORKS_HOME%\bin\icons\ZIcon ディレクトリから削除する場合、デバイスの更新中にデフォルトの ZENworks アニメーションアイコンがデバイスの通知領域に表示されます。
- ◆ カスタムアニメーションファイルを削除して、既存のカスタムアニメーションアイコンファイルを削除したファイルと同じ名前に変更する場合、名前を変更したファイルと関連付けられているアイコンが %ZENWORKS_HOME%\bin\icons\ZIcon ディレクトリの削除されたファイルのアイコンとして誤って表示されます。ただし、名前を変更したファイルには正しいアイコンが格納されています。これは Microsoft の問題です。この問題の詳細については、[Microsoft のサポート情報 \(http://support.microsoft.com/kb/75041\)](http://support.microsoft.com/kb/75041) を参照してください。

C.2 カスタムアイコンのデフォルト ZENworks アイコンとの交換

- 1 カスタムアイコンを %ZENWORKS_HOME%\bin\icons\ZIcon ディレクトリから削除します。
- 2 Windows タスクマネージャを使用して *ZenNotifyIcon.exe* プロセスを停止します。
- 3 %ZENWORKS_HOME%\bin\ZenNotifyIcon.exe を再起動します。

マニュアルの更新

このセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 用の、この『システム管理リファレンス』に加えられたドキュメント内容の変更について説明します。変更が行われた日付に基づいて、変更が一覧表示されています。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

- ◆ [395 ページのセクション D.1 「2010 年 3 月 30 日 : SP3 \(10.3\)」](#)

D.1 2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3)

次のセクションが更新されました。

ディレクトリ	Update
26 ページのセクション 1.8 「ZENworks コントロールセンターのトラブルシューティング」	セクション全体を追加。
32 ページのセクション 2.3 「権限の説明」	「バンドル権限」セクションに「バンドル割り当て」という新しい権限を追加しました。 「ポリシー権限」セクションに「ポリシー割り当て」という新しい権限を追加しました。
92 ページのセクション 7.1.1 「認証の役割の理解」	セクション全体を追加しました。
94 ページのセクション 7.2 「サテライトデバイスの追加と設定」	認証の役割とコンテンツタイプの設定についての情報を追加しました。
104 ページのセクション 7.6 「コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する」	セクション全体を追加しました。
109 ページのセクション 8.2 「サテライト役割の関係」	認証の役割の情報を追加しました。
113 ページの第 9 章 「最近接サーバルール」	認証のオプションの情報を追加しました。

ディレクトリ	Update
139 ページの第 11 章「障害復旧」	<p>次のシナリオを追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 148 ページのセクション 11.3.2「ZENworks 10 Configuration Management のインストール後のプライマリサーバの IP アドレスの変更」 ◆ 149 ページのセクション 11.3.3「ZENworks 10 Configuration Management をインストール後のプライマリサーバの DNS 名または IP アドレスと DNS 名の変更」
166 ページのセクション 14.4.2「エージェント機能」	ZENworks 10 Asset Management を ZENworks 7 Desktop Management で実行する場合の注意を追加しました。
243 ページの第 26 章「ZENworks Adaptive Agent のシステム更新動作の設定」	セクション全体を追加しました。
263 ページのセクション 28.3「Linux サーバのコンテンツリポジトリの NSS ボリュームへのマウント」	セクションが追加されました。
265 ページの第 29 章「コンテンツの複製」	継承の強制機能について追加しました。
266 ページのセクション 29.1「管理ゾーンレベルでのコンテンツ複製の設定」	<p>エージェントコンテンツチェックサム機能についての情報を追加しました。これは、管理対象デバイス上の ZENwork エージェントがダウンロードしたコンテンツのチェックサムを計算し、ZENworks プライマリサーバのコンテンツの保存されたチェックサムとこのチェックサムを比較する機能です。</p> <p>サテライトコンテンツチェックサム機能についての情報を追加しました。これは、サテライトデバイス上の ZENwork エージェントがダウンロードしたコンテンツのチェックサムを計算し、ZENworks プライマリサーバのコンテンツの保存されたチェックサムとこのチェックサムを比較する機能です。</p>
267 ページのセクション 29.2「コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製」	手順を作成し直しました。
268 ページのセクション 29.3「コンテンツをプライマリサーバからサテライトデバイスに手動で複製する」	セクション全体を追加しました。
269 ページのセクション 29.4.2「フォルダレベルでのコンテンツの管理」	セクション全体を追加しました。
280 ページのセクション 31.2.1「ユーザソースの追加」	[新規ユーザソースの作成] ウィザードでの [接続名]、[AutoAccept]、[認証メカニズム] 設定についての情報を追加しました。
284 ページのセクション 31.2.3「ユーザソースの編集」	<p>認証メカニズム、接続、認証サーバについての情報を追加しました。</p> <p>[SSL の使用] オプションに、このオプション変更の情報を追加しました。</p>

ディレクトリ	Update
286 ページのセクション 31.3 「ユーザソース接続の管理」	セクション全体を追加しました。
289 ページのセクション 31.4 「ユーザソースのプライマリサーバ接続の管理」	セクション全体を追加しました。
290 ページのセクション 31.5 「ユーザソースの認証サーバ接続の管理」	セクション全体を追加しました。
296 ページのセクション 32.2 「認証メカニズム」	セクション全体を追加しました。
312 ページのセクション 33.6 「ZENworks 10 Asset Management と ZENworks 7 Desktop Management の併用」	ZENworks 10 Asset Management を ZENworks 7 Desktop Management で実行するためのセクションを追加しました。
315 ページのパート IX 「データベース管理」	<p>次のセクションが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 337 ページのセクション 35.1 「外部 Sybase データベースのバックアップ」 ◆ 346 ページのセクション 35.2 「外部 Sybase データベースの復元」 ◆ 355 ページの第 36 章「データベースのベストプラクティスおよびヒント」
393 ページの付録 C 「ZENworks アイコンの外観のカスタマイズ」	セクションが追加されました。

